

土木科本科に入學三十三年卒業し關西鐵道株式會社に勤務す、明治三十九年同社が國有になるや鐵道院雇に採用せられ四十一年鐵道院技手に任せらる、大正三年休職を命ぜられ同十三年二月三田村収入役となり現在に至る、鐵道土木に深き經驗を有する人なり、性温厚にして謠曲を好む。

### 松山龜次郎君

三田村大字大谷 明治元年二月廿八日生

家族 妻きん(五三) 西柘植村下柘植奥澤捨松姉、長男鐵之助(三五) 二男政雄(三三) 府中村土橋山本氏藏養嗣子、長女つね(二八) 府中村服部南作遺妻、二女すみ(一八) 婚ゆ(三) 一) 和歌山縣より、孫ちよ(一三) やぶ(一〇) 一郎(七) あい(二) 三女きみ(一六) 在京都府

松山君は三田村の有力者にして農を業とす、明治三十三年三田村助役命明治四十五年村長に就職し大正五年八月に退職す、明治三十七八年の役町村吏員兵事主任として功あり勳八等瑞寶章を下賜せらる、其他信用組合幹事、大字役員等に擧げらる、こと年あり常に地方自治の爲め力を致しつゝ、あり、性快活にして狩獵を好み村民の信任を受く。

### 福森駒藏君

三田村大字三田 明治元年六月廿日生

家族 妻よしの(五八) 府中村千歳山岡多一郎三女、長男源一(三

講習會修得證書を受領し八月上野町役場を辭し三田村収入役に任せらる、大正九年國勢調査事務主任を命ぜられ同十三年二月三田村助役を拜命今日に至れる人にして社交に長じ村民の信任厚き人なり。

### 三田地金吾君

三田村大字三田 明治二年正月廿八日生

家族 妻てつ(五二) 同村本城喜左衛門三女、長男喜太郎(三二) 婦きん(三三) 壬生野村川西金谷五助長女、孫典子(二二) 喜澄(八) 長女しげの上柘植村植木與三吉妻、二女つね同村野間岡田虎雄妻、三女きね 同字吉川寅次郎養女

三田地君は永年三田村々會議員に擧げられ聲名ある人なり、明治二十二年町村制實施以來引續き村會議員に重選して常に村政に力を致し明治四十年以來大正三年迄大字區長、學務委員等に擧げられ又大正二年には三田村信用組合を組織し之が組合長に就任する等常に同村に於ける樞要なる名譽職にあり村政の爲め力を致す、一方篤農家として縣農會より表彰さる、其行ひは將に世の野心家と徹を同ふせず賞揚すべきものあり。

### 三井隆憲君

三田村大字三田 明治十八年十二月八日生

家族 妻くま(四〇) 上野町桑町生れ、長女定子(一六) 二女ふみ子(一三) 長男隆彌(一〇) 三女すへ子(六) 四女敏子(三)



(三) 二男謙次郎(三〇) 同字に分家、四男四郎(一九) 婦きく(三三) 山田村平田沼井豊二郎二女、孫一久(二) さな(一)

福森君は三田村々長なり、明治十六年八月三田小學校教員拜命二十年五月比會河内小學簡易科授業所に轉任二十五年三月訓導に任せられ二十八年六月佐那具小學校に轉勤、明治三十八年八月三田村尋高小學校に轉じ四十四年八月同校々長に榮進大正七年九月病を得て辭職し自宅に靜養す、大正九年十一月三田村助役に就職し十年一月村長に選ばれる、大正十三年多年郡教育界に貢献したる功により勳八等瑞寶章を賜る、資性温厚村民の信任殊の外深く殆んど父子に等しき感あり、又以つて徳行の人と云ふべきなり。

### 北村熊次郎君

三田村大字大谷 明治廿九年十二月五日生

家族 谷金次郎(五四) 祖母こはる(八六) 母こふみ(五一) 九柱村比會河内山中文四郎三女、妻きん(二六) 新居村東村北與右衛門長女、長男嘉一(七) 二男哲(五) 三男耕平(三)

北村君は現三田村助役なり、高等小學校卒業後廣重了淳につき漢學を修め明治四十五年一月上野町役場履書記となり大正五年七月内務省主催感化救濟事業

三井君は天臺宗眞盛派西盛寺の住職なり、眞盛派聯合中學校を卒業後現寺に住職として來任し擅信徒の信任を蒐む、阿山郡佛教團委員、眞盛派評議員、同會計検査員等に選ばれ現に其職にありて社會教化の爲め力を致し有力者と認めらる、性温厚にして社交に富み文學、園藝等の趣味を有す。

### 百南義眞君

三田村大字三田 明治廿六年四月七日生

家族 妻みつ(三四) 同村川村喜次郎妹、長男一元(一〇) 二男義幸(八) 三男義明(四) 長女ふみ子(三)

百南君は臨濟宗三田寺の住職なり、大正二年三月京都專修學院を卒業後三田寺の住職となり現在に至る資性温厚快活にして熱心なる社會教化者なり、大正六年上野町男子校劍道囑托教師となり大正八年伊賀武徳會劍道囑托教師に任せられ別に白鳳愛兒園幹事に擧げられ現在に及ぶ、特に劍道を好み之に長ず其他五山文學の造詣深く植物學、書畫、骨董を愛す。

### 府中村

#### 稻森伊兵衛君

府中村大字東條 明治十四年二月廿日生

家族 妻よし、四五、西、植村、柏野、福、森、慶、一郎、長女、妹、か、ね、子、中、瀬、村、大、字、高、畑、川、口、清、兵、衛、妻、か、す、る、上、野、町、大、字、車、阪、福、森、英、太、郎、妻、長、女、し、げ、な、(二七)、三、田、村、三、田、稻、森、道、太、郎、妻、長、男、伊、三、男、(一七)、上、中、在、學

稻森君は府中村信用組合常務理事なり、家族は主として農業に従事す、明治三十七年府中村消防小頭に挙げられ又青年團支會長となり、明治四十二年東條區長に推さる、同年より府中村信用組合に勤務大正七年九月辭して同村助役に就任し大正十三年十月辭職す、同月同村信用組合常任理事に就職し大正十四年三月村會議員に選舉せられて現在に至る、其他神社總代、檀徒總代等に挙げられ地方民心の指導に盡せる人なり。

#### 稻森熊吉君

府中村大字印代 慶應元年六月十四日生

家族 妻くま(六七)、三田村大字三田本城萬次郎二女、長男熊雄(三七)、二男金之助(三二)、同村千才福森庄八に養はる、嫁つや(三二)、三田村三田谷口丑次郎二女、孫せつ(一〇)、正巳(七)、宏(二)

農業を営み畜牛養蠶等の副業をなす、一家圓滿にし

て郷徒の話題に上る、熊吉君大字區長に選ばれ現に其職にあり、息熊雄君又衆望あり明治四十一年歩兵第九聯隊に入營上等兵に進みて退營現に同村消防小頭を勤む。

#### 稻森慶助君

府中村大字一ノ宮 明治六年十二月廿六日生

家族 父慶次郎(八二)妻死去、長女奈良市中御門町奥井金松妻、次女つゑ、婿英一中瀬村荒木東山、藏次男、三女みつゑ(一七)

稻森家は世々農を業とす、明治二十六年歩兵第九聯隊に入營日清日露の兩役に從軍し功を樹て從軍徽章を受け勳八等を授けらる、明治三十年消防組小頭を拜命其他青年支團長、區會議員、神社氏子總代、檀家總代等に歴任し大正十四年三月府中村々會議員に選ばれ現在に至る、父慶次郎氏も亦地方の名譽職を勤めたる人なり父子共に村民の氣受けよく尊敬せられつゝあり。

#### 西口奈良藏君

府中村大字服部 明治六年四月廿日

家族 妻同村服部彌藏姉、母、長女他に嫁す、三男利藏  
西口君は府中村の助役たり、家世農業を営む、明治二十九年大字服部區長に選ばれ四十三年府中村々會議員に挙げられ爾來重選四期に及ぶ、其他神社總代

信用組合評議員、檀徒總代、米穀検査員、國勢調査委員、阿山畜産組合代議員、府中村産業組合理事、同學務委員等に歴任して大正十四年五月助役に選ばれて今日に及ぶ、天臺宗眞盛派を信仰し唱名念佛に一日の勞を感すと、府中村の有力者たる事を失はず

#### 西澤熊男君

府中村大字佐那具 明治十九年十一月廿八日生

家族 養父九平、妻たつ子、同村西澤孝次郎妹、長男鐘一上中在學、二男謙一小學在學、三男英夫、長女信子阿山高女卒業自宅次女亭子



西澤君本姓吉川、同村熊次郎氏の二男なり長じて西澤家を嗣ぐ、三重縣立第三中學校第一回の入學生として四ヶ年在學せしが家事都合上退學養父の業を繼いで吉川運送店を主宰し明治四十年補充兵役として歩兵第九聯隊に入營、三ヶ月の軍事教育を受け歸郷後再び運送店を経営す、大正五年寺庄銀行佐那具支店の設置せらるゝに當り支店長に招かれ

就任地方金融界の爲め力を致す、後同行上野支店の設置に當り抜かれて其支店長に榮轉今日に至れる人なり、園基、讀書等を好み天臺宗を信す。

#### 西澤孝次郎君

府中村大字佐那具 明治十三年二月六日生

家族 妻こゝ(五〇)上野町忍町勝矢龜太郎妹、長女春子(六) 佐那具の高等旅館こんにやく家の主人公である、こんにやくやは古くから旅館營業をなし當主で五代に及ぶと傳ふ、書畫、骨董を愛し園基を嗜む、府中村消防小頭、佐那具商工會幹事等に挙げられ信用あり東本願寺派の信徒にし崇佛の心厚く交際家なりしが惜しむべし大正十五年初夏長逝す。

#### 本城熊三郎君

府中村大字佐那具 明治十五年二月生

家族 妻、上野町より、長男順一、外に三女あり  
本城君は佐那具に於いて醫業を経営する人なり、三重縣立第一中學校(津中學)を卒業し後直ちに金澤醫學專門學校に入り明治三十九年同校を卒業、神戸兵庫縣立病院に奉職し實地の研究をなし明治四十三年歸郷して父祖の業を繼ぎ醫院を開き今日に至る、温厚篤實の君子なり。

### 富岡要次郎君

府中村大字一ノ宮  
明治十七年四月五日生

家族 妻友生村界外池澤宗則氏長女

富岡君は國幣社敢國神社の宮司なり、本郡山田村平田に生る富岡辰藏氏の長男たり、明治三十七年神宮皇學館を卒業し四十年七月兵庫縣明石郡官幣中社海神社に奉職し大正四年十月神戸湊川神社彌宜を勤務大正六年十月石川縣國幣社菅生石部神社宮司に榮轉を命ぜられ大正十二年一月敢國神社宮司として來任今日に及べる人なるが其深淵なる學識と宏遠なる人格は師標とするに足るべく由緒ある國幣社の宮司として申分なき人格者なり功により正七位に叙せらる

### 株式會社岡町商店

府中村大字佐那具  
大正十四年九月設立

重役 社長藤井彌左衛門、常務取締役岡町平七、取締役川本佐造、山下寛一、谷村直之助、松本新一、監査役西澤熊男、福岡平五郎

株式會社岡町商店は醬油製造販賣並に米穀肥料商を營む、資本金三萬七千圓、舊と同地岡町平七氏個人經營のものを買収して株式組織としたるものにして岡町家は數百年來斯業を經營し近郷に柿半の家號を稱されし舊家なり。

### 岡森爲次郎君

府中村大字外山  
明治十三年九月生

家族 母同村外山山路九郎右衛門家出、妻同村千歲秋田道之助女、長女友生村森田義久妻、長男忠弘小學在學、外に二男二女あり

岡森君は運送業を營み丸夕運送店と商號す、丸同帝運株式會社佐那具支店たり、大正十一年二月創業す君は明治三十四年三重縣立師範學校を卒業大正七年迄小學校訓導として勤務せしが辭職、同七年府中村名譽職助役に推薦され就任十一年五月辭職す、又府中村信用組合理事に擧げられ大正十四年三月には同村々會議員に當選して現在に至る、園藝を好み之を良くす。

### 岡角龜藏君

府中村大字服部  
明治七年九月二十日生

家族 妻きん(五四)同村南善松妹、妹やぶ(四六)上野農人町宮崎芳雄妻、長男昌郎(二四)次男一郎(一八)上中卒業、三男英男(一五)嫁かじ(二三)中瀬村羽根中垣文長女、孫俊夫(二)

農を業として畜牛製茶輸出の副業をなす、府中村役場書記を公職の振り出しとして消防講習を受け小頭となり府中村消防手を訓練す、衆望の歸する處大正五年村會議員に選ばれ九年には大字區長に推され今日に至る迄就任する、其他檀家總代、氏子總代等

に就任す、明治二十七八年戰役に從軍し電信隊に編入後選抜せられて戰時名簿の作製係となる、又農閑期製茶の輸出業を經營し米國へ直接輸出をなし大谷嘉兵衛翁、米國茶道指導員ミツチエール氏等と交友なしたる等稀れに見る活動家である。

### 奥永源次郎君

府中村大字山神  
明治八年八月十日生

家族 妻きんの三田村大谷與谷留次郎姉、長女さらを一ノ宮福田政男妻、二女こまの大阪東成區赤川町米澤直次妻、長男源造上中在學、三女かつ、二男勝小學在學

奥永家代々農を業とす、源次郎君明治三十八年大字山神青年團の組織に奔走し之が團長となり又府中村消防組小頭となる、明治四十四年山神區長に選任せらるゝに及び青年團長消防小頭を辭す大正十年三月區長を辭職し同時に府中村々會議員に選ばれ大正十四年三月再選せられて現在に及ぶ、其他共同苗代監理人、養蠶組合幹事、氏子總代、檀徒總代等に擧げられ郷村の爲めに力を惜まざる人なり。

### 奥地久藏君

府中村大字山神  
明治十二年五月十二日生

家族 妻孝(三九)頼田村大字中友田高島多兵衛二女、長女壽子(二一)二女ひさ子(一三)長男隆(四)養子勇(二二)上野町城戸操二男京都醫科大學在學

奥地君は府中村醫なり、書畫、骨董を好み又草花盆栽を樂む、明治三十七年京都醫學專門學校を卒業同校附屬病院に實地の研究をなし同年十月現地に開業す、明治四十一年府中信用組合を發起創立し爾來其理事幹事として今日に至る、明治三十八年府中村學校々醫、府中村醫等に任せられ校醫は今尙勤績し村醫は大正十二年辭退す。

### 奥知庄太郎君

府中村大字山神  
明治十九年五月廿二日生

家族 母三田村福山清郎妹、妻きく(三六)大字西條山田金太郎長女、長女ちよ子(一六)滋賀縣立寺庄高女在學、長男庄次郎(一一)次男隆夫(八)

奥知君は山神に於ける有力者たり、上中を中途退學して明治三十八年二月農事講習會を終業三十九年十二月近衛歩兵第三聯隊に入營上等兵となり四十一年除隊、四十二年山神青年團長に擧げられ又在郷軍人會役員となり大正九年には在郷軍人會府中分會長となる、其他山神共同苗代監理人消防組小頭、同小頭部長等に歷任して大正十年二月大字山神區長に就任大正十四年五月には三重縣穀物検査所府中米穀検査員を命ぜられ現今に至る。

### 金谷政藏君

府中村大字佐那具 明治二十七年七月八日生

家族 妻きみ(二七) 山田村大字眞泥中惣太郎長女  
金谷君は屋號をすぐりやと稱し吳服太物商をなす、東柘植村大字上柘植金谷又藏氏の令弟にして分家す年十七歳にして業務見習として東柘植村上町村主吳服店の店員となり大正四年依那具支店の主任として來り支店の經營に従事せしが大正十二年獨立して之を經營し今日に至つたもので前途ある青年商人として好評を受けてゐる。

### 吉川忠之助君

府中村大字佐那具 明治十五年十月二日生

家族 父乙次郎、妻きり(四三) 同村山神奥地庄太郎姉、長女みき子(一五) 京都平安高等女學校在學  
吉川君幼名辰次郎父祖の業を繼いで忠之助と改む、家は荒物業を主とし煉瓦セメント、タイル、左官材料一式新聞雜誌取次販賣、神山陶器會社特約店星製藥特約店等を業として家政日に盛なり、明治三十五年佐那具區長に選ばれ九年間重任、大正元年家を繼ぐ、明治四十三年區長辭職後商業研究の爲め關東地方に遊び大正元年歸郷同二年村會議員に選ばれたるも村の圓滿上之を東條へ譲り辭退し府中村書記に就任三年辭職して家業に親しむ、大正十四年三月府中

村々會議員に選ばれ現在に至る。

### 吉川熊次郎君

府中村大字佐那具 元治元年五月生

家族 妻きみ(六二) 全村東條山出政一女、二男熊男全所西澤家に養はる、長女しか上野四町鹽半吳服店へ嫁、三男忠遺神戶在住、四男熊吉新堂へ分家、五男政郎慶大卒業東京在住、六男忠郎伏見砲兵隊入營中、七男忠運送業に従事、孫しづ(二三) 忠三郎(二〇) 朝鮮在住  
吉川家、屋號を味噌屋と稱し米穀、蕪吟、運送業を營み家業大いに盛んなり、其味噌屋と稱するは三代前より白米小賣業の傍ら味噌の製造販賣をなせるより起ると、熊次郎君衆望あり、大正二年府中村々會議員に選ばれ以來重選されて大正十四年三月に至る其他消防小頭、檀徒總代等に推され宗教教育方面にも力を致せり。

### 谷口卓一君

府中村大字土橋 明治二十三年十二月七日生

家族 父松次郎、母ふじゑ中瀬村高如中森長三郎姉、妻ゆき(三一) 猪田村敷中金五郎長女、弟有藏(二〇) 上中在學、長女あや長男申一  
谷口家は舊郷社波多岐神社の神職にして舊家なり、祖父長麿氏の代迄七代の間神職を勤務せりと、父松次郎氏の代祖業を繼がず歸農して明治廿一年蠶種製造販賣業を始め、松次郎氏は村内の有力者にして區

長、村會議員助役等に選ばれたる事あり、當主卓一君上野中學校を卒業後家業を繼いで蠶種家となり逐年業務を擴張し遂に現今の盛大を見せしむ、衆望あり土橋青年支團長及び消防組小頭等に擧げらる。

### 谷口清治君

府中村大字土橋 明治十年五月十五日生

家族 母、其の外に二男三女あり  
谷口君は府中村の有智識者にして意志の強固なる人なり農を業とす、明治三十九年三月土橋區長に就任し四十四年十月辭職す四十一年府中産業組合の創立に努力し其理事に擧げられ大正八年一月常務理事代推され大正十年五月迄就職す、同年三月村會議員に選ばれ爾來再選して今日に及ぶ、又十一年五月府中村助役に就任十四年四月退職す、此間同村共同苗に設置に盡力したる廉により村農會より表彰さる。

### 玉岡鶴松君

府中村大字印代 明治四年五月初日生

家族 母きさ、妻たつ、長男六三郎(三三) 嫁しもゝ西柘植村新堂兼貞純妹、二男繁次郎(二五) 滋賀縣愛知川小學校訓導、長女ならゝ中瀬村羽根中垣直吉妻、孫敏夫(九)  
玉岡君本姓中垣中瀬村羽根に生れ玉岡家に入家して其姓を冒す、代々農を業とす、明治四十三年印代區長に選ばれ一期間就職大正十三年一月再び區長に擧

### 辻熊藏君

府中村大字西條 明治二十九年二月廿三日生



家族 妻全村澤田嘉右衛門女、弟俊夫滋賀縣愛知川に小學訓導として在勤、英夫吳海兵團電信隊在營、妹全村外山中野家へ、三女あり  
辻君は府中村の現収入役なり、大正六年九月伊賀蕪吟組合検査員に任命され同七年四月退職同九年七月國勢調査委員を囑托され十二年一月府中村役場書記を拜命、大正十三年九月收入役に任せられ現在に至る、性潑瀾事に當りて熱中する質なりと又政治運動を好み庭球等の趣味を有す。

### 中林馬次郎君

府中村大字西條 文久三年十一月十三日生

家族 妻まつ河合村圓德院中森清兵衛伯母、長男鐵三(三八) 嫁はま(三〇) 全村千歳西澤金太郎姉、二男直藏(三五) 嫁は

野農人町嶋岡喜兵衛妻、二女すゑ(二八)阿波村富永東慶次妻、孫正嗣、ちよ子

中の(三四)中瀬村羽根松浦漢次郎妹、長女よし(四〇)上野農人町嶋岡喜兵衛妻、二女すゑ(二八)阿波村富永東慶次妻、孫正嗣、ちよ子

中林君本性北原、坂ノ下に生る、養はれて中林姓を冒す、農を業とし副業に畜牛を飼ふ、川漁狩獵等を好む、明治卅一年消防小頭に擧げられ勤続九ケ年又大字西條區長代理となり二十ケ年勤続す、大正十四年三月府村中々會議員に擧げられ現在に至る、村内に於ける舊家にして先代庄右衛門氏は村庄屋を勤めたりと。

### 草山 僊之介君

府中村大字佐那具 明治十八年六月七日生

家族、(一)むめ今草山留吉長女、長女英子(一九)自宅、二女正子(二四)三女和子(七)四女(二)

草山君本姓清水、同村大字土橋仙次氏の二男なり、草山家に養はれて其姓を冒す、現佐那具郵便局長たり、副業に煙草小賣商を営む、同家は佐那具唯數の舊家にして初代甚太郎光兼河合村田中に住し郷士となり八代目光房の代佐那具に移住し當主にて十七代に及ぶと、僊之助君明治三十七年上野中學校を卒業後上野區裁判所書記となり三十九年阿保、四十一年西柘植四十二年上野大正二年名張同三年上野の各登記所に歴任十年一月卅一日辭職退官同年三月佐那具

郵便局長に就任現今に至る、大正十三年功により瑞寶章を授けらる、自ら電報郵便等の配達をなし時間の迅速を期し又郵便貯金獎勵の爲め毎年入學生に各金一圓を寄贈し其基本金たらしめる等美談多し。

### 山出 善次郎君

府中村大字東條 明治十五年四月二十七日生

家族 妻なほ(四〇)全村山神稻森彌左衛門三女、妹ちく(三九)鳥ヶ原村平地金五郎妻、弟金造(三五)只増家に養はる、其吉(三三)長女しづ(二二)東京和洋裁縫學校在學、長男喜一(二六)上中在學、二女ひさ(九)

山出君は府中村小學校々長なり、家族は農を業として孔々怠らず、明治卅八年七月三重縣立師範學校を卒業、度會郡野後小學校に奉職後本郡丸柱村、川合村、府中村、壬生野村、中瀬村等の小學校に歴任し大正十四年府中尋常高等小學校長として來任現在に及ぶ、性温厚教育者として好個の適材なり。

### 山路 周 伍君

府中村大字外山 明治十二年四月二日生

家族 妻京都市岡武房妹、長女名古屋市西築港矢森家に嫁す、長男英太郎上中在學、外に一男三女あり

山路君は豫備騎兵中佐にして正五位勳四等の高位高勳を有す、伊賀出身の陸軍々人中第一人者とすべき人なり、資性温良にして園藝と園基とを樂しむ、明治廿九年三重縣第一中學校を中途退學して陸軍幼年

### 町野 穰 吉君

府中村大字佐那具 明治十八年九月三日生

家族 養母(六四)妻一枝(四二)長男孟(二二)明治大學在學次男學(一九)三男勇(一七)上中在學、二女充子(一一)三女美加子(六)四男寛(三)

町野君本姓清水、幼名善次東柘植村大字上柘植に生る、清水太次郎氏の令弟なり、長じて町野家に入り其姓を冒す、養父の歿後其名を襲ふて穰吉と改む、父祖の業を繼いで酒類醸造販賣を業とす、銘酒玉乃榮は君の醸造にかゝるものなり、謠曲、小禽飼育を樂しむ之を能くす、上野中學(當時縣立第三中學校第一回の卒業生にして後京都法政大學に學び二年に於て中途退學をなし町野家に入る、天臺宗を信仰す

### 松井 久 吉君

府中村大字佐那具 明治十七年五月五日生

家族 父久七、母たけ、妻梅野(四〇)全村大字坂ノ下藤井源次郎三女、長女愛子(一七)二女圓子(一四)三女康子(二)妹たつへ小田村竹澤家へ嫁す、しよう上野町向島福森安次郎妻、きん區内へ分家

松井家は府中村屈指の有産者にして米穀肥料商を營業とす、久吉君明治四十二年九月同村消防小頭に任命され四十四年十月府中村消防組々頭に推され又一方法那具商工會副會長に擧げらる、大正十四年三月同村會議員に選ばれ現今に至る父久七氏も亦區長村



學校に入り卅二年五月陸軍中央幼年學校を卒業直ちに士官候補生となり翌年十一月陸軍士官學校卒業卅四年六月騎兵少尉に任せられ第十三聯隊附を命ぜらる、卅六年十二月天津駐屯騎兵隊に派遣せられ卅八年騎兵大尉に昇進卅八年四月歸國四十年十一月第十三聯隊副官となり四十三年十二月近衛騎兵中隊長となり、大正七年少佐に任官せられ、同年七月騎兵第四聯

隊附となり大正十一年八月中佐に昇進せられ退官豫備役に編入せらる、此間位階勳等を進められて正五位勳四等となる不出世の明治大帝の御在世當時は近衛騎兵聯隊に勤務せし爲め遂に大帝の供奉を申し上げたる榮譽の人である、退官後歸郷し在郷軍人會分會長となり在郷軍人の指導を懈らず、郷徒其行を賞して止まず、誠に稀に見るの偉材と云ふべきである。

會議員氏子總代檀家總代等に擧げられ地方の爲め貢獻したる人なり、大正十三年家督を久吉君に譲り分家す。

松田準治君

府中村大字佐那具 明治十七年十一月十日生

家族 妻ふじゑ(四一)河合村千貝稻垣忠五郎三女、長女やゑ(二〇)上野松田源助に養はる、長男總治(一九)二女きく(一一)五)上野松田山豊三郎に養はる、三女辰子(一二)次男忠治(九)四女信子(四)

準治君本姓は宮森甲賀郡大原村に生る、上野町車阪町松田源助方に入家し松田姓を冒し明治四十五年一月分家して現地に住す、吳服商を営み本家に因んで糸源支店と商號す、明治卅六年業務見習として糸源吳服店事松田源助方に勤務し其才幹を認められ主人の妹、とよ子と結婚し松田家に入家せしものなり。

松山芳光君

府中村大字東條 明治三年四月廿七日生

家族 妻生野村山畑森庄太郎妹、長男芳雄(三三)清水運送店在勤三男芳清(二三)鐵道機關庫在勤、芳茂(二三)伊賀上野驛在勤、次男芳次東柘植今出屋に養はる、長女くに佐那具中北孫右衛門養女、美子(一一)

松山君は東條の勢力家にて諸種の公、名譽職に擧げられたる事屈指に違非ず、其主なるもの二三を擧ぐれば消防組小頭部長、東條區長、府中村苗代審査員

御供世足人(郷士)たり、義男君明治卅年佐那具小學校代用教員となり又消防小頭に擧げらる明治卅二年十月三重縣巡查を拜命四十年依願免職す、明治四十一年京都府巡查を拜命大正二年退職年金を賜ふ、大正四年より八年迄大字區長就職大正十年村會議員に選ばれ十四年再選して今日に至る、又大正三年より大字千歲地主會長、青年團顧問、檀家總代、氏子總代等に擧げられ老ひて愈々盛んに地方指導の爲め盡しつゝあり。

藤森啓三郎君

府中村大字一ノ宮 安政三年五月十八日生

家族 妻しげ河合村故藤井精一郎長女、長男鹿郎(四九)嫁さんの全村岡島貞介妹、弟雄吉上野丸之内中林家に嫁吉は壬生野村山畑家養はる、孫りよ、全夫爲藏全村土橋福井榮吉弟、曾孫ちか子みよ子

藤森君は古く地租改正當時より地券作製に従事したるを初めとして社會公衆の爲めに其全生を捧げたる人なり、明治十年第九大區三小區扱所筆生、十八年第十學區學務委員、廿三年府中村書記廿四年同收入役、卅年辭職、直ちに府中村學務委員となり四十二年一ノ宮區長となり大正六年三月學務委員に擧げらる大正四年府中村信用組合理事となり十一年十二月辭職又大正二年より府中村々會議員に擧げられ爾來

同立毛審査員、同産米検査員、同信用組合評議員、同衛生委員、同農會評議員其他屈指に違あらず、又世話好きにして神社の氏子總代、檀家總代等にも就任し殊に孝子留松の表徳碑建設に對しては晝夜を別たす奔走せし人にして郷徒の信任厚く徳望家なり、特に稻荷を信仰す。

福永庄八君

府中村大字千歲 明治六年十一月一日生

家族 父庄次郎(七五)妻全村山本家より入嫁、長女きんの(三三)福永君農を業とし副業に養蠶をなす、佐那具驛開設當時同驛構内合資運送店に勤務す、又消防小頭氏子總代區長代理等に擧げられたる事あり其區長代理當時敢國神社參道開設に努力し之を完成す、大正十四年二月大字千歲區長に推されて就職現在に至る、婿金之助氏は上野驛聯合計算部主任として勤務す、天臺宗を信仰す。

福森義男君

府中村大字千歲 元治元年十一月廿四日生

家族 妻さよ子(五五)全村千歲上出徳三郎長女、次男康男(三三)三男重政(二八)大阪商船會社在勤櫻提丸乗組四男秀雄(二七)上中在學、次女きぬ子(二二)東京在住、嫁きぬ子(二五)大字土橋谷口清次長女、孫きみ子(三三)

福森家も亦府中村屈指の舊家たり、代々庄屋を勤め

重選して十四年三月に至る、官其功を賞し斯民會より表彰す、現戸主鹿郎氏は國幣中社敢國神社の禰宜を奉職し正八位に叙せられ今尙奉職中。

北原銀造君

府中村大字坂ノ下 嘉永三年五月三日生



家族 長女小きん(五〇)二女てつ全所高崎幾次郎妻、三女しげ全村坂本萬次郎妻、四女きり一ノ宮稻本清右衛門妻、五女なら丸村廣田順造妻、孫久子(二八)

北原君世々は農を業とす、銀造君性慈悲心に富み又仁俠あり、疝氣病の禁厭法を體得して該病者の救済に力を致す、其施術の靈妙なる神人を驚かすに、全庵者日に續出し感狀山をなす、其患者に接するや名利に奔らず篤實仁俠を以て家事を省みず懇切叮嚀を竭す、人皆其心掛けを稱す平素深く大日如來を信仰す、其疝病の治療も蓋し其靈感の賜ひならんか、性公共心に富み幾多の社會事

業に寄附を怠らず大正十一年六月には三重縣知事山脇春樹氏より感謝状を受け十四年一月には在郷軍人會長川村元帥より感謝状を受く。

### 宮本金太郎君

府中村大字土橋 明治二十二年二月八日生



家族 妻全村千歳野口家より入嫁、長男茂也上野男子小學校在勤、次男上野町馬苦勞町川口家より入嫁、次男定夫三田村野間矢野家に入嫁、三男金三上野農人町東出家再興、長女しづ阿高女卒講習科在學

宮本君本姓福田、一之宮に生れ宮本家に養はれ其姓を冒す、大津歩兵第九聯隊に入營日清役に従軍し歩兵曹長となり勳八等に叙せらる、明治卅六年府中村書記となり卅九年收入役に推され四十一年八月助役に四十二年七月村長に選ばれたるが都合により四十五年六月辭職す、大正六年府中村々會議員に選ばれ又學務委員、所得税調査委員等に就職大正十一年十二月再び府中村長に選ばれて現在に至る、讀書を好み酒を嗜む。

### 重福五平君

府中村大字佐那具 明治十年一月七日生

家族 長つぎ、長男小學在學、外に三名あり、母は西栢植村御代橋本家の出なり

重福家は佐那具の舊家にして醫を業とす、當主五平君本姓杉原岐阜縣本巢郡船木村字十條に生れ重福家に入婿其姓を冒す、祖先は江州膳所藩士にして慶長十一年八月死去其子彦左衛門が玉瀧村大字横山に住し歸農後幾代かを經て佐那具に住し藤堂侯に仕へ藩士となる、横山に住したる故事より今尙同地の祭典には重福家より參列する例となり居れり、八代保俊醫を業とし餘暇園基を樂しみ方圓社初段となり大正十一年九月歿す、當主五平君明治四十二年愛知縣立醫學專門學校を卒業附屬病院に實地研究をなし四十四年重福家に醫業を繼ぎ現今に至る。

### 清水仙次君

府中村大字土橋 嘉永五年九月十七日生

家族 妻しか(七〇) 全字吉森松右衛門二女、長男繁藏(五三) 長女まつ(四九) 上野赤阪濱邊喜八家に入嫁す、三男徳之介(四一) 佐那〇郵便局長、嫁くまを(四五) 全字宮本定次郎長女、孫仙一(二六) 早稲田大學農科在學、義郎(二〇) 早稲田大學高等學院在學、ちよ(一八) 阿山高女卒業講習科在學、つた(一一)

清水君は運送業を營み村内に信望高き人なり、壯年時代より地方開發の爲め力を致したる人にして大字土橋區長、府中村長等より感謝状を受く、明治七年地租改正に際し公量人を命せられ續いて第九大區三ノ小區土橋村用掛を命せられ、十四年土橋村總代と

### 森井喜七君

府中村大字土橋 慶應二年壹月十一日生

家族 妻たつ河合村馬田舟見喜内長女、長女於喜代(三二) 高女卒業、婿由次郎山田村富岡島元次郎三男、伏見憲兵隊本部在勤、上等計手

森井君は農を業として府中村の一有力者なり、明治卅四年消防小頭より大字區長に選任せられたるを初めとして氏子總代、神社建築委員等を歴任し卅八年八月阿山郡産米同業組合輸出米検査員を拜命、卅九年米穀検査員となり、又明治四十二年米穀検査標準米査定委員に任命せられ大正五年三重縣産業技手となり七級俸を給せらる、大正十一年九月辭して農に親しむ、君は官界生活、十六ヶ年の久しきに亘り孔々として懈らず縣下産業界の爲めに貢献したる人なり、故を以て村民の信望厚し。

### 森井周吉君

府中村大字土橋 明治十二年十二月七日生

家族 妻しか(四七) 河合村川合北森平次郎妹、長女しづ子(一九) 阿山高女卒業、長男一郎(二三)

農を業とす土橋の有力者なり、神社氏子總代、共同苗代管理者(設立以來) 區長代理等々歴任して大正十一年圓月土橋區長に選ばれる、又第二回國勢調査に際し調査委員を命せられ其責を完ふす、代々浄土宗

なり爾來阿拜郡第三部勸業委員、長土橋村外六ヶ村衛生及勸業委員、阿拜郡産地米検査係等に歴任し廿一年土橋區長に就任明治卅一年村會議員に選ばれ爾來重選さる、事廿年に及び地方自治の爲め晝夜の別なく盡粹す官其徳を賞し大正十四年三月表彰狀並に金一封を贈りて其功績を表彰せり。

### 廣重了智君

府中村大字佐那具 明治十三年六月五日生

家族 妻みさを(四一) 川合村大字川合馬岡助三女、長男了男(一九) 京都平安中學在學、二男淳(一九)

廣重君は眞宗佛光寺派了源寺の住職なり、了源寺は佛光寺派中興の祖了源上人の御廟所あり由緒顯著なる寺院なるが故に畏れ多くも伏見宮愛貞親王、小松宮彰仁親王兩殿下より香料を下賜さる、了智君明治卅一年京都眞宗學院を卒業同卅三年十二月東本願寺文學寮を卒業同月由良要塞砲兵隊へ徴され卅六年滿期除隊せしも卅七年五月戰時召集せられ日露戰爭に従軍し従軍徽章に勳八等白色桐葉章を授けられ凱旋四十年府中村役場書記に任命せられ四十五年同村助役に就職大正二年退職す、大正三年より大字區長に擧げられ現今に至る大正十一年先住死亡につき住職を襲任す、園基を嗜む。

### 森本嘉十郎君

府中村大字一之宮  
明治十一年一月十一日生

家族 妻よしの(四六)河合村圓徳院田久左衛門長女、養嗣子長  
一(二九)山田村中村島長太郎二男、長女よし(二九)二  
女はつ中瀬村高畑田金平妻、三女きぬ(二二)大阪在  
住、四女あさ(二六)久居町實科高女在學

農を業とし西瓜の栽培に熱心なり、府中村信用組合  
評議員、農會評議員等に擧げられ大正十年には大字  
一之宮の區長に選ばれ今日に至る、大正十四年六月  
農家組合を組織し之れが會長となり肥料の共同購入  
をなす、又府中西瓜生産組合を組織し之が會長とな  
り斯業の發達を圖る等地方開發に力を致す。

### 菅野原造君

府中村大字土橋  
明治十年三月十七日生

家族 妻すゑ縣下河藝郡一島田町下津右衛門女、長女ひさ、婿末二  
河藝郡橋本村駒田彦之丞二男、二女みち、長男淳吉

菅野家は府中村の舊家なり、原造君夙に公共心あり  
又社會事業を好む、明治四十二年府中村産業組合を  
組織し之が組合長となり今日に至る、又伊賀鐵道株  
式會社を創立して自ら其社長として就職したる事あ  
り其他伊賀運輸株式會社伊賀信託株式會社を創立發  
起して其取締役となり八十三銀行重役阿山郡産業組

### 河合村

#### 稻垣與三郎君

河合村大字千貝  
明治十三年九月四日

家族 母こま(八九)妻つと(四五)全村田中藤森兼太郎妹、長  
女きぬ(二八)二女ふみ子長男隆明、三男隆義

稻垣君セメント瓦製造を業し傍ら農業をなす、君は  
舊と農專業なりしを大正十三年一月セメント瓦製造  
業を創始す、年廿四歳にして消防小頭に擧げられた  
るを始めとして檀家總代、河合信用組合理事、大字  
區長等に歴任し信任大いに加はり大正十年三月選ば  
れて村會議員となり十四年三月再選今日に至れる人  
にして敬神の念深く淨土宗を信仰す。

### 池田藤藏君

河合村大字田中  
明治十九年一月二日生



家族 父社松(六〇)母よよ(六〇)  
祖母(九〇)妻たきの(三八)長  
男勉(一六)二男謙(一一)長女  
みき(八)

池田君農を業とす、現河合  
村助役なり、性温厚にして  
村民の信任厚し、明治四十一年本縣農事講習所を卒  
業後本縣及奈良縣に於て蠶業取締吏員及び蠶業技術  
員を拜命大正三年河合村技術員に就職翌年同村助役  
に擧げられ爾來任期満つる毎に重任して今日に至る  
此間同村養蠶組合長、村農會副會長、青年團幹事等  
を兼任して功績尠からず村民の信任日に加はり次期  
村長として村民に囑目されつゝあり大正十五年十月  
憲政伊賀分會發會式に其幹事に選ばれ現在に至る。

### 西川久太君

河合村大字馬場  
明治廿一年十一月十五日生

家族 母こま(六二)妻きりの(三六)下宿植高島齋之助長女、  
敏一(一一)二女とし(五)

西川君醬油醸造販賣業を營む、現河合村収入役なり  
信任あり大正四年二月大字區長に選任され同六年四  
月退職同時に河合村収入役に就職大正十年七月郷社

#### 奥井乙五郎君

河合村大字川合  
明治九年一月十八日生

家族 妻はる(四三)全村山村梅松長女、長男增平(三〇)嫁山村  
梅松孫、二男増雄吳海兵團在營、三男平雄小學在學、孫三人

陽夫多神社氏子總代は當選して共に現職中なり、性  
仁俠あり、夙に俊才教育に意を用ひ某俊才少年を自  
費にて中學校高等工業學校を卒業せしめたる事あり  
某は目下鐵道省に奉職し前途を囑目されつゝありと

#### 河合隆一君

河合村大字川合  
明治二十年九月十六日生

家族 妻信榮(三六)京都府笠置村北笠置喜多健次郎二女、長男宗  
吾(二三)

河合家は同地方の舊家にして徳望を集めつゝある家  
柄なり、隆一君は株式會社玉瀧銀行河合出張店長な  
り、性温良にして良銀行家の評あり、明治四十五年  
滋賀縣師範學校を卒業し後同縣土山、大原の小學校  
に訓導として奉職せしが大正三年一月嚴父吉三郎氏  
の訃に接し辭職歸郷して亡父の後を襲ひ現職につく



音楽を好み浄土宗を信仰す。

### 神田要太郎君

河合村大字馬場 明治二十七年二月廿二日生  
家族 妻の母すみ(五八)妻喜(三三)上野桑町大西家より、長女みち子(九)長男徳夫(五)二女禮子(三)

神田君は郷社陽夫多神社々司なり、園基を好み琵琶を演奏す、神田家初代を良清と稱し寛永七年八月敢國神社別當神光院住職にて爾來代々權大僧師に補せられ同社に奉仕す、十三代憲明神田姓を名乗り忠雄と改名して陽夫多神社に奉仕し要太郎君に至る、要太郎君小學校代教員として丸柱小學校に奉職、大正二年私立國學館を卒業丸柱村々社佐々神社々掌を拜命、大正六年六月神職養成部神職教習科を卒業陽夫多神社々掌に任せられ大正七年九月社司に補せられ今日に至る、同家の墓地は十二代まで今尙敢國神社境内にあり。

### 高森鐵次郎君

河合村大字石川 明治十五年一月二十日生  
家族 妻の母滋賀縣寺庄村重田文三郎長女、長女きみみ(一六)寺庄高女在學、長男角太郎(一四)二男徹男、三男民造婦まつの

鐵次郎君酒造販賣を業とす、家富み草花樹木の栽培を好み、又敬神の念に富むの故を以て偏頗なき議論を好み、性開放にして衆望あり、大正十年三月同村

々會議員に選ばれ十四年滿期再選して今日に至る。

### 高森治左衛門君

河合村大字田中 明治十二年九月十一日生  
家族 妻の母(九)府中村西條、長男政夫(二〇)長女きみ(一七)二女ふみ(九)二男治男(八)三男孝(三)

高森君は現河合郵便局長なり、性質温厚にして郷黨の信任厚く同村消防組頭に擧げらるゝこと實に廿四ヶ年一日の如く防火事務に服し怠る事なく良く他の範を示し本縣消防協會より表彰さる、明治四十二年五月河合村郵便局長に任せられ今日に至る、克く地方民に勤儉貯金の奨励をなし治績大いに昇る。

### 恒岡淺松君

河合村大字園徳院 明治二年六月六日生  
家族 妻よし(六〇)同字垣岡仁一郎妹、二女よし(二八)一ノ宮山岡仙藏妻、三女きんの(二三)二男淺二(一九)孫淺夫(一五)

恒岡君水車業を営み傍ら農業をなす、信任あり消防組頭に任せられ明治四十二年同村々會議員に擧げらる大正二年任期滿了退職し大正十四年三月再び村會議員に擧げられ現在に至る、村治上貢献しつゝ、ある人なり、浄土宗を信す。

### 中西安左衛門君

河合村大字大江 明治十九年八月九日生  
家族 母はる(六三)妻つた(三六)同村馬田山本清之助妹、長女

しつ(一五)二女一枝、長男實、三女よし、二男至

中西君農を業とし徳望厚き人なり、明治四十一年三月大字區長に就職又消防小頭となる、大正二年再び區長に選ばれ同七年退職十二月三度區長に擧げらる大正十四年三月村會議員に選舉され又氏子總代に就職地方自治産業上力を致しつゝあり、其業務に熱心なる賞すべきものあり、大正十一年一月消防小頭として上野警察署より感謝状を受く、其他壯年團を組織して農村振興策を研究し報徳積善會を組織して五萬圓の貯金の計畫をなす等常に地方改善に努力しつゝあり。

### 村尾門四郎君

河合村大字河合 万延元年二月十三日生  
家族 妻すき(六〇)伊勢神戶町岡松純六二女、長女尚子名古屋監理局在勤河村氏へ、二女幹子頼田村林香寺へ、長男坦(三五)在大阪、三女豊子丸柱村大矢巖雄妻、四女俊子(二〇)名古屋職業女學校卒業、嫁せつ(二六)山形縣出生

村尾君は河合村現村長にして郡内町村長中の有力者として一勢力をなせる人なり、俳句を好み常足軒と號す又園基を樂しむ、事に當つて忠實克く奉公の誠を致す官其志を賞し之を表彰せし事數次大正九年三月勳八等を授けらる左に表彰文の一を記して其傳に代ふ

### 山本宇平治君

河合村大字馬田 明治十五年十二月廿八日生  
家族 長女みよし同字山本家へ、長男宇一郎(二一)二女よし(一六)二男宇八、嫁やす(二〇)丸柱村比曾河内山本定次郎女

山本君農を業とし旅行の趣味を有す、同村大徳寺の檀家なり、大正九年消防小頭に任せられ衆望を得大正十三年一月大字區長に就職村治上力を致しつゝあり。

### 安川彌内君

河合村大字石川 明治十三年八月一日生  
家族 母はる(七五)妻元枝(三八)玉瀧村生田辰治郎長女、長女みち子(一七)二女よし(一四)

安川君黨業を經營し地方の有力者なり、特に埴塙の製造に得意なり、園基を好み、明治三十一年十一月河合村役場書記に任せられ四年間勤務す、明治卅六年大字區長に擧げられ四十二年村社穴石神社氏子總代となる、大正四年衆望の歸する處河合村助役に推薦され村治上貢献する處尠からず、辭職後家業に専

心し、浄土宗を信仰す、同家の窯業は慶應年間の創業にかゝるものなりと。

福島 亀松君

河合村大字圓徳院 明治三年五月五日生  
家族 母すみ(八六)妻すみ(四三)長男要吉(三一)久居農校卒業、長女みき(二七)三田村大谷中森新之助妻、二女つ(二四)西拓植村柏野水澤芳三郎妻、三女のぶ(一八)阿山高女在學、二男増男(二二)四女す(八)

福島君農を業とし、庭吹製造を副業とす、消防小頭、檀家總代、大字區長等に歴任して功あり衆望の歸する處大正十年三月選ばれて同村々會議員となり十四年三月再選今日に至る、浄土宗の信仰者なり。

藤井 彌左衛門君

河合村大字川合 明治十六年八月十三日生  
家族 弟留三郎(三二)長男文雄(二〇)農林校卒業農事試験補助務、長女彌(二三)母(六八)

藤井君農を業とし書畫骨董を好み園基を樂しむ、明治卅五年三重縣師範學校を卒業、小學校訓導を奉職明治卅六年六週間現役兵として守山歩兵第三十三聯隊に入營除隊後居村小學校に奉職せしが辭職農會代議員、學務委員、河合信用購買販賣組合理事及び幹事等に歴任して信任あり、大正十年河合村々會議員に擧げられ十四年三月再選今日に至る。

浄土宗を信仰す。

藤岡 万次郎君

河合村大字波敷野 明治二年十二月廿五日生  
家族 長男鉦次郎、長女しん、河合村馬田中金之進妻、二男京太郎神戸市山本通三丁目二米穀商經營三男金語在大阪、二女まの神戸磯上通一丁目峯林吉太夫妻、四男武在神戸三女きぬ同字山本善一郎妻、四女すじ(一六)嫁かれよ同字後出庄太郎妹、孫ひな、みよ、ふみ

萬次郎君農を業とし信任あり年廿二歳にして消防小頭となりたるを始めとして大字區長たること前後三期十一年八月の永きに及び村治上貢献する處多し大正六年三月衆望により村會議員に擧げられ以來重選今日に及ぶ、君の子息四名は何れも徴兵に合格し皆好成绩を以て軍務に服し郷黨の模範とするに足るべきものあり大正十四年二月同村長村尾門四郎氏は之を賞し表彰狀に紀念品を添へて贈れり。

藤岡 甚三郎君

河合村大字川合 明治二十一年七月十八日生  
家族 妻輛田村辻本榮一郎妹、長男博

藤岡君醫を業とす、同村大字波敷野藤岡甚兵衛氏の弟なり、資性温厚讀書を好み常に新刊書を離たず、患者に接して懇切丁寧なるの故を以て信任あり上野中學校の出身者にして後名古屋醫學專門學校を優秀の成績にて卒業大正五年八月現在の處に開業今日に

藤原 藤右衛門君

河合村大字波敷野 明治十九年十一月五日生  
家族 母みつ(六四)妻つ(三七)河合村石川高森金助長女、長男昇(二二)長女みち子(二〇)名古屋在住、二男藤生(八)二女すみ(五)

藤原君は現三田小學校々長なり、明治四十一年三月三重縣師範學校を卒業し桑名町立第二尋常小學校に職を奉じ翌年十一月六週間現役兵の義務を終り同月同郡楠小學校訓導兼校長に榮轉す、四十三年十月家事都合により伊賀在勤を出願許されて玉瀧小學校訓導に轉じ翌年三月九柱校訓導となり四十五年七月河合校訓導に大正十一年十二月十八日三田校訓導兼校長に榮轉今日に至れる人にして良教育家の開あり、君の如く師範卒業後幾何もなくして校長に任せられたる事は全く異例にして以て其人となりを窺ふに難からず、園藝と園基を好み之を樂しむ。

藤岡 忠太君

河合村大字波敷野 明治二十五年四月一日生  
家族 母たけ(六二)妻つ(三三)〇田村西湯舟勝矢備三郎二女長男忠敏(二二)長女みち(八)二男勝(四)

忠太君農を業とす、信任あり青年支團長に任せられ大いに盡す處あり大正十三年亡父の後を繼いで波敷野區長となる、前途を囑目さる、青年活動家にして至れる人なり。

藤森 常次郎君

河合村大字田中 明治十二年九月十二日生  
家族 妻さか(四七)同村川合藤井文内長女、長男重信(二四)玉瀧小學校訓導奉職、嫁みき(二二)玉瀧村玉瀧高森安次郎長女

藤森君農を業とし信任あり、明治四十四年同村消防小頭に任せらる大正十四年三月農家組合を組織して自ら北區農家組合長となる、又大正十二年大字區長に擧げられ治水土木事業に力を致す、相樂街道岐道柘植街道の綾下橋は君が區長在職當時竣工したるものなり。

藤森 文次郎君

河合村大字田中 明治十二年三月八日生  
家族 母(七五)妻しかの(四七)同村川合山村正藏妹、長男善五郎(二九)二男巖(二四)四日市新町藤森とく發子、長女きぬ(一七)二女しづ(一四)嫁たきの輛田村上友田榮原善次郎二女、孫二人

藤森君農を業とし庭吹製造を副業とす、明治卅二年十二月由良要塞砲兵聯隊に入營、日露役に召集されて徒歩砲兵第二聯隊に充員出征し功により勳八等を賜ふ、歸郷後消防小頭に任せられ衆望を得大正二年大字區長に擧げられ養蠶組合長に就任大正五年退職す、大正十年三月選ばれて村會議員となり同十四年

三月再選今日に至り村治上力を致しつゝあり浄土宗を信仰し酒を嗜む。

### 神山陶器合資會社

河合村大字圓徳院  
創立大正九年十月

神山陶器合資會社はタイル(耐火煉瓦)製造販賣を業とす、近時の優秀なる製品により漸く名聲を全國殖民地支那地方にまで知らるゝに至れり、資本金十萬圓の合資會社にして出資者は名賀郡瀧川村出身大阪在住吉田久四郎氏以下四名にして前途洋々たる有望の會社なり現在の製産額は需給の圓滑を期する能はざる現狀にあれば増資擴張の餘儀なきに至るべしと觀測されつゝあり。

### 廣岡傳右衛門君

河合村大字大江  
安政六年十二月十八日生

廣岡君本姓杉尾、同村に生る、長じて廣岡家に入る農を業とし傍ら製藥販賣業をなす、大江の小兒樂を製して名あるは實に當家の製劑にかゝるものなり、衆望あり大正七年大字區長に選任され八年退職十四年四月再び區長に選ばれ今日に至る、事務は息傳四郎氏が執りつゝあり、樹木栽培を楽しみとす。

### 杉尾岩吉君

河合村大字大江  
明治八年九月 日生

杉尾君は大字大江唯一の徳望家にして家富む、明治卅三年大字區長に選任せられ明治卅七年辭職、同年三月村會議員に選ばれ以來重選されて大正十四年三月迄勤績し村治上貢獻せし處尠からず郷黨其徳を稱せざるなし、其他種々なる名譽職に歷任す其功績は枚舉に遑非ず。

## 丸柱村

### 井岡久太郎君

丸柱村大字比曾河内  
明治四年九月十五日生

井岡君は製糸業を營む、本姓は高森、河合村大字石川に生れ井岡家に入婚して其姓を冒す、同家の製糸業は明治卅五年の創業にして目下は女工三十名を使用し旺んに操業しつゝあり、村内屈指の信望を有する人にして園藝を嗜む、大正十四年三月衆望の歸する處村會議員に選ばれ現在に至る。

園藝等の趣味を有す。

### 大矢光三君

丸柱村大字丸柱  
文久元年十一月十一日生

大矢君は丸柱村の豪農にして一村の元老として村民の尊敬を一身に蒐めつゝある人なり、同家は往昔同村波敷野に居住せしが八代前の主丸柱に移住す光三君壯年にして衆望あり榎山丸柱聯合役場當時より學務委員に選ばれたるを始めとして明治十九年には丸柱郵便局長に任せられ又大字區長に選ばる、明治廿五年郵便局長を辭し専ら家業の陶器仲買業に従事す大正七年仲買業を廢し丸柱村信用組合長に選ばれ現在に至る、此間村會議員たること永年、阿山郡會議員たること前後五期に及び郡參事會員、郡會副議長等に選ばる、以て其人となりを知るに足る、因に次男良三君又父の志を受けて聲望あり大正十四年三月村會議員に選ばる。

### 大矢条次郎君

丸柱村大字丸柱  
明治十二年八月十四日生

大矢君は同村の豪農大矢光三君の令弟にして丸柱郵便局長なり、明治卅四年三月三重縣師範學校を卒業し丸柱小學校訓導に任せられ明治卅七年四月同校兼任校長に進む、大正十一年一月大阪府へ出向を命ぜられ大阪市精華小學校へ轉任す、同十五年六月依願退職し同年七月丸柱郵便局長に任せらる、資性温厚にして衆望あり村民の尊敬を受く、園藝、書畫骨董

### 長谷嘉市君

丸柱村大字丸柱  
明治十八年三月廿一日生

長谷君は丸柱村の豪農にして一村の元老として村民の尊敬を一身に蒐めつゝある人なり、同家は往昔同村波敷野に居住せしが八代前の主丸柱に移住す嘉市君壯年にして衆望あり榎山丸柱聯合役場當時より學務委員に選ばれたるを始めとして明治十九年には丸柱郵便局長に任せられ又大字區長に選ばる、明治廿五年郵便局長を辭し専ら家業の陶器仲買業に従事す大正七年仲買業を廢し丸柱村信用組合長に選ばれ現在に至る、此間村會議員たること永年、阿山郡會議員たること前後五期に及び郡參事會員、郡會副議長等に選ばる、以て其人となりを知るに足る、因に次男良三君又父の志を受けて聲望あり大正十四年三月村會議員に選ばる。

長谷君本姓は佐治、滋賀縣甲賀郡水口町三三三番地に生る、明治四十三年三月長谷家に入婿して其姓を冒す、滋賀縣八幡商業學校を卒業後一年志願兵として歩兵第九聯隊に入營歩兵少尉に進む、大正十四年三月には衆望により村會議員となる、長谷家は陶器製造を業として丸柱焼をなす同業者中最大の製造業者として信任あり、殊に嘉市君は特に此方面の活動家にして敏腕の聲高し、同家の副業は天保元年にして現在の當業者中又最古の暖簾を有する家柄なり

### 山本健三郎君

丸柱村大字丸柱 明治十二年四月一日生

山本君本姓は服部、玉瀧村大字椋山に生る、長じて山本家に入り其姓を冒す、窯業を営み村内の有力者として信任せらる、衆望の歸する處大正十三年三月大字區長に選ばれ現在に至る、同家の創業は明治廿年にして先代養父峯太郎氏が經營し今日に至れるものにして販路を近畿、九州、東海、奥州、北海道に有す、因に長男忠重君は兵庫商業學校を卒業自宅にありて祖業に従事す。

### 福森仙造君

丸柱村大字比曾河内 明治十一年二月八日生

福森君は丸柱村長なり、明治卅一年五月丸柱村書記を拜命同卅五年收入役に同四十五年助役に進み間もなく村長に選ばれる、大正五年八月滿期退職して家業に従事せしが大正六年三月同村々會議員に當選、同十年重選し十三年九月再び村長に當選して現在に至る、資性温厚人に接するに懇切を極め村民の信任厚し、因に長男英夫君は高等商業學校出身の俊才にして目下京都市に住し銀行に勤務中。

### 秋野利光君

丸柱村大字丸柱 明治二十四年二月七日生

秋野君は上野中學校を四年生にして病氣の爲め中途退學をなし家事に従事す、大正七年丸柱郵便局長に任せられたるが大正十五年故あり辭職す衆望の期する處大正十四年村會議員に選ばれる、園基及び狩獵を好む、君の父秋野幾次郎氏は明治廿五年以來丸柱局長を勤務し聲望を博したる人なり。

### 宮本喜十郎君

丸柱村大字丸柱 明治四年五月二十日生

宮本君は農を業とし丸柱村の有力者として其名近郷に普し、明治廿一年大字丸柱區の出納係に選任せられたるを公職の始めとして大字區長に選任せらる、こと前後三期、村會議員に選舉せらる、こと前後三期現に其職にあり、其他學務委員、前後二回氏子總代、助役收入役等に歴任し明治四十四年八月には丸柱村長に選ばれる、明治四十五年六月辭職せしが大正五年八月再び村長に擧げられ同六年八月辭職、大正十一年九月三度村長に選任せられ大正十三年八月辭職し現在村會議員として村治風教の爲め力を致しつつあり。

### 伊室逸之助君

丸柱村大字東湯舟 明治四年十二月廿一日生

伊室家は丸柱村唯一の舊家にして士族なり、同村手力神社は同家の遠祖が勸請奉祀せしものなりと傳ふ明治廿六年縣立師範學校速成科を卒業丸柱小學校に奉職後丸柱小學校に轉任約十二ヶ年間に在職辭職後家業に専心す、衆望あり、郡會議員、氏子總代、檀家總代、手力神社信徒總代及同敬神會々長、信用組合幹事、理事、村農會總代等に歴任し又村會議員たること約十五年及び地方自治上貢獻する處尠からず村民の信任厚きものあり、三男貫二君は一年志願兵を勤務現に豫備歩兵少尉なり、農を業とし園基を樂しむ。

### 靱田村

#### 稻増正雄君

靱田村大字下友田 明治十六年四月二日生

家族 長男勝(二一)小學校訓導、二男勳(二〇)全上

### 伊室 治君

輦田村大字東湯舟 慶應元年月 日生  
家族 妻くりみ(五八) 大字小杉山茂樹妹、長男治夫(三九) 京都府園部警察署長第三中學並に武術專門學校卒業、嫁いさ(三四) 安濃郡河内村落合兼吉長女、二男治喜三(二九) 滋賀縣水口農林校卒業、同嫁さだ(二四) 滋賀縣佐山村和野奥村傳吉女、長女一枝(一八) 寺庄高女在學

伊室君農を業とし家富む、祖先崇拜の念厚く書畫骨董を樂しむ、輦田村の有力なる功勞者なり、大字區長たること約廿ヶ年、村會議員たること町村制實施以來大正十四年迄重選され村治上貢獻する處尠からず、村民の尊敬を受けつゝある人なり。

### 井上 察 愍君

輦田村大字下友田 明治二十二年八月廿八日生  
家族 養母かれ(六一) 妻ま(三三) 中拓植森田伊平治四女、長男弘毅(一四) 二男平(一一)

井上君本姓川合幼名政朗同村川合才藏の弟に生る、淨土宗森紅寺に養はれ出家して現在の如く改む、繪畫を好み豊舟と號し四條派を研究し之を良くす明治四十二年京都東山中學校を卒業し同年十二月中友田清林寺住職となる、大正十四年五月師僧の示寂により森紅寺に住職することとなり清林寺を兼務す、明治四十二年春より伊勢松阪横田地松雲の門に入り繪畫の研究をなし後吉田百億に師事し技大いに進む、

大正十一年山階宮同妃兩殿下御前揮毫の榮を賜ひ名聲大いに昇る、性温厚にして良宗教家の聲高し。

### 服部 伊重郎君

輦田村大字東湯舟 明治十四年十一月八日生  
家族 妻ふさ(四七) 玉瀧川島房次郎妹、長女はつみ(二六) 寺庄高女津市技藝女校出身、長男勇(二〇) 水口中學卒業、二女かれな(一八) 寺庄高女在學

服部君農を業とし酒を好み文藝趣味を有す、衆望あり大正七年九月大字區長に選ばれ同九年第一回國勢調査員を命ぜらる大正十四年三月大字區長を辭し村會議員に選ばれ今日に至る、性温良風に公共心に富み村治上貢獻する處尠からず、村民君に依頼する處多く前途を矚目さる。

### 服部 孝太郎君

輦田村大字西湯舟 明治二十二年十一月十一日生  
家族 母し(八五) 妻 上野町農人町富田屋より、長男達吉京都大學在學、二男作治上野町農人町廣部家へ

# 服部 孝太郎

自筆

服部家は伊賀に於ける有數の名門として其名遠近に知られたる素封家なり、孝太郎君資性温厚にして夙

に君士の稱あり、其人格の高き又並ぶ者なしと傳へらる、亡父甚藏氏の遺志を繼で株式會社八十三銀行の頭取となり伊賀金融界の爲め力を致す處尠からず後地方銀行合併の議中央に起るや卒先して之を百五銀行に合併し其取締役となりて常に地方金融界の爲めに力を致す、其他輦田村々會議員阿山郡會議員輦田信用購買販賣組合理事等に歴任して地方の爲め功績あり、又公共心に富み大小の社會事業に獻金を怠らず謝状を受けたること枚擧に遑非ず、其他地方に小作問題の起るや卒先して小作人の爲め犠牲を惜まざる爲め同地方の小作人は君を神の如く尊敬す、實に當代得難き人格者として推賞に値すべきものあり書畫、骨董、謠曲、生花、園藝等を好む。

### 服部 榮次郎君

輦田村大字西湯舟 明治廿三年九月廿一日生  
家族 母ため(五七) 第四郎(二〇) 在大阪、妹みよ(一一) 妻まつ(二三) 滋賀縣北柚村谷村典之介女、長男宣雄(二二)

服部君は各種苗木桑葉生産販賣業を營む、青年の活動家なり、明治四十二年縣立第二中學校を卒業し後師範學校第二部を卒業、小學訓導として従事せしが大正七年辭職家事に従事す大正九年大阪大正日々新聞記者となりしが十年辭職熱心に家業に従事するこ

と、なれり、動植物學上より見たる桑園養蠶の經營をなしつゝあり。

### 服部 齋君

輦田村大字下友田 万延元年三月十日生  
家族 長女才(三二) 婿三衛(三五) 玉瀧村樺山藤原英夫弟、孫正子(二三)

服部君は輦田神社々司なり、性温良にして和歌、園藝等を好む、明治廿年三月神職三等假試驗合格証を受け四月一日村社輦田神社兼村社天引神社外無格社祠社掌を拜命明治卅九年九月各社合祀と共に兼務社掌を解かれ爾來村社輦田神社々掌として引續き就職中、婿三衛君明治四十五年三月神宮皇學館專科卒業同年六月河合村穴石神社々掌を拜命大正四年十二月辭職北海道旭川區瀨古合名會社支配人となり大正七年九月解散と共に失職東京市佐野鐵工所に勤務せしも大正十年十一月退社歸國し大正十一年四月より輦田神社々掌拜命同五月より輦田小學校に勤務今日に及べる人なり。

### 服部 吉助君

輦田村大字東湯舟 明治十三年十二月八日生  
家族 母はる(六五) 妻ふく(三八) 滋賀縣龍池村岡根市兵衛長女第七郎(二六) を相続人す

吉助君農を業とし副業の養蠶を盛大になす、衆望あり

り農家組合長に推され大正十三年九月同村區長に選  
ばれ今日に至る、農事に熱心にして殊に養蠶の改良  
に力を致し見るべきものあり、弟七郎君は同村青年  
團支部長なり、

### 西尾 義隆君

西尾君青年にして郷里を出で神戸海岸通り太陽海運  
株式會社に勤務す、大正元年歩兵第九聯隊に入營上  
等兵に進み下士適任証を得て除隊す大正十二年大宇  
代理區長に擧げられ衆望加はる、大正十四年三月選  
ばれて村會議員となり現在に至る、祖父平左衛門氏  
は庄屋戸長村長等に歴任し地方の爲め盡力したる有  
力者なりき。

### 西田才市郎君

才市郎君農を業とす、衆望あり大正十三年五月大宇  
代理區長に就任、同十四年四月區長に選ばれ今日に  
至る、村治上貢献しつゝある人なり、父甚次郎氏又

賣す、酒を好み乗馬の趣味を有す、明治卅八年補充  
兵として由良要塞砲兵隊に入營從軍記章を授けらる

### 尾崎 泰藏君

尾崎君は上友田の現區長なり、生花、插花を好む、  
勤儉貯金獎勵の爲め村民と協力して五萬圓貯金を  
計畫之が實行をなしつつあり、明治四十二年歩兵第  
九聯隊に入營上等兵に進み滿期除隊後在郷軍人班長  
及び評議員、青年團幹事長、消防小頭、代理區長等  
に歴任大正十四年四月大宇區長となり現今に至る、  
第二回國勢調査委員をも拜命せり。

### 尾崎 久松君

蓄鬚の老紳士尾崎君は韋田小學校長なり、明治三十  
三年三月三重縣師範學校を卒業後直ちに韋田校に奉  
職し明治卅八年同校々長となり十年一日と如く子弟  
教養を唯一の樂しみとして精勤す、得難き良校長と

區長村會議員たること數期地方的功勞ある人なり、  
浄土宗を信じ農事に熱心なり。

### 小倉熊次郎君

小倉君農を業とし副業に合資會社神山陶器會社分工  
場を經營す、明治廿四年十二月近衛歩兵第一聯隊に  
入營、日清戰爭に参加し歩兵軍曹に進み勳八等を授  
けらる、明治卅一年四月韋田村收入役に任せられ卅  
七年二月同村助役となる、日露役の功により勳七等  
を授けらる、明治四十二年農事に熱心なるの故を以  
て大日本農會總裁宮殿下より名譽賞狀を授與せらる  
長男清一郎君は上中出身者なり。

### 奥彦三郎君

奥君牛乳搾取販賣業をなす、明治卅年玉瀧村に於て  
創業し大正十二年現地に移轉益々業務を擴張平均乳  
牛十頭を飼育し玉瀧韋田河合九柱の四ヶ村に亘り販  
して村民の信任極めて厚し。

### 川合亥之助君

亥之助君酒造販賣を業とす、明治廿一年の創業にし  
てそれ迄は世々農を業とす、家祖不詳なり同村屈指  
の舊家なりと、大正二年衆望により村會議員に擧げ  
られ大正八年退職、學校建築委員にも擧げられ村治  
教育上貢献せし人なり、亡父久治氏又壯年時代より  
地方の名譽職に擧げられ後郡書記を奉職社會に功勞  
あり。

### 川合 徳藏君

川合君は現玉瀧小學校長なり、家族は雇人と共に農  
に服す、明治卅五年三重縣師範學校を卒業後志摩郡  
加茂小學校同磯部小學校等に訓導として奉職明治卅  
八年七月韋田村小學校に轉勤を命せられ大正十年十  
月現職に榮轉今日に至れる人にして性温厚良教育家  
の評あり園藝を樂しみ少量の酒を嗜む。

### 川合文治郎君

額田村大字下友田 明治二年一月十七日生

家族 妻小うめ(五九) 東植村西田熊次郎姉、長男藤一(三二) 二男虎雄(二八) 同村内へ分家、嫁つや(二六) 上野福居町 廣岡家より、孫三人あり、二男婦す、西湯舟岩田榮吉長女 川合君農を業とし副業に製菓、養蠶等をなす家を長兄藤一に譲り自己は次男虎雄と分家す、家業に熱心にして村郡主催の品評會に出品して賞を受くること數多し、明治四十二年四月蠶望により大字區長に就任四十三年辭職大正五年再び區長に擧げらる同八年三月辭任大正十四年三月村會議員に選ばれ村治上に力を致しつつあり。

### 勝矢鐵次郎君

額田村大字西湯舟 明治三年四月十七日生

家族 養母なら(七四) 妻小てつ(五〇) 長男金松(三四) 二男久男(三一) 玉瀧村藤岡源八養子、三男操(一五) 滋賀縣水口中學在學、嫁あや(二九) 東植村濱地安吉長女、孫みち(八) 市(四) 鐵次郎君は同村勝矢彌三郎氏の弟なり、同姓勝矢家に入夫して其相續者となる、小學校教員檢定試験に登第滋賀縣瀧池村並に居村小學校に奉職せし事あり衆望あり、消防小頭、代理區長等に歴任して大正六年大字區長となり同十年退職大正十四年四月には村會議員に選ばれて今日に至る、浄土宗を信仰す。

### 川瀨半四郎君

額田村大字上友田 明治十四年四月十四日生

家族 祖母より(八二) 母はる(六一) 妻きみ(四五) 上友田 城長治妹、長女つぎ(二二) 名古屋熱田東町澤上田中留吉妻 長男三郎(一九) 在大阪、二男五郎(二〇) 二女よし子(七) 川瀨君は表具師なり、自宅は農を業とす、副業として煙草小賣業を営む、書畫骨董を好み茶花を愛す、年十九歳にして大字區會議員に選ばれ更に消防小頭となり廿五歳して區長代理となり後二年大字區長に擧げらる、其他氏子總代、學校建築委員等に歴任し大正十四年三月衆望により村會議員に當選す、又額田村愛農會を組織し自ら之が副會長となり今日に至る。

### 川瀨定之助君

額田村大字上友田 明治九年四月二日生

家族 母ふじ(六八) 妻かな(四四) 鈴鹿郡加太村岡田辰之助妹、長女ゆき(二八) 婿喜一(通名定一)(二六) 壬生野村山畑 谷口鐵松二男、孫ふみ(二) 川瀨君は現額田郵便局長なり、家族は農を業とす、明治卅八年大字區長に擧げられ四十年四月滿期退職し衆望の期する所村會議員に選ばれ大正二年滿期再選さる、明治四十一年二月額田郵便局長を拜命し今日に至る、就任以來克く貯金の奨励、通信事務の敏速を期し功あり村民の信任厚し、因に同局は明治四

十四年電信電話事務を開始せり。

### 川瀨作治郎君

額田村大字上友田 明治十八年一月一日生

家族 母すき(六六) 妻たかな(二二) 奈良縣高市村河原原谷専念 女、長男憲久(三三) 川瀨君農を業とし正風調の俳句を好み之を良くす、妻たかを産婆をなし母すきは古衣商を営む、衆望の期する所區長代理に擧げられ大正十二年には大字區長に選ばれる、大正十四年三月遂に同村々會議員に選舉せられて今日に及ぶ、浄土宗の信者なり。

### 川瀨邁君

額田村大字中友田 明治十三年一月十五日生



川瀨君は額田村現村長なり 農を業とし書畫骨董を好む

性温厚にして村民の信任厚く村治上貢献する所尠からず、明治卅六年額田村役場書記を拜命以來業務に精勤して衆望高まり明治四十三年には同村助役に擧られ大正四年四月には同村々長となり模範村額田村の名を辱しめざる名村長として村民の信任を受く。

### 吉田文彌君

額田村大字西湯舟 明治十七年十月二日生

家族 母あい(六八) 妻い(三九) 滋賀縣宮村下馬杉石橋徳次郎 女、長男隆一(一七) 京都國學院在學、長女はつ(二〇) 大阪湊區田中町染川熊次郎妻、二女ます(一四) 三女やす(一一) 四女くに(九) 二男鉄太(四) 吉田君は無格社手力神社の社掌なり、和歌、生花、園藝等を好む、明治四十一年京都國學院を卒業し四十二年父祖の業を繼いで手力神社々掌となる、吉田家は代々神職をなし十五代の祖元和八年土佐國吉田筑前守豊輝土御門帝に仕へ陰陽師なり、以來十四代先代貞助に至り手力神社の神主となり當主に至る、目下敬神會を組織し其會長なり會員二千有餘人に及ぶ。

### 高島作治郎君

額田村大字中友田 明治十二年二月十三日生

家族 母きみ(七八) 妻はる(四三) 河合村千具富田佐市妹、長女しづ同村東湯舟小倉伊之助妻、二女貞(一九) 三女きよ子(二〇) 三男義一(八) 高島君農を業として信任あり、同村消防小頭、檀家總代等に歴任大正三年には大字區長に擧げられ同八年退職、大正十四年三月衆望により村會議員となり今日に至る、村治上に貢献しつつある人なり。

高島 久君

高島君農を業とす、明治卅五年縣立第一中を卒業同年十月歩兵少尉に任せられ日露戰役に從軍して功あり正八位勳六等を授けらる、凱旋後本科正教員として奉職大正八年五月辭職農事に専心することとなる又在郷軍人會、輛田分會長に任せられ大正十四年には學務委員に擧げらる、村治教育上に貢獻する所尠からず、餘暇圍碁を樂しむ、亡父多兵衛氏は廿餘年間輛田村長として就職し同村を模範村たらしむるに力ありたる人なり。

家族 母(六七) 妻(四六) 津市西町大竹武治郎長女、長男武(二五) 滋賀縣廳在勤、二男鐵男(二二) 以下五人あり

竹内才次郎君

家族 妻(四五) 滋賀縣龍池村木村泰助養女、たづ子河合村千具中彌助妻、長男嘉一(一九) 二男照郎(一六)

栗本君農を業とす、書畫を好み田能村直入の門に入り之を究め靜耕と號す、又俳句、生花等を樂しむ、衆望あり消防小頭に任せられ大正十年大字區長に選ばれ大正十四年四月退職す性温厚にして德望厚き人なり。亡父義三郎氏又諸種の名譽職に擧げられ郷黨の爲め盡力したる人なり。

家族 母(八二) 妻(八九) 同字桑原鐵次郎妹、長男信男(三五) 次男金之助(二九) 東京在住、三男峻(二六) 名古屋在住、長女みよし(二二) 京都市在住、二女ひさ(一七) 三女ひで(一五) 婦人(二八) 上友田川瀨米次長女、孫貢(五) 稔(三)

桑原專吉君

桑原君農を業とし馬の飼育に熱心なり、明治卅三年輛田村役場書記を拜命卅七年收入役に任せられ大正四年退職す、明治三十七八年の役功により賞金局より金杯を賜ふ、教育事業に熱心にして大正七年四月同村學務委員に擧げられ今日に及ぶ。

山尾林之助君

家族 母(六三) 妻(三三) 上友田城藤五郎妹、長女かめ(二二) 長男利一郎(一九)

山尾君は農を業とする青年活動家なり、副業の養蠶を尤も盛んにす、政治運動の趣味を有し常に政治を

賜ふ、衆望あり區長代理に擧げられ更に大正十二年四月大字區長に就任今日に及ぶ。

中田幸治郎君

家族 養父辨造(六九) 養母(五四) 妻(三八) 上友田城佐治郎長女、長男政武(二〇) 高等農林校在學、二男(一九) 名賀農校在學、長女ひで(一七) 阿山高女在學、二女(一六)

中田君は從七位勳六等功五級退役陸軍歩兵中尉なり養父辨造氏は君の實兄にして君は其末弟なり、圍碁を好み書道を研究す、明治卅四年縣立第一中學校を卒業同年十二月一年志願兵として歩兵第九聯隊に入營、卅七年二月歩兵少尉に任官三月七日動員召集せられ日露役に出征第二軍に從ひ卅八年三月七日奉天の會戰に於て頭部に名譽の負傷をなし内地に送還せられ同年八月中尉に昇進退役となる、戰功偉大の廉により從七位に叙せられ勳六等功五級を授けらる、稀に見る名譽の軍人と言ふべきなり。

栗本茂左衛門君

家族 妻河合村千具宮田佐市妹、長男茂雄(三一) 多氣郡家畜市場職醫、二男孝義(二三) 三男修(一六) 上中在學、長女きよ子(三) 滋賀縣宮村吉田三代吉妻、嫁し東植植中四郎妹、孫美代子(三)

談じつゝありと、大正八年東湯舟青年會長に選ばれ同九年辭職す、又壯年の時代より大字湯舟の組長に就職す、淨土宗の信者なり。

山尾捨三郎君

家族 妻かめ(五三) 玉瀧村典孫四郎女、長男元一(二九) 嫁かめ(二六) 上友田川瀨重太郎長女、孫たか(五) 幸一(三) 長女しかる大阪東野田五丁目増田徳郎妻、二男警一(二二) 在大阪、三男利一在上野町

山尾君は農を業とし信望ある活動家なり、消防小頭大字區長に歴任して功あり、大正四年より大阪臺灣等に出稼ぎ十二年歸郷す、大正十三年十二月輛田村愛農會を組織し自ら會長となる會員實に二百二十名の多きに達せり、大正十四年衆望の歸する處村會議員に選ばれ今日に至る。

山本久太郎君

家族 妻ふで(四一) 西植植村新堂川北捨松二女、長女しげの(一六) 二男久秋(一一)

山本君農を業とす、明治三十五年歩兵第九聯隊に入營、日露戰役に參加す、歸郷後消防小頭たること六ヶ年、青年團幹事たること四ヶ年、又區長代理者たること六ヶ年よく斯界の爲め力を致し信任厚し、大正九年大字區長に就職して今日に至る、農事に熱心



にして浄土宗を信仰す。

### 松山茂樹君

輦田村大字小杉  
明治元年二月二十八日生

松山君は阿山郡の老政治家にして現在上野町東町に居を卜し富士屋旅館を經營しつゝあり、明治二十五年早くも衆望を擔ひ輦田村々會議員となり明治三十一年輦田村助役に推薦され就職村治上に貢献する處尠からず信用組合の發起創立をなし衆望益々集る明治三十四年助役を辭して阿山郡會議員に選ばれ後滿期に際し重選郡參事會員に選ばれる、明治四十四年遂に三重縣會議員に選ばれ縣政の爲め力を致す處尠からず、大正十四年三月輦田村々會議員に選ばれ今日に至る。

### 松山英雄君

輦田村大字小杉  
明治廿五年十一月廿四日生  
家族 母しい(五九)妻すゑの(二九)西柘植村新堂龜山繁妹、長男逸(一五)長女貞(五)

松山君農を業とし園基と讀書を樂しみとす、全家は四代前に同村松山茂樹家より分家せしものなりと、衆望あり消防小頭青年團支團長等に歴任し大正九年三重縣米穀臨時検査員となり大正十四年二月には同米穀検査員を拜命輦田村駐在を命ぜられ今日に至る。

る人にして米作改良研究に熱心なりと。

### 松山誓司君

輦田村大字小杉  
明治十四年四月二日生

松山君は輦田村現助役なり、農を本業とす、書畫骨董を好み園基を樂しむ、明治四十三年同村役場書記を拜命して以來累進して大正四年三月助役に擧げれる性温厚、事務に熱心にして村民の信任厚く前途記囑目され、ある人なり、浄土宗を信仰す。

### 松本新一郎君

輦田村大字下友田  
明治八年七月二日生  
家族 妻かね(五〇)上友田川瀬傳姉、長女たつ(二二)妹み(四二)在大阪女醫

松本君農を業とし煙火製造に興味を有し毎年伊勢神宮へ奉納放揚せりと、又養蠶に堪能にして合資會社吳虫園分場の囑托を受け盛んに春秋夏蠶々飼育す、消防小頭、氏子總代等に歴任し明治三十七年大字區長に擧げらる、大正二年衆望の歸する處村會議員に擧げられ爾來重選して今日に至る、伏見稻荷を信仰す。

### 増岡重吉君

輦田村大字小杉  
明治十月八月八日生  
家族 母きく(七四)妻きん(四三)同字松本完次郎二女、長女ま

さの(二五)西柘植村新堂森口義嗣妻、長男貞之助(二二)二女すゑ(一八)寺庄高女在學  
増岡君農を業とす、大正四年同所浄土宗長泉寺檀信徒總代に擧げられ大正九年には大字區長に選ばれ共に今日に至る、大字民の福利増進の爲め農家組合を組織し共同購入をなしつゝあり。

### 深井佐市君

輦田村大字中友田  
慶應二年十月二十八日生  
家族 妻 壬生野村川西福森專太郎伯母、長女てつゑ、婿忠敏(四四)同村西湯舟菊齋常次郎弟、孫好子(一六)京都花載高女在學

深井君は輦田村の有力者にして深井病院經營者なり卒先して輦田信用組合の發起をなし創立以來理事となり同組合の發展を計りたる功を認められ大正十三年八月には組合長に推薦さる又大正九年には同村會議員に選ばれ共に現任中なり婿忠敏君は京都醫科大學の出身にして豫備三等軍醫正八位勳六等の所有者なり、日露戦役に従軍凱旋後京都醫學專門學校助教として奉職四十三年五月辭して歸郷同年八月より開業の深井病院々長として今日に至る。

### 藤澤長治君

輦田村大字東湯舟  
明治三年 月 日生  
家族 妻長男貞一 二男貞男在大阪洋服商經營、三男貞大阪市役所在勤、四男貞吾陸軍在營中

藤澤君は酒類釀造販賣業を營む、銘酒日之出正宗は君の釀造にかゝるものなり、君は従前養蠶をなし頗る熱心にして本村に於ける先覺者として表彰を受けたることあり、大正四年生家藤澤家を繼ぎ酒造業を經營し今日に至る、大正十年衆望により村會議員に選ばれたるが大正十四年滿期と共に固辭し家業に専心することゝなれり。

### 合資會社 吳虫園

輦田村大字下友田  
創立大正十二年二月

合資會社吳虫園は原蠶種製造販賣を業とする地方的唯一の會社なり、出資者は川合晃美(三二)高森上太郎(三八)の二氏並に右二氏夫人の四名なり、大正七年川合君が獨力經營せしものを大正十二年合資組織とせるものにして兩君共に三重縣立農事講習所の出身なり熱心なる養蠶研究者なるだけに其製種も亦優秀なるものを得らる、即伊賀地方に於ける一代交雜蠶種及人工孵化蠶種製造販賣の先鞭者にしてバラ種の比重撰に依つて一層優秀なる新方法を考案中なり、大正十四年の製産は一萬二千枚の多きに達し分飼育場を伊賀伊勢近江に亘り三十二ヶ所設け滋賀縣水口町に販賣所を設置し目下朝鮮大邱に分場を設

置の計畫あり前途を囑目されつゝある會社なり。

### 澤井農太郎君

輦田村大字小杉 明治三十四年十月十四日生  
家族 母ふみ(四六)妻常(二五)安濃郡明合村戸島高士幾之助八女、祖母こま(七三)

澤井君は輦田村の大地主にして家富み俳句を好み臨平と號す、大阪朝日新聞社松尾青々に師事して重に倦鳥派を研究し柘植村の同志と相謀りふるさと俳誌を發行せし事あり、又繪畫を好み京都市野崎霞山に師仕して之を學ぶ大正十三年八月擧げられて輦田村小杉青年團長となり今日に至る、妻常子は輦田村婦人會小杉支部副部長なり。

### 菊森常次郎君

輦田村大字西湯舟 明治元年四月八日生  
家族 母きよ(七九)妻さら(五二)河合村千日稻森與三郎女、長女みきの(二九)婿謙三郎中瀬村高畑川崎千太郎弟、孫英子(七)

菊森君は輦田村の有力者にして家富む、常次郎君園藝に興味を有し盛んに四時の草木を栽培して之を樂しむ、同地平泉寺の檀徒なり、婿謙三郎君は上野中學校の出身者にして範校二部教授を受け後一年志願兵として歩兵第九聯隊に入營正八位歩兵少尉に任せられ目下輦田校訓導奉職中。

### 菊森卯之助君

輦田村大字西湯舟 明治十五年六月十二日生  
家族 母みつ(六七)長男三雄(二五)玉瀧校訓導、娘きん(二三)玉瀧村川島甚次郎女、長女みき(二〇)高女卒業

菊森君農を業とし狩獵を好む、明治四十年輦田村消防小頭に任せられて信任厚く累進して組頭に選ばれ大正十一年一月退職す、此間消防事務に熱心にして模範とするに足るものありとして三重縣知事より表彰さる、大正十年衆望の歸する處村會議員に擧げられ十四年再選して今日に及ぶ。

### 城 虎 吉君

輦田村大字下友田 明治元年六月十日生  
家族 妻くまの(六〇)府中村千歳山下善太郎叔母、長女ふじ(四〇)上野西町松生安藏妻、四女まゑ(二八)同上松生鹿次郎妻、五女たけ三田村三田竹田金平妻、六女千代(一八)京都華頂高女在學、長男喜一郎(三七)婦科(三三)同村隱岐豊次郎女、輦田校訓導奉職

城君農を業とし家富む、同家は代々種油搾取を業とせしが當主四十七歳の年廢し農業となる、明治三十四年大字區長に擧げられ七ヶ年間勤績又神社總代たること十五ヶ年間村會議員に選ばるゝこと明治四十二年以來三期村治上貢獻する處多し、長男喜一郎君は上中卒業後二部教授を受け目下訓導として居村小學校に奉職中。

### 城 惠次郎君

輦田村大字下友田 明治十三年六月二十四日生  
家族 養母みよ(七一)妻つじ(四八)長男武治(一九)中學在學

城君は熱心な農事研究者である、明治三十三年由良要塞砲兵聯隊に入營し滿期除隊後日露戰役に召集され出征し旅順方面より奉天方面に轉戦し偉功からず遂に軍曹に昇進し勳七等青色桐葉章並に功七級金鷄勳章を授けらる、凱旋歸郷後農業に従事し熱心なり、大正六年三重縣産米検査員に任せられ大正十三年更に輸出米検査員も兼務今日に至れり。

### 城 佐 彌 七君

輦田村大字上友田 明治十五年二月十九日生  
家族 養父鶴次郎(六四)養母やす(六二)妻すゑ(四〇)長男儀門(二二)大阪高工在學、長女みつ(二八)阿山高女在學

城君本性尾崎同村久松氏の弟なり、入りて城姓を冒す、現輦田信用購買販賣組合常務理事なり、家族は農を業とす、佐彌七君始め輦田製糸株式會社計係を勤務の傍ら無限責任輦田信用組合計をなし信任を得大正三年輦田信用購買販賣組合の常任理事に擧げられ今日に至れる人にして温厚の紳士なり、其他消防組頭に任命せらるゝこと前後三期、檀徒總代に歴任して功勞尠からず。

### 玉 瀧 村

### 岩 島 龜 次 郎 君

玉瀧村大字玉瀧 明治三年十二月四日生  
家族 母しん(八四)西柘植村仁保龜二郎伯母、長男武次(二九)二男守三(二二)第三高女在學、長女京子(二五)婦科(二六)西柘植村御代橋本策妹

岩島君は現玉瀧信用組合常任理事なり、明治二十七年玉瀧村役場書記に任せられ三十二年退職、明治三十七年同村助役として再び役場に勤務し別に村會議員學務委員に擧げられ村民の信任を得大正五年七月には同村々長に選ばれ就職大正七年十二月辭職治績見るべきものあり大正八年郡會議員に選ばれ後信用組合理事となり今日に至る、明治三十七八年の戰役に際し公吏として功あり勳八等を授けらる、又氏子總代として多年就職神社の合祀に儘力す。

### 磯 矢 尚 之 輔 君

玉瀧村大字玉瀧 明治二十一年九月 日生  
家族 父友三郎(六三)妻ひさ(三四)同村磯矢次郎長女、長男孝郎(一三)長女みさな(七)二女千鶴(二)

磯矢家は玉瀧村の舊家なり、農を業とし臨濟禪宗を信仰す、明治四十年上野中學校を卒業後家業に従事し村農會評議員、宇山生田青年支團長等に歴任大正

十四年八月字山生田總代に就職今日に至る、父友三郎氏俳句を好み山居と號し同好者中重きをなす。

### 磯矢莊逸郎君

玉瀧村大字玉瀧 文久三年六月二十五日生

家族 妻も(五八)西柘植村柏野山本修齋長女、長男剛(三八)外語學校出身、二男敏夫(三〇)東京日本火災保險會社勤務二男妻しゆん(二四)孫四人あり



磯矢君は現玉瀧村々長なり明治二十八年三重縣土木技手として奉職三十二年退職翌年玉瀧村書記となり村會議員に選ばれる、こと前後二

回、村治上貢献する處尠からず、衆望大いに昇る、大正七年十二月選ばれ玉瀧村長となり現在に至る、性温厚村民の信任日に厚し治水行政等に力を致し實績尠からず。

### 磯矢馬左衛門君

玉瀧村大字玉瀧 安政三年正月十五日生

家族 妻も(六一)長男一(四六)二男三郎(三六)三男伍郎(三一)陸軍大學在學、長女千賀(二七)木津義五郎妻、孫貞(一八)節子(一三)龍馬(一)やす(八)三郎妻輝子(二六)津市橋本清助五女

磯矢君幼名駒吉、山田村千戸福川喜兵衛二男に生る明治七年磯矢家に養はれ其姓を冒す、資性温厚にし

て篤實慈善心に富む、賣藥業を營み德行多し、大正二年三月阿山郡新民會、同十四年三重縣新民會より表彰さる、左に表彰文を掲げて傳に代ふ

阿山郡玉瀧村

磯矢馬左衛門

資性温厚にして篤實長じて磯矢家の養子となり、勤儉克己産を治め夙に養父の志を繼ぎ力を教育事業に致し幾多の公職に奉仕すること二十有餘年其間一身の利害を顧みずして公益慈善の爲めに資財を措て心力を盡し又能く子女を教養し使用人を訓練して各其宜しきを得しめ一家輯睦郷黨其風を仰ぎ其徳を慕はざるなし洵に奇篤さす仍て金一封を贈り其篤行を表彰す

大正十四年四月十九日 三重縣新民會長 山岡 國利

君今尙老齡鏗鏘として民心の指導に努めつゝあり。

### 羽田幸治郎君

玉瀧村大字玉瀧 明治十八年七月十一日生

家族 妻嘉代(四〇)長女綾子(八)二男幸典(一二)三男達也(二)羽田君は本姓矢口、同村助次郎氏の二男に生る、大正二年奈良市中辻町羽田家に入夫其姓を冒す、明治三十八年野砲兵第四聯隊に入營後憲兵に志願し大正十二年十二月まで勤績して遂に憲兵特務曹長に進む功により勳六等を授けらる、大正十二年十二月辭して玉瀧村収入役に聘せられ奈良市はり移住して就任今日に至る、武術に堪能にして之を好む、禪信者なり。

### 服部周吉君

玉瀧村大字椋山 日生 明治三年四月

家族 母す(七五)長男壽太郎(二五)二女きみ在大阪、三女ちよ(二〇)二男守(一八)東京に修業中、嫁さ(二五)同字山本庄左衛門長女

服部君は酒類醸造業を營む、銘酒瀧正宗の醸造元なり、衆望の歸する處氏子總代、檀家總代等に歴任明治四十二年同村々會議員に選ばれ爾來重選して大正十四年四月に至る、又大正九年大字區長に選ばれ同十二年辭職す、村治上貢献する處多かりき、浄土宗を信す。

### 西田九兵衛君

玉瀧村大字玉瀧 明治九年三月五日生

家族 父九右衛門(七五)母よし(七五)妻きん(四二)西柘植村福島亥之助妹、長男政義(一九)長女ちよ子(一五)西田君明治二十九年徵されて歩兵第九聯隊に入營上等兵に進み滿期除隊後明治三十七八年の役に召集されて従軍功を樹て勳八等を授けられ功七級金鷄勳章を賜ひ歩兵軍曹に進む、凱旋歸郷後衆望により消防小頭、組頭、農會評議員等に歴任し大正十年には同村々會議員に選ばれる、同十四年四月再選し今尙村治上力を致しつゝあり、性温厚にして業務に熱心なるの故を以つて縣消防協會、在郷軍人點呼官等より表

彰せらる。

### 大路岩次郎君

玉瀧村大字玉瀧 明治十七年三月七日生

家族 母ゆく(六五)妻しつ(四三)同字瀧島徳市長女、長女たか子(二〇)次女はる(一四)大路君農を業とし性温厚なり、消防小頭たること五ヶ年農會評議員たること四年、大正十四年大字玉瀧小城出總代に擧げらる、其他玉瀧婦人會顧問、同村第一部青年團顧問等に擧げられ、妻しづ子は婦人團の幹部となり長女たか子は處女會の幹事をなす。

### 川浪與一郎君

玉瀧村大字玉瀧 明治二十一年一月二日生

家族 父才一郎(六九)母しう(五九)妻とく(三七)滋賀縣宮村上馬杉森岡兼松四女、長女一枝(一八)寺庄高女卒業、長男俊男(一七)滋賀縣栗太農校在學、二女まさ(一一)三女みち(八)二男俱夫(四)四女しゆ(三)川浪君明治四十年三月縣立第三中學校を卒業し後横定試験を受け小學校訓導となり玉瀧村並に滋賀縣山内村小學校に奉職し後退職、大正九年十二月玉瀧村収入役に任せられ大正十二年十二月退職す、就任中村治上貢献する處あり又明治四十二年より同村青年支團長に就任大正六年退職大正十四年三月大字玉瀧副區長に擧げられ今日に至る、性温厚にして阿山郡

長より優良青年團員として表彰さる。

### 川島篤太郎君

玉瀧村大字玉瀧 明治三十一年一月廿三日生  
家族 母すゑ(六九)妻たか(二九)東植村植藤次郎二女阿山  
高女出身、長男文男(六)次女久(二)

川島君農を業とす、大正五年上野中學校を卒業し大正七年一年志願兵として歩兵第九聯隊に入營大正八年大阪歩兵第三十七聯隊に轉隊を命ぜられ滿期除隊大正十一年正八位歩兵少尉に任官在郷軍人會、玉瀧分會長に任せられ大正九年村役場書記を拜命十二年退職す、其他村農會評議員、信用組合販賣委員等に歴任し地方の爲め盡力しつゝあり、臨濟宗を信ず。

### 川森彦次郎君

玉瀧村大字玉瀧 明治十五年十一月五日生  
家族 母はる(七〇)妻たか(四三)長女しづ(二三)東湯舟伊  
室逸之助方(嫁す、二女かれん(一七)寺庄高女在學、長男安  
彦(一一)

川森君本姓を池田、同村池田安吉の二男なり長じて川森家に入る農を業とし園藝を好む、性温厚にして村民の信任あり、明治卅五年三重縣師範學校を卒業後居村小學校に奉職し爾來十八年四ヶ月間一日の如く子弟の教養に力を致し良教育家として村民の信任厚かりしが大正十年辭して農に服す、後字總代をな

し大正十四年三月には衆望により同村々會議員に擧げられ今日に至る。

### 瀧島保之助君

玉瀧村大字玉瀧 明治六年九月二十二日生  
家族 妻さみ(四九)上野魚町橋本藤太郎長女、長男彌之輔(三三)  
長女さみ(三〇)三田村三田吉川寅次郎養女、二女たね(二五)同村内保、内保鈴造と結婚して分家

瀧島君は株式會社寺庄銀行支配人として玉瀧支店に勤務す、大正八年まで同村役場に奉職し收入役等に擧げられたる衆望家なり、現に同村々會議員たり、長男彌之輔氏は判事として目下大阪裁判所に奉職中

### 高森保次郎君

玉瀧村大字玉瀧 明治五年一月三日生  
家族 妻小うめ(五一)同村田中由松七女、長男一男(一八)長女  
みき(二二)河合村田中、藤森重信妻

高森君農を業とし禪宗を信仰す、衆望あり小字總代村農會委員等に歴任し大正十四年には選ばれて同村々會議員となり現今に至る。

### 高森儀逸君

玉瀧村大字玉瀧 萬延元年五月二十五日生  
家族 長男升(四〇)婦ゆき(三八)同村高森半次郎四女、孫茂  
(一六)菊男(一四)たつ(一一)みよ子(八)よし子  
(三)

高森君農を業となし賣藥行商を副業とす、主として

長男升君賣藥業に従ふ、俳句に趣味を有し少量の酒を呑む、法華宗の信者なり、明治三十一年大字區長並に社寺總代に擧げられ明治三十四年衆望により同村々會議員に選ばれ重選して大正十四年四月迄勤続す、尙區長は大正二年退職したるも社寺總代は現在も勤続しつゝありて信仰心厚き人なり。

### 田中銀三郎君

玉瀧村大字玉瀧 明治十八年三月二十三日生  
家族 父典四松(六六)母さく(六五)妻やぶ(四三)植藤藤井  
長三郎女、長女もを滋賀縣瀧村古西博妻、二女てる(二二)  
長男正(六)

田中君は豫備海軍一等水兵にして恩給を受け農を業とす、明治三十七年志願兵として横須賀海兵團に入團三十七八年の役に從軍し功を樹て勳八等を授けらる、性活潑にして衆望あり、大正十四年四月選ばれて村會議員となり村治上力を致しつゝあり。

### 中林甚右衛門君

玉瀧村大字椋山 明治二十五年一月二日生  
家族 父甚助(六八)母まき(五九)同字山本八郎兵衛姉、妻やす  
(三三)同字中川友藏長女、長男敏治(一四)長女きよ(三)

中林君は別に吳服太物商を經營す、父甚助氏は本宅にありて農業に従事す、青年の活動家にして青年支團長農會評議員等に歴任し地方改善に努む、現に玉

瀧村信用組合椋山倉庫の主任をなす、大正十四年四月選ばれて村會議員となり現在に至る。

### 中川友藏君

玉瀧村大字椋山 明治四年十二月十一日生  
家族 母さく(八〇)妻てつ(五四)同村山本庄左衛門二女、長男  
源一郎(三一)長女やす(三三)同字中林甚右衛門妻、二女  
ふじ(二六)同字服部捨造妻、二男友之助(二三)在上野町  
三男修次(二八)滋賀縣立八幡商校在學

中川君は煙草小賣日用品雜貨商を營む、淨土宗を信仰す、推されて檀家總代、氏子總代等に歴任し大正七年六月區長に選ばれ九年退職す、大正十年四月選ばれて同村々會議員となり十四年四月再選今日に至る人にして村民の信任厚し。

### 中川治兵衛君

玉瀧村字内保 明治十二年六月六日生  
家族 母いわ(六八)妻てつ(三四)額田村四湯舟本甚五郎妹

中川君農を業として淨土宗を信仰す、明治三十二年歩兵第九聯隊に入營、日露戰役に從軍し功により勳八等を授けらる、大正六年大字區長代理となり同九年區長に就職同十三年辭職大字の爲め力を注ぐこと尠からざりき。

### 内保鹿治郎君

玉瀧村字内保 明治十年九月十五日生  
家族 母こりゆ(六九)妻まつ(四二)同村内保源三郎長女、長

女たか(二五) 婿常次郎(三五) 額田村西湯舟船部榮次郎方  
孫正(五)  
肉保君農を業とす、婿常次郎君は居村小學校訓導に  
して長女たか子は天津高女出身なり、鹿次郎君明治  
三十三年八月玉瀧村収入役となり大正五年七月同村  
助役に擧げられ村治上貢献する處あり大正七年六月  
退職す、大正十年同村々會議員に選ばれ十四年三月  
再選現今に至る、其他氏子總代檀徒總代等に擧げら  
れ現に其職にあり。

### 窪崎 泰三君

玉瀧村字内保  
慶應元年四月六日生

家族 妻しよ(五二) 長男泰次郎(三六) 婦としよ(二六) 鈴鹿郡  
關町田中義郎妹、孫傳子(一一) 泰次(五)

窪崎君本姓福島、初名喜代松同村福島岩次郎の長男  
に生る、窪崎家に養はれ其姓を冒す、明治三十年大  
字區長に選ばれ大正四年まで勤績す、大正二年同村  
々會議員となり同六年滿期退職、同年五月玉瀧村助  
役に任せられ九年十一月退職す、此間村治上貢献せ  
し處尠からず産業の發達、教育の普及勤儉貯蓄の獎  
勵等に力を致し効あり大正三年三月阿山郡表彰規定  
により時の郡長濱田盛義氏より表彰狀に金一封を授  
けらる、同家は附近の舊家にして當主にて十七代目

藏田多兵衛君 玉瀧村字内保  
嘉永六年十月二十二日生  
家族 妻しよ(七一) 額田村上友田川瀨勇六二女、養嗣子逸(三三)  
弟逸藏(二男) 婦すての(二八) 額田村上友田川瀨寅松四女、  
孫義治(八) 利彦(三)

藏田君農を業とし村民の信任あり、氏子總代、檀家  
總代、學務委員、大字區長等に擧げらる、こと年あ  
り又同村々會議員たること二十餘年に及び村治上貢  
献する處尠からず、近年隱退して餘生を農業に専心  
す、老齡鏗鏘として壯者を凌ぐの概あり、養嗣子逸  
君は小學校訓導として滋賀縣下に奉職中。

### 山口 敏行君

玉瀧村大字椋山  
明治四年四月二十五日生

家族 母こま(七七) 妻はる(五四) 同字山本庄左衛門姉  
山口君は退職外務署警部なり、明治三十八年在神戸  
英國領事館に雇はれ四十年一月關東都督府警部を拜  
命翌四十一年外務省警部兼任を命せられ奉天總領事  
館に勤務す、大正五年外務省專任警部に轉じ鄭家屯  
領事館警察署長を拜命亞いでハルビン總領事館警察  
署長に轉任し更に在豊安領事館事務代理に任せられ

從七位勳八等に叙せられ大正十一年退職歸郷農に服  
することとなり主として桑園茶園の栽培養鶏等に餘  
生を送り謠曲漢詩俳句園藝を樂しむ、大正十四年四  
月玉瀧村々會議員に選ばれ現今に至る。

### 山本庄左衛門君

玉瀧村大字椋山  
明治十年六月六日生

家族 妻しよ(四六) 同字服部又四郎長女、長男進(五) 外に四女  
あり

山本君は大字椋山の有力者にして黨業を經營し農を  
副業とす、衆望あり氏子總代、消防小頭、農會評議  
員青年支團長等に歴任して明治四十五年大字區長に  
擧げられ大正六年には村會議員に選ばれる、爾來重選  
して今日に及ぶ、此間道路の開設、河川の改修、耕  
地整理の完成等に力を致し衆望益々厚き人なり、淨  
土宗を信す。

### 福島 豊吉君

玉瀧村字内保  
明治十一年一月十日生

家族 養父善右衛門(七六) 妻すみ(五〇) 長男善夫(二三) 長女  
ふみ(二〇) 二男年夫(一三)

福島君本姓大路同村岩右衛門氏三男なり、福島家に  
入夫其姓を冒す、俳句を好み如水と號す、衆望あり  
同村消防小頭たること四年大正元年同村農會總代に  
擧げられ今日に及んで村農事の改良に力を致す、大

正十三年九月大字區長代理字下田組々頭に擧げられ  
今日に至る、淨土宗の信者にして農を業とし製繩を  
副業とす。

### 秋本慶次郎君

玉瀧村大字椋山  
元治元年四月二十七日生

家族 妻やよ(六二) 同村内保内保鹿次郎叔母、二男正也(三二)  
慶應義塾出身三井銀行在勤、長女はる(四一) 滋賀縣山内村  
黒川馬場鹿次郎妻、嫁たけ(二七) 伊勢白子町竹口博姉、孫  
正好(四)

秋本君は椋山の有力者にして明治三十年以來同村消  
防小頭、同組頭、農會評議員、檀家總代、氏子總代  
等に歴任し大正元年には大字區長に擧げられ同六年  
には玉瀧村々會議員となる、十年再選し十四年滿期  
退職す、此間道路の開設(自椋山至石川) 耕地整理  
川泉の改修等に力を致し功あり、又同村灌漑用水の  
不便なるを慨し一大用水池を築造して其憂ひを除か  
んと目下計畫中なりと。

### 笹山和三郎君

玉瀧村大字玉瀧  
明治六年十二月十一日生

家族 母きよ(七三) 滋賀縣宮村山中安兵衛長女、妻きく(五〇)  
同上舟見延太郎妹、長女みよ(二五) 婿房吉(二六) 同字徳  
永乙次郎三男、孫和夫(四) 武(二)

笹山君農を業とし俳句を好み、玉泉と號し同好者中  
重きをなす、明治二十六年近衛歩兵第三聯隊に入營

明治二十七八年の役に従軍功を樹て勳八等を授けらる、明治三十七八年の役に再び召されて従軍旅順攻撃軍に加はり勳七等旭日章を授けらる、君の令弟貞助君も同役に参加功を樹て功七級金鷄勳章に勳八等を授けらる、和三郎君忠君愛國の精神に富み敬神の念厚し、又農事に精勵し大正十年八月三重縣知事より模範米作人として表彰さる。

### 木津 要 藏君

玉瀧村大字玉瀧 明治十六年十月一日生

家族 養祖母つた(八二)養父善兵衛(五八)養母せい(五三)妻ふじ(四〇)滋賀縣土山町中島藤右衛門長女、長女花(二六) 木津君は玉瀧村現任助役なり、同字木津健藏の二男に生れ長じて善兵衛氏方に養はる、寡言實行に富む大正七年七月同村収入役に任せられ大正九年十二月助役に就職同十三年十二月再選されて今日に至る。

### 木津 慶次郎君

玉瀧村大字玉瀧 明治二年正月七日生

家族 長男善五郎(三一)幼名多門富山藥學校出身、婦千加(二七)同字磯大馬左衛門三女、長女りゆ(三四)同字磯矢六郎妻、二男虎彦同村木津善五郎(慶次郎君實兄)養嗣子、二女はる(二七)阿山高女在學、四男四方藏、孫壽一(六)浩(四)俊子(二)

人物拂底の今日木津君の如き偉材を我伊賀から出した事は尠くとも郷黨の誇りとするに足るものであら

う、川崎克氏、菊本直次郎氏、廣島庄太郎氏等政治實業官吏等各方面から輩出せしめた伊賀の人材は決して尠くはないが其郷に住し一世にして我木津君の如き名をなした者は稀れである、郷黨其名を聞くこと共に不知敬意を表する者は木津君を除いて他に見るを得ざる處である、田中善助君の如き只其事業の方面に於いてみ名を



成せる人でない、即ち政治家にして政治家に非ず銀行業者にして之にも非ざれば又御百姓にして御百姓に非ずと云ふ圓轉骨脱な社交振りが君の今日をあらしめたものであらう、菅相公の詠に人毎に一つの僻はあるものよとある如く何人にも必ず缺點の一つや二つ無い者はないとされて居るが木津君にはそうした缺點を發見することが出来ぬ、上野町の田中善助君の如きは賞するもあれば又批難する者もあつて見

る人に依つて其評を異にするが木津君にはそれがないう處に君の君たる眞價がある、左に其略歴を示すと明治二年同村木津恭三氏の二男に生れ明治九年木津多兵衛氏に養はれ其嗣となる、明治二十一年玉瀧村外二ヶ村戸長役場筆生となり同二十二年町村制實施と同時に玉瀧村役場書記を拜命二十九年玉瀧村収入役となる三十年郡政實施に伴ひ郡會議員の選舉あるや選ばれて郡會議員となり三十一年東海農區聯合共進會審査委員に任せられ三十二年には玉瀧村助役に舉られ治績甚だ見るべきものあり、三十六年阿山郡教育會參務員となり三十七年六月玉瀧村長に選ばれる三十八年には上野稅務署管内所得稅調査委員に三十九年阿山郡農會副代表者に四十年全國茶業組合中央會議員に大正元年には三重縣會議員に選ばれ爾來重選今日に至る、又別に明治三十年株式會社玉瀧銀行を起し自ら其頭取となり地方金融機關の完全を期する等周密なる社會政策に對する施設に努力したるは眞に驚くの外はない、斯くして玉瀧村をして全國の模範村たらしめ其名聲は遂に宇内に高くなつた、官其功を嘉みし明治三十二年三重縣農會より彰功狀を受けたるを始めとして、爾來四度農會の表彰を受け

三十九年四月には日露戰役の功により勳七等を授けられ四十年一月には優良町村吏員として三重縣知事より表彰、同年三月文部大臣牧野伸顯より小學校教育成績狀に金百五十圓を明治四十三年十一月には畏くも賞勳局より監授褒賞を授與せられ、又大正二年九月には大日本農會總裁宮貞愛親王殿下より綠白綬有功章を大正九年四月には産業組合會中央會々頭子爵平田東助氏より紅綬功勞章を受け一世の名譽を博した、蓋し君を評するに偉材中の偉材と云ふも決して過賞ではない、恐らくは後世の龜鑑とするに足るべき人である、因に記す、現在各府縣に産米検査が勵行され並同業組合が設置さるゝに至つた動機は實に木津君の主唱發案にかゝるものが多い。

### 廣岡 行太郎君

玉瀧村字内保 明治二十年四月十五日生

家族 母ひろ(六九)妻ちよ(三五)滋賀縣佐山村岡田巳之作妹、長女たづみ(二五) 廣岡君農を業とし淨土宗を信仰す、同大字の有力者にして衆望あり、氏子總代、檀家總代等に歴任し後農會評議員となり大正十三年八月には選ばれて大字區長となり村治上に貢献しつゝあり。

廣瀨 藤吉君

玉瀧村大字玉瀧 明治十二年十二月五日生  
家族 父由藏(七一)母つや(六七)妻ふさ(四六)同村服部寅藏長女、長男仁平(二五)長女たつ(二二)西湯舟森川久四郎妻、二男三郎(一九)京都在住、二女はる(一一)三女ちよ(九)三男政吉(五)

廣瀨君は三重縣産米検査員、三重縣茶業組合検査員を奉職し家人は農を業とす、農事改良と煙火製造に興味を有す、明治三十二年同村農會技術員を拜命明治四十四年三重縣産米検査員玉瀧村勤務を命ぜらる大正十一年農會技術員を辭し三重縣茶業検査員を命ぜられて今日に至る、性温厚にして業務に熱心農業改良上の功効からず、明治四十四年五月には縣農會より彰功状を大正四年三月には彰功品を授與せられたり、其他郡農會より彰功状を縣農會より模範米作人として表彰状を授領せり。

廣瀨 安吉君

玉瀧村大字玉瀧 明治七年二月二日生  
家族 父寅吉(七四)母むめ(七〇)妻よし(五〇)同村川森隆郎姉、長男柳三(二六)長女は(一九)婿なつ(二二)同字小島和助長女、孫一(二)

廣瀨君明治二十七年近衛歩兵第四聯隊に入營、日清役に参加す、歸郷後明治三十四年阿山郡農事巡回教師助手を拜命し明治三十七八年の役に出征功により

東 柘 植 村

濱田 直造君

東柘植村大字上柘植 明治二十一年十月十五日生  
家族 妻まさの(二八)同村上町富田寅次郎長女、長男房夫(二〇)長女ふみ子(八)二女京子(六)二男真平(四)三男正作(二)

濱田君父は百太郎二男に生れ分家して酒造販賣業を營む、銘酒寒月の醸造元たり、明治十八年の創業にかゝり諸所に開かれたる産品評會博覽會等より褒賞を受く、直造君衆望あり消防小頭に擧げられ大正十一年區長に選ばれ今日に及ぶ父百太郎氏又區長村會議員等に歴任して地方の爲め力を致したる人なり

橋 本 澄君

東柘植村大字上柘植 明治二十年二月十五日生  
家族 養祖母みつ(七八)養母たれ(五一)妻定子(三一)長女恵美子(二〇)

橋本君本姓藤井同村藤井圓次郎氏弟たり、橋本家に養はれて其姓を冒す現柘植病院々長にして内外科一般の診療に従事しつゝあり、同病院は先代寛齋氏が創業經營せしものにして澄君は其二代なり、三重縣立第三中學校第三回の卒業生にして明治四十四年金澤醫學專門學校を卒業後京都大學病院に勤務し實地

勤八等を授けらる、明治三十九年三重縣米穀検査員を拜命四十年退職名古屋に出で神富殖産會社に勤務せしが四十三年歸郷阿山郡農會技手を拜命農事の改良地方産業の發展に盡す處ありしが大正九年四月辭職せり大正十四年四月衆望により村會議員に選ばれ今日に及ぶ。

森井 彌三郎君

玉瀧村大字玉瀧 慶應元年一月三日生  
家族 妻すかの(六三)頼田村下友田和利藏方より、長男正一(四一)嫁ひさ(三五)上友田城清五郎女、孫倫郎(一六)止之子(一一)貞子(八)

森井君は株式會社玉瀧銀行支配人なり、俳句を好み玉堂と號す、性温厚にして衆望あり、氏子總代、村會議員、學務委員たること各二十數年の永きに及び村治上、教育上貢献する處尠からず、又株式會社玉瀧銀行支配人として阿山郡の巨材木津慶次郎氏の懐刀として同地方の重望を得、其他郡會議員たること二期大字區長たること數年、小學校代用教員たること十餘年實績尠からざる人なり、長男正一氏は陸軍豫備中尉にして目下小學校訓導として滋賀縣に奉職中。

の研究をなし大正十一年より先代の後を繼いで院長となり現在に至る。

西 尾 定 七君

東柘植村大字中柘植 明治十六年七月二十二日生  
家族 母さみ(六五)妻はぎの(四五)同村宮田卯吉妹、長女しづ(二四)二女みさ(一一)婿貞郎(二六)孫秀子(二)

南尾君農を業とす、淨土宗林昌寺の檀家なり、資性温良夙に衆望あり、大字役員に擧げらるゝこと前後數回、大正十四年四月中柘植區長に任命せられて今日に及ぶ、區民の氣受けよき人なり。

富山 禮三郎君

東柘植村大字上柘植 安政四年九月二十九日生  
家族 長女きん同村野村安岡延藏妻、長男進(三六)三女まさ(三〇)同村杉尾正夫妻、婿きん(二六)鈴鹿郡龜山町佐々木俊諸長女、孫昌尙(四)文夫(二)

富山君は酒造販賣を業とす、銘酒靈泉(花ノ友)は君の醸造にかゝるものなり、其創業は五代前彦次郎翁の代なりと傳ふも年代不詳なり、遠祖は江州油日より移住せりと傳ふ、禮三郎君壯年の頃箕浦私塾に代用教師として職を奉し後銀行家となり永年勤続後辭して家業に専心す衆望の歸する處村會議員、區長村助役等に歴任して地方發展の爲め力を致す、故に郷徒の信任厚し、長男進君は上中卒業後第三高校に

入學せしも一年にして病の爲め退學祖業に従事しつゝあり。

### 岡島久松君

東植村大字上植 明治十三年四月一日生  
家族 妻やす(壬生野村川西、中矢方二女、長男勘次郎(二二)二男博(二五)長女りつ(八)三男四郎(二二)四男正太郎(五)

岡島君農を業として家富む、俳句を好み同好者中重きをなす、曹洞宗の信者なり、衆望の歸する處大正十四年三月大字區長に選ばれ地方改發の爲めに力を致しつゝあり。

### 片岡捨郎君

東植村大字上植 明治九年十月五日生  
家族 妻まさ(四八)長男作藏(二八)長女くま布引村川北吉岡亮太郎妻

片岡君は現東植郵便局長なり、捨郎君本姓杉岡、中植に生れ片岡家に入夫して其姓を冒す、大正九年十月植植局長に任命せられ爾來特設電話の開通に奔走し之を實現せしめ其他村民の貯蓄心向上について力を致す處あり村民の信任日に厚し、長男作藏君は俳句に興味を有し砂丘艸と號し同好者中に重きをなせり。

### 中川久次郎君

東植村大字上植 明治七年七月十日生  
家族 父惣太(八五)母いさ(七九)妻もさめ(四四)中〇〇齋藤代之助女、長女たつ(二四)三田村福森善松妻、長男二郎(二〇)滋賀縣立師範學校在學

中川君農を業とし曹洞宗を信ず、夙に衆望あり同村役場書記を奉職すること數年後辭して家業に従事す大正六年三月村會議員に選ばれ同十年再選、十四年更に重選されて現今に至る、其他産業組合議員等にも擧げられ地方の爲め力を致せる人なり。

### 中村豊君

東植村大字上植 明治十六年五月六日生  
家族 母せき(七六)上植中川芳松叔母、妻まさ(同村中植宮田家より、長男克己(二二)京都高等工專在學、二男和夫(一九)津中在學、三男武滋賀縣水口中學在學、四男文雄(四)

中村君は現東植植小學校長なり、明治三十七年三重縣師範學校卒業松阪尋常小學校訓導として奉職明治三十九年七月東植植小學校に轉任を命ぜられ大正三年七月島ヶ原小學校長に榮轉し更に五年三月現職となり今日に及べる人にして父兄間の信任あり、花草栽培、動物飼育、讀書旅行等の趣味を有し同僚間にも氣受よき良教育家なり。

### 中野博君

東植村大字上植 明治二十五年二月廿四日生  
家族 母てつ(六三)妻みね(二八)河藝郡一身田村齋藤小右衛門

理事、同會長、其他藥種同業組合に關係ある總ての役員に當選在郷軍人會長川村元帥の感謝狀を始め各方面より幾多の感狀を受く、又地方的には大字區長商工會幹事其他に歴任し大正九年には上野稅務署管内營業稅調査委員に擧げられ十四年三月には居村村會議員に擧げられる等始め其全生を社會事業に貢獻しつゝあり、古錢繪葉書の集蒐に興味を有し藏する處のもの甚だ多し。

### 中島謙之助君

東植村大字上植 明治十五年三月二十五日生  
家族



中島君は現東植植村長なり菊花栽培の趣味を有し植植村菊友會々長なり、明治三十六年同村役場書記を拜命日露役に從軍し凱旋歸郷後再び役場に勤務、四十三年同村役場收入役に擧げられ大正五年同村消防組頭に就職、六年同村助役となり大正十年衆望の歸する處村長に選ばれ大正十四年十月同村産業組合長を兼務することとなり現在に及ぶ、多年町村事務に勤績貢獻せるの故を以て大正十年三重縣知事より表彰さ

### 中江貞之助君

東植村大字上植 明治十二年十月二十一日生  
家族 母りう(七七)妻米子(三七)靜岡縣沼津市岡崎八十八三女長男正文(一九)上中在學、二男邦文(一六)同上

中江君は藥劑師にして藥局を開設し藥品販賣を業とす、中等學校順天求合社を卒業後大阪藥學校專科を修了藥劑師試験に合格し一年志願兵として入營明治三十八年五月陸軍三等藥劑官に任せられ七月正八位に叙せらる、日露の役に從軍し功により勳六等を授けらる、歸郷後大日本武德會三重支部幹事、在郷軍人會東植植村分會副會長、同分會長、三重縣藥劑師會



る家族は農を業とし曹洞宗を信仰す。

### 梅田竹次郎君

東植村大字野村 慶應二年十二月二十六日生  
家族 妻はる(五九)同村杉本九右衛門姉、長男種次郎(三七)婦  
てる(三八)東京市淺草區北富坂町一四高橋太刀佩姉、孫光  
之(九)喜代子(五)竹之(三)

梅田君は菓子小賣酒焼耐販賣業をなす、明治十九年  
上植植野村外三ヶ村組合小學校に職を奉じたるを公  
職の振出しとして二十年には戸長役場書記を拜命二  
十三年より植植郵便局に勤務し勤績十七年にして辭  
し大字區長に擧げられ大正六年には村會議員に選ば  
れ同十四年再び選ばれて現に村會議員の職にあり、  
其他消防組頭、氏子總代、公有林野整理委員等に擧  
げられ地方公共の爲め努力して今日に至る、息種次  
郎氏は東京にありて電話賣買業を営みつゝあり。

### 山岡玉治良君

東植村大字上村 明治元年六月二十八日生  
家族 母かん(七六)妻さらへ(四九)山田村千戸奥喜三郎妹、長  
男岩吉(二七)二男正郎(二四)滋賀縣神崎郡御小學校在  
勤、二女さき(一七)久居高女在學、長女かれよ上野町車販  
野口寅吉妻

山岡君農を業とし淨土宗を信す、大正八年大字區長  
に擧げられたるを始めとして氏子總代、檀徒總代、  
村農會總代等に歴任大正十年三月には衆望の歸する

家族 養父無吉(六七)妻きん(四七)長男登(一八)上中在學、  
外に二女あり

山下君本姓中、同村惣右衛門二男なり、山下家に入  
夫し其姓を冒す、農を業とし傍ら薪炭商を営む、妻  
きん子は養父熊吉氏の末妹なり大正十四年三月衆望  
のある處村會議員に擧げられ現今に至る、養父熊吉  
君俳句を好み里間と號し同好者間に命名あり。

### 山本熊次郎君

東植村大字上植植 明治十三年七月十二日生  
家族 母やすへ(七〇)妻ゆき(四六)同村西野九郎兵衛姉、長男  
松藏(二二)長女しづ西植植村新堂森松五郎妻、二女きぬ(一  
一五)阿山高女在學、三女さめ

山本君は上植植の有力者にして農を業とし淨土宗を  
信仰す、大正十四年三月大字上植植區長に選ばれ地  
方の爲め力を致しつゝある人なり、長男松藏氏は目  
下歩兵第三十三聯隊に入營中。

### 山本安吉君

東植村大字上植植 明治十八年二月二日生  
家族 父末次郎(六七)妻たねを(三五)同村清水多次郎長女、長  
女かすみ(一六)二女綾子(二二)三女みよ(八)長男昌平  
(五)

山本君は百五銀行植植出張所主任として勤務しつゝ、  
あり、父末次郎氏は事業を好み製材業燐寸箱製造業  
をなしたる事ありしも近年廢し少量の自作農となる

處村會議員に選ばれ十四年三月滿期改選に當り再選  
されて現今に至る、性温厚にして村民の信任あり淨  
土宗を信仰す、長男岩吉氏は歩兵第九聯隊に入營し  
て上等兵に進み下士適任証を受け、歸郷家業に従事  
しつゝあり。

### 山尾源助君

東植村大字上植植 明治二十二年十月十三日生  
家族 母ト妻、女兒四名あり

山尾君は現名賀郡矢持小學校長なり、故に現住所を  
矢持村大字腰山學校住宅に有す、子供を澤山持たぬ  
が稀れに見る律義者で學校の校長さんには全く誂へ  
向きと言ふべきなり、園基と日曜日の朝寝がお樂み  
と言ふ卒直な處に君の眞價を認めらる、明治四十四  
年三月三重縣師範學校を卒業新居村小學校訓導を拜  
命明治四十五年壬生野小學校に轉勤し大正十三年十  
一月丸柱小學校へ何の落度もなきに前代未聞の左遷  
に遭ふ、君は今尙此腹立たしさが忘れられぬと述懐  
す、幸ひ十四年四月依那古小學校へ轉じ憂ひあれば  
喜びとやらにて翌十五年四月には矢持校長となり良  
校長として村民の尊敬を蒐め今日に至る。

### 山下喜代松君

東植村大字上植植 明治十二年八月十五日生

安吉君は大正九年迄大阪第四師團被服廠に奉職せし  
が辭して歸郷現職となる、大正十四年四月選ばれて  
字岡鼻區長となり現今に至る。

### 町野嘉十郎君

東植村大字上植植 明治九年七月十一日生  
家族 母なか(七二)妻もさへ(四七)江州高野大林増吉二女、長  
男嘉一(三七)二男直一(二七)分家して呉服屋經營、三男  
光郎(二三)在大阪、長女みさ(二二)東京女醫專門學校在  
學、四男重次(一九)二女秀、五男五郎、六男宏、婦りよ同  
付松尾彌兵衛長女、孫嘉郎、みよ、恵子

町野家は植植谷にて有名なるつるやと號する旅館兼  
料理店にして電話十六番なり、其業を創めたるは當  
主より四代前なりと、夙に顧客本位の營業をなせる  
故日に盛んにして客受けよし、嘉十郎君は同村松尾  
彌兵衛家に生れたる人なり、菊花栽培に興味を有し  
全國より種々の珍種を引きて熱心培養しつゝあり、  
淨土宗を信す。

### 九五ゴム工業商會

東植村大字上植植 創立大正十年十二月  
九五ゴム工業商會はゴム靴製造販賣を業とし極めて  
盛なり、中川好松、福島吉五郎、清水久吉、岡森金  
六、濱田吉次郎の諸氏の共同經營になり清水久吉君  
營業を擔任す、其販路を京阪神名古屋東京等に有し

信用あり、其製品は耐久力に富む事によつて名あり  
電話は植植局二十五番なり。

### 松山浅次郎君

東植村大字上植  
明治元年七月二十六日生

家族 妻はる(五三) 額田村上友田桑原丈太郎伯母、長女てつへ西  
植植村植植岡奥島鐵藏妻、長男保(一七)

松山君農を業とし狩獵を好む、明治二十一年輻重輸  
卒として第四師團輻重兵第四大隊に入營、日清日露  
の兩役に従軍し勳八等白色桐葉章に従軍徽章を授け  
らる、大正十四年四月東植植村常設委員に擧げられ  
現今に至る、又小字組長たること六ヶ年に及ぶ。

### 前田 一 夫君

東植村大字中植  
明治三十二年一月十三日生

家族 父龜松(五一) 第二郎同村藤島家へ入妻ふみ子(二九) 上  
野町中町平井喜兵衛長女、長女きみ(一〇)

前田君は酒類醸造を業とし銘酒稻雀の販賣元なり、  
明治三十八年の創業にかゝり現在醸造石高三百石の  
多きに及ぶと、一夫君は地方には稀れに見る青年活  
動家にして衆望あり、特に政治に興味を有し同地方  
に於ける憲政會系の闘將として同志間に認めらる、  
大正十四年三月選ばれて村會議員となり現在に至る  
其年齢によつて見れば郡内唯一の年少者なりとすべ

きである、浄土宗を信仰す。

東植村大字野村  
明治十年二月八日生

### 前田種次郎君

東植村大字野村  
明治十年二月八日生

家族 妻も(四五) 同字梅田吉松長女長女みつ(一七) 二女たゞ  
(一五) 長男行夫(二三) 三女さし(二〇)

前田君農を業とす、明治三十年歩兵第九聯隊に入營  
三十二年臺灣守備兵として渡臺一年一ヶ月滯臺日露  
の役豫備兵として召集せられ金州南山の役に参加兩  
足を負傷し内地に送還せられたるが再び出征奉天の  
會戦に参加し腹部に貫通銃傷を受け名譽の負傷をな  
す、官其功を賞し上等兵に任じ勳八等白色桐葉章を  
授く凱旋後居村消防小頭たること永年大正十四年三  
月衆望の歸する處選ばれて大字野村區長となる區民  
の信任厚し。

### 福島吉五郎君

東植村大字會部  
明治二十一年八月七日生

家族 母はな(六二) 額田村大字下友田和太郎吉姉、妻こぎん  
(三八) 同上川瀬過妹長男昭(一八) 上中在學、二男博(一  
七) 久居農校在職、三男大(一五) 上中在學、長女すま(一  
二) 二女万里子(六) 三女ゆり(二)

福島君は東植植村助役なり文藝特に俳句を好み龜鶴  
と號す、又圍碁を樂しむ明治四十二年東植植村書記  
に任命され大正九年同村消防組頭となり本縣消防協  
會より表彰状を受く、傍ら産業組合幹事、在郷軍人

常務理事等に選ばれ盡す處多し、大正十年同村助役  
に任命され今日に至る、曹洞宗に歸依し禪に造詣深  
し。

### 福森勲治君

東植村大字上村  
慶應三年十一月二十五日生

家族 妻こま(五三) 同字藤見治兵衛より入嫁、長男亮吉(三三)  
二男健次郎(三一) 長女うめの(二六) 同字大橋市松妻、姉  
いちの同字城出寛次郎長女、孫勲(一一) 勝(七) しづ子(五)

福森君は東植植村駐在産米検査員なり、家族は農を  
業とす、衆望あり消防小頭、農會役員、區長代理、  
區長、産業組合役員等に歴在し大正三年産米検査員  
を拜命して今日に至る、地方の爲め常に力を致しつ  
ゝありて村民の信任厚し、浄土宗を信仰す。

### 藤井彌平太君

東植村大字上植  
明治二十一年三月廿一日生

家族 母つじ(六九) 妻たか(三六) 西植植村新堂植植要次郎二女  
長女千代(二二) 二女淳(八) 長男彌(五) 二男利尙(二)

藤井君は現西植植村小學校校長なり、俳句を好み香山  
と號し之を良くす、又書畫骨董を愛す、明治四十  
一年三重縣師範學校を卒業し桑名郡長島小學校訓導に  
任せられ四十三年東植植村小學校訓導に轉任を命せら  
れ大正三年には同村立裁縫學校訓導六年に同村實  
業補習學校訓導に兼任せられ大正十一年十一月西植

植小學校長に榮進轉任して現在に至れる人にして父  
兄兒童間の信任極めて厚く良校長の聞へ高し、同家  
は舊家にして舊藩時代の御供無足人(郷士)の家筋  
なり。

### 藤井圓次郎君

東植村大字山出  
明治十二年十二月三日生

家族 妻てる(三一) 津市丸之内市内家より、長女綾子(一九) 津  
女子技藝學校卒業、長男正典(一一)

藤井君は農を業とし家富む、書畫骨董類を好み之を  
愛藏す、衆望の歸する處大正四年大字區長に選ばれ  
大字の爲めに力を致す、大正十四年三月選ばれて同  
村々會議員となり現在に至る、曹洞宗に歸依す。

### 藤島桑次郎君

東植村大字中植  
明治三年五月二十八日生

家族 妻ます(五八) 長女たつ(三四) 孫つれ(一二) 妻あます子  
に妹あり一は同村佐治家に嫁し一は故福地錢吉氏に嫁す

藤島君本姓服部、府中村大字佐那具服部文次郎氏の  
令弟なり、藤島家に入りて其姓を冒す、藤島家は附  
近に名ある舊家にして代々酒造業を營みつゝありし  
が大正九年廢業し現在は地主として無職なり、桑次  
郎君資性温厚公共心に富み社會的事業に貢献する處  
尠からず、明治四十三年以來區長及村會議員郡會議

員部參事會員に選ばれ郡政村治に盡す處尠からず、其他産業組合を組織して其理事に擧げられ地方産業の振興に資し學務委員に選ばれては地方教育の發展向上に資する等功績大なるものあり、衆皆其徳を稱す。

齋藤伊三郎君

東栢植村大字上栢植 明治十四年十二月廿八日生  
家族 妻こまつ(四二) 同村中川千次郎姉、長女まさ(二二) 二女ふん(一七) 三女かづ(一一) 四女よし(七) 婿實(二六) 同村田邊熊次郎二男

伊三郎君農を業とし曹洞宗に歸依す、衆望の歸する處消防小頭區長代理、區常設委員等に擧げられ大正八年には大字區長に推さる、大正十四年三月選ばれて村會議員となり現今に至る、女婿實君は居村小學校に訓導として奉職し父子共に村民の信任あり。

齋藤角藏君

東栢植村大字上栢植 慶應三年九月二十一日生  
家族 長女しつえ 同村東湯舟船部三右衛門妻、二女さだ 同村齋藤茂男妻、三女みつ 三田村岡田象一郎妻、長男昇(二四) 五女きよ 同村東湯舟船部廣英妻、七女照子(一四) 妻のう(三八) 江州寺庄村山際村山際梅吉妹、姉美和子(一九) 上野中町菅野四郎長女

齋藤君は東栢植村の有力者にして農を業とす、三重縣立師範學校第一回卒業生にして明治二十一年四月

より小學校訓導或は校長として奉職し四十三年朝鮮教監として渡鮮忠省北道堤川郡に奉職大正元年歸郷九月東栢植村々長に就職同九年退職此間産業組理事及び理事長に兼任され十四年末退職す、大正十年村會議員となり又學務委員氏子總代等に擧げられ地方の教化産業の發展等に力を致せし事尠からず郷黨其徳を稱し常に尊敬す。

齋藤祐吉君

東栢植村大字上栢植 明治五年一月二十八日生  
家族 養母きり(七七) 妻ふさ(四三) 長男隆男(三二) 二男百太郎 鈴鹿郡加太村在下太市養嗣子、長女れい(二〇) 同字辻上金松妻、二女きり(一六) 二男清(一一) 三男作造(四) 婦ふさ(二八) 同字町井滋夫妹、孫治實(五) 拙男(二)

齋藤君本姓清水滋賀縣甲賀郡油日村字高峰伊三郎氏の二男なり、長じて齋藤家に入る、俳句を好み石水又は騎好と號す、蓋し乗馬を好むの故に名づく、又圍碁を樂しむ、衆望のある處農會評議員、郡設農場担当者檀家總代、區常設委員、庭以検査員、大字區長等に擧げらる、事多年社會公共の爲めに努力せし人なり、齋藤家は國學者齋藤拙堂翁の一族にして拙堂翁の實父實山氏は斯家の出生なりと。

北浦熊次郎君

東栢植村大字上栢植 明治十年十二月十日生

家族 妻さら(四五) 山田村甲野山本銀松長女、養妹みさ(二二) 北浦君は菓子製造販賣を業とし傍ら支店を設け荒物商を開業す、熊次郎君本姓栢植、吉助氏の弟なり北浦家に養はれて其姓を冒す、衆望あり消防小頭、氏子總代、大字區長等に歴任し大正十年村會議員に選ばれ十四年再選して現今に至る、又産業組合理事、商工會幹事等に擧げられ地方商工業の發展に力を致しつゝある人なり。

菊山半四郎君

東栢植村大字上栢植 日生  
家族 養嗣子新太郎(三六) 同村植木新兵衛二男、長女きん(三三) 二女りよ在東京

菊山君は旅館兼料理店を經營しかめやと號す栢植村唯一の暖簾を有する古店にして當主は特に客に對し親切丁寧を以て接することに努力しつゝある爲め家業日日に隆昌なりと、菊花の栽培に興味を有し珍花妙輪の菊花多し、祖先は遠く二百年前伊庭彦太夫より繼續せりと傳ふるも詳細不明なりと、淨土宗を信仰す、電話は二十六番なり。

城出寛次郎君

東栢植村大字上栢植 明治十一年一月十五日生  
家族 母たけの(七〇) 妻きくの(五〇) 下栢植松山甚十郎長男、駒雄(二六) 二男幹雄(一六) 上中在學、長女いちの同字福

東栢植村 キ、シ、ヒ、ス之部

森亮吉妻、二女はぎの同村山出藤井義藏妻、三女はる(一〇) 城出君農を業として家富む、東栢植村青年團副團長學校新築委員農會役員土地整理委員等に歴任し大正十四年四月大字區長に擧げられ現在に至る、長男駒雄君は目下滋賀縣甲賀郡寺庄村小學校訓導を奉職中

平岡宇藏君

東栢植村大字上栢植 明治六年十月十八日生  
家族 妻きよ(五〇) 長男百藏(三三) 二助兼藏(三〇) 上野鏡砲町飯澤家入夫、姉ひさ(二九) 同村齋藤重吉長女、孫きみ(九) まさ(四)

平岡君は東栢植村米穀検査員なり、家族は農を業とす衆望のある處農會役員、産業組員創立以來協議員に擧げられ公共の爲め力を致す、大正元年米穀検査員に任命せられ十一年大字區長に擧げられ共に現在就職中、淨土宗の信者なり。

村主彌左吉君

東栢植村大字上栢植 元治元年十二月十二日生  
家族 妻まつ(四四) 滋賀縣甲賀郡油日村瀧小西九藏姉、長男直藏(二九) 二男種次郎(二六) 同村に分家、三男信夫(一四) 姉ちよ甲賀郡油日村高峯重藤忠次郎長女、孫美代子(五) 敏男(四)

村主家は同村村主又十郎家の分家にして先代の世に獨立彌左吉君は又十郎氏の令弟なり、農を業とし副業に瓦製造販賣を營む、彌左吉君明治二十年より二

十六年迄上柘植小學校の代教員を奉職其後消防小頭として十ヶ年間勤績大正六年大字上柘植總區長となり大正十四年三月には衆望の歸する處村會議員に舉げらる、其他氏子總代、柘植警察署管内人力車夫取締等に舉げられ地方の爲め力を致せる人なり。

### 村主又十郎君

東柘植村大字上柘植 日生  
明治 年 月 日  
家族 長男一(二七) 二男又一(二〇) 婦しづゑ(二三) 同村清  
水九左衛門二女

村主君は呉服商を營む、東柘植村の有力者なり、同家の營業は明治三十年開始せしものにして大正九年には業務を擴張し綿布織工場を新設して木綿蚊帳の製造をなす、又十郎君は教育家出身なり、明治三十八年三重縣立師範學校を卒業、爾來東柘植小學校訓導を奉職明治四十二年同校々長に昇進し大正五年三月退職家業に専心すること、なれり、大正六年三月同村々會議員に選ばれ同十年再選され十四年三月滿期退職す、性温厚國語國文研究の趣味を有し其造詣深し、老教育家として村民の尊敬を一身に蒐めつゝある人なり。

### 西柘植村

#### 橋本 策君

西柘植村大字御代  
明治十四年五月五日生



家族 妻吉子(三四) 愛知縣知多郡有松町字往還南三宅守貞妹、長女はな子(五) 長男謙一(三)

橋本君、父は謙之助、母りゆ其三男に生る、幼にして明敏、衆童の範となる、明治三十三年三重縣立第一中學校を優等の成績を以て卒業し同年第三高等學校に入學三十六年卒業直ちに福岡醫科大學に入り四十年十二月卒業し後同校附屬病院に於いて外科學を専攻し四十五年二月渡歐重に獨逸に滞在ゲシチングレ大學其他に於て醫術の研究をなし大正三年八月歐州戰亂勃發するや獨逸を去りて英國に渡り更に研究を重ね同年十二月歸朝、大正五年四月歸郷し自ら橋本病院を開設し

て其院長となる大正六年論文を提出して醫學博士の學位を授與せらる、資性温厚にして寡慾患家より神の如く崇拜せられ來診を乞ふもの日に多し近世仁術を以て業とする醫師乏しく醫商の横行する秋に當つて君の如き高潔なる人格と最高醫學を修めたる人を伊賀に得たるは誠に喜ばしき事と云ふべきなり

橋本家は附近に名ある豪家にして伊乱記に既に橋本の名あり、其五世より醫を業とせしもの、如し、舊藩主藤堂家泉州出ノ濱に出陣するや軍に従ひ無報酬を以て施藥す、又天保の大飢饉に際し其寶倉を開いて貧民に施米し領主より感狀を受く、故を以て代々村民より舊家として且つ傳統的仁慈心ある家柄として尊崇淺からず、當主策君が慈善心に富める又故なきに非ず。

### 西島甚之助君

西柘植村大字下柘植  
明治二十年八月十五日生  
家族 父元次郎(五七) 母小なつ(六三) 妻みさを(四二) 東柘植村上村福森長七四女、長男武男(二二) 二男靜郎(二七) 三男四郎(二三) 長女はる(八)

西島君農を業とす、明治四十年伏見輜重隊に入營し除隊歸郷後青年團幹事、農事同友會指導員等に舉げられ十餘年間勤務し職務に忠實の故を以て村青年團

より表彰せらる、大正十三年二月大字區長に選ばれ十四年十月には第二回國勢調査委員に舉げられ現在に至る。

### 仁保 龜松君

西柘植村大字新堂  
明治元年四月二日生

仁保君は法學博士にして京都帝大教授たり、明治二十五年第一高等中學校を卒業同二十六年帝國大學法律學科を卒業同三十年法理學研究の爲め獨逸に留學す同三十三年歸朝京都帝國大學法科大學教授に任せられ翌三十四年博士號を授與せらる、明治四十四年同大學法科大學長に舉げられ大正三年歐米各國へ出張を仰附らる、歸朝後再び同大學に勤務し功あり従四位勳三等に叙せらる、性温厚寡言にして實行を好む、常に郷黨の指導誘掖を怠らず或時は自ら大字の會合に出席して村民と共に議事に與り或時は自ら農夫と共に鋤鎌を採りて大字の出合人夫となる等特に他の及ばざる篤行あり、遠近其君の人格を稱する又故なきに非ずと云ふべし。

### 岡村 兼松君

西柘植村大字橋岡  
明治五年十一月三十日生

家族 母まつ(七三) 妻せき(五二) 同字山崎久兵衛長女 兼女昌(一七) 弟金藏と二女あり

岡村君農を業として酒を好む、明治二十五年伏見工兵隊に入營日清日露の兩役に參加功を樹て勳八等白色桐葉章を授けらる、明治三十三年役場書記を拜命三十九年三重縣産米検査員に任命せられ四十二年退職す、大正六年大字區長に擧げられ次いで衆望の歸する處村會議員に選ばれる爾來重選して今日に至る、村民の信任厚く淨土宗を信す。

奥武右衛門君

西柘植村大字御代 明治十一年一月八日生  
家族 妻ならみ(四九)下柘植土田秀郎伯母、養女秋榮(二九)土田秀雄妻、婿金(三〇)同村福森兼之助二男、孫武嗣(九)とし(六)房子(二)

奥君は西柘植村駐在二重縣米穀検査員なり、家族は農を業とす、明治三十一年歩兵第九聯隊に入營日露役に従軍し功により勳八等を授けらる、凱旋歸郷後消防小頭に任せられ明治四十四年には同村消防小頭となり大正四年退職す、大正二年五月三重縣米穀検査員を拜命し十一年大字區長に就任今日に至る、性温厚職務に忠實にして在營當時善行証書を受け又消防小頭、同組頭として縣協會より表彰せられ又在郷軍人會よりも模範兵として表彰せらる。

奥澤勸左衛門君

西柘植村大字下柘植 明治二十三年九月廿四日生  
家族 父鶴松(六三)母てつ(六二)妻はるみ(三五)壬生野村川西中林謙郎姉、長男龜松(一六)二男繁(一〇)長女かつみ(七)

奥澤君農を業とす、現戸主は父鶴松氏なり、勸左衛門君衆望あり同村青年團部長消防小頭等に歴任し大正八年西柘植村外五ヶ村伊賀薙吹同業組合検査員に就任し現在尙勤務中、大正十一年四月衆望の歸する處大字區長に選ばれ現在に至る、性公共心に富み地方の爲め力を致しつゝあり。

奥澤九右衛門君

西柘植村大字下柘植 明治六年十二月五日生  
家族 妻かん(五一)同區高井辰次郎妹、長男九一(三二)長女みさ(一五)婿かよ(二九)同字谷澤辰治郎二女、孫ゆきの(一一)寛(四)

奥澤君農を業とし副業、薙吹製造、養蠶等をなす衆望の歸する處大正六年大字區長に就任し大正十四年三月には選ばれて同村々會議員に選ばれ現今に至る村治教育に力を致しつゝある人にして淨土宗を信仰す。

川合 蹇君

西柘植村大字 文久三年九月三日生  
家族 妻小はき(五〇)河合牧石川乾又兵衛二女、長男潔(三六)

て今日に至る。

兼 諦 純君

西柘植村大字新堂 慶應元年一月二十七日生  
家族 妻とや(五四)新田村下友田山尾政郎伯母、長女ふじ(三〇)養嗣子芳雄上柘植齋藤祐吉弟、二女しほ(府中村印代玉岡六三郎妻、孫信義、きよへ、義朝、八千代)

兼君幼名兼松長じて諦純と改む、農を本業とし傍ら八千代生命保險會社阿山郡總代理店とセメント、タイル煉瓦の販賣を副業とす、衆望の歸する處區長代理、區長、村會議員、氏子總代檀徒總代等に擧げらるゝこと前後各數回に及び又同村産業組合専務理事たること八ヶ年此間克く地方産業の興隆を圖り村治の發展に努力し今日に至る。

高橋 鶴 松君

西柘植村大字下柘植 明治十二年十二月十五日生  
家族 妻よし(五〇)新田村上友田山尾藤吉長女、長女千同字高島胤雄妻、二女久子(二二)長男斌(一八)三女つや(一五)四女たづ(一三)

高島君農を業とし養蠶を副業とす、衆望あり大正三年大字區長に選ばれ又氏子總代を兼務す、大正八年辭任退職す、同十年産業組合理事に擧げられ爾來今日に及んで勤続す、大正十四年四月村會議員に選ばれ今日に至る。

勝島 幸次 君君

西柘植村大字下柘植 明治五年八月三日生  
家族 妻ます(五一)同字福川種雄伯母、長女さき(三〇)二女つぎ(二七)壬生野村山畑福森光平妻、養嗣子捨二郎(三三)同村谷本利右衛門四男、孫繁久(一一)

川合君は西柘植村の元老として信任厚き人なり、明治十九年三重縣師範學校を卒業し柏野外三村組合到明小學校訓導を奉職後上野町忍町小學校長榎田小學校長山田村真泥小學校長西柘植小學校長等に歴任し四十三年八月退職西柘植村長に選ばれ四十四年一旦退職せしが大正七年二月再び村長となり大正十一年迄勤続す、此間村會議員、産業組合理事組合長、學務委員等に擧げられ今尙其職にあり、大正九年二月二十五年以上公職に従事せし廉により勳八等を授けられ大正十四年教育功勞者として師範學校長三井政善氏より表彰さる。

勝島君農を業とす、明治二十五年第四師團砲兵隊に入營、日清、日露の兩役に參加し功により一時金二百圓と勳八等白色桐葉章を授けられ恩給年金百七十一圓を賜ふ、大正十一年四月五日大字區長に就職し

### 高島齊之助君

西柘植村大字下柘植  
明治二年十一月十四日生  
家族 妻たつ(五八)同村西川新太郎妹、長男保郎(三七)長女きり(三三)河台村馬場西川久太妻、婦くり(三四)額田村東湯舟藤崎馬次郎長女、孫きよ(一三)さみ(一二)民治(五)光夫(二)

高島君農を業とす、衆望あり明治三十九年二月大字區長に擧げられ大正九年十二月同村書記に任せられ大正五年同村収入役に大正十年助役に擧げられ翌十一年十二月辭職退職す、大正十四年四月村會議員に擧げられ現在に至る、此間常に職務に忠實にして衆人の範となすべき事尠からず、三重縣知事は之を賞し大正十二年表彰をなせり。

### 中川龜次郎君

西柘植村大字新堂  
明治五年八月十一日生  
家族 母みつ(七五)妻かめの(五三)同村佐々木泰助姉、長女し(三三)額田村湯舟宮杉大吉妻、長男宗太郎(二八)二男宗郎(二三)大阪市東成區北友淵町友本ささ子婿、二女つき同村平島鐵次郎妻、婦かめの同村中川權次郎長女孫宗一(一五)さだ子(二)

中川君農を業とし家政裕福なり、大正十四年四月選ばれて同村々會議員となり現今に至る、其他消防小頭等に就任して居村の爲めに力を致せり。

### 中森兼吉君

西柘植村大字下柘植  
明治十二年二月九日生  
家族 父平三郎(七六)母てつ(六八)妻こまつ(四五)東柘植村

村川西藤島勘次郎妹、長女みよ(一五)阿山高女在學、二女ふみ(一二)  
農を業として家富む、明治四十三年同村役場書記を拜命、四十四年伏見輜重兵に入營上等兵に進み除隊大正十年復習召集に應じ伍長に進めらる、大正四年二月再び同村書記となり六年七月退職す、同年在郷軍人分會長に任せられ別に青年團支部長消防小頭等に任せらる、大正十一年八月辭職と同時に大字區長に推舉せられて今日に至る、實に前途ある地方有力者と云ふべきなり。

### 山崎次郎君

西柘植村大字橋岡  
明治十年 日生



家族 父好吉(六四)弟光夫(三二)福岡高等學校教授、昇(廿一)同上在學、妻あき(三〇)兵庫縣西ノ宮加藤森男妹、長男典彦(一二)次男次彦(九)長女美榮子(七)次女恵美子(三)

植村の有力者にして酒造販賣業を営む、其創業は君

大橋市松妹、長男武夫(二二)長女えん(一四)

中森君は木材商並に土木建築請負業をなし家族は主として農業に従事す、大正九年大字區長代理に就任したるを公職の始めとして同村會議員、氏子總代等に歴任し大正十二年同字區長に就任現在に至る、建築請負業を特に得意とし附近の學校役場其他著名の建築物を請負して之を完成し信用益々厚し。

### 山中繁造君

西柘植村柏野  
明治十二年四月四日生  
家族 父甚四郎(八一)母じゆん(七四)河合村大江藤原善兵衛女妻やす(四六)東柘植村上村城出勘次郎妹、長女てる(二四)二女たづ(一九)山田村炊西口定次郎妻、三女しづ(二二)婿政郎(二五)河合村馬場柳田直義三男、孫和哉(五)好文(三)

山中君農を業とす、日露の役に從軍し功により勳八等を授けらる、凱旋歸郷後消防小頭農會評議員等に歴任し大正八年大字區長に任せられ大正十四年辭職同四月村會議員に選ばれ現今に至る、婿政郎君は目下神戸高等商業學校在學、長女てる子は西柘植小學校に奉職弟の萬次郎氏は陸軍歩兵學校を優等の成績にて卒業恩賜の銀時計を拜授目下歩兵大尉なり。

### 山崎義郎君

西柘植村大字橋岡  
明治二十四年六月七日生  
家族 父兼次郎(六七)母みきの(六二)妻ゆく(三三)壬生野

より四代前約六十年を經過す父好吉君は圍碁を樂み書畫骨董を弄ぶ、大字區長村會議員等に擧げられ村治上に貢獻する處多く又現に學務委員として地方教育界の爲めに力を致しつゝあり、君は京都第一中を卒業後陸軍士官學校に入り明治四十年六月同校を卒業後歩兵第九聯隊附を命せらる、四十三年更に憲兵隊附を仰せ附けられ仙台、鹿兒島、朝鮮、浦鹽等に派遣勤務を命せられ憲兵少佐に進み正六位勳五等を授けらる大正十二年退職したる名譽の軍人にして目下家業に従事しつゝあり、其令弟は皆俊才にして一門大いに榮ゆ。

### 前澤長太郎君

西柘植村大字御代  
明治六年九月二十七日生  
家族 母さん(七五)妻かれ(四七)壬野村川東澤野三五郎長女、長男孝太郎(二七)二男清(一五)河合村田中山本甚右衛門養嗣子、婦しげ(二六)河合村馬場宮本鹿藏長女、孫實(五)正(二)

前澤君は現西柘植村助役なり、明治二十八年四月西柘植村書記を拜命し三十二年同村収入役となり三十九年十月辭職退任す、明治四十年四月同村會議員に選ばれ四十一年三月河合村助役に任せられ四十二年九月辭職す、同月郡會議員改選に際し衆望の歸する處選ばれて郡會議員となる、爾後再選して大正九年

九月には遂に郡参事會員に互選さる、其他産業組合理事、郡農會議員等に歴任し大正十二年十二月西柘植村助役に擧げられて現在に至る。

福島萬次郎君

西柘植村大字柏野 明治二年九月十五日生

家族 妻つれ(五二)河合村波敷野若森文次郎長女、長男嘉太夫(三〇)長女しかの同字福田善之松養女、二女しづ同字田口太市郎妻、三女しま下柘植川村眞妻、四女さみ鈴鹿郡深伊澤村深溝葛武妻、婦みさ(二六)河合村波敷野藤岡榮次長女、孫嘉子(七)嘉美(五)房子(三)

福島君は現西柘植村々長なり、明治三十八年七月村役場書記に任命せられ明治三十九年一月収入役となり大正二年同村助役に進み十一年三月現職に就任し現今に至る、酒を呑み交友を好み、福島家の祖先是往古伊賀の郷士にして三河守と稱し柏野村を領したるが織田信長の伊賀攻めに戦死し子孫歸農せりと傳ふ、當主萬次郎君はその十八世の孫なりと。

福森治兵衛君

西柘植村大字新堂 明治十六年十月十六日生

家族 母かれ(七五)妻みつ(四二)同村下柘植杉本辰次郎二女長男綾郎(一四)長女すず(一一)二女たま(六) 福森君農を業とす、明治三十六年十一月由良要塞砲兵隊に入營日露戦役に従軍し功により勳八等を授けられ上等兵に進み凱旋歸郷す、後同村消防小頭、青

年團幹事等に歴任して斯道の爲め力を致し又農家組合を組織して自ら其組合長となる、大正十四年七月選ばれて大字區長に就任して現在に至る。

木澤竹次君

西柘植村大字柏野 明治四年十一月二十一日生

家族 母まさの(八九)妻くに(五六)壬野村川西福永茂伯母、長女ふさの下柘植中森元藏妻、二女さら山田村甲野大藤庄藏妻、長男芳三郎(二七)三女みす(一五)阿山高女在學、婦てつ(二三)河合村圓德院福島龜松長女、孫しげ子(四)つや子(二)

木澤君農を業とす、衆望あり同村消防小頭に任命されたるを始めとして明治三十七年大字區長に選ばれ四十二年辭職同時に村會議員に選ばれ大正四年滿期退職、大正十四年四月再び村會議員に選ばれ現今に至る、曹洞宗を信仰し村民の信任厚し。

宮田丈太郎君

西柘植村大字野村 明治五年八月二十六日生

家族 妻ゆき(五二)東柘植村上柘植植熊次郎妹、長男富之助(二八)長女まさの(二七)寺庄高女在學、婦さき(二四)額田村上友田尾崎久松二女 宮田君農を業とし家富む、村民の信任厚く消防小頭に擧げられたるを始めとして明治三十二年より大字區長たること前後十三年村會議員前後二期、其他公有林野整理委員、産業組合理事、氏子總代等に歴任

壬生野村

居附兼三郎君

壬生野村大字川西 明治十五年十一月十日生

家族 母しか(六二)妻かめ(四六)同村中林多次郎二女、長男龜久雄(一五)二男千代松(一一)三男弘(一〇) 居附君は篤農家として郡の内外に名聲高き人なり、明治三十二年帝國農家一致協同に加盟阿山郡地方委員を囑托せられ農事講習等を受け又昆虫の研究をなす爲め岐阜縣名和昆虫研究所に入り特別研究を受け農事改良に力を注ぐ、衆皆其行を徳として之を稱す同村補習學校助教、村會議員、信用組合幹事、農會總代等に當選すること數回其指導をなす官又其行を嘉みし明治三十七年十二月帝國農家一致協會總裁宮殿下より彰功状を下賜されたるを始めとして三重縣知事有松英義、大日本農會總裁宮殿下、阿山郡農會、本縣農會、阿山郡青年團等より表彰され大正九年には模範米作人として本縣より表彰さる、蓋し君の如きは稀れに見る篤農家とすべきなり、農作研究に對する著書數種あり。

居附甚太郎君

壬生野村大字川西 明治十六年四月二十日生

家族 父甚右衛門(七三)母こま(七三)妻しづ(四二)日村西澤

し村治教育上に努力する事年あり、村民之を徳として其功を表彰せり、曹洞宗を信ず、長男富之助氏は東柘植村小學校訓導を奉職中。

首藤諦音君

西柘植村大字下柘植 明治十九年七月一日生

家族 養母かめの(七〇)妻つつの(四八)先住順道長女、長男悅道(二〇)二男英信(一六)三男克(八) 首藤君は黄檗禪宗法興山靈山寺の住職なり、縣下鈴鹿郡龜山町に生れ二十歳にして佛道に歸依し僧侶を志し靈山寺先住順道師について出家得度し本山宇治黄檗宗僧堂に入りて修業し五ヶ年の後幡州雲松寺僧堂に轉じ此處に二ヶ年後更に東京芝罘聖寺僧堂にて一ヶ年修業歸山し先住の後を襲ふて靈山寺に住職す、靈山寺の本尊は十一面觀音にして人皇五十二代嵯峨帝の御宇弘仁二年傳教大師勅願により山頂に大伽藍を建立天竺傳來の尊像を安置せられたるが後源頼朝の祈願所となりし事ありしも天正の兵火に罹り諸堂焼失し後再建して現在に至れりと傳ふ、寺有財産多く裕福なる寺院なり。

家喜茂右衛門二女、長女八重(二一)山田村炊中喜造妻、二女しづ(二六)長男義夫(一四)二男俊夫(一〇)三男三郎(六)四男秀雄(四)  
居附君農を業とし副業に酒類販賣をなす、明治三十二年輻重兵第四大隊へ入營日露戦役に従軍し功により勳八等を授けらる、凱旋歸郷後消防小頭に擧げられ大いに其手腕を認めらる、大正十四年十月選ばれて村會議員となり今日に至る。

**稻森 國右衛門君**

壬生野村大字山畑 明治十二年十一月十日生  
家族 妻も(四七)日村森田忠五郎長女、長男義邦(二八)長女きみ(二三)東京美術學校在學中、姉せつ(三三)京都市紫野御所田町中西丈太郎長女

稻森君農を業とし家富む、青年團幹事、消防小頭等に歴任し大正十四年一月大字區長代理に擧げられ信任益々加はり同年十月には選ばれて村會議員となり大いに村治行政に力を致しつゝ、あり、長男義邦君は陸軍經理部に奉職歩兵第九聯隊に配屬を命ぜられ現に二等主計たり。

**家喜安次郎君**

壬生野村大字西ノ澤 明治五年六月五日生  
家族 母なか(七九)妻きえ(四九)府中村外山岡野新次郎長女、長男利一(二九)二男正男(二二)長女いき(一八)二女しづ子(一四)姉ふさ子(二二)西柘植村下柘植高島利雄妹

温厚にして書畫園藝等を好む父兄間の信用厚し。

**奥 恂一郎君**

壬生野村大字山畑 慶應元年四月十八日生  
家族 妻しまの(五九)同村米野林治二女長男領一(二三)

奥君は壬生野村の有力者にして教育家出身なり、明治十七年大字區長に任せられたるを公職の振り出しとして同二十年には准教員として壬生野村山畑簡易科授業所に教員として奉職し二十三年壬生野尋常小學校に轉任、明治二十五年には學務委員に擧げられ兼任す、三十年二月正教員に任せられ爾來壬生野校に奉職せしが大正三年十月病氣退職す、大正六年五月衆望により同村長に選ばれ八年五月退職す、又大正四年同村信用組合理事に同六年組合長に推され就任せるが九年一月辭して理事となり十四年一月退任し目下餘生を農業に親しみつゝある人にして同村の功勞者と云ふべきなり。

**岡森 徳郎君**

壬生野村大字山畑 明治十二年十月廿三日生  
家族 父徳三郎(七一)妻よし(四四)同字北村安太郎妹長男孝徳(二四)二男春明(九)姉ます(二二)同村北村安太郎長女

岡森君農を業とし餘裕あり、衆望の歸する處大正十四年二月字山畑區長に擧げられ就任現今に至る、性

家喜君は壬生野村の有力者にして農を業とす、同村消防小頭に擧げられたるを公職の振出しとして明治三十八年大字區長に就任八ヶ年勤績、同年村會議員に選ばれ就任二期に及び村政の爲め力を致し大正六年には同村助役に擧げられ同八年には村長に選ばる就職四ヶ年此間信用購買販賣組合を組織し之が幹事理事となり村民の福利増進に努め功勞尠からず、又明治四十年三重縣産米検査員に任せられ前後八年間勤績す、家業に熱心にして農業の改良進歩に力を注ぎたるの故を以て阿山郡農會は明治四十年篤農家として表彰せり。

**徳山 明 義君**

壬生野村大字山畑 明治二十六年一月四日生  
家族 母えつ(五六)弟時秀(二三)海軍兵軍艦伊勢乗組員、重秀(二〇)栃木縣下都賀郡生井村蠶業技術奉職、妹静子(一八)久居高女在學、妻一枝(三二)河合村馬田山本忠姉、長女園子(三)

徳山家は壬生野村の舊家なり、其祖は詳かならざるも代々醫を業とし先代時九氏にて十八代に及ぶと傳ふ、明義君は大正四年三月三重縣師範學校を卒業し六週間現役として入營除隊後一志郡倭村小學校に奉職後同郡高茶屋校に轉じ更に本郡西柘植校を経て大正八年山田小學校に轉任今日に至れる人なり、資性

温良にして區民の信任厚し。

**界外 政 吉君**

壬生野村川東 明治十八年三月一日生  
家族 養父富五郎(六六)養母きく(六八)長女ふみ(一八)二女はる子(一五)共に阿山學校在學

界外君本姓は山崎、西柘植村柏野山崎捨吉氏の弟なり、長じて界外家に入る、明治三十六年上野區裁判所に雇書記として職を奉じ同四十二年辭職し家業に専心す、衆望の歸するところ大正十四年十月壬生野村々會議員に選ばれ今日に至る、天臺宗を信ず。

**川原 出昌 夫君**

壬生野村大字山畑 明治二十八年十月廿日生  
家族 父勘次郎(五二)母たれ(五二)弟義夫(一八)菊郎(一六)妻小きん(二八)山田村中村井上幸次郎長女、長男保俊(一〇)長女(一七)二男定俊(二)

川原出家農を業とす、戸主は父勘次郎氏なり、昌夫君少壯有爲の青年を以て村内に勢力を有す、消防小頭青年支團長等に歴任して功あり數回表彰さる、大正十四年十月選ばれて同村々會議員となれり、蓋し同村議員中の年少者にして前途を囑目さる、父勘次郎氏は篤農家として信用あり各種品評會に出品して受賞すること數あり、又村會議員たりし事前後三回に及ぶ。



龜井 田 道君

壬生野村大字山畑 明治二年六月廿日生  
家族 長男政直(三四)二女やす(二八)同村山岡兼三郎妻、長女やぶの(三七)孫や(一一)政久(一〇)婿たや(三三)山田村中村稻田清三郎妹

龜井君養蠶に熱心にして農を業とす、盆栽園藝を好む、明治四十二年同村々々會議員に選ばれ爾來重選さるゝこと四期よく村治上に貢献す、又信用組合評議員、其他の名譽職に選ばれ同村中に重視されつゝ、あり、息政直君又衆望あり青年團副團長同支團長に歴任し現に同村消防小頭たり。

谷村 猶之助君

壬生野村大字川西 明治六年二月十三日生  
家族 妻さら(四五)養嗣子照(一九)同村中林卯平治二男、婦春子(一一)同村西湯舟服部孝太郎五女、孫宜子

谷村君本姓佐々木、一志郡下之川村佐々木半藏氏の二男なり、長じて谷村家に入り其姓を冒す、農を業とし家富む、初め阿拜郡山田高等小學校に訓導として奉職、後明治三十一年四月壬生野村小學校に轉任し四十年二月退職す、大正二年十月衆望の歸する處壬生野村々々會議員に擧げられ六年滿期退任したるが大正十四年十月再び選ばれて村會議員となり更に同村信用購買販賣組合常任理事に就任して現今に至る

養嗣子照君は目下九州大學に教授として奉職中。

谷口 辻 松君

壬生野村大字山畑 明治十四年八月七日生  
家族 父金松(六八)妻ふじ(四五)同字森田忠五郎二女、長男潔(二四)二男貞(一九)三男正(一四)長女静(九)

谷口君農を業とし副業として長男に鍛冶屋を營業せしむ、壯年にして青年團幹事、消防小頭等に歴任し明治四十三年十月三重縣巡查を拜命津警察署勤務を命せられ四十五年六月上野署勤務を命せらる、大正十二年十月辭職退官して農業に従事す、大正十三年檀徒總代に選ばれ十四年十月には衆望により村會議員に選ばれ今日に至る、大正四年御大禮紀念章を受領す。

谷口 源 吾君

壬生野村大字山畑 明治元年正月十日生  
家族 妻はぎの(五六)長女、まの奈長縣月ヶ瀬村石打田中喜雄妻、二女きり(山田村炊西口正一妻、長男稔(二八)二男孜(二四)孫小かれ(二六)山田村炊西口鐵次郎長女、孫一郎(二)

谷口君本姓西口、山田村炊西口庄吉氏の弟なり、明治十七年山田村戸長役場筆生となりたるを公職の初めとして二十年迄同村に勤務、明治二十四年壬生野村役場書記に任命せられ後同村収入役助役等に歴任して衆望あり、大正元年には同村々々長に選ばる、翌

二年村長を辭し後村會議員二期、信用組合理事其他凡ての名譽職に歴任して村治に力を致すこと尠からず大正十四年末隱退して餘生を農に親しむ。

中林 竹次郎君

壬生野村川西 慶應元年四月十二日生  
家族 妻きん(六一)字同福永金助叔母、長男宇治吉(四〇)婦こん(三九)同字福西女次郎長女、孫孝文(一一)綾子(四)

中林君農を業とす、明治二十三年同村役場書記に任せられ後收入役助役等に歴任して村民の信任あり、大正五年には同村々々長に擧げられ、同七年五月辭職す爾來郡會議員村會議員等に選ばるゝこと各數回克く力を公共の爲めに致し治績上る、又信用組合理事氏子總代等に推され現に其職にあり、長男宇治吉君は目下朝鮮殖産銀行京城本店營業課長の榮位にあり

中林 保 男君

壬生野村大字川西 明治十六年一月十二日生  
家族 父卯平治(七九)妻ゆき(三六)名張町竹原吉二郎長女、長女千恵子(一四)二女美恵子(一一)三女八重子(一〇)長男章三(五)

中林君は現壬生野小學校校長なり、頭腦明晰にして良教育家の聞高く父兄間の信任厚し、明治三十七年三月三重縣師範學校を卒業し玉瀧小學校訓導に任せられ同七年月六週間現役兵として歩兵第九聯隊に入營

滿期除隊に際し國民軍幹部部適任証を受領す、明治四十三年抜かれて玉瀧小學校校長となり、大正八年河合小學校長に轉じ大正十一年其手腕を認められて三重縣社會教育主事に榮轉を命せらる、大正十三年五月家事都合上縣社會教育主事を辭し歸りて同村小學校長として今日に至る。

中林 繁三郎君

壬生野村大字山畑 明治七年二月一日生  
家族 母みな(六九)妻かん(五二)長男繁男(三六)婦なか(三六)阿波村上阿波輝澤牛太郎二女、二男武雄同村森田作右衛門養嗣子、三男實一西和植村御代坂本兼松方(入夫、五男慶憲(一九)孫千代子(一一)康久(七)貞藏(四)

中林君、本姓山下、吾三郎氏の弟にして現壬生野村助役なり、明治三十八年三月三重縣師範學校乙種講習科修了三十八年五月尋常科本科正教員の免許狀を受領して壬生野小學校に奉職、四十四年三月山田小學校訓導に大正元年再び壬生野小學校に轉任し大正十二年七月迄勤続し同月壬生野村收入役に任せられ同年十月助役に就任して今日に至る、性温良にして村民の信任厚し、菊栽培川漁等を樂みとす、

仲 勤 八君

壬生野村大字西ノ澤 明治十四年一月一日生  
家族 父勘内(七七)母まつの(七七)妻しよ(四五)同字仲福太郎女  
長男勘藏(二六)長女たけの(一八)二男宗孝(一一)二女すみよ  
(四)婿たまの(二二)同字池町鹿藏女、孫みちよ(二)

仲君農を業とし浄土宗を信仰す、消防組小頭、青年  
支團長、同副團長等に歴任して信任を得、大字區長  
代理たること四ヶ年後區長に擧げられ二期間勤績、  
大正十四年十月衆望の歸する處村會議員に就任して  
今日に至る。

村岡 誠 一君



壬生野村大字西ノ澤 明治元年八月六日生  
家族 妻こまの(五七)西柘植村愛田  
岡森清次郎二女、長男密郎(三八)  
二男謙吉(二九)津市丸之内大山元  
史方へ入夫、二女くまよ西柘植村  
愛田岡森金郎妻、三女ちよ河合村  
馬田森本兼三郎妻、婿かなへ(三  
四)西柘植村愛田岡森清次郎長女、  
孫かす(一二)政治(八)二郎(四)系

村岡君、初名は銀松、明治二十五年誠一と改む、現  
壬生野村長なり、明治二十一年同村役場書記に任命  
され爾來累進して助役となり更に村長に選ばれる、明  
治三十七八年の役町吏員として功にあり勳八等に

叙せらる、明治四十五年村長を退職、大正四年衆望  
の歸する處郡會議員に選ばれ再選して郡政廢止迄就  
任す、大正十四年再び壬生野村長に選ばれ今日に至  
る、資性温良村民の信任厚し。

梅田 順 照君

壬生野村大字川東 明治二年三月二十五日生  
家族 徒弟服部光雄(二〇)西柘植村愛田服部庄次郎二男

梅田君は天臺宗眞盛派紫雲山阿彌陀寺の住職なり、  
柘植村大字野村に生る、明治十一年當寺先住につい  
て出家し修業す、明治二十四年府中村西條生蓮寺の  
住職となり同寺に住せしが阿彌陀寺先住歿するに及  
び其後を襲ふて住職となり現在に至る、阿彌陀寺は  
長田西蓮寺の末寺にして正徳四年(一)に慶安四年と  
も傳ふ)長田村西蓮寺眞熊上人來りて創立せしもの  
にして以來十世に及び弟子相續して今に至る、本尊  
は阿彌陀如來なり、順照君餘暇園基を樂しむ。

増田 利 助君

壬生野村大字川東 明治十八年十一月十五日生  
家族 父繁造(六六)母ふう(六四)妻すよ(三六)西柘植村新堂近藤  
友次郎長女、長男弘一(一五)二男武一(一〇)長女みよ(七)

増田君農を業とし天臺宗を信仰す、衆望の歸する處  
村農會役員、産業組合評定委員等に歴任し大正十二

年五月には大字區長に選ばれて今日に至る、父繁藏  
氏又衆望あり檀家總代、氏子總代、區長等に歴任し  
て地方民心の指導に盡力したる人なり。

福西 芳次 郎君

壬生野村大字川西 文久三年六月三日生  
家族 母つち(八七)妻いく(五八)同村居村半助二女、長男隆(三五)  
二男平助(三三)長男婦ふさ(三三)滋賀縣甲賀郡土山町矢田ふ  
み長女、孫みちよ、里雨子、一隆、小波、二男婦あさ(一九)同  
村居村和雄長女、孫芳次、芳一

福西君は瓦製造販賣を業とし農を副業となす、長男  
隆君は上野中學を卒業後一年志願兵として入營除隊  
後家を去り東京淺野同族會社に奉職し二男平助君家  
を繼ぐ、芳次郎君性温厚衆望あり大正二年大字區長  
に擧げられ同十二年まで勤務、又同九年十月村會議  
員に選ばれ十四年まで勤績して村治の爲め力を致す  
其他氏子總代、國勢調査員に擧げられ功績多し、園  
基を好み天臺宗を信仰す。

藤田 兼 太郎君

壬生野村大字西澤 明治十五年十一月廿八日生  
家族 父捨吉(六二)妻こみよ(四〇)河合村波敷野稻増久雄妹、長女  
かつよ(一六)長男喬(一〇)

藤田君農を業とし養蠶畜牛の副業あり、浄土宗を信  
仰す、消防小頭、青年團支團長、區長代理等に歴任

すること十數年、大字民の信任厚く大正十四年四月  
には選ばれて大字區長となり現在に至る。

福永 金 松君

壬生野村大字川西 明治十三年月日生  
家族 養父金三郎(六七)養母さんの(六五)婿も(四〇)長女さしよ  
(二一)

福永君は同村福永清十郎氏方に生れ金三郎氏方に入  
夫せし人にして醫を業とす、明治三十六年大阪高等  
醫學校を卒業し大阪歩兵第三十七聯隊に一年志願兵  
として入營日露戰役に參加し勳功尠からず、遂に陸  
軍二等軍醫に進み從七位に叙せられ勳六等單光旭日  
章を授けらる、明治三十九年凱旋して現在の處に醫  
院を開業して現今に至る、資性温厚にして園基を樂  
しむ。

澤 留 松君

壬生野村大字川東 明治元年二月十日生  
家族 妻たか(五二)九柱村比曾河内福森淺造長女、長女みよ(二七)  
(二)女ますみ(二〇)養嗣子保雄(三二)壬生野村山畑谷口又七  
二男、孫格(四)

澤君本性前澤、西柘植村御代前澤久三郎氏の三男な  
り、幼にして澤家に養はれ其姓を冒す、現郷社春日  
神社々掌なり、性温厚にして園基を好み、明治二十  
八年迄壬生野小學校代用教員を拜命約十ヶ年間勤績

同年三月辭して現職を拜命して今日に至る、養嗣子保雄君は河合小學校に奉職し二女ますみは上野高女卒業後小學教員として奉職。

澤村佐市郎君

壬生野村大字川東 明治五年九月九日生

家族 妻(かれ)(五七)同村四ノ澤坂口半右衛門長女、長男才藏(三一) 婦さか(二六)河合村四徳院垣岡金太郎二女、孫典子(三三)長女きみ(二六)二女きのの府中村服部石橋嘉兵衛妻

澤村君農を業とし壬生野村の有力者として村民の信任あり、明治三十八年林野整理委員に擧げられ爾來二十數年間之が整理に盡粹す大正十五年完了の豫定なりと、又大正二年以來今日に至る四期間村會議員に重選して現に村治行政に力を致しつゝあり。

澤盛夫君

壬生野村大字川東 明治二十一年三月廿七日生

家族 妻すゞ(三三)山田村平田溜井鶴松長女、長女よし(二二) 長男榮一郎(一一)二女みち子(八)二男利彦(一)

澤君農を業とし政治運動を好み、明治三十七年上野小學校に准教員として奉職後山田小學校に轉じ明治四十年辭職、神戸市に出で神戸郵便局に奉職す、四十二年神戸エイハツサン商會に勤務し後歸郷青年支團長に擧げらる、大正二年頃より政治運動に興味を有することとなり憲政擁護運動に共鳴し大正四年以

來川崎克氏の援護者として地方の急先鋒を以て任す大正十四年十月村會議員に擧げられ地方政界の爲め力を致しつゝあり、園基讀書を好み天臺宗を信仰す

三根幸太郎君

壬生野村川東 明治十九年三月二日生

家族 妻みちの(四〇)同字服部美藏二女、長男幸一(一七)長女きの(一四)二女すゞ(一一)三女榮子(五)二男隆(三)

南出金太郎君

壬生野村大字川東 明治二十四年十二月五日生

家族 繼父留五郎(五七)母妻死亡、長女きみ(一一) 南出君は現壬生野村收入役なり、繼父は古物商を營む、明治四十三年十一月同村書記に任せられ大正十二年十月收入役に進めらる、職務に忠實にして村民の信任あり、大正十一年三月三重縣知事より優良町村吏員とし表彰さる、故なきに非ず、園基を好み之を好くし同村内並ぶ者なしと。

森川柳平君

壬生野村大字山畑 慶應元年六月二十四日生

家族 妻しまの(五七)同村森川半七二女、養嗣子里己(二六)同村川

東奥井惣兵衛、孫崎きぬ(二四)同村森川半七孫、孫利美

森川君本姓奥井、同村大字川東奥井惣兵衛の二男に生る、幼にして森川家に養はれ其姓を冒す、農を業とし村民の信任厚し、明治三十三年壬生野村々會議員に擧げられたる以來重選五期に及び村治教育の爲め力を致すこと尠からず、其他産業組合幹事、同理事、村農會評議員、村農會總代、檀家總代、水利組合役員等に歴任し大正十四年十月には同村學務委員に擧げられ其餘生を教育事業に致しつゝあり。

森田武雄君

壬生野村大字山畑 明治三十年六月二十九日生

家族 妻(まの)(二七)長女一代(一一)長男男(九)二女美津子(三) 森田家は壬生野村の名望家にして農を業とす、武雄君の亡父作右衛門氏は一世の偉人にして居村の水利に乏しきを憂ひ灌漑用水池を起さんと志し苦辛慘澹之が經營の任に當り遂に完成して其憂を除けり、其他諸種の名譽職に擧げられ村治上學務、勸業、衛生土木等に力を致さざるなく衆皆其徳を稱して止まず其善行天聽に達し縣地に行啓遊ばさる、毎に饗宴に招かれたる光榮ある人なりき、明治三十二年十月藍授褒章を賜る、故なきに非ざるなり、當主武雄君は

本姓中林、同村中林繁三郎氏の二男養はれて作右衛門氏の嗣となりし人、現に同村青年團山畑支團長なり。

森田太治郎君

壬生野村大字山畑 明治十八年七月五日生

家族 妻つ(三八)同字福島吉兵衛二女、長女ひさ(一七)二女康子(一四)長男正明(一一)二男誠(一七)三女美恵(三) 森田君農を業とし養蠶畜牛等の副業をなす、明治三十九年歩兵第九聯隊に入營、成績優良の廉により歸休兵として除隊歸郷後在郷軍人分會評議員、副分會長等に歴任し信任あり、大正十二年には同村消防組頭に擧げられ更に十四年には村會議員に選ばる、曹洞宗を信仰し少量の酒を嗜む。

森口久三郎君

壬生野村大字川西 明治二十六年七月四日生

家族 母きん(六九)妻しげの(三三)河合村波敷野宮崎音松長女、長男克己(七)長女綾子、二女英子、三女里子 森口君農を業とし養蠶と畜牛の副業をなす、青年にして信用あり、青年團幹部、消防組會計等に歴任して手腕を認められ大正十二年五月には大字區長に就職して今日に至る、天臺宗の信者なり。

### 森木榮次郎君

壬生野村大字西ノ澤  
明治十一年十月二日生  
家族 母ふじ(七九)妻ます(四八)同村村岡誠一長女、長男貞一(二八)伊勢相可小學校訓導奉職、長女ふじ(二二)同村川西森口竹次郎妻、二女さみ(一五)寺庄高女在學、姉まさの(二四)山田村千戸福川金松ノ女、孫りよ(四)

森木君農を業とし川漁を好む、明治三十二年歩兵第九聯隊に入營、三十四年六月支那駐屯軍派遣軍に従ひ出陣、日露役に従軍し勳八等を授けらる、歸郷後消防小頭、青年團支團長、代理區長等に歴任し大正六年十月衆望の歸する處村會議員に選ばれ十年滿期退職大正十四年十月再び村會議員に選ばれ今日に至る浄土宗を信仰す。

### 濱政君は村社須知荒木神社の社掌なり、名賀郡神戸村大字下神戸濱政佐助の長男に生る、壯年官吏生活を志し三重縣巡查を拜命十一年間精勤して恩給年金を授けらる、大正三年六月村社須知荒木神社の社掌に任せられ現在に至る、園藝讀書を樂しむ。

### 町野鹿次郎君

中瀬村大字西明寺  
明治八年二月三日生  
家族 母よれ(七五)妻真(四〇)上野町忍町勝矢龜太郎長女

町野君は中瀬村の有力者にして陸軍豫備大尉なり、永年帝國在郷軍人會阿山郡聯合分會長の榮職にあり軍事思想の普及に力を致したる人なるが大正十四年辭して職を府中村の山路周吾豫備中佐に譲り勇退す、村内の有力者として村民の信望あり、因に令閨良子夫人は縣立阿山高等女學校に教諭として永年奉職し良妻賢母の聲高き人なり。

### 福森忠内君

中瀬村大字西明寺  
明治十五年三月八日生  
家族 母つし(七二)長男勇(二二)二女久子(一九)上野町向島木村武藏妻、二男尋(二二)

福森君は中瀬村助役なり明治三十四年縣立師範學校簡易科を卒業し同年七月宇治山田市甲修小學校に奉職三十六年上野町丸之内小學校に轉任三十八年三月

### 中瀬村

### 濱政豊次郎君

中瀬村大字荒木  
明治三年五月十四日生  
家族 妻たみ(四〇)九柱村大字九柱藤岡鐵治太郎長女、長女史郎(九)二男尙(五)

同町忍町小學校に轉じ四十二年府中小學校に四十二年河合小學校に四十四年三月中瀬小學校に大正九年友生小學校に十二年再び中瀬小學校に轉任十三年四月辭して中瀬村助役に就任し現在に至る、資性活潑にして邪氣なく好個の教育者として父兄間に信任ありし人なり。

### 荒木甚吉君

中瀬村大字荒木  
明治十六年四月四日生  
家族 母かれ(六三)妻こま(三九)同村西明寺稻森甚四郎長女、長男甚一(二〇)二女綾子(一一)



荒木君は中瀬村長なり、明治三十九年滋賀縣師範學校を卒業し同年四月水口高等小學校訓導に任せらる、同年七月六週間現役の義務を終へ國民兵幹部適任証を受領、四十年三月長野高等小學校に轉任同四十一年十二月小原尋高小學校長に榮轉す、大正二年三月依願退職三重縣管内小學校正教員免許を受け六月中瀬小學校訓導を拜命し十一年八月布引尋高小學校長に榮轉大正十二年十一月小學校令施行規則第二百二十六條第二號により退職同十二月中瀬村長に當選して現在に至る、資性温厚にし

て社交に富む、同家は中瀬村の舊家にして彼の有名なる伊賀越敵討の主人公荒木又右衛門の流れを吸む家柄なりと。

### 菊山万次郎君

中瀬村大字荒木  
万延元年十二月四日生  
家族 長女卯の丸柱村井岡正雄妻、長男完(三三)二男基(三一)三男隆三(二七)二女光(二二)玉瀧村木津津治妻、姉むめ(二七)茨城縣堅倉村鶴田飯島竹三郎孫

菊山君は中瀬村の富豪なり、明治十九年十一月名張伊賀郡書記を拜命第二課長を命せられ二十二年三月三重縣收稅屬となり二十九年十一月稅務屬に任せられ名古屋稅務管理局在勤を命せらる、明治三十一年九月鳥羽稅務署に榮轉し三十五年土岐津署長に轉じ三十六年依願退職同年四月伊賀貯蓄銀行事務長に就職し信任を受く、明治四十年十月衆望の歸する處縣會議員に擧げられ同年十一月阿山郡會議員に當選四十四年縣名譽職參事會員補欠に當選す、大正六年中瀬村會議員に選ばれ次いで村長にも當選したる事ある人なり。

友生村

稻増兼五郎君

友生村大字界外 慶應元年十二月十一日生

家族 妻ふん(六〇)山田村千戸奥久三郎二女、姪ふ(二六)同字稻  
森新三郎女、養子直藏(二六)花垣村白樺龜藏三男、孫歌(三)  
稻増君は醫を業とす、幼にして濟生救民の志しを樹  
て醫學の研究に餘念なく明治二十二年遂に檢定試験  
に合格して醫師開業免許狀を得現地に開業して一般  
の診療に従事して今日に至る、傍ら友生村同校醫  
の囑托を受く、因に養嗣子直藏君は上野中學校を卒  
業京都府立醫科大學校を卒業後一年志願兵の義務を  
了へ、目下大阪島瀉病院に勤務中。

池澤宗則君

友生村大字界外 明治三年六月十日生

家族 妻たつ(五四)上野徳居町富士林斧四郎二女、二男宗尙(三四)  
大阪川北電氣會社勤務、三男宗敏(三〇)四銀上野支店勤務、  
四男宗輝(二四)大阪川北電氣會社勤務、六男宗宣(二二)大連  
出口レス店勤務、七男宗晃(一七)上中在學、長女津也(三  
六)山田村富岡要太郎妻、二女富美(三三)花ノ木村法花杉本  
百太郎妻、三女政(二五)京都市大井留峯妻、四女國(二〇)友  
生校訓導、五女民(一八)

り勤七等に叙せられ瑞寶章を授けらる。

橋本一太郎君

友生村大字中女生 明治二十三年八月四日生

家族 母しか(六〇)妻くまの(三三)中瀬村高畑清田金次郎長女、長  
女ちよ(一一)長男順一(九)二男勳(五)三男勳(五)  
橋本君は農を業とし友生村々會議員中前途ある青年  
政治家として信任を蒐めつゝある人なり、衆望の歸  
する處青年支團長、大字役員等に擧げられ信任を集  
めて大正七年には區長に推薦さる、大正十三年區長  
を辭し十四年四月選ばれて村會議員となり現在に至  
る。

友林伊之助君

友生村大字下女生 明治二十一年八月四日生

家族 父松平(七二)妻たつ(三五)同村界外田中武郎姉、長男正夫  
(一五)長女小夜(一三)二女晶(一一)二男千秋(七)三男立己  
(富才)  
友林君は友生村の青年有力者なり、壯年時代より衆  
望あり選ばれて消防小頭同組頭等に擧げられ同村自  
警の任にあり信任を得、又自ら農家組合を組織し組  
合長に選ばれ現に其職にあり、大正十年には衆望の  
歸する處村會議員に選ばれ同十四年三月再選して現  
在に至る、前途ある青年政治家として矚目されつゝ  
あり。



げらる、爾來  
明治三十二年  
四月友生村學  
務委員同年十  
月三重縣會議  
員(再選)三十  
四年友生村會  
議員三十八年

四月友生村長同農會長四十年友生村會議員(再選)三  
重縣農會評議員四十二年友生村長(再選)友生信用組  
合長理事、三重縣農會評議員(再選)四十四年阿山郡  
農會評議員、爾來重任現職)大正二年友生村會議員、  
友生村長共に再選大正六年十一月同上重選、大正十  
一年二月友生信用購買組合理事(爾來重任)等に選舉  
せられ縣治村政等に盡力したる人にして阿山郡一方  
の重鎮たることを失はず、明治三十九年四月には日  
露戰役の功により勳八等を授けられ四十一年十月に  
は海員救濟會特別會員、日本赤十字社特別社員に列  
せられ大正四年十一月には大禮紀念章を授與せられ  
大正九年には多年地方公共の爲め盡力したる功によ

大澤寅松君

友生村大字中代 明治七年四月二十日生

家族 妻ふん(四九)山田村中村岡本藤七長女、長女い(二四)二女  
みさ(二一)三女しよ(一八)五女京(一一)婿貞雄(二五)山田村  
中村稻森増五郎二男、孫澄代(二)  
大澤君明治二十七年近衛歩兵第四聯隊に入營二十八  
年十月臺灣土非討伐軍に従ひ功を樹て勳八等を授け  
られ三十七八年の役に從軍し歩兵軍曹に進み勳七等  
青色桐葉章を下賜せらる、歸郷後在郷軍人分會長に  
就在する事を久ふす、又同村消防組頭として縣知  
事より表彰せられ篤農家として村より表彰せらる等  
其美事多し大正十五年二月選ばれて大字區長となり  
現在に至る、其他檀家總代、氏子總代、信用組合幹  
事等に歴任し現に其職を兼ね地方の爲め力を致しつ  
ゝあり。

大偶教典君

友生村大字上女生 明治三年十二月二十六日生

家族 姉しな(六〇)姪沼子(二〇)東京宮田高女出身  
大隅君は豊山派眞言宗大龍寺の住職なり、福井縣福  
井市佐佳枝町に生る、明治十二年越前三國町性海寺  
に於いて出家得度長じて江州竹生島に佛學を修業し  
後京都大佛智精院、名古屋長久寺佛教聯合學校、早  
稻田大學等に學び學成り江州伊香郡菅山寺住職、同

郡醫王寺住職等に歴任し大正十一年四月大龍寺住職となり現在に至る、資性温厚にして漢詩園基等を好み良宗教家としての聞高し。

小澤要太郎君

友生村大字下女生 明治二十三年六月十六日生 妻いよ(三三)長男周平(二三)二男鐵太郎(九)長女いよ(八)二女たき(二)

小澤君本姓溝脇同村に生る、長じて小澤家に入婿其姓を冒す友生村に於ける青年村會議員として前途を囑目されつゝある人なり、青年團役員消防小頭等に歴任大正十四年三月には衆望の歸する處村會議員に選ばれ今日に至る、農を業とし養蠶、畜牛等の副業をなし家政また勢あり。

小澤猿之助君

友生村大字下女生 慶應元年十月十日生 長男美知(三六)長女八重(二九)二男修(二四)東京醫學專門學校在學、婦きん(三三)同字小澤きん孫、孫迪(二四)格(九)諸(七)殺郎(六)

小澤君本姓澤同字澤吉左衛門の六男に生る、明治二十四年小澤家に入婿して其姓を冒す、明治十二年十二月郡制發布と同時に阿拜山田郡書記拜命明治二十二年辭して主税部上野出張所屬に就任二十六年六月辭職二十七年友生村書記を拜命し二ヶ年にして辭す

後大字下友生區長に選ばれ就任二十ヶ年に及ぶ、明治三十九年米穀検査員を拜命し大正十四年八月迄勤務し地方の爲め其全生を捧じたる人なり、因に長男美知君は上中卒業後大阪高工探鑛冶金部を卒業後大阪鑛山監督局に勤務せしが母歿後辭任歸郷し家事に従事しつゝあり、友生村屈指の有力者たるを失はず

小澤金太良君

友生村大字下女生 明治四年十一月四日生 母なを(七九)妻さらを(五)山田村大字富岡富山源三郎長女長女(三三)同字内へ分家、長男亮一(二六)成漢中學在學

小澤君農を業とす、性温厚にして仁俠あり、村民の信任を受く、消防小頭、村役場書記、氏子總代、檀家總代等に歴任して其識見を認められ友生村々會議員に選舉せらるゝこと前後四期、村内の功勞者として尊敬せらる、又大字區長信用組合監事に擧げられ現に其職にあり、地方公共の爲め力を致しつゝあり

辻澤熊次郎君

友生村大字界外 慶應三年一月十七日生 長男長次郎(三〇)長女きん(三四)上友生中野駒吉妻、二女まさ(二六)上野立番町荒木隆妻、婦かじ(二六)上友生曾我龜市長女、孫哲次(八)さみ(當才)

辻澤君は農を業とす、明治二十年砲兵第四聯隊に入營、日清戦争に従軍し歸郷後消防小頭、組頭等に擧

げられ大正三年には大字區長に就任別に信用組合監事、氏子總代等に歴任大字の爲めに力を致す、大正十四年三月選ばれて村會議員となり現在に至る。

辻本尊明君

友生村大字界外 明治十九年三月二十七日生 妻すゝ(三四)鳥取縣より、長女園子(一一)長男平(七)二男正(四)

辻本君は眞言宗豊山派西光寺の住職なり、奈良縣高市郡高市村辻本佐太郎の五男に生る、明治三十年大和長谷寺に於いて出家得度し同寺に於いて數年間佛學を修業し更に東洋大學に入り學を修む、後眞言宗別格本山たる室生寺に勤務し同寺山林經營の議起り物議騒然たるに寝食を忘れて之れが善後策に奔走し遂に理想的山林の經營を見るに至らしめ管長より謝辭を受く、西光寺は本尊阿彌陀如來にして其脇立觀音勢至の二菩薩は國寶に編入せられたる名刹なり

山岸釣太郎君

友生村大字中女生 明治十七年七月十二日生 母いよ(八二)妻なら(四五)美濃多村新田山村家より、長女かづよ、次女ふじ枝神戸村掛川坂橋家へ、長男周一(二七)上中在學

山岸君は丸柱小學校長なり、明治四十一年三月三重縣師範學校を卒業玉瀧村尋高小學校訓導に四十三年

上野町忍町尋常小學校訓導に四十四年三月友生小學校に大正十四年三月丸柱尋常高等小學校訓導兼校長に榮轉今日に至れる人にして資性剛直子弟教養に熱心なる趣味を有し父兄間の信任厚く良校長としての聞あり、自宅は小量の自作農をなす。

山本定吉君

友生村大字蓮池 慶應二年二月十四日生 長男克巳(三八)婦のぶ子(三三)上野丸之内佐々木勝之助長女孫銀一(八)清二(五)和子(當才)

山本君は現友生村長にして伊賀國屈指の老政治家として其名遠近に高し、明治二十五年七月大字蓮池區長に選ばれたるを公職の振出しとして二十八年七月同區長再選、三十一年十月には阿山郡會議員に當選三十三年二月には友生村助役に當選三十六年には衆望により三重縣會議員に選舉さる、次いで明治三十七年友生村會議員三十七年四月友生村長再選三十八年四月友生村長辭職、三十九年四月日露戦役の功により勳七等青色桐葉章を授けらる、明治四十年再び三重縣會議員に當選、四十三年友生村會議員に重選大正元年阿山郡會議員に再選、同年三度三重縣會議員に當選し大正三年一月には阿山郡會議長に當選、大正六年同十年に村會議員に重選、同年所得税調査

委員に當選、大正十二年友生村長に當選して現在に至る、資性温厚にして衆望あり稀れに見るの衆望家として推賞に値ひするものあり。

山本鹿太郎君

友生村大字上友生 明治二十年十二月十五日生

家族 妻たけの(五三)同村前澤利助長女、長男一郎(三八)三男三郎(三三)名張町八丁梅田傳吉養子、長女よし(二七)上津村山本春太郎妻、婦しず子(三〇)上津村山本茂長女、孫千江(十三)

山本君は友生村の有力者にして同村の元老として信任せらる、明治二十三年同村書記を拜命し収入役に任せられ明治三十三年には同村々長に選ばれる、明治三十七年退職し三十九年より伊賀上野銀行に勤務大正五年退職す、明治四十二年衆望の歸する處郡會議員に選ばれ爾來四期間重選、又村會議員たること十數年に及び現に其職にあり、又大正十一年一月より友生信用組合長に推され現に其職にあり村治産業の爲め力を致しつゝある人にして稀れに見る人格者なり、長男一郎氏は大阪にあり電氣機具の工事請負業を經營しつゝあり。

澤

雄君

友生村大字下友生 明治五年五月二十四日生

家族 母千代、妻かつ上野玄番町野村久四郎、長女衣枝上野重飯北

は現友生村助役にして社交に長じたる信任家なり、大正元年八月友生村助役に擧げられたるも大正三年辭任、大正十年三月衆望により選ばれて友生村會議員となり、大正十三年一月八日再び友生村助役に擧げられ現在に至る。

清水 玄 俊君

友生村大字下友生 明治二十二年九月廿五日生

清水君は上野町大字忍町の出身にして現私立成蹊中學校長なり、年十七歳にして兩親に別れ上野忍町山溪寺先住玄拙師の門に入り出家得度す、師僧の慈みを受け上野中學校に入學せしも十八歳のとき生徒の同盟休校に参加退學を命せられ京都中學に轉ず後學成り歸郷して友生小學校に代用教員を奉職す、大正二年四月志しを樹て臨濟宗大學本科に入學大正六年卒業後叡山天臺宗西部大學に入り教疏を研むること三年大正九年名古屋德源寺専門道場に入り禪學を研究す、師の感化を受け子弟の教養に深く趣味を有し大正十年歸郷五月上野愛宕町法輪寺を借り受け成蹊中學塾を起す、當時は生徒僅かに三名にして資金なき爲め飯臺を机として授業し容易ならぬ經營難

村善七妻、長男一以、婦壽々同村澤健藏二女、二女瑞枝上野愛宕町清水泰夫妻、三女小枝上野農人町橋井專一妻、四女すみ上野桑町山岡景三妻、五女きよ、孫正美、格哉

澤君は伊山初等教育界の長老にして夙に聲望高き人なり、明治二十一年祖父の言に隨ひ教育者を志し縣立師範學校に入り二十五年三月卒業爾來阿拜山田郡高等小學校、九成高等小學校の訓導に就任三十二年四月友生小學校長に榮轉後更に丸之内校長、白鳳校長兼裁縫學校長、阿山郡立女子技藝學校長、上野男子校長等に歴任大正元年名賀郡視學に榮轉後桑名郡視學より再び名賀郡視學に轉じ大正八年十一月には多年教育事業に貢献したる功により從七位に叙せられ十二月には勳八等瑞寶章を授けらる同九年再び上野男子校長に轉じ十二年七月名賀郡猪田校長に任せられ現在に至る、和歌書道に興味を有する模範的教育者なり。

澤 健 藏君

友生村大字上友生 明治十年十一月十三日生

家族 妻勝枝(四五)同村噴代廣岡芳次郎長女、長女佐恵(二七)新居村新居貫一妻、二女壽々(二四)同村澤一以妻、長男盛郷(二一)三女美恵(二七)

澤家は友生村の舊家にして代々藤堂藩の郷士たり、彼の伊賀亂の當時より連綿たる家柄なりと、健藏君に辛慘至らざるなかりしが遂に克く之に撻ち大正十二年三月には現校舎を新築卒業生を出すこと前後四回現在には八十名の生徒を有する迄に至る。

杉池 兼 藏君

友生村大字噴代 明治十年九月二十八日生

家族 父兼治(七〇)母こかれ(六八)妻ゆき(四八)同村大澤寅松妹、長女しづ(二二)三女きぬ(一八)四女せい(一五)婿正一(二九)阿波村猿野福路己之助二男、孫英敏(四)

杉池君農を業とす、明治三十年十二月歩兵第九聯隊に入營下士適任証を得て歸郷、明治三十七八年の役に從軍して偉功多く歩兵軍曹に進み勳七等青色桐章を授けらる、凱旋歸郷後衆望あり消防小頭、氏子總代、村役場書記等に歴任し信任を加へ大正十四年には同村々會議員に選ばれ今日に至る、因に養子正一君は陸軍看護長適任証を授領せる成良優良の軍人なり。

山田 村

稻 増 寛君

山田村大字平田 元治元年五月九日生

家族 妻、ま(六一)同村富岡富島莊母、二男ありしも早世す、養女



倭文子(二六)上野實科高女在學  
稻増君は平田郵便局長にて高等官六等  
待遇正七位勳六等に叙せられたる縣下有数の三等郵便

局長なり明治十七年山田村真泥同千戸公立學校首座  
教員に補せられ十八年平田公立學校に轉じ二十年二  
月辭して平田登記所備書記となり二十年十一月山田  
治安裁判所相可出張所詰を命せられたるが都合によ  
り同年十二月依願退職二十二年四月平田郵便局長に  
任せられ爾來今日に至る迄約四十年に達する間一日  
の如く通信事務に従事しつゝあり、官其徳を嘉みし  
明治四十三年十月に正八位に叙し翌年六月勳八等  
を授けられ大正三年には遞信省規定により第二級勳  
功章を授與せらる、次いで大正六年四月には正七位  
勳七等に、九年十二月一級手當を給せられ十二年八  
月正七位に叙せられ十五年一月には高等官六等を以  
て待遇せられ同年三月勳六等を授けらる、其他明治

三十八年十一月には山田購買組合理事兼組合長に推  
され地方の爲めにも貢献しつゝある稀れに見る人格  
者なり。

### 稻森 龜 一君

山田村大字平田 明治十八年十月八日生

家族 父乙治郎(六六)母母てい(五八)妻きみ(三七)府中村千歳秋田  
道之助二女、長男一善(一六)長女きよ(七)弟良夫(二五)  
稻森君は農を業とする陸軍歩兵豫備中尉なり、明治  
三十七年縣立第三中學校(上野中學)を卒業翌年一年  
志願兵として歩兵第九聯隊に入營同四十一年歩兵少  
尉に任官正八位に叙せられ大正八年中尉に進めらる  
明治四十年山田小學校に奉職し大正十年迄勤続、同  
年上野中學校囑託教諭となり十四年三月辭職す、明  
治四十三年式郷軍人會山田分會副分會長に任せられ  
大正七年分會長に推され十二年退職同時に阿山郡聯  
合分會理事に就任現在に及ぶ、資性温厚業務に熱心  
なるが故に常に長官の信任を受く、大正九年在郷軍  
人會に永年功績ありし廉を以て帝國在郷軍人會長よ  
り表彰せらる、園基、讀書、舞踊、園藝等多趣味の  
人なり。

### 西尾 義 一君

山田村大字出後 文久三年三月十一日生

家族 妻まさの(六四)長女さらの(三七)婿桐之助壬生野村西澤家喜

稀れに見る地方の大恩人と云ふべきなり、殊に村會  
議員の如きは毎期改選毎に重選して永年勤続し教育  
衛生土木勸業の施設に對し献策到らざるなく村内唯  
一の徳行家として尊敬せらる、又公共心に富み小學  
校建築資金、愛國婦人會、日本赤十字社等に献金す  
る處からす其他道路橋梁の架設改修に私費を投じ  
たること枚擧に遑あらず、因に西尾家は延享二年に  
獨立せられたる舊家にして養父清四郎氏は縣會議員  
其他の公職にある事久しく地方の爲め力を致したる  
人なり、養嗣子桐之助君又陸軍豫備少尉として前途  
を矚目されつゝあり代々偉材を有する名門なり。

### 西 口 駒 助君

山田村大字炊 明治十九年十一月十九日生

家族 母かめ(六七)妻きんの(三九)府中村大字土橋勝井藤右衛門  
妹、長女やよひ(一七)久居高女在學、二女かつよ(一一)長男  
立身(八)三女よし(五)

西口君は山田村消防組頭なり、明治卅九年大阪砲兵  
第四聯隊へ入營上等兵に進み除隊歸郷後特に擢かれ  
て伍長に進む、大正五年大字炊區長に選ばれ又信用  
組合理事、氏子總代等に擧げられ就職六ヶ年克く大  
字の爲め貢献す、又傍ら消防組小頭に就任大正十四  
年四月には推され組頭となり同年三月には衆望の歸



安次郎二男、孫  
義三(二〇)義重  
(二八)以上上中  
在學、陸男(一  
五)千榮子(一  
三)芳子(一一)  
英夫(五)壽満子  
(二二)

長じて西尾家に入婿其姓を冒し義一と改む、資性温  
厚にして公共心あり村民の信任厚く一村の尊敬を一  
身に蒐むる山田村の長老なり、明治廿四年消防取締  
役に就任したるを公職の始めとして廿七年には同小  
頭、明治廿八年には山田村會議員及び學務委員、卅  
一年十月には山田村收入役、卅五年には株式會社伊  
山銀行取締役、明治卅六年十月には郡會議員、郡參  
事會員、卅八年十二月には山田村信用購買販賣組合  
を組織して之が理事四十二年には所得税調査委員、  
大正四年五月には伊山銀行常務取締役(同十年退職)  
大正九年には再び郡會議員、所得税調査委員に選ば  
れ郡治村政の爲めに永年力を致したる人にして實に



する處村會議員に當選現任中にあり前途多事なる人として矚目されつゝあり。

西口定次郎君

山田村大字炊 明治七年十一月二日生

家族 母こま(八四)妻こさめ(四六)西拓植村柏野山中甚四郎二女、長女かれの(二八)村内畑川野喜十郎妻、長男定夫(二三)二男力(一六)婦たづ(二〇)

西口君は山田信用組合常任理事なり、縣立師範學校を卒業後教育界に身を捧し永年子弟教養に力を致し父兄の信任日に厚きものありしが辭して山田村收入役となり後助役に就任更に信用組合常任理事となり現在に及ぶ、資性温厚にして村民の信任厚し。

西島鐵次郎君

山田村大字甲野 明治十一年十月七日生

家族 母みれ(七〇)妻すみの西拓植村愛田岡森清次郎五女、長男純友(二四)二男修(二二)三女ふみ(一四)四男隆(一〇)

西島君は山田村助役なり、明治廿九年九月山田小學校に準教員として勤務明治三十五年三月三重縣師範學校を卒業縣下二見第一尋高小學校訓導となり卅六年津市立養正學校に轉任同年十二月阿山郡九成高等小學校に三十九年七月平田小學校に大正三年壬生野校に大正八年上野女子校に大正九年度會郡大内山校に大正十年中瀬尋高小學校々々に榮轉大正十三年二

月依願退職翌月附を以て山田村助役に就任今日に至れる人にして縣下教育界に奉公の誠を致せる功勞者なり、資性温厚にして園基を好む。

富島莊君

山田村大字富岡 明治十四年八月二十四日生

家族 繼母しかの(六〇)妻きく(五〇)長女千代子阿波村谷口千五郎妻、長男茂義(二六)二女三子(二四)宇治山田市浦口町川端講三妻、三女芳子(二二)同村中野西尾文八妻、四女止江(一八)五女子(一五)四男茂利(一四)六女悠紀子(二二)婦たま子同村岡島五三郎二女

富島君は伊山銀行常務取締役として伊賀に於ける有力者として知らる、資性温厚にして信用厚く又公同心あり郡内の先覺者として定評ある人なり、衆望の歸する處多年阿山郡會議員として選ばれ郡治上貢獻する處尠からず、又所得稅調査委員として當選すること數回現に其職にあり、其他村會議員、會社重役等に擧げられ地方自治産業の爲め力を致す處尠からず、衆望日に重きものあり地方の爲め欠くべからざる人物なり。

大井銑太郎君

山田村大字畑 慶應三年四月八日生

家族 妻なつ(五五)西拓植村大字下拓植植幾造妹、長男鐵舟(三六)婦はる(三六)西拓植村下拓植松本甚之助二女、孫百子(九)之子(四)

大井君は郷社植木神社々掌なり、幼にして書を好み堀西米中に師事して専ら其書風を學び又篆刻を伊勢松阪町刀禰端義について研究し共に其秘風を得、號を南畝と稱し南宗畫に妙を得たる隠れたる畫家なり明治廿八年奈良縣の囑托を受け奈良公園の製圖係となり大いに其技を認めらる、同年現在の植木神社々掌として奉職以來今日に至る。

岡山五三郎君

山田村大字富岡 明治十年四月十六日生

家族 養父常松(七二)妻やす(四九)二女たま(二二)同字富島茂義妻三女さみ(一九)

岡山君は株式會社伊山銀行常務取締役なり、本姓藤村名賀郡上津村大字北山藤村五平治の二男に生れ岡山家に入婿して其姓を冒す、山田村の有力者として信用厚く選ばれて村會議員となりたること四期、又明治四十五年三月には阿山郡會議員に選ばれ地方行政の爲め力を致したる處多し、明治三十八年株式會社伊山銀行取締役に擧げられ爾來重選大正十一年には常務取締役に選舉せられて現在に至る、資性温厚にして業務に熱心地方民の信任厚き人なり。

岡森豊二郎君

山田村大字中村 明治十七年九月二十日生

家族 妻みさ(三九)同村岡島善四郎二女、長男弘(二〇)尾鷲小學校 妻、長男(一六)

校在勤、二男實(一七)上中在學、長女強(二二)

岡森君は友生尋常高等小學校校長なり、明治卅八年七月三重縣師範學校を卒業、卅九年六月六週間現役兵として歩兵第九聯隊に入營徴兵の義務を了へ島ヶ原小學校訓導に任せられ大正二年友生尋常高等小學校訓導に轉じ大正十四年四月友生學校校長兼同村實業補習學校長に就任、大正十五年六月友生村青年訓練所主事並に指導員を囑托せられ今日に至る、資性温厚にして子弟の教養に熱心なる爲め父兄間の信任厚し

中尾治君

山田村大字眞泥 明治二十一年三月二十日生

家族 妻よね同村北川徳藏長女、長女いち(二〇)同字西島傳次郎

中君本姓は中尾、同村大字中島、清右衛門君の弟に生れ中家の嗣として養はれ其姓を冒す、同村消防小頭及び小頭部長に任せられ又青年團創立に際し盡力して評議員副團長等に選ばれ信任を得大正十年には大字眞泥代理區長となり大正十四年三月には衆望の歸する處村會議員に當選現在に至る、又明治四十四年大字眞泥農家組合を組織し其理事となり大正十五年七月には山田製材株式會社監査役に選ばれ地方自治産業の爲めに盡しつゝあり、園基を好み之を樂し

中道 平右衛門君

山田村大字富岡 明治廿一年一月二十五日生

家族 母小きん(五八)同村中村福本己之助方出、妻きんの(三三)同村千戸福川銀之助長女、長女しげ子(二五)二女みさを(一一)長男實(八)二男乙次郎(六)

中道君は山田村の有力者なり、農を業とし衆望あり選ばれて青年團副支團長、組長等に擧げられ大正十四年四月には大字富永區長に推されて就任し大字の爲め力を致しつゝあり、其他氏子神社、産業組合理事等に就任し村治宗教方面の爲めに奔走しつゝあり

中森 官治郎君

山田村大字畑 明治元年三月十八日生

家族 妻うめの(五七)同字野家より、長男雅男(三八)三男剛男(三二)步兵像備少尉在東京、四男金之助(二六)在東京、長女さくさ(四〇)婿みさ(二八)同字中森嘉右衛門長女、孫清子(二三)温子(七)俊子(三)

中森君は山田村の有力者なり、明治十七年平田小學校に奉職し廿八年辭して村役場書記となり村民の信任を得、爾來消防組頭、學務委員、郡會議員、村會議員助役、村長等に選舉され村治郡治の爲め貢献する處不尠、中途一切の公職を辭し家業に従事せしが大正五年再び村長に選ばれ三ヶ年間勤務大正十四年三月には村會議員に選ばれ現在に至る、長男雅雄君



は大阪醫科大學を卒業後同校に實地の研究をなし大正七年歸郷自宅に醫院を開設内外科其他一般の診療に従事しつゝある

が特に小兒科眼科を得意とせらる由(寫眞は長男雅男君)

山出 兼三郎君

山田村大字千戸 慶應元年五月十八日生

家族 妻かめの(四七)壬生野村山畑中森亥之助姉、長女小きん(三〇)婿定次郎同村小上野上田秀治郎弟、孫兼次ゆき子、茂

小出君は山田村の有力者なり、衆望の歸する處消防小頭に任せられ明治三十七年には大字區長に當選大正十年迄十八ヶ年勤務す、此間公有林整理委員、信用組合創立委員、同理事氏子總代、第一回國勢調査員、蕙組合代議員、電信電話架設陳情委員等に擧げられ克く其任を完ふし衆望彌々集まる、大正十四年三月には選ばれて村會議員となり現に其職にあり今尙地方の爲め努力を惜まず、又大正二年米穀検査委

員に任せられ大正十二年迄勤務す。

山本 龜次郎君

山田村大字甲野 明治十七年二月二十四日生

家族 父鐵次郎、妻壽榮(三八)上野町小玉町岸畑駒吉女、長男憲一(一八)鳥羽商船校在學、二男壽二郎(一六)上中在學、三男三郎助(一三)長女千鶴子(九)

山本君醫を業とす、明治三十八年上野中學校を卒業後京都府立醫學專門學校に入學同校を卒業後一ヶ年間實地研究の爲め助手として同校に勤務後京都東寺濟生病院に勤務し更に技術の研鑽に努め明治四十三年歸郷醫院を開設して一般患者の診療に従事し今日に至る、君は特に産婦人科を得意として其方面の研究には常に心を用ひつゝあり。

山森 房次郎君

山田村大字鳳凰寺 慶應元年四月八日生

家族 母てう(八九)妻ます(六〇)壬生野村山畑福森千太郎叔母、長男忠次郎(四)長女ま(三四)同字沖森清助妻、二女はま(三〇)同字福森彦四郎妻、三女きね(二二)布引村廣瀬廣島兼三郎妻、婿たね(三七)壬生野村川東服部惣五郎長女、孫靜(一七)丈夫(二二)勉(七)

山森君は鳳凰寺の區長なり、當家は村内の舊家にし明治の中頃其所有塚より發掘せる土器、古刀、曲玉、管玉等を保存す、長男吉次郎君は消防小頭部長青年團役員等に就任せることあり、大正十三年二月

父が區長となるや主として其事務を執り區民の信任を博す。

前川 寅松君

山田村大字畑 明治六年 日生

家族 妻さめの(五一)同村中村中森鐵次郎姉、長男庄造(三二)次男由雄(一九)同村畑岩名庄十郎養嗣子、長女たま(二六)同村中村井上駒次郎妻、婿くまの(一九)府中村服部南由造女、孫保、すみへ

前川君は農を業とする山田村の有力者なり、其趣味甚だ多く書畫骨董、園藝、茶道、花道等なり、何事によらず熱心にして又他人に接するに極めて懇切なるが故に衆望あり消防小頭を始めとして大字區長、村會議員に選ばれること二期、又檀徒總代たる事二十ヶ年、農會評議員其種々の村大字の役員に擧げらるること數回地方の功勞者として與望あり。

福森 鐵次郎君

山田村大字畑 明治七年十月十日生

家族 母さめ(八九)孫清美(一一) 福森君は農を業とし村内に信用あり、其家庭は不幸にして妻を喪ひ長女に逝かれ婿を離別し現在母と孫の三人暮しにて同情すべき寂寞な家庭なるも君常に家庭の事を顧みず地方の爲め貢献しつゝあり、其志の美なる賞すべきものあり、衆望の歸する處消

防小頭、區會議員、青年團幹事等に歴任し大正九年大字區長、信用組合理事に當選爾來今日に至れる人なり。

惠寶猪代松君

山田村大字出後 明治元年十二月十六日生  
家族 妻まさの(六〇)同字川合興兵衛次女、長男利(三五)二男徳(三一)布引村廣瀬山宗平養嗣子、長女蝶子同字出後三郎妻、姉さらの(三二)同字畑森岡兼次郎女、孫初子(一三)あさ子(九)歌子(四)

惠寶君は篤農家として郡農會縣農會等より表彰せられたる人なり、明治三十四年第五回内國勸業博覽會に自作農産品を出品したるを始めとして諸種の品評會共進會等に出而して受賞すること六十五回の多きに及ぶ熱心家なり、故を以て村民の信任厚く青年支團長、大字區長、村會議員、阿山郡畜産組合議員、試験田担当者等に選ばれる、こと年あり事毎に信任を高む、大正五年には本縣知事より畜牛肥育試験の依頼を受け金五十圓を交附せらる、其他君の篤行については殆ど枚舉に遑あらざる位にして珍らしき篤農家と云ふべきなり。

青木熊次郎君

山田村大字千戸 明治二年六月二十八日生  
家族 妻つれ(五六)長男昌一(三八)二男富二雄(三六)河合村圓徳院

行を窺ふに難からず、又同村見越曠の修築に當つて献身的に努力せる爲め區民の尊敬する處淺からず常に相謀りて之が記念碑を建設し君の徳を永久に傳ふる事となれり、因に養嗣子は小學校訓導として目下山田校に奉職中。

桃井日秀君

山田村大字畑 日生 文久三年 月  
家族 妻なる(五六)龜山町舊館細木榮疑女、養女すか(二三)山田村出後永井奈長之進長女、婿正吉(二七)香川縣綾歌郡林田村澤田佐次郎四男、孫善隆(一)

桃井君は本門法華宗妙藏寺の住職なり、資性温厚稀れに見るの名僧として聞あり、常に子弟の教養に力を致し其薰陶を受し者二百餘に及ぶ、君の教へを受けし子弟等相謀り其還曆に際し懷徳碑を建設して其徳を永久に傳ふる事とせり其除幕式の當日阿山郡長が述べたる祝辭の一部を記して傳に代ふ、曰

君資性剛直ニシテ恬淡幼ニシテ佛門ニ入り勤苦業ヲ終ヘテ日蓮宗妙藏寺ノ住職トナル、學ハ和漢ニ通シ徳ハ近郷ニ遍ク地方宗門ノ重鎮トシテ教養ノ普及人心ノ啓發ニ資スル處妙カラズ加フルニ餘力ヲ郷黨子弟ノ教養ニ注キ精勵甚ダ努ム蓋シ彼ノ徒ラニ世俗ヲ避ケ倫安ヲ食ル徒トシテ論ズベカラザルナリ、宜ナル哉君ガ心血ヲ注テ輩陶セル二百ニ近キ子弟ハ桃園會ナルモノヲ組織シ一郷ノ中堅トシテ其活動大ニ見ルベキモノアリ而シテ君ヲ敬慕スル至情禁シ難クテ茲ニ懷徳碑ヲ建設ス。云々

中森家へ、長女すゞの(三二)村内畑岡憲延次郎妻、二女りす(二八)布引村川北森川逸太郎妻、孫英子(二)和子(一〇)昌恒(五)昌久(三)

青木君本姓山出同字佐右衛門の二男に生れ青木家に入婿して其姓を冒す、熊次郎君衆望あり明治二十九年村會議員に選ばれ六ヶ年間就職満期退職せるが大正十年再び選ばれて村會議員となり十四年満期退職村治に盡したる人なり、長男昌一君は上野中學校を卒業後農科大學實科を卒へ陸軍省より獸醫學校に入り同校卒業の際は恩賜の銀時計を拜領したる俊才なり、目下静岡縣三島砲兵第三聯隊に勤務し正七位勳四等一等軍醫の要位にあり。

東 鐵 治君

山田村大字眞泥 文久三年八月二十日生  
家族 長女なつ(四〇)婿金之助(四一)府中村大字坂下高島榮次郎二男、孫勇(一六)敏郎(一三)

東君は農を業とし篤農家の聞ある人なり、常に家業に精勵し農事改良について特に趣味を有し之が改良に力を致す、衆望の歸する處區長、村會議員、氏子總代たること多年、眞泥橋山田橋の架設に際し監督として萬遠算なきを期し又同村小學校の新築村有林の植林について功あり三重縣篤農家として特に梨本宮殿下よりの御招待を辱ふし上東せる等以て君の性

森口龜次郎君



山田村大字風凰寺 明治元年十一月二十三日生  
家族 妻きん(五四)同村中森惣兵衛二女、長男藤重(三八)日本石油會社秋田製油所勤務、長女：めの(三四)上野玄番町中森龍江に嫁す、婦くまを(三六)三田村三田地兼次郎三女、孫禮貞(八)武夫(五)

森口君は山田村長なり、本姓は稻森居村大字中島に生れ森口家に養はる、明治三十年四月山田村書記に任せられ同三十五年二月山田收入役となり三十八年三月村長に選ばれ四十三年十月辭職す、大正元年八月選ばれて阿山郡會議員となり大正六年山田村々會議員となり大正八年一月再び山田村長に當選爾來重選して今日に至る、其他郡農會評議員、同畜産組合評議員、教育會理事、養蠶組合評議員等に選ばれ郡治産業の爲め終始力を致しつゝある人にして村民の信任厚く郡内の有力者として尊敬せらる、性温厚にして無言實行の人なり、園恭を好む、日露戰役の功により勳八等を授けらる。

森島與兵衛君

山田村大字眞泥 慶應二年三月十三日生  
家族 妻ふじ(五九)同村炊竹内與左衛門女、長男龜與太(四一)婿、ま(三七)同村富岡岡島文六より、孫與津子、賢太郎

森島君は染物業を営み村内の有力者として知らる、同家の營業は明治十二年創業せしものにしてそれまでは農を営みしと、君明治三十三年衆望を擔ひ村會議員に當選、後滿期毎に當選して三期に及ぶ、大正十四年には同村學務委員に選ばれ現在に至る、長男龜與太君は俳冬を好み吟星と號し同好者中重用視せらる。

布引村

濱田信太郎君

布引村大字廣瀨 明治十年二月一日生  
母ふじ(七四)妻いち(四二)山田村甲野北村辰造長女、長男信樹(二二)高等學校豫備在學

濱田君は從五位勳四等陸軍歩兵豫備少佐と云ふ武勳赫々たる武人である、歳十四にして東京に出で光玉社(一に近藤塾と名づく)に學び海軍豫備學校より陸軍士官學校を卒業し少尉候補生となり豊橋靜岡臺

灣滿洲の駐屯軍等に派遣せられ陸軍歩兵少佐に累進して後豫備兵役に編入せられ歸郷農に親しみつゝあり、性磊落にして剛直苟しくも野望を抱くが如き事なく歸郷後植林を唯一の樂みとし素衣を纏ひ一見好々爺として山林の手入に餘生を送りつゝあり、衆皆其行ひを賞す。

番條寅治郎君

布引村大字坂下 明治六年八月二日生  
家族 妻さみよ(五〇)同字新龜松妹、弟久吉(三五)相續人として自宅、姉す(二八)名賀郡比自岐村中西常松女、孫久二夫(八)

番條家は代々木材商を営みしが寅次郎君の代となり木材商を廢し農業本位となり、養蠶、畜牛等を殷にす、明治四十三年大字區長に選ばれ重選して大正七年に至り一時退職區長代理を勤務せしが十五年二月再び區長に擧げられ現在に至る、其他信用組合理事氏子總代等に就職しつゝあるが殊に神社の合祀についてには特に盡力せし人なり。

西尾太治郎君

布引村大字廣瀨 文久元年十月六日生  
家族 妻はや(五九)長女き(四二)同字廣瀨源之助妻、長男保雄(三八)二男秀彦(三四)保雄姉(三七)阿波村米野雅幸姉、秀彦、姉(二八)西柘植村新堂仁保喜(三三)三女、孫益己(一五)佐和惠(八)利榮(六)

西尾君は布引村の有力者にして明治二十二年五月町

村制實施と同時に布引村收入役となり二十六年五月滿期と同時に同村助役となり二十八年八月には同村長に就職、以來重選さるゝこと四期、十六年九月月に及び大正元年六月辭任、大正二年布引村會議員に選ばれ六年三月再選され大正七年には再び布引村助役となる爾來重選して今日に及ぶ、老齡鏗鏘として壯者を凌ぐの概あり、其他縣農會議員等に擧げられ明治四十四年には公有林整理に關し功勞あり縣知事より表彰さる、長男保雄氏は高商出身上野女子校に奉職二男秀彦氏は海軍少佐にし海軍大學在學中。

西川鐵藏君

布引村大字廣瀨 慶應三年五月十五日生  
家族 妻くま(五六)同村久保喜代松妹、長男敏男(三〇)嫁かめの(三〇)孫不二雄(一一)みつ子(八)

西川君は布引村の元老株として衆望ある人なり、農を業とし曹洞宗の信者なり、衆望の歸する處、布引村助役、同村長等に推され各一期宛の任期を無事奉職し又同村々會議員に選ばるゝこと前後四回十六ヶ年を通じて地方自治の爲めに盡力する處大なり、大正十四年四月大字區長に推され現任中なり。

大地頴夫君

布引村大字廣瀨 明治七年四月二十四日生  
家族 妻すみ(五五)西柘植村權國寺脇與一郎叔母、長男昂太郎(三

大地君は土木建築設計圖案の請負を業とす、明治二十三年三重縣師範學校簡易科卒業阿波小學校に十三年間勤続し後布引學校長に榮轉九ヶ年間勤続大正三年退職し爾來自宅に於いて土木設計建築圖製作依頼に應じつゝあり、大正十年衆望の歸する處選ばれて村會議員となり再選して現在に至る、長男昂太郎氏は目下九州福岡縣田川中學校に教諭奉職中、其他一門悉く榮ゆ。

田中甚三郎君

布引村大字中奥野 明治十二年一月十九日生  
家族 父兼松(七)母さみ(六九)妻のぶ(四六)同村福岡正之伯母、長男義郎(二七)次男健次郎(一九)三男光三(一一)長女しづ(七)嫁さみよ(二七)同村福岡正之姉、孫義一(六)修(三)

田中君農を業とし養蠶に熱心なり、明治三十四年伊賀上野銀行(百五銀行と合併)に勤務五ヶ年にして辭し布引村收入役に就任四十二年滿期退職後布引村養蠶組合幹事に推薦せられ就任現在に及ぶ、父兼松氏亦衆望あり大字區長に就任すること二十三ヶ年其他村會議員、郡會議員に選ばるゝこと三期、阿山郡政上に盡力したる人なり。

### 辻 忠太郎君

布引大字廣瀨 明治十四年四月九日生  
家族 母きく(七二)妻さよ(四〇)阿波村大字下阿波西保太郎姉長女みさを(二一)同字西川寅太郎妻、二女しづ(一六)長男喜太郎(一〇)二男美男(八)妹ならへ小田村森北兼次郎妻、はる布引村坂下東高次郎妻

辻君農を業とす、副業として養蠶畜牛を營む大字廣瀨の有力者にして消防小頭、青年團長、大字組長、檀家總代等に歴任し大正十年區長に就任十四年三月辭職同月村會議員に選ばれ現今に至る、曹洞宗を信ず。

### 辻極 藤右衛門君

布引村大字奥馬野 明治九年九月二十日生  
家族 母りき(八〇)妻たみ(四二)同村西極卯之助四女、長男一郎(二一)長女さだ(一七)二男二郎(二二)二女きぬ(九)三女しづみ(五)

辻極君は日露戦役に従軍し勳七等瑞寶章を授けられ歩兵軍曹に昇任せられたる軍人なり、郷黨の信任厚く區長代理者たること二期後大正十四年三月選ばれて布引村々會議員となり現在に至る、植林事業に興味を有し本願寺派を信仰す。

### 馬岡 次郎君

布引村大字奥馬野六九四 明治二十年七月三日生  
家族 妻玉枝(三四)長男清也(二五)次男清省(二二)三男清果(三)現三重縣會議員の馬岡君は阿波谷唯一の林業家で且

當選したる等は如何に君に與望あるかを知るに難くない大正十三年十二月三重縣參事會員に互選され縣政の爲め力を致す事多く衆益々其徳を稱して止まず前途幾春秋の政治家として矚目されてゐる。

### 久保 喜代治君

布引村大字廣瀨 明治十三年四月二十五日生  
家族 父喜代松(七〇)母はる(六七)妻まつ(四五)山田村出後彌川太郎妹、長男功(二七)嫁みさ(二四)山田村千戸貞吉長女、孫多氣志(二)

久保君農を業とす、明治三十三年布引村消防組頭に擧げられ爾來今日に及ぶ二十五年間地方消防の改善發達に力を致し功績大なるものあり、大正四年大正十五年の兩度縣知事より表彰さる、又明治四十五年阿山郡有林監理人を囑托され郡政廢止後も各町村より之を囑托されて現在に及ぶ、以て其平素自己の職務に對する責任感に富めるを窺ふに難からず衆皆其職務に忠實なるを賞す、長男功君は目下新居村役場に農業技術員として奉職しつゝあり。

### 山中 仙太郎君

布引村大字坂下 明治二十六年七月廿四日生  
家族 妻すゞ(五三)同字上山善松長女、長男正郎(一五)長女ゆき(一〇)二女とし(六)二男弘(三)

山中君は布引村に於れ少壯有爲の青年政治家として



つ富豪である伊賀に於ける舊國民黨の重鎮で故代議士福地鏡吉、前代議士堀川美哉、前縣會副議長蛭澤亦三郎の諸氏と交

友あり旺んに所謂川崎黨(憲政會)を惱ましたものである、年十五歳にして父に別れ病母を助けて克く家政を司る、性磊落社交に長じ特に公共心に厚く私財を投ずること尠からず、故を以て衆望あり大正三年布引村長、布引信用組合長、阿山郡信用購買販賣組合聯合會理事に選任せられ現在に至る、又地方金融界産業界等に貢献する處尠からず、大正二年以來伊山銀行取締役、伊賀窯業株式會社常務取締役等に選ばれ又馬野川水方電氣株式會社を起し其取締役社長となり共に現在に至る、大正十二年十月三日縣會議員の總選舉あるに際し舊國民黨系より推されて立候補したるに馳せ參じて助くる者多く遂に最高點にて

前途を矚目されつゝある人なり、大正二年歩兵第九聯隊に入營滿期除隊後青年團支團長に就任又區長代理に擧げられ更に在郷軍人會布引分會理事、班長に任命第一回國勢調査委員に任命各任務を完ふし青年團長より表彰さる、大正十四年三月には衆望の歸する處布引村議員に擧げられ現在に及べるが君の如き青年議員を農村に於いて得たるは稀に見る處なり

### 山本 伊之助君

布引村大字坂下 慶應三年二月十三日生  
家族 妻まつ(五六)同字西山元次郎叔母、長男丑之助(三八)二男光次郎(二六)長女ちよ(二八)同村奥馬野馬岡文藏妻、嫁さだ山田村甲野杉本道夫妹、孫さき

山本君は布引村の有力者にして農を業とす、明治四十年大字區長に選ばれ四十三年任期滿了後大字役員に再選して現在に至る、又大正六年布引村會議員に選ばれ十四年三月退職す、長男丑之助氏は海軍主計少佐として現職にあり又二男光次郎氏は陸軍歩兵豫備少尉にして現在郷軍人會布引分會長たり、一家一門の全盛山本君の如きは稀れなり、臨濟宗を信ず。

### 福澤 武治郎君

布引村大字川北 明治十六年四月一日生  
家族 母(七一)妻つみ(五三)安濃郡安東村川邊川邊長平姉、長男光郎(二二)長女ちよ(一七)

福澤君は日露戦役に従軍勲八等瑞寶章を授けられたる武勇の軍人なり、大正九年九月布引村役場に入り収入役に推されて就任、又同年十一月には同村産業組合の常任理事を依頼され共に現職にあり、此間常に職務に従事すること軍隊式にて秩序自ら備はり忠實の故を以て在郷軍人として収入役として表彰され衆人の範とせらる、家族は農を業とし本願寺派を信仰す。

福持興四藏君

布引村大字坂下 明治十五年九月三十日生

家族 父友次郎、母くま子弟熊之助(三八)大阪市東成區大今里町黒田家に養はる、馬次(三四)同字中川藤三郎養子、妹す(二七)妻しよ(三八)同字坂本信太郎姉、長男務(一九)

福持君は布引村書記として評判良き勤勉家なり、家族は農を業とし臨濟宗を信ず、明治三十八年布引村収入役に擧げられ四十三年満期退職、四十五年再び村役場書記に招聘され現在に至る、又同年布引村養蠶組合長に推され就任八ヶ年大正八年辭職す其他氏子總代、布引青年團副團長、坂下青年支團長に任じ地方の自治を始め産業青年團の指導等に力を致せし人なり

榮井嘉治郎君

布引村大字川北 明治八年十二月一日生

家族 妻なつ(四七)河藝郡玉垣村生川兼松妹、長女しづみ(二四)養嗣子武雄(二三)同字谷本長平弟、孫嘉文(四)

榮井君現布引村大字川北の區長なり、農を業とし家産あり、區長は父の代より繼續して今日に至る、二十ヶ年に近き間勤続す、嘉次郎君現在別に消防小頭も勤務し又かつて村會議員等にも選ばれたることあり、其他檀家總代、氏子總代等に選ばれ衆望あり、本願寺派を信仰し酒を好む。

阪本元之助君

布引村大字坂下 明治十七年一月八日生

阪本君農を業とす現名賀郡上津村小學校校長なり性温厚にして育英事務に興味を有す良校長として村民の信任厚し、明治三十九年七月三重縣師範學校を卒業し阿山郡西柘植小學校に勤務すること四ヶ年、後居村布引小學校に轉勤約三ヶ年勤務し後名賀郡阿保町小學校三ヶ年餘、奥鹿野小學校三ヶ年餘、瀧川小學校一ヶ年餘、比自岐小學校二ヶ年餘等に勤務し大正十二年三月末上津尋常高等小學校訓導兼校長として轉勤今日に至れる人なり。

廣田仙吉君

布引村大字廣瀬 万延元年十二月十一日生

家族 長男藤吉(四六)姉さよ同村久保喜代松長女、二男寅藏上野町本町澤家に入婿、長女かれよ阿波村下阿波上川龜太郎妻、孫一郎(二三)敏子(二一)

廣田君は布引村の有力者として又同村先輩として信用ある人なり、農を業とし篤農の開夙に高し、明治二十二年町村制實施以來大字區長及び村會議員に選ばる、こと數回、此間二十數年克く地方自治、教育産業の爲め力を致し晩年家を長男藤吉氏に譲り悠々自適しつゝあり、長男藤吉氏は現山田小學校長として令名あり次男寅藏氏は京都大學理學部研究部に勤務し其他一家一門悉く社會的地位を有し地方美望の的となれり。

阿波村

飯田俊正君

阿波村大字富永 明治十八年三月二十九日生

家族 妻たけの(四四)和歌山縣神谷神奈川楠太郎姉、長女てる子(一三)長男博一(八)

井上禹一君

阿波村大字上阿波 明治三年四月十四日生

家族 妻さく東柘植村下柘植高島齋之助妹、長男眞一(三三)姉ちよ上野町農人町中井將淑妹、孫誠一(五)

井上君醫を業とす、山田村の産なり、明治二十三年東京臨生醫學専門學校を卒業し實地の研究をなし明治二十七年歸郷開業して今日に至る、山田布引阿波の小學校囑托校醫となりし事あり、長男眞一氏は大正十年京都帝國大學を卒業後大學病院に實地研究をなし大正十四年博士號を授與せられ目下京都帝大研

究室に助手として奉職中。

### 猪野 仲 治君

阿波村大字上阿波 元治元年四月三日生

家族 妻しまの(五六)山田村甲野北村喜三郎妹、長男金之助(三四)長女まつる同村柳生龜藏妻、二女よしの同村下阿波沖森清次妻、二男伊一(下阿波中牛之助養子、三男萬之助(一六)四男友次郎(一七)婦ひさ子(二八)上阿波川瀬清太孫、孫文子(一一)長太(九)芳(二)

猪野君は阿波村の有力者にして明治三十七年同村々會議員に擧げられ三十九年區長代理となり大正十年三月選ばれて再び阿波村會議員となる、其他氏子總代、衛生委員、信用組合木炭部相談役員に擧げられ功勞あり、息金之助氏又青年支團長在郷軍人會班長等に選ばれ俳句を好み玉舟と號す、農を業とし天臺宗を信す。

### 池田 右十郎君

阿波村大字下阿波 明治十二年八月十三日生

家族 母かつ(七五)妻しかの(四五)同村下阿波森川長九郎長女、長男義男(二〇)長女さきの(二五)二男正次(一一)上野町野永尾丑之助養嗣子、三男勝己(一)

池田君農を業とし篤農家の間あり、村農會より表彰さる、明治三十二年歩兵第九聯隊に入營上等兵に進み滿期除隊後三十七八年の役に召れて從軍し武勳を樹て功により勳八等白色桐葉章功七級金鷄勳章を授



長男誠(四)

富野君は合資會社阿波自動車會社の支配人なり、明治四十三年歩兵第九聯隊に入營滿期除隊後名賀郡神戸村

二號地圖作製の囑托を受け之に従事し大正八年阿波村役場書記に任命せられ傍ら大正九年上野阿波間定期乗合自動車營業を出願許可せられ獨立營業を開始し大正十一年役場書記を辭し専ら之が經營に盡力し大正十二年業務擴張の爲め合資會社となし上野町東町に其營業所を設置現に其代表社員なり、性潔僻にして一徹者の様なるも社交に長じ殊に其従事員に接する温容は他の範となすべきである、家族は農を業とし禪宗を信す。

### 富野 惣 助君

阿波村大字富永 明治十七年十二月廿七日生

家族 父貞次郎(六八)母こま(六六)妻たつ(四一)長田村大字木根木根善太郎姉、長男増一(八)長女たか(六)

けらる、凱旋歸郷後村農會總代檀家總代等に歴任し大正四年阿波村駐在産米検査員に任せられ大正十三年九月大字區長となり現在に至る、臨濟宗の信徒なり。

### 石川 千之助君

阿波村大字上阿波 文久三年五月生

家族 長男平兵衛(三五)婦しげの(四一)同村子延吉岡治兵衛二女、孫賢(一七)孫寛(一七)

石川君は農を業とし狩獵を好む、郷黨の信任あり大字區長に擧げらるゝこと十一ヶ年常に大字の治水土木の爲めに貢献して功あり長男平兵衛氏は豫備砲兵にして消防小頭に擧げられ勤績十一ヶ年協會より表彰さる、千之助君本姓吉岡同村子延に生れ石川家を繼ぎし人なり。

### 西川 兼 藏君

阿波村大字下阿波 明治二十二年八月四日生

家族 父由松(七九)妻くは同村柳生平七長女、長男重夫(一五)二男保(二二)三男勝郎(五)長女まつ(一三)

石川君農を業とし信用あり、一家を擧げて天理教信者となり甚だ熱心なり、衆望の歸する處大字區長代理に擧げられ治績あり、大正十四年三月推されて區長となり現在に至る。

### 富野 太 市君

阿波村大字富永 明治二十三年二月二十日生

家族 妻やぶ子善濃波多村東田原藤岡一雄妹、父貞次郎、母こま、

富野君明治三十八年騎兵第四聯隊に入營上等兵に任官滿期除隊後在郷軍人分會班長、青年團支團長、在郷軍人阿波村分會副會長、消防小頭、農會總代、産業組合理事等に歴任し村青年團より表彰さる、大正八年大字區長に就任し五ヶ年間勤績大正十四年三月選ばれて阿波村會議員となり又小作調停委員に就職現在に至る、曹洞宗を信仰す。

### 大森 龜 太郎君

阿波村大字上阿波 明治十年五月十日生

家族 妻うた(四七)新居村大字西山福永清左衛門女、長男正直(二三)長女孝(二一)二男正二(二八)三男正四(一四)婦きぬ(二八)山田村眞泥中森勇次郎二女

大森君は農業の傍ら材木商を營む、稀れに見るの祖先崇拜者にして郷黨を説くに宗祖の教を以てす、天臺宗の信者なり、大正六年村會議員に選ばれ同十年滿期再選、大正十四年三月退職し大字區長に擧げられて今日に及ぶ、其間氏子總代、檀徒總代たること年あり自治公共の爲め力を致しつゝあり、長男正直氏は久居農林校卒業目下居村の代用教員たり。

### 大森 浅 太郎君

阿波村大字富野 明治二年九月三日生

家族 大森君農を業として郷黨の信任あり、阿波村役場書

記を拜命したるを公職の振り出しとして青年團農會、等の役員に擧げられ更に収入役に推され村會議員に選ばれ自治公共事業等に貢献しつゝある人なり。天臺宗を信す。

岡井源太郎君

阿波村大字下阿波 明治八年六月一日生  
父平次郎(七三)母きの(七二)妻まの(四七)山田村平田森下庄之助女、長女重子(一八)養子寧郎(二五)同村阿波喜三郎二男

岡井君農を業とし家富む、性温厚にして郷黨の信任あり選ばれて大字區長となること六年半、又産業組合理事たること三期に及び現に其職にあり、大正十年三月には村會議員に選ばれ十四年三月滿期再選されて今日に及び自治公共の爲め力を致す事尠からず、衆皆其人となりを稱す。

川口文治郎君

阿波村大字上阿波 明治十年九月二日生  
父文八(八四)母つづの(七八)妻のぶ(五一)同村松村利助長女、長男庄五郎(三〇)婦よしの(二五)同村永岡新次郎長女

川口君農を業とし地方の有力者なり、俳句を好み一笑と號す、檀家總代農事督勵委員等に歴任し大正十四年三月區長代理に任せられ大正十五年二月には區長に選ばれ現在に至る、長男庄五郎君は目下青年支

團長、消防小頭等に擧げられ就任中。

米岡市治郎君

阿波村大字下阿波 明治廿五年十一月廿四日生  
祖母かる(八四)父恒藏(六四)母かれ(五六)妻加壽枝(三三)同村米野善太郎二女、弟榮一(二九)分家、梅太郎(二四)小學訓導一志郡川口校在職、泰之(一七)上中在學

米岡君は阿波村青年活動家の中堅人物なり、大正元年阿波村役場書記を奉職し大正六年より同村青年支團長に擧げらる、後阿波村産業組合の組織せらるるや其常務理事として就職大正十四年七月迄七ヶ年間勤務し退職せしか後再び同組合に入り事務に従事しつゝあり、君の祖父彌藏君は村會議員、収入役、地價修正委員に擧げられ自治上に貢献したる人なり、臨濟宗の信者なり。

米岡民藏君

阿波村大字下阿波 明治四年二月二十五日生  
妻さめ(五四)同村坂本吉妹、長男好雄(三〇)長女いちぶ(二四)下阿波山岡家三嫁、婦いさ(二八)同村上田龜太郎三女、孫あいつ(七)亮一(四)俊男(二)

米岡君は同村米岡恒藏氏の令弟にして分家せし人なり、農を業とす、阿波村消防小頭、下阿波信用組合評定委員等に歴任し大正七年より大字區長に選ばれ現在に至る。

横尾彌藏君

阿波村大字上阿波 明治二十五年七月廿一日生  
母きよ(五四)妻ならの(三一)山田村出後永井熊太郎長女、弟政直(一八)大阪在住長女しづ子(二二)二女久大(八)三女敏(五)長男哲夫(三)

横尾君は大正元年歩兵第九聯隊に入營衛生部に編入せられ上等看護卒に進む滿期除隊後青年團支團長在郷軍人分會班長等に歴任大正十三年には村統計調査員となり更に阿波村有林監理委員、同村農事督勵委員等に擧げられ今日に至る、又第二回國勢調査委員にも擧げらる前途ある青年紳士なり。

吉岡留太君

阿波村大字上阿波 慶應二年九月十七日生  
妻よしの(六五)山田村甲野川口彦三郎家生、長女くま系中瀬村西明寺米田久三郎妻、二女しげの同村石川平兵衛妻、長男治平(三六)二男保藏上野農人町服部家養子、三男次郎(二五)同村中川貞三養子、婦千代(二九)同村猿野竹内慶助長女、俊治(一三)秀博(九)博(七)

吉岡家は農を業とし家富む、養蠶林業等を盛にす、留太君消防小頭檀徒總代等に擧げられ居村の爲めに力を致す、長男治平君は三重縣立師範學校を卒業後長田小學校に奉職二年にして居村小學校に轉任を命ぜられ同校職員中氣受けよき人なり。

吉岡鹿藏君

阿波村大字上阿波 慶應三年三月一日生  
妻いさ(五六)大字猿野忠太郎妹、長男博次(二八)二女きみ(二五)婦のぶ(二四)安濃郡草生村石見孫善長女、孫正子(四)春子(二)

吉岡家は字子延に於ける舊家にして安岡姓を名乗りしが文化年間吉岡に改めたと傳ふ、鹿藏君年廿六歳にして村役場に入り書記を勤務し傍ら大字區長に擧げられ就任、明治卅二年同村収入役に推され卅七年には助役に進み四十三年辭職退任す、又四十年より大字區長に就任大正二年には村會議員に選ばれ地方自治團の爲め貢献する處尠からず、明治卅七八年の戦役に際し町村吏員として功あり勳八等白色桐葉章を授けらる、長男博次氏は在郷軍人分會班長にして消防小頭たり。

谷口吉太郎君

阿波村大字上阿波 明治十六年五月十二日生  
妻さく(四〇)同村下阿波坂本卯吉長女、長男嘉一(二二)二男元郎(一七)三男三郎(一三)

谷口君は現阿波村々長にして家甚だ富む、郡内屈指の大山林家たり、衆望のある處郡會議員に選ばれる、こと前後二期、大正十二年阿波村々長に選舉せられ就任して現在に至る、菊花栽培に興味を有し其愛玩





する處の珍花抄からず、天臺宗を信ず、令弟千五郎氏は高商卒業後名古屋に出で目下千種町に於いて盛大なる織物業を經營されつゝあり。

### 谷口善吉君

阿波村大字上阿波 明治四年九月二日生

家族 母さな(七九)妻よし(四九)同村富水杉澤龜太郎長女、長男善助(二六)二男善次(二三)長女さゆ(一八)男由治(一四)二女さの(一〇)

谷口君農を業とし阿波村の有力者たり、大字區長、産業組合理事等に歴任し大正十四年三月には衆望の歸する處村會議員に擧げられ村政に力を致しつゝあり、長男善助氏は大正十一年五月より同村信用組合の書記に就任し二男善助氏は歩兵第九聯隊に入營中なり。

### 中野兵三君

阿波村大字上阿波 明治二十年五月十九日生

家族 母しゆん(八四)妻すへの(三二)大字千延杉内健治郎、長女たま(一一)

中野君農を業とし家産あり、性温厚にして衆望あり天臺宗を信仰す、大正十二年四月大字區長に擧げら

れ現に其職にあり、其他公共事業の役員に選ばれ地方の爲め力を致しつゝある人なり。

### 中川貞三君

阿波村大字上阿波 明治六年四月十三日生

家族 母さら(七六)妻かめよ(五六)養嗣子次郎(二二)同村吉岡治兵衛三男、姉のぶ(二〇)同村竹内慶助女

中川君は稀れに見るの活動家にして農を業とす、青年時代居村小學校に正教員として職を奉じ明治廿六年騎兵第四大隊に入營日清日露の兩役に従軍し功を樹て勳七等を授けられ騎兵曹長に昇進す、凱旋歸郷後再び教鞭を執りしが後明治四十一年北米合衆國に遊び四十三年歸朝農に親しむ事となりしが君の如き活歴史を有する人は稀なり。

### 村井次郎君

阿波村大字上阿波 明治二十年七月十五日生

家族 養母すきよ(六六)妻たけを(三八)同村平松阿波健之助長女、長男忠生(一八)上中在學、三男通(一二)四男浩三(一一)

村井君は現中瀬小學校校長たり、本姓安岡同村成保氏の令弟たり幼にして村井家に養はれ其姓を冒す、旅行俳句を好み淡水又は迷羊と號す、明治四十一年三重縣師範學校を卒業し直ちに島ヶ原小學校に奉職、三年にして阿波小學校に轉じ同校に十一ヶ年勤務、

大正十年九柱小學校長に榮轉同十四年四月更に中瀬小學校長に榮轉して現在に至る、家族は農を營み天臺宗を信ず。

### 村上治郎右衛門君

阿波村大字上阿波 明治十九年五月十五日生

家族 父巳之助(七〇)母なか(六九)妻てつ(三九)同村下阿波辻金五郎二女、長男武雄(二二)二男安雄(一九)長女さゆ(一六)三男正男(一三)二女さの(一〇)

村上君は阿波村産業組合木炭部の擔任者なり、家族は農を業とし天理教信者なり治郎右衛門君青年團支團長消防小頭等に歴任し大正十年大字區長に就職し同十四年滿期辭職す、大正十四年三月衆望の歸する處村會議員に選ばれ十五年二月産業組合木炭部主任に推され今日に至る。

### 安岡成保君

阿波村大字上阿波 明治十六年三月二十三日生

家族 父良太郎(六六)母りよ(六六)妻さゆ(安濃郡安濃村清水淺生庄次郎二女、長女千鶴(一六)久居高女在學、長男一彌(一四)二女美代

安岡君は現阿波村小學校長なり、明治卅七年三重縣師範學校を卒業し直ちに本郡東栢植村小學校訓導に任せられ三十九年阿山郡白鳳高等小學校訓導に轉じ四十年阿波小學校に轉任を命せられ大正三年三月同

校々長に昇進せしめらる、性温良にして子弟の教養に熱心なり餘暇に謠曲を樂む、家族は農業をなす、天臺宗徒なり。

### 松村利助君

阿波村大字子延 安政三年七月十九日生

家族 長男慶次郎(四七)長女のぶ(同村川口文次郎妻、姉たけの同村平松東出市女、孫さし(二二)とし、新泰夫(三〇)同村谷口忠次郎二男、孫ちよ(一九)同村中尾牛之助妻

松村君農を業とす壯年時代商業を好み魚類商荒物商米穀商等を經營せることあり近年廢し農業に専心す生地は安濃郡長野村にして松村家に入夫せし人なり村内屈指の徳望家にして年二十五歳のときより區長村會議員其他の公名譽職に選ばれ地方公共の爲めに盡力したること尠からず故を以つて數回に亘り官公署より表彰さる、長男慶次郎君は明治四十二年渡米せるまゝ今日迄音信を斷ち孫婿泰夫君は小學校訓導として阿波村に奉職中。

### 槇尾龜藏君

阿波村大字下阿波 明治廿二年十二月四日生

家族 母めい(六四)妻しづ(三五)山田村大字中尾鐵五郎女、長男修(一七)二男正(一四)三男博(一三)四男隆(八)五男甲子(一〇)

槇尾君は農を業とし傍ら共同を以つて水力應用の製

材所を共同經營明治四十年阿波村役場書記に就職四ヶ年にして辭したるが後再び就任して三ヶ年に及ぶ此間收入役を勤務すること一ヶ年、其他衆望の歸する處同村第六區婦女會々長及び青年支團長、消防小頭、檀家總代、氏子總代、第一回國勢調査委員等に歴任して力を公に致す、前途ある青年紳士なり。

### 増井太三郎君

阿波村大字富永 明治十二年四月五日生  
家族 母ふう(六六)妻しかえ(四八)大字猿野竹内慶助妹、長男敦(二二)姉さし(一九)同村猿野黒田信次郎長女、孫涉子(二)

増井君農を業とし特に俳句を好み二松庵青風と號す明治三十三年歩兵第九聯隊に入營し伍長に任官滿期除隊後軍曹に進めらる、三重縣第二回統計講習會を修得し三十六年阿波村役場書記に任じ大正二年阿波村消防組頭となる、大正五年十二月阿波村助役に擧げられ同十年重任十四年七月退職す、此間在郷軍人阿波村分會副會長、第一回國勢調査委員等に任命せられ盡力する處尠からず。

### 福井芳之助君

阿波村大字上阿波 明治六年九月十三日生  
家族 妻芳枝(五〇)同村阿波直三郎三女、長男茂(二〇)姉しつ子(二二)同村猿野大森淺太郎二女、孫伴衛(二)

福井君、農を業とし阿波村の有力者なり、性温厚篤

立師範學校を卒業三重郡水澤小學校訓導に任せられ四十一年壬生野小阿波へ移轉四十四年阿波小學校へ大正十一年十一月長田小學校長に任せられ十二年布引小學校長に轉じ現在に至れる人なり、性温厚小學校長としての適任者たり父熊藏氏又温厚にして村民の信任厚く大字區長、村會議員たること實に二十有餘年其他諸種の公職團體役員等に擧げられ地方の爲め盡力せし人にして同村の模範人物として表彰さる

### 惠村保造君

阿波村大字猿野 明治元年十月二日生  
家族 妻きん(六三)上野町東町堀田家生、二男重次名賀郡阿保町山本石松養子嗣、三男健藏、同村富永北村家へ入夫、四男五市(三二)分家、五男乙助(二八)山田村千戸山出銀之助方へ入夫、六男末道名張町松崎町古崎菊松に養はる、七長男、姉きり(三八)同村蛸澤久郎妹、孫さだ(二八)とよ(二四)

惠村君は阿波郵便局長なり、衆望あり阿山郡會議員に選ばるゝこと前後四回、此間郡參事會員、郡會副議長に推さる又阿波村長村會議員たること永年村治上貢獻する處尠からず、明治四十年十二月阿波郵便局長に任せられ今日に至る、官其功勞を賞せられ勳七等に叙せらる、書畫骨董を好み天臺宗を信す。

### 阿波健之助君

阿波村大字上阿波 明治元年三月十日生  
家族 妻かめ(五九)長男敏人、二男健治(二七)小學校訓導、婦愛子(二〇)二女節子(四)

實郷黨の信任あり阿波村々長に擧げられたるを始めとして同村々會議員、助役學務委員、氏子總代等に選ばれ地方自治、教育の爲めに力を致すこと年あり大正十二年には同村信用組合常任理事に推され今日に至る。

### 福田龜次郎君

阿波村大字下阿波 明治十一年七月一日生  
家族 父菊次郎(六九)母わい(六九)妻つや(三九)布引村廣瀬中川常太郎二女、長女つる(一八)同村森川清市妻、長男喜市(二五)二男金兵衛(二二)二女みつえ(九)

福田君は日露戰役に従軍したる武勇の人にして勳八等の所有者なり、歸郷後阿波村第六區青年團顧問、農事獎勵委員、氏子總代、檀徒總代等に歴任し大正八年大字區長に擧げられ大正十四年三月には衆望の歸する處村會議員となり現在に至る、父菊次郎氏も大字區長其他に選ばれ地方の爲めに貢献したる人なり。

### 藤井龜郎君

阿波村大字下阿波 明治十九年一月二日生  
家族 父熊藏(六一)母きの(五八)弟信郎(二五)海軍志願兵として軍務に従事、和郎(一九)貞治(一七)三重縣師範學校在學、妻くに(三七)同村上阿波村東出助三郎姉、長男秀夫(一五)二男浩治(五)長女みつる(一三)二女よし(九)三女さみ(三)

藤井君は現布引小學校長なり、明治二十九年三月縣

(二二)同村島川岩吉長女、孫千代(二)阿波家は阿波村屈指の舊家にして舊藩時代藤堂家の御供無足人たり、故に士族に列せらる、農を業とし家富む、健之助君性温厚衆望あり大字區長、村會議員等に選ばるゝこと數期村治公共の爲めに力を致したること多し、天臺宗を信仰す。

### 阿波喜三治君

阿波村大字下阿波 明治十三年一月八日生  
家族 妻母きん(六九)妻ます(四八)長男芳邦(一九)二男憲郎同字岡井源太郎養嗣子、三男敏郎(一九)吳海兵團在營、四男太郎(一三)五男一馬(九)姉小り(二七)山田村大字平田島川嘉次郎妹、孫清吾(四)

阿波家は阿波村唯一の舊家にして阿波神社記中に其名を散見す、家は農を業とし曹洞宗を信す、喜三治君本性岡井、同村源太郎氏の弟なり阿波家に入り其性を習す、大正六年三月村會議員に選ばれ十年滿期退職、十二年四月大字區長に選ばれ現在に至る、長男芳邦君大正七年歩兵第七聯隊に入營シベリヤ出兵に従軍し勳八等一時金百五十圓を授けられ歸郷後青年支團長、在郷軍人分會班長消防小頭等に任せらる

### 朝倉玄光君

阿波村大字下阿波 明治十年四月十一日生  
家族 妻いえ(三六)同村富永藤森庄治二女、長女貞子(一四)長男實(一〇)二女節子(四)

朝倉君は臨濟宗神鐘寺の住職なり、父は玄兆と稱し大和高市郡岡村の出身なり、神鐘寺は護法山と號し東福寺派に屬す應安二年現地より約二十丁の山頂に一字を建立し神鐘寺と名づけしが其後兵火に罹り今を去る二百年前現地に移轉再建立せしものなりと、本尊藥師如來は立像にして應安二年酉歲神鐘寺の本銘あり、玄光君特に詩歌を好み其吟詠妙からず、左に記して評に代ふ、

勅題 河水清

靈貴廟前瑞靄橫 老杉一路白河明

堪欽萬古鈴川曉 旭日煌々映水清

神代より水上すめる五十鈴川

たゞ一筋の流れなりけり

### 北川 忠 太君

阿波村大字上阿波 明治二十二年六月廿日生

家族 父五郎(六二)母小きん(五八)妻よし(三三)同村上阿波山岡長兵衛四女、長女なみ(一五)二女とし(一三)長男夏太(九)三男かつ(七)四男良一(四)同村平松川口はつ養嗣子

北川君は農を業とする前途ある、青年有力者である青年團支團長大字會計等に擧げられ大正六年には同村収入役に就職同十年滿期退職して家業に専心す、園基を樂み天臺宗を信仰す、父五市氏又實直者にし

て村有基本財産林の管理人を囑托されてゐる。

### 北川 熊 吉君

阿波村大字阿波 明治二十二年五月五日生

家族 養母せい(七〇)養父重吉(六五)妻りやう(三五)長女千代子(一四)二女美代子(一三)

北川君は日用雜貨煙草小賣鹽小賣並に製材業を家業として家富む、衆望の歸する處青年支團長、阿波村第三區長等に選ばれ遂に村會議員に推されて現今に至る、前途ある青年紳士として郷黨君の前途を囑目す、熊吉君本性吉川同村要次氏の二男たり、北川家に養はれて其姓を冒す。

### 島川 岩 吉君

阿波村大字上阿波 明治九年六月十日生

家族 養父千吉(六五)養母けい(六三)妻しづ(四二)名賀郡依那古村石田光之輔妹、長男正(一六)二女みさ(一一)三男年秋(一一)長女愛子同村阿次健次妻

島川君は村社葦神社々掌なり家族は旅館兼料理業を營む、同家は松屋と號し舊山田郡に於ける古き旅館にして信用深き店なり、岩吉君本姓宮村舊津藩士族の家に生れ、幼にして叔母の嶋川家に養はる、長じて三重縣巡查を拜命し刑事となり名探偵の名を博す大正九年延喜式内村社葦神社の社掌を拜命今日に至る、父千吉氏は區長村會議員に選ばれ地方公共の爲

めに力を致せし人なり。

### 島川 文次 郎君

阿波村大字上阿波 萬延元年六月三日生

家族 長男加次郎(三二)婦きみへ(二二)下阿波阿波喜三治長女、孫章子(五)幸夫(二)

島川君は農を業とす、木炭改良に力を致し時の村長と協力して木炭同業組合を組織し自ら其検査員となり斯業の改良に努力して大正十一年に至る、阿山郡農會之を賞し篤農家として表彰す、其他農産物の改善に努力し米選俵製等に力を注ぎ明治四十一年三重縣知事より表彰せらる、長男加太郎君又父志を繼ぎ消防小頭、青年支團長、農會總代、村産業統計調査委員、第二回國勢調査委員等に擧げられ地方公共の爲め盡力致しつゝあり、天臺宗を信仰す。

### 蛙澤 牛 太郎君

阿波村大字上阿波 明治二年八月十日生

家族 母たつ(八〇)妻かれ(五八)同村谷口善吉姉、長女きみ山田村大字平田中川房次郎妻、二女なかへ壬生野村山畑中林繁夫妻、長男恒男(三四)二男保藏(二七)三男由松(二二)大字下阿波豊田由造養子、姉のへ(二二)同村吉岡鹿藏二女、孫榮子(七)久榮(二)

蛙澤君農を業とし傍ら木材商を營み二男保藏氏をして業に任せしむ、又長男恒藏氏は同村役場書記を奉職しつゝあり、牛太郎君消防小頭、氏子總代等に歴

任し大正二年には大字區長に選ばれ地方の爲めに力を致す。

### 蛙澤 亦 三 郎君

阿波村大字上阿波 慶應元年三月三日生

家族 長男憲三郎(三三)婦いちま(三〇)山田村北村家出、孫京子(九)亦五郎(四)つや子(二)

蛙澤君は伊賀國屈指の老政治家にして又信望家なり資性温厚、夙に公共心に富み地方開發の爲めに力を致せし事枚擧に遑あらず、又地方産業の興隆を期し金融を圓滿ならしめ貯蓄心を涵養の爲めに伊山銀行を創立して自ら其頭取となり現に其職にあり衆望の歸する處郡會議員、縣會議員等に選ばれ遂に縣會副議長に擧げらる、伊賀國舊國民黨系の重鎮にして前文部遞信兩大臣たりし犬養毅氏前衆議院副議長濱田國松氏等と交友あり、君の如き温厚並びなき人が政治を談する等は一見信じ難きものなり、人云ふ周圍の爲めに餘儀なくせしめたる結果なりと、其終始一貫して地方産業自治の爲め貢献せる功を嘉みし明治四十二年三重縣知事之を表彰す、左に其表彰文を載せて傳に代ふ、

表彰文

明治二十年初めて戸長役場筆生となり尋で助役村長

に歴選し夙に教育及勸業の進展に力を注ぎ校舎を建築して学校の設備を完全にし青年團を指導して土木衛生及び風紀改善に實を挙げしめ犢牛の生産を盛ならしめ又農會を活動せしめ諸般農事の改善に銳意し副業を奨励す其他植林の計畫を建て村基本財産の造成を確立する等村治の發達に熱心盡力すること二十



有餘年村民輯睦し下僚一致す其功績洵に顯著なりとす仍て報徳表彰規定に依て之を表彰す、明治四十二年二月十日三重縣

知事正三位勳三等有田義資

以上の外明治四十五年二月には文部大臣長谷場純孝氏より効績狀を、大正十一年九月には眞言宗大覺寺派官長大僧正龍池密雄氏より賞狀を受けたるを始めとして十數回に亘り諸方より表彰さる、以つて其人となりを窺ふに足る。

蛭澤久郎君

阿波村大字上阿波 日生  
明治十七年 月 日生  
家族 母しげ(六三)妻きく(三五)玉瀧村植山無量正道長女、長男平八郎(二八)二男記典(二二)長女みち(二〇)三男尙(五)二女きよ(三)

蛙澤君は現阿波村收入役なり、家富み家族は農を業とす、園基を樂み植林に熱心なり、滋賀縣立膳所中學校の出身にして明治三十七年一年志願兵として歩兵第九聯隊に入營し三十九年三月除隊後累進して正八位勳六等歩兵少尉に任官せらる、大正十年阿波村收入役となり現今に至る、性公共心に害み郷黨の信任あり、天臺宗を信仰す。

東富藏君

阿波村大字富永 文久三年八月四日生  
家族 妻きん(六一)長女さく(三七)同村猿野山本牛太郎妻、次女ひでの(三三)名賀郡上津村瀧福本林之助妻、長男暖治(二九)婦す(二八)府中村西條中林清次郎二女

東君農を業とし熱心なり、天臺宗を信仰す、消防小頭、檀家總代、氏子總代、大字組長等に擧げらる、こと前後數回、大正四年には同村々會議員に選ばれ村治の爲めに盡力す。

東兼治郎君

阿波村大字富永 明治二十五年五月十日生  
家族 妻たきの(三〇)祖母よし(六八)母かほ(五〇)長男仁巳(一〇)二男禮夫(五)三男智郎(二)

東出君農を業とし家産あり、酒を呑み俳句をたしなみ政治を談するを以つて趣味とす、消防小頭、青年團支團長、區長代理等に歴任し大正十四年三月村會議員に選ばれる、農村に君の如き青年村會議員を出すこととなりたるは稀れに見る處にして君の德望手腕の然らしむる處なりと云ふべきである。

東清太郎君

阿波村大字富永 明治九年三月四日生  
家族 父字吉(七六)妻よし(五六)長男太郎(三)二男次郎(二四)婦つや(三〇)孫恭子(九)豊(六)

東君農を業とし傍ら電力應用の製材業を經營す、衆望の歸する處消防小頭、區長代理、農會總代、氏子總代、檀家總代等に歴任し大正十四年三月には村會議員に選ばれ終始一貫村治公共の爲めに力を致しつゝあり、狩獵を好み天臺宗を信仰す。

森川留藏君

阿波村大字下阿波 明治二十年七月十五日生  
家族 妻さら(三七)下阿波西尾乙五郎二女、長女ちよ(一九)長男昌雄(一七)二女きみ(二二)三女しづ(八)四女ささ(六)

森川君農を業とし傍ら土木請負業を營み信用あり、青年の事業家として同僚間の氣受けよき人なり、明治四十年歩兵第九聯隊に入營滿期除隊、後消防小頭氏子代等に任せられ其手腕を村内に認めらる、大

東鶴次郎君

阿波村大字富永 明治十二年九月十六日生  
家族 養父佐市(七五)養母つれ(六七)妻はきの(四九)長男吉次郎(二九)二男郁郎(二二)長女ふみ(一七)三男止才夫(二二)婦きみ(二七)孫丈夫、克巳

東君本姓福岡、布引村中野鶴藏氏の令弟なり入りて東姓を冒す、明治四十三年上野中學校を卒業後上京して早稻田大學理工科に學びしも大正二年病の爲め退學歸郷し大正四年布引小學校に職を奉じ大正六年辭職し七年より馬野川水電株式會社に入り支配人となり現今に至る、其他大正四年より六年まで布引村青年團副團長、大正九年より阿波村青年團幹事、村社葦神社の氏子總代等に擧げらる、前途ある青年紳士なり。

東出助三郎君

阿波村大字上阿波 明治廿八年六月廿日生  
家族 母いま(六三)妻たま子大字猿野貞吉長女

正十四年三月衆望の歸する處村會議員に選ばれ今日に至る、前途と信用ある請負業者なり、西本願寺派を信仰す。

### 森川甚之助君

阿波村大字上阿波 明治廿六年七月廿一日生

家族 父傳助(六二)母きよ(六〇)布引村大字北福山伊左衛門女、妻はつ(三四)同村猿野大谷甚四郎妹、長女はや(一七)長男正一(一五)二女きく(一三)三女つた(一一)

森川君は旅館兼料理業を営みきくやと商號す、明治三十二年の創業にかゝり阿波谷地方の代表的旅館なり、甚之助君、園基、將基、尺八等の趣味を有し殊に宗教心あり深く本門佛立教を信す、大正六年上阿波に道場を開設し同法の布教宣傳に努力しつゝ、あり故に家業に對しても親切を第一とし客受けの好きを以つて誇りとせり。

### 森川末吉君

阿波村大字上阿波 明治七年三月廿七日生

家族 養母つる(七六)妻くまの(四三)同村大字猿野小林民平妹、長男清市(二四)二男健次郎(一九)上中在學、三男文雄(一二)四男清男(八)姉つた(一八)下阿波福田龜次郎長女

森川君本姓中川、布引村川北中川太三郎氏の三男なり、幼にして森川家に養はれ其姓を冒す、明治二十七年輻重輪卒として入營日清日露の兩役に從軍功に

れ大正六年には衆望のある處村會議員に選ばれ爾來再選して今日に至る、以つて其居村に信任ある事を知るべきなり。

### 杉本圓太郎君

阿波村大字上阿波 明治十一年 日生

家族 父榮太郎(七六)母やえ(六五)妻まさえ(三七)同村谷口忠次郎妹、長男榮一(二五)姉きよ(二四)同村柳清太郎長女、千榮子(三)

杉本君世々農を業とし家富む、養蠶林業等に趣味を有し之を副業として盛になす、明治三十一年歩兵第九聯隊に入營衛生隊に編入せられ日露の役に從軍し功により勳七等青色桐葉章を授けられ二等看護長に進む、凱旋歸郷後大字區長に擧げらるゝ事二期、村會議員たること一期、信任ある人なり、書畫、骨董を好み園基を樂む、天臺宗を信す。

より特に輻重兵に編入一等卒に任じられ勳八等を賜ふ、凱旋歸郷後大字區長及び區長代理、氏子總代、檀徒總代等に歴任し大正四年には村會議員に選ばれ爾來重選されて今日に及ぶ、以つて其人と成りを窺ふべし。

### 杉内健治郎君

阿波村大字上阿波 明治廿一年六月廿二日生

家族 母くみ(六七)妻さち(三三)同村下阿波松山又次郎二女、長男康治(一一)長女ちよ(八)二男桂一(五)二女ふみ(二)

杉内家代々農を業とす、健治郎君大正八年同村平松に水力應用の製材工場を起し材木商を營む、和歌、讀書を好み園基を弄ぶ、年二十二歳のときより同村消防組小頭、青年支團長、區長代理等に歴任して大正十四年三月には選ばれて同村々會議員となる、前途ある青年紳士にして衆望あり、天臺宗を信す。

### 杉澤治兵衛君

阿波村大字富永 明治十五年四月一日生

家族 父龜太郎(七二)妻まさの(四二)西柘植村新堂兼甚太郎妹、長男喜久雄(二二)長女みきえ(一五)

杉澤君農を業とし家産あり、明治四十一年阿山郡農事試験場第十農事試験場擔任者となり大正八年辭職退任、大正十一年三月郡農會より篤農家として表彰せらるゝ、其他青年支團長、村農會委員等にも擧げら

## 名賀郡

### 名張町ノ部

#### 市橋通之助君

名張町大字本町 明治卅三年四月八日生

家族 妻しづ枝(二三)名張町本町上井徳次郎長女、長男芳(一)市橋君父は芳三母はつぬ其二男にして同字平尾に生る、賣藥業を營み星製藥株式會社名賀郡元賣捌をなし甚だ盛大なり、最近まで大字柳原町に店舗を有しゐたるが業務の發展に伴ひ狹隘なる爲め本町に移轉して現在に至る、前途ある青年紳商なり。

#### 市橋松之助君

名張町大字木屋町 明治元年七月十二日生

家族 妻ふみ子富山縣婦貞郡池田村南助次郎次女、長男忠郎同町平尾市橋芳三養嗣子、次男久自宅、長女從子東京藤堂家に仕ふ父忠次(八二)母さ(八四)松之助君は同町大字平尾の舊家に生る、家を令弟芳三に譲り自ら分家す、現在土産物販賣と伊賀鐵道名張驛構内請負とを業とす、俳句、園基、撞球等を好む、明治二十六年東京郵便電信學校を卒業後遞信省に奉職して各地に歴任し東京兩國二等郵便局長に昇任し大正三年二月依願免官となる、歸郷後大正運輸倉庫株式會社を組織し其常務取締役となり現に其職にあり又木屋町區長に縣社、村社の氏子總代に選ば

れ今日に至る、松之助君の祖父武助氏は有名なる平尾治水の功勞者にして今同所に水神を稱して祭るは實に武助氏の靈をまつるなり。

稻垣大喜君

名張町大字南出 萬延元年十一月十一日生 家族 妻神戶村掛川辻村奈長松女、長男大周佛教大學在學中

大喜君は神戸村大字古郡に生る、幼にして出家す、今名張町浄土宗西方寺の住職をなす明治三十八年先住敬譽上人の遺去を繼いで本堂の新築をなし大正五年庫裡の新築を完了し檀信徒の信任を蒐む、後更に山門の腐汚せるを歎じ之が再建を志し目下工事中にて近く竣工の豫定なるが其西方寺に對する努力と功績は實に同寺中興とすべきなり。

稻森惣兵衛君

名張町大字本町 明治十年八月廿六日生 家族 妻いさ子大和宇陀郡伊奈佐村古我清三女、長男宗太郎早稻田大學、次男敏三上野中學、三男秀男小學校に何れも在學中

稻森君は煙草元賣捌を業とす、資性温厚苟くも不正を好まず變俠者の噂あるも町民の信任淺からず、明治四十二年縣社氏子總代に推され更に大正六年には名張町會議員に選ばれ當選して今日に至る、其縣社總代たるのとき造營基金の募集を企てたるが一部氏子に誤解せられ相當反對ありたるも之を完成今日で

九年獵友會を組織し其副會長に擧げられ三重縣獵友會幹事に推され現在に至る、狩獵を好み天臺宗を信ず。

今高庄太郎君

名張町大字北出 明治廿八年八月十三日生 家族 父庄右衛門、妻鶴枝、養女靜子

今高家は農を業とし財あり、眞言宗を信ず、明治三十五年名賀郡南部高等小學校卒業後株式會社八十三銀行に入る、大正九年十二月同行が百五銀行に合併するや同時に百五銀行に轉じ爾來今日に至る、現に百五銀行名張支店にあり副店長の優遇を受けつゝあり。

池田仁七郎君

名張町大字柳町 明治廿八年二月十五日生 家族 祖母みつ、妻やん大和榛原町鈴木次郎平長女、弟奈長次郎分家す、長男眞造、長女清子、三女ひろ子共に小學校在學

池田君家世米穀肥料並に製油を以つて業とし同町屈指の舊家たり、當主は名張居住以來八代の孫たり、近年運送業と專賣局指定鹽元賣捌を兼營し前途ある實業家として矚目さる、仁七郎君大正九年三月大字柳町區長に推されたるを名譽職の振出しとして大正九年同十四年行はれたる國勢調査委員に任命せられ

は基本金六千圓を有することゝなれり之實に君等の努力の賜とすべきである、園藝、園基を嗜む。

井岡祇雄君

名張町大字銀治町 明治六年二月六日生 家族 妻ムメノ箕曲村大字中村兼松妹、長女ノア養嗣子房吉依那古村大字沖藤田竹次郎弟、目下歩兵第三十三聯隊在營一等看護長孫正一正次

祇男君は山邊郡豊原町大字切幡の出生なり、明治三十四年名張町に出で木材商を始め成功したる人なり明治四十四年現住所に家屋を新築して移住す、大正五年六月衆望の歸する處大字區長に選ばれ以來今日に及ぶ、此間蛭子神社氏子總代名張町教育評議員名張町會議代に選ばれ力を之に致す、殊に蛭子神社の氏子總代として一千七百餘圓の負債を整理償却したるは君の功勞によるものべきである。

今堀兼次郎君

名張町大字本町 慶應三年七月二日生 家族 妻はるの依那古村依那具福澤藤二二女

今堀君は同郡猪田村大字猪田の出身なり、明治十五年猪田小學校に奉職し教職にありしが明治十七年辭職して時計修繕を志し大阪に於いて業を學ぶ、明治二十年歩兵第九聯隊に入營し日清、日露の兩役に從軍し功を樹て凱旋す、明治二十四年名張町に出で本町に時計貴金屬裝身具類商を開き現在に至る、大正

大正十四年三月には衆望の歸する處町會議員に選ばれて現今に至る、讀書、旅行等の趣味あり。

林常吉君

名張町大字八丁 文久三年十月十二日生 家族 妻ゆき藏持村松下たき妹、次男幸男次宅、三男正之助和歌山縣依那郡妙寺にて製糸業に従事、長女ひで同町松崎町鈴木海藏妻

常吉君は現八丁の區長なり、壯年にして兵に徴せられ明治二十七八年戰役に從軍して從軍徽章を受く、書畫、骨董、園藝を好み古物商を營み傍ら製糸業を兼營す、大正十二年二月八丁區長に擧げられ現今に至る。

西岡俊昌君

名張町大字八丁 明治十五年八月廿五日生 家族 妻やえ徳島縣海邊郡牟岐町福田市太郎妹、長女美雪

西岡君は宇陀郡三本松村三本松の出身なり、名張町に出で、木材商製製造販賣業を營む、趣味として小禽飼育と菊花栽培をなす、大正十年三月名張町會議員に選ばれ十四年三月再選して現今に至る、其製作品たる犁の販路は東海、近畿、東北、朝鮮等に及ぼし年々製産額を増加しつゝあり。

堀内一二三男君

名張町大字銀間 明治廿一年三月五日生 家族 母いさ(六三)父保(六二)妹保子(一一)妻けい(三六)同字堀内

啓次長女、長男吉男(一四)二男康男(一二)長女文子(九)二女みさ子(五)三女直子(二)  
堀内家は舊名張藤堂家の家臣にして舊家なり、二三男君は現名張小學校訓導兼同實科高等女學校囑托教員たり、明治三十九年縣立第三中學校(上中)を卒業後縣立師範學校第二部に入學四十二年三月同校を卒業し箕曲小學校訓導を拜命大正四年三月藏村小學校に轉じ八年三月現在の名張校に榮轉、十一年八月實科高等女學校教員を囑托せられ今日に至る、資性温厚にして父兄間の信任厚し。

### 保田安次郎君

名張町大字上横町  
明治九年五月廿七日生

君は同町神町仁木安兵衛君の長男にして保田姓を冒す、性柔順にして女性の如き所謂温厚家なり、肥料木綿類商を營み家富む別に趣味なし、大正十四年三月選ばれて名張町會議員となり現に其職にあり。

### 保田菊之助君

名張町大字本町  
明治十一年四月二十日生  
家族 妻いち、孫長男菊藏、同次男英男、養子喜、三男上中在學、箕曲村川岡雪造弟

君賀唯一の醬酒醸造業者にして壺屋醬油は君の醸造にかゝるものなり、奈良三重滋賀の三縣下に販路を有し醸造石高又多し、聽覺鈍く社交に長けざれ共旅

行視察の嗜味を有し遠く九州地方にまで遠征して廣く醸造の技を研究して斯業の爲め貢獻する處多し、大正四年名賀油醬醸造同業組合長に擧げられ以來就任しつゝあり、其他名張商工會幹事、名張電力使用者組合長等に就任しつゝあり。

### 細川一太郎君

名張町大字新町  
明治卅一年三月一日生

細川家は新町の素封家なり、一太郎君本姓は松平、奈良縣宇陀郡室生村大字室生松平米松氏の二男に生る、大正九年一月細川家に入家して細川姓を冒す、縣立畝傍中學校出身にして大正十一年六月添上郡書記を拜命し十二年三月奈良縣屬に榮轉す、十三年一月家事都合に依り退職し大正十四年七月名張町書記に就職す、前途ある青年紳士なり。

### 遠山秀雄君

名張町大字柳原  
明治三年七月二十七日生  
家族 長男浩太郎(二七)長女ちか子(二四)同町大字柳原寺島豊次郎(同上)孫正、武夫外に二女あり

遠山家は舊名張藩の士族にして古き家柄なり、君の父は所謂士族の商法に失敗し家財を失ふ、君は其跡を繼げて世に立ち相當處世難に苦しめられたるが終

始一貫克く謹嚴に身を持し今日に至れる人なり、即ち明治三十年二月名張小學校訓導を拜命四十二年三月錦生校に轉任、大正三年三月藏持校に大正四年四月再び名張校に轉じ爾來大正十二年四月迄全く一日の如く忠實業に服し父兄間の信任を高む、大正十二年四月名張實科高等女學校創立と同時に退職して同校書記を拜命今日に至る、稀れに見る忠勤家なり。

### 徳地丑之助君

名賀郡名張町大字南出  
慶應二年三月二十七日生

名張町の舊家にして代々農を業とし眞言宗を信ず、丑之助君町民の信用あり明治二十八年名張町會議員に擧げられたるを名譽職の振出しとして四期間當選され大正五年には名賀郡會議員に選ばれる次いで副議長の榮職を占む又大字區長に選ばれる、事數回現に其職にあり、性温良にして家貧しからざるも好んで政治を論じたる頃より家政昔日の如くならずと評する者あり、眞偽未だ詳しからず。

### 鳥居耀學君

名張町大字瀬古手町  
慶應二年十一月六日生  
家族 妻つる子名張町銀治町高田正藏次女

鳥居君は日蓮宗妙典寺の住職なり、愛知縣名古屋市天王町の出身にして明治二十一年十二月第四區中學校植林全科を卒業二十五年京都市上京區七本松光源院住職となり三十一年現寺に轉ず、大正元年名賀郡各宗同盟會の公選にて布教部長に選ばれ四年一月常任傳道師に推され九年一月第一支部長を囑托せられ各村を布教して郡民教化に盡力し其他功により時の郡長より感謝狀並に賞品を受く、大正十四年三月本山より大僧都に任せらる、徒弟高津耀城は宗立中學校を卒業大阪に現住す、大正十四年九月本山より三重、岐阜、愛知三縣下の専任布教師を命ぜらる。

### 大西三郎兵衛君

名張町大字下横町  
明治六年十二月一日生

家族 妻さく子同町故鎌田將監二女、長男三郎、嫁はな一志郡太郎生村中井某娘、次男三夫大阪在住藥劑士、三男利晴、四男利忠、次女千代自宅、長女きよ子三本松村田端惣右衛門妻

大西君は奈良縣宇陀郡三本松村に生れ大西家に養はる、明治二十八年徴されて第四師團第七聯隊に入營日清、日露の兩役に従軍し功により勳八等を授けらる、大正七年大字下横町區長、同八年縣社總代、壽榮神社氏子總代に推され大正十年三月には衆望の歸する處町會議員に選ばれる、大正十四年一切の公職を辨し家業に従事す、大西家の祖先は藤堂宮内小輔に從ひ伊豫より移住すと傳ふ、舊賣藥商なりしを明治三十三年鐵工所となり現今に至る。

### 大西正之助君

名張町大字本町 明治二十一年六月二日生

家族 母すへ、妻たか大和  
田町村島英司、弟政男  
田家に養はる武郎、朝鮮在住  
正房小學在學、長女智恵  
子、二女あり

大西家は名張町の素封家なり、銘酒鷹正宗同高砂の醸造元たり其創業は不詳なれども祖父正八氏が明治以前に業を始むと、鷹正宗と高砂は明治二十八年京都に開かれた第四回内國



勸業博覽會以下三十六年第五博覽會、大正博覽會、内外産業博覽會、東宮御成婚萬國博覽會其他の共進會品評會等より山なす金銀銅牌等を授領し畏しくも聖上皇后兩陛下並に東宮殿下行宮の際御買上の榮を賜りたる榮譽ある歴史を有す、當主正之助君は家業に精進する外何の趣味なく感すべき實業家である。



### 大森節藏君

萬原村大字萬生 明治十八年十二月十日生

家族 長女千枝子次女茂子共に實科高等女學校卒業、三女利恵子四女秀子共に小學在學

大森家は農を業とす、君は現在株式會社百五銀行名張支店長たり、明治四十年名賀郡書記となり累進して大正三年には勸業課長となる、大正七年八月辭して株式會社伊賀上野銀行に入り名張支店長となる大正九年十二月上野本店營業長に就任し大正十一年同行の百五銀行に買收せらる、や轉じて百五銀行名



氏藏節森大は眞寫

支店長となり現在に至る、資性温良社交に長じ頭腦また明晰の聞あり眞言宗を信ず。

### 小川七兵衛君

名張町大字本町 慶應元年七月七日生  
家族 妻とく、養女やえ同町下横町角田半兵衛長女、孫博義上中在學、二郎神戸育英商校在學、文雄小學在學

小川君本姓横山同町新町横山文圭氏の息なり、明治十年小川家に養はれ其姓を冒す、醬油醸造販賣を業とす、資性温厚衆望あり。

名張町の元老として衆皆其徳を稱す、明治二十六年名張町會議員に選舉されたるを名譽職の皮切りとして、名張商工會長に推され、大正十四年まで就任す、其他所得稅調査委員に選ばれる、こと二期、大字區長、學務委員等に就職す、又實業界方面としては伊賀銀行取締役、九十魚類株式會社取締役同社長、名

賀印刷株式會社取締役、社長伊山自動車株式會社取締役、甲賀自動車株式會社監査役、株式會社伊山自動車俱樂部監査役等に就任し地方の發展に努力す。

### 岡村常三郎君

名張町大字本町 文久三年九月五日生

家族 妻まち同町岡村甚六姉、長男永太郎、次男藤野榮助二女次男繁次郎分家、長女うの上野町本町菅野八郎兵衛妻、孫千代子名張高女在學富美子、常雄、英二小學校

同町岡村甚六家の分家なり、常三郎君本姓澤箕曲村大字夏見澤家に生る長じて岡村家に入婿分家す、衣服、書籍の販賣業を營みしが大正十二年七月書籍部を次男繁次郎氏に分ち別に家起家を起さしめ長男永太郎氏をして呉服商を經營せしむ。

### 岡村甚六君

名張町大字本町 明治三年五月六日生

家族 妻ひろ子同町鍛冶町藤野作助長女、長男甚一郎、嫁けい子同町新町横山正四郎三女、長女まつ子奈良縣磯城郡香久山村岡橋治右衛門へ嫁す、次女りゆう子新町辻安茂妻、三女この名張高女在學

岡村家は名張町有數の舊家なり、代々甚六と稱し荒物、漆器、農産具疊表類、計量器等を販賣す、初代甚六氏が寶曆年間下横町で開業、安永三年本町に移住し當主を以つて七代に及ぶ、當主甚六君性温厚にして衆望あり大正十年名張商工會副會長に擧げられ



大正十三年には學務委員に選舉さる、祖父甚次郎氏は博學にして名あり、著書詩集等を遺す。

岡崎 奈良藏君

名張町大字鍛冶町  
明治十年九月五日生

岡崎君は醬油醸造業を營み其販路を大和山城伊賀伊勢の一圓に有し伊賀唯一の大醸造家として推獎さる性廉潔にして公共心に富み苟しくも上手を言はず變人中の變物を以つて知らる、幼にして家を出で丁稚奉公の辛酸を嘗め明治三十二年十月僅かに名ばかりの醬油屋を開業して以來刻苦奮勵今日の盛大を見るに至る、其一生は實に波亂に富み眞に立志傳中の一人士として推獎に値する人なり、裸一貫の素丁稚から叩き上げた成功は田舎に於いて稀に見る處にして他の範とすべきものあり。

小田 喜三郎君

名張町下横町  
明治四年十二月四日生

小田君は旅館小田屋の主人公なり、眞宗を信仰す、喜三郎君大字鍛冶町藤井家に生れ小田家に入る、旅館の傍ら茶、繭糸商を營み利を得て有福となる、喜

三郎君性温良同業者間に信任あり、名張料理旅館組合の取締に推されつゝある一方大字横町區長に就職す、小田家は明治初年まで參宮道者の小休茶屋として有名なる小田屋のおでんを販賣せし家なりと。

小野 嘉平 太君

名張町大字瀨古手町  
明治十八年九月十八日生

小野君農を業とす、大正七年名張消防組合小頭に任せられ九年二月辭職大正八年一月大字瀨古手區長に推され同十二年一月再選して現在に至る、名張農會總代及評議員に擧げられ又第一、第二國勢調査に際し調査委員に擧げられたる等公事多し又大字瀨古手町街路改修に際し凹凸極りなきものを二間道路としたる等は君の功績の一に數ふべきである。

奥松 五郎君

名張町大字八丁  
慶應二年一月五日生

奥松君は藏持村大字大屋戸奥清松妹、長男九一、嫁しすへ藏持村大字大屋戸山下彦一長女、孫三郎外に三名あり松五郎君は藏持村大字大屋戸の出身なり、米穀肥料商を業とす、家代々農を業とせしが明治三十六年現住所に移轉して米穀商を營み家政益々振ふに至る、

伊賀米穀同業組合役員、大字八丁區長等に擧げられ現に其職にあり、眞言宗に歸依す。

小澤 靈 空君

名張町大字瀨古手  
明治十九年九月十七日生

小澤君は融通念佛宗泰寺の住職なり、奈良縣生駒郡郡山町字高田口に生る、明治三十二年郡山圓融寺にて得度し後添上郡平和村極樂寺住職丹波市別庄増岡寺住職を経て明治四十五年三月宗泰寺に轉住して現在に至る、累進して僧階大僧師を授けらる、大正三年同宗宗會議員に擧げられて以來數度の解散滿期等に重選され重用されて宗參事となる、子弟の教養する者多く飯田靈空、宇陀郡神戸小學校奉職、勝山靈覺、大和平郡村正明寺住職、森瑞善本山法務係等は君の子弟なり。

渡邊 文 夫君

名張町大字本町  
明治三十三年九月廿三日生

渡邊君は瀧川第一尋常高等小學校訓導なり、京都市西ノ洞院一條上ルに生る、大正十三年京都同志社大學英文科を卒業し後三重縣立松阪商業學校に教鞭を

執り大正十四年四月上野中學校に轉じたるが後事情ありて現在の地位に甘んずることとなり今日に至る性活潑にして文學美術を好み生徒父兄間に信任あり前途を矚目さる。

脇本 百太郎君

名張町大字新町  
明治三年六月十日生

脇本君は壯年時代より特に政治を談じ自由黨の院外團として活動せし人なり、遠く南滿洲地方にまで政治運動に出向した風變りの人なり、中年以來廢して湯屋業と賣藥業とを兼營す、大正六年十二月新町區長に選ばれ十年四月には名張町會議員に選舉さる、十四年四月再選され現在に至る、團基魚、漁等を好み現に名張漁業組合長に就任しつゝあり。

門根 米次郎君

名張町大字鍛冶町  
明治十六年七月七日生

門根君は滋賀縣犬上郡彦根町の出身なり、陸軍豫備少佐にして銃砲火藥販賣を業とす、性豪放磊落無慾にして酒を好む、武術に長じ



文藝の趣味又淺からず、和歌、俳諧を好み書に巧みなり、明治三十七年彦根中學校を卒業後陸軍士官學校に入り同校卒業後歩兵少尉に任官せられ大正十二年迄現役として勤務し歩兵少佐に累進して正六位勳六等に叙せらる、此間大阪歩兵第八聯隊、東京戸山學校、旅順歩兵第五十三聯隊、奈良聯隊、朝鮮神山聯隊、平壤聯隊、軍法會議判士等に歴任されたるも天性の武骨無頓着は下官に歓迎せられたるも悉く上官の迎ふる處とならず大正十二年遂に自ら職を捨て、田園生活をなすべく藏持村に移住したるが動機で現地に住することとなり現在に至る。

川地 覺君

名張町大字新町 明治三十一年六月一日生

川地君は寫眞撮影を業とし名賀郡唯一の信任を有す現に従業員四名を有し室内及野外出張撮影等をなし盛んに營業しつゝあり、大正三年十一月より津市に出で寫眞撮影術の研究をなす事五ヶ年術大いに進み大正七年歸郷す、爾來亡兄と共に寫眞術の獨創的研究をなし遂に獨得の技を得後父に逝かれ長兄を失ひ病弱の兄を養ひながら刻苦奮勵克く家業を起し大正

上野廣榮組出張所主任となり現在に至る。

川北 清一郎君

名張町大字八丁 明治二十八年四月廿五日生 家族 妻たみ、瀧川村長坂福本利助妹、長女てる小學在學、長男直外に三女あり

川北君は父祖の業を繼いで肥料商を營む、大正十一年名張運輸株式會社の組織せらるゝや専務取締役となり運送業を兼營す、君は名張町中名ある小壯實業家として前途を囑目されつゝある人なり、大正十年名張商工會幹事に選ばれ十二年六月には上野稅務署管内營業稅調查委員補充に十三年には名張町青年同志と相謀り公進會を組織し其會長に推され十四年三月には名張町會議員に選舉せられ更に同年十月赤目保勝會専務理事に推薦せられたる等前途益々多事なる青年紳士なり、眞言宗を信じ園基を好む。

金井 寅藏君

名張町大字新町 明治六年三月五日生 家族 妻しゆ奈良縣高市郡今井町森本渡次郎妹、長男寅次郎、長女ゆう子小學高三卒業後裁縫學校卒業自宅、二女榮子奈良縣高田高女卒自宅

金井家も亦名張町有數の舊家である、金物肥料等を販賣して富裕なり、先代平藏氏が明治二十八年紙商より肥料商に轉業し今日に至つたもので世々眞言宗

十年には新式の寫眞撮影場を新築して今日に至る、其家業に對する忠實は實に賞すべきものあり、衆皆之を稱す、乗馬を好み淨土宗を信仰す。

川上 信雄君

名張町大字八丁 明治二十二年十月十七日生 家族 母なを同町上横町井上文治叔母、妻孝子同町松崎町前田平兵衛二女、長女清子小學校在學、次女秀子、三女尚子、四女田鶴子

川上君は貸座敷業採花樓の主人公なり、園基を好み書畫骨董を愛す、眞言宗なり、同家は父信太郎氏が三重縣巡查部長を辭職して開業し今日に至れるものにして娼妓五名藝妓十一名を抱へ般盛を極む、明治四十二年歩兵第九聯隊に入營滿期除隊後在郷軍人分會員として活動す、大正十二年八丁區長に推され就職せしも十三年家事都合により辭職して家事に専心しつゝあり。

川口 信三君

名張町大字新町 明治二十一年五月廿九日生 家族 母よれ、妻ふじ子同町福森万次郎妹、長男清小學校在學、次男信男福森万次郎氏養嗣子、三男博、長女のお名眞實科高女在學、次女やぶ子小學校在學、三女ちよ子

川口君は土木請負と藝妓置屋を業とし融通念佛宗を信す、君は元理髮業なりしが大正十三年八月藝妓置屋業を創め更に大正十五年八月土木請負業を兼營し

の信者である。

亀井 久一郎君

名張町大字木屋町 明治三十一年三月廿一日生 家族 妻はる子山邊郡都伏野村藏西藤太郎長女、長男俊夫、次男正夫、長女久子



亀井君は小壯の實業家にして名張町に於て龜井自動車商會を獨力經營せる敏腕家なり大正五年榛原町役場書記となり大正十年收入役に推され十四年辭職同年五月榛原町會議員に選ばれる其他榛原町第二部消防組頭、村社篠畑神社氏子總代、榛原青年團副團長其他諸種の名譽職に就職して衆望あり、大正十四年四月名張町に出で龜井自動車商會を經營し現在四臺の自動車を置き赤目、香落探勝客貨自動車、名張、薦原間定期乗合自動車營業をなし傍ら株式會社松山自動車會社重役を兼ねる等前途ある青年實業家なり。

### 米山 彌三次郎君

名張町大字北出 明治十二年六月十三日生

家族 父彌三兵衛(八四)母さ(八六)妻さめの(四七)錦生村井手謙川清次郎女、養子清(二八)婦かつ(三三)孫やみ子(三三)

米山君は名張町會議員にして温厚の聞ある人なり、農を業とす、衆望の歸する處大字區長に選ばれ大正十四年三月名張町會議員に選舉されて今日に至る。

### 米山 久太郎君

名張町大字八丁 明治二十三年二月廿五日生

家族 父久吉、母小さ、妻うめ子奈良縣山邊郡東里村上笠間福田奈良松長女、息孫義、水口中學在學

米山君爾系商と米穀商を營む、餘暇園藝を樂み融通念佛宗を信ず、家業は元農にして傍ら米穀商を營みつゝありしを明治三十七年爾系商を兼營し爾來之に力を致す、名賀爾系同業組合理事、名張商工會評議員等に推され信任あり、大正十四年三月には衆望の歸する處町會議員となり現在に及ぶ。

### 横山 正四郎君

名張町大字新町 明治三年正月四日生

家族 父文圭、妻たつへ大和芝村藩士飛田安則女、長男省一京都中學在學、長女よし子同町下横町梅田英吉妻、次女しげ子同町本町岡村繁次郎妻、三女けい子同町岡村甚一郎妻、外に一男

多き中に起ちて時の郡會議長岩名秀松氏を説き名張説を維持して動かす遂に之を實現せしめたる等は君の努力の賜なりと稱して過賞に非ず、又縣道會爾街道の開鑿に際しても縣會議員二派に別れ輿論騒然たるのとき隻脚を以て常人も及ばざる奮闘をなし遂に之を現實せしめたる等其政治的活動史は實に華かなるものあり、近年政治界を退き醫業に精進しつゝあり、明治四十二年名賀郡醫師會長に推され同會の爲めに盡力を惜しまず大正十五年辭職す、三重縣醫師會では之を徳として大正十四年三月父文圭氏と共に功勞彰を贈つて之を表彰せり、園藝と骨董を好む

### 吉田 藤助君

名張町大字柳原 安政二年一月二十五日生

家族 長男義雄縣立師範卒業目下京都本能小學校首席訓導

吉田君は強烈なる黒住教の信徒にして定期株式賣買を業とす、一攫千金を夢み急激なる投機事業界に身を投じ奔弄さるること四十餘年最近名張町に居を卜し老後を靜養しつゝあり生を同郡瀧川村大字柏原に受く、常に黒住教を信仰し明治二十六年菅長黒住教管長より名張小教會所副長に任せられ同三十六年少講議に補せられ大正三年講正に同七年講正四級二級



正四郎君父は文圭舊藤堂家の侍醫たり、世々醫を業とし町民の信任厚し、君特に政治に興味を有し名張町會

議員に擧げらるゝ事數回、又郡會議員にも選ばる、徳望と氣骨ある政治家として名賀郡の一勢力たるを失はず、大正元年十月三重縣會議員の補欠選舉が行はるゝや推されて候補者となり當選大正五年總選舉に際して再び立候補して當選し次いで縣參事會員に擧げられ縣會議場隻脚の花と謳はれたる快男子なり性潔僻にして物に熱し易き弊あり、大正三年衆議院議員の總選舉に際し推されて立候補し川崎克(現通信參事官)仁保龜松(現京大教授)野村甲子郎等と轡を並べて馬を陣頭に進めしも不幸少數の差を以て落選す其郡會議員たる當時今の縣立名賀農學校の位置問題が起るや議論二派に分れ郡の中央説を維持する議員

信教に任せらるゝ、性崇神の念厚く神社佛閣等に金品を寄進する處多く明治三十七年一志郡太郎生小學校新築に參與し功により木杯を授けられたるを始めとして數次の表彰を受く。

### 谷口 光圓君

名張町大字平尾 明治二十六年十二月十日生

家族 先住未亡人及同上娘の三人暮し

谷口君は奈良縣宇陀郡三本松村大字西谷に生る、現眞言宗寶藏寺住職なり、幼にして寶藏寺先住古幡龍光師について得度し同寺に人となる、大正二年藏持村短野福樂寺住職となり焼失せる同寺再建について師僧龍光師と共に奔走其目的を達す、大正八年師匠龍光師の遷任に會し寶藏寺留守役となり同十年住職の認可を受けて今日に至る。

### 谷本 龜次郎君

縣立名賀農學校長 明治十一年六月五日生

家族 妻幾江下栢植同姓より、長男保夫(二二)名賀農學校卒業自宅次男(宏)(八)長女八重子(二六)阿山高女在學、次女君子(一三)

谷本君父は與三郎母は菊子其長男にして阿山郡西栢植村大字下栢植に生る、現縣立名賀郡農學校長なり長男をして阿山郡城南村大字四十九に四時福農場を經營せしめ農夫二名を督し畑二町三反田一町二反ノ

循環組織農業の顧問をなしつつ、あり、資性温厚にして稀れに見る篤學の士なり、幼にして昔の所謂寺小屋に學ぶ事一ヶ年後村立小學校を卒業し農業に従事の傍ら獨學す、適齡後西柘植小學校に奉職し檢定試験により尋常小學校准教員、高等同上尋常科正教員同



高等科の試験に合格し次いで文部省中等教員、農業科植物科の試験に合格し明治四十年六月相可農學校教諭に任せらる、

後三ヶ年四十二年四月三重縣立師範學校教諭に榮轉し大正二年十一月三重縣相可農學校校長に任せらる大正五年三月三重縣名賀農學校創立と同時に其校長に任せられ大正十五年四月同校創立十週年記念式を舉行して現在に至る、其他三重縣實業補習教育視學委員、同縣斯民會講師を囑托せられ縣下各地に出張講演をなす、功により大正七年三月公立實業學校長に

任じ高等官八等を以て待遇せられ同年八月正八位に叙せられ八年十一月高等官七等に九年三月從七位に十一月十月高等官六等に、同年七月正七位に十四年二月高等官五等に同年六月從六位に陞叙せらる、其君の如く小學教育を受けたるのみにて獨學して今日の如き地位を得たる人は未だ嘗つて聞かざる處なり是等は君の平素の刻苦勉勵が致せる處なるは元よりとするも一は其明敏なる頭腦と才幹が今日あらしめたるものなりと云ふを得べし、人云ふ今後の伊賀に君の如き人格者の立志傳中の教育家は恐らく得られずと誠に適切の言と言ふべし、君常に「農業は大地に描く藝術也」の見解の下に神人合一の生活を求めて快となしつゝありて其感念は既に仙境に入れるの感あらしむる人なり。

### 高田覺太郎君

名張町大字新町 明治十五年四月一日生  
家族 妻よし子松崎町大森甚兵衛女、長男角治自宅、次男茂大阪商校卒業在朝鮮、長女紀子東京實踐高等女學校在學

高田家は新町有數の舊家なり、其祖先は藤堂宮内少輔に從ひ伊豫より移住すと傳ふ、舊は刀鍛冶を業とせり、過去帳中に高田茂右衛門肥前守重則と云ふ者ある等は其舊家なる事を証するものなり、明治初年

頃は名張鎌を盛んに製造し鐵類の卸問屋を營業とせしが近年は野鍛冶を專業となす。

### 高野眞導君

名張町大字本町 明治元年一月一日生  
家族 妻いさな岐早縣大垣市中町乘蓮寺藤岡曠妹、長女賀壽子上野高女卒業婚愛知縣今伊勢村聰信寺、三好靈山二男佛光大學出身、次女壽賀子小學在學

君は大谷派專稱寺の住職にして愛知縣葉栗郡北方村大字妙性坊の出身なり、明治二十年十月出家得度して二十八年現寺の住職となる、東本願寺派の布教師に任命され全國を布教す、大正十四年八月には東本願寺第四組(多賀阿山鈴鹿河津安濃一志六郡)の副組長に推され更に桑名教務所教務員に任命累進して其寺格を準由緒地即ち同派伊賀唯一の大地に昇格せしめたり又名賀郡佛教團幹事となり今日に至る。

### 高北新次郎君

名張町大字瀨古手(驛前) 明治二十年一月十日生  
家族 妻みね美濃波多村新田龜山卯之助長女、長男正一、次男進小學校在學、三男實

高北君は箕曲村大字夏見の出身にして高北犁の製造販賣者なり、名張唯一の事業家にして其製犁の販路は全國一圓から更に殖民地々方にまで及び一ヶ年の製産高は犁五万臺に及ぶ、新案登録二千數件を所有



、以つて其般盛りを窺ふに足る、性機械農具の改良に興味を有し年十二歳のとき同町下横町梅田千代松商店に丁稚奉公の傍ら犁の改良に腐心し勤続十六年の間に漸く一部を完成し大正四年主家を辭し大字峡間にて獨力經營し、大正十二年伊賀鐵道の開通と同時に現在の處に工場を新築して今日に至る君の如きは實に立志傳中の一人として推奨するに値ある人なり。

### 田中逸之助君

名張町大字本町 安政五年六月二十五日生  
家族 長男源之助餘くに子辻森保吉妹、次男博吉慶應義塾在學、長女ゆく大阪西區薩摩郡惠町藤堂爲之助妻、次女まき東京市外中目黒稻上伴郎妻、三女きよ同町支店經營、孫源之助長男逸郎、長女彰子、共に小學校在學

田中家は名張町有数の舊家にして祖先是藤堂高吉に従ひ伊豫より移住す、家業に乾物と洋酒醬油の販賣をなす、當主本姓は藤野長じて田中家に入る年齒十三にして柳瀬學校に教鞭を採る、明治二十五年名張町會議員に擧げられ爾來三期間再選さる、又大字區長の職にあること十二年學務委員たること二期、名賀高等小學校組合會議員たること二期等あり、以て其人となりを窺ふに難からず又伊賀銀行魚類會社運送會社等を創立發起して其重役たりし事あり、社會公共の爲めに盡力せし人なり。

田中耕作君

名張町大字本町  
明治十三年四月十日生



三十二年阿保村役場書記となり三十六年三重縣巡查

家族 妻小はる  
長男弘、婦民子  
孫富子健、啓司

田中君は現名賀郡自治廳主事補なり、阿保町大字羽振に生れ田中家に入る、明治

を拜命し四十年七月名賀郡書記に任せられ學務衛生庶務係等に任せられ大正五年比奈知村長職務管掌を命せられ大正七年勸業係主任を命せらる、大正十四月一月依願退職名賀郡農會幹事に就任今日に至る、傍ら名賀畜産組合副組長名賀郡自治廳主事補となり現在に至る、資性温厚衆望あり、家族は下駄商を營む。

辰己榮三郎君

名張町大字上横町  
明治二十五年四月廿六日生

家族 養母輝子、妻八重子、養妹節子共に名古屋女子商校卒業、同

君は字陀郡會爾村小長尾井上家の出生なり、畝傍中學より大阪府立農學校に轉じ大正三年三月卒業同年一年志願兵として歩兵第五十三聯隊に入營除隊後關西日報運動部記者、奈良縣武德會助教字陀郡書記等に歴任大正八年辭して辰己家に入る、柔道を好み弘道館日本武德會の二段免許を受く、辰己家は銘酒花笑の醸造元にして明治二十七年先代榮三郎氏か古物商吳服商を廢して轉業せしものにして販路擴く近畿一圓に及ぶ。

竹原岱做君

名張町大字本町  
明治十二年四月八日生

家族 妻みづ子、長男桂太郎東京帝大法科在學、二男健二郎大阪稅



關奉職、三男長平小學教員、長女千代子名張高女在學、次女ふみ子、四男四郎小學在學

竹原君は比奈知村松本泰裕君の令弟なり長じて竹原家に入る明治三

十九年名張郵便局長に任せられ大正八年九月故あり辭職す、性卒直なる爲め時に誤らるゝの損失あり、明治四十三年名張町會議員に擧げられ大正二年再選更に同八年九月名賀郡會議員に選ばれ又伊賀鐵道株式會社取締役就任す、日蓮信者にして名張町中稀れに見るの傑物なるも衆に容れられず晩近殆んど孤立の状態にあり、心ある者は尙に君の境遇を憐むと同時に其一徹短慮を惜む、家業は繭糸商たり。

竹原熊次郎君

名張町大字新町  
明治十年三月十五日生

家族 妻ひで子同町瀨古手竹原茂三郎姉、養嗣子忠次同町増岡門治二男、嫁美代子竹原茂三郎長女

熊次郎君は同町の有名なる舊家竹原家の分家に生る先代喜七氏が竹原家より分家し吳服商を經營し「かせ喜」と商號して大和伊賀伊勢に販路を有し家政振ふ、熊次郎君先年重患に冒され記憶力を失ひ目下靜養中なるが健康なる時は温厚の世話好き者として同業者間に信用あり同業組合の會計、檀家寺妙典寺の世話方等に擧げられ奔走せる人なるが今は病みて全然活動力なし惜しむべきである。

瀧野長太郎君

名張町大字新町  
明治十九年十一月十日生

家族 妻みさ、長女さだ子、長男定、二女登志子

瀧野君は東京市下谷區徒士町二丁目に生る、向陽館の主人にして御料理仕出し並に藝妓置屋を業とす、大正四年五月同町喜多藤旅館に得意の技倆を以て料理番とをり勤務大正十年三月辭して向陽館を經營し大正十四年十二月藝妓置屋を兼營し今日に至る、向陽館は料理の美味と新鮮を以て客受けよく瀧野君獨特の調理の妙は一層人氣を索くに至れり。

### 津地亀之助君

名張町大字狭間 安政六年四月二十日生  
津地君は名張町政界の元老なり、明治十一年一月戸長役場筆生として奉職以來終始一貫其一生を社會公職に奉じたる人なり、明治二十二年町制實施と同時に名張町會議員に選ばれ傍ら伊賀名張郡役所書記を奉ず、明治二十四年二月名張郡八ヶ村組合會議員に選ばれ同九月伊賀名張兩郡組合會議員(郡會議員)に當選更に三十四年名張會議員に選舉せられて以來大正十四年迄再選し名張町長より感謝状を受く、其他神町區長、新町區長等に任せらるゝこと二十ヶ年に及び又縣社總代學務委員、名張町外六ヶ村組合高等小學校會議員等を奉職し大正三年には名張煙草小賣人組合長同九年には伊南煙草小賣人組合長に就任現在に至る、其他諸種の名譽職に推されたる事故擧に違非ざる人なり。

津地君は名張町政界の元老なり、明治十一年一月戸長役場筆生として奉職以來終始一貫其一生を社會公職に奉じたる人なり、明治二十二年町制實施と同時に名張町會議員に選ばれ傍ら伊賀名張郡役所書記を奉ず、明治二十四年二月名張郡八ヶ村組合會議員に選ばれ同九月伊賀名張兩郡組合會議員(郡會議員)に當選更に三十四年名張會議員に選舉せられて以來大正十四年迄再選し名張町長より感謝状を受く、其他神町區長、新町區長等に任せらるゝこと二十ヶ年に及び又縣社總代學務委員、名張町外六ヶ村組合高等小學校會議員等を奉職し大正三年には名張煙草小賣人組合長同九年には伊南煙草小賣人組合長に就任現在に至る、其他諸種の名譽職に推されたる事故擧に違非ざる人なり。

### 辻 猶次郎君

名張町大字新町 明治元年十二月五日生  
猶次郎君は現箕曲尋常高等小學校校長なり、阿山郡輛田村大字下友田に生る、長じて猪田村大字猪田辻本家に入婚して其姓を冒す、明治四十二年三重縣師範學校を卒業それより猪田村名張町、國津村、瀧川村、葛原村、古山村等の各小學校に奉職し現在箕曲小學

校長として勤務中の人なり、性温厚にして子弟教養に熱心なる良教育家なり。

### 辻森竹次郎君

名張町大字鍛冶町 明治十九年四月五日生

竹次郎君は同町本町の素封家辻森保吉君の實弟なり、明治三十三年上野中學校を中途退學して大阪高商豫科に入り四十二年三月本科卒業大阪にあ。西區本田通り半田綿行に勤務せしが十二月召されて一年志願兵となり歩兵第三十八聯隊、經理部に入り四十四年三月除隊大正二年陸軍三等主計に任せられ正八位に叙せらる、大正元年在郷軍人會名張分會長となり六年名賀郡聯合分會副會長に推さる、同年三月名張町會議員に選ばれ十年再選す、大正五年伊山自動車株式會社の創立に際し取締役に擧げられ十三年九月伊山自動車俱樂部株式會社創立と同時に取締役社長となり現在に至る、其他諸會社の重役に歴任さる、園藝文藝を嗜む。

### 辻 森 保 吉君

名張町大字本町 明治五年六月十九日生

保吉君は同町本町藤野平右衛門女、長男多一郎(二三)上中卒業自宅、長女志津子京都叔女女學校在學、二男正信、三男大藏共に小學校在學、四男高平、二女清子

二同町峽間芳澤家に養はる、長女しづ子京都府河鹿郡似賀村酒井延二郎妻、三男俊三、嫁きよ



辻家は新町有数の舊家なり、明治二十九年名賀郡書記を拜命し同三十一年三重縣屬に任せられ三十五年まで奉職し後再び

名賀郡書記を拜命し大正十二年四月名張町助役に推薦せられて退官、就職して現在に至る功により大正九年勳八等を授けられ十年從七位に叙せらる。資性温厚にして衆望あり、町民の信任多し。

### 辻本 嘉 藏君

名張町大字狭間 明治二十一年七月八日生

辻本君は現箕曲尋常高等小學校校長なり、阿山郡輛田村大字下友田に生る、長じて猪田村大字猪田辻本家に入婚して其姓を冒す、明治四十二年三重縣師範學校を卒業それより猪田村名張町、國津村、瀧川村、葛原村、古山村等の各小學校に奉職し現在箕曲小學



辻森君は繭糸業を營む、名張町有数の舊家にして又資産家なり、父は多吉母はしづ子其長男に生る、大正二年名張銀行取締役に擧げられたるが大正七年同行が八十三銀行に合併せらるゝや同行の監査役に擧げらる、其他名賀印刷株式會社、大正運輸株式會社等を發起創立し其重役に擧げらる、性温厚にして園藝を好む。

### 永井 最 傳君

名張町大字北出 文久元年四月九日生

永井君は同町大字上横町の出身なり、宇治山田市に出で同地某寺に出家得度し大正九年歸郷眞言宗觀音寺の住職となる、資性温良にして夙に良宗教家の間高く常に祖師の教に従ひて宗風の擴張に力を致す、觀音寺に住して以來本堂の朽廢せるを歎し之が再建を決意して大正十一年克く之を完成し又墓地の擴張

等をなし只管宗風の振興に力を致しつゝあり、檀徒に尊敬せらる。

中村 權君

名張町大字本町 明治十一年五月六日生  
家族 妻トミ大阪府南河内郡柏原町高橋愛三郎氏妹、長男重雄大阪齒科醫專在學、次男重敬京都第一中學校在學、長女捷子大阪市住吉區天王寺町小堀直人妻、次女小學校

醫を業とし淨土宗を信仰す、京都醫專の出身にして明治三十五年一月より名張町本町表通りに開業し主として産科婦人科の診療に従事し一方内外科一般の診療をもす、大正十二年十二月本町裏通りに完全な病室の新築を了し之に移轉して業績大いに振ふ、現在ある病室八は常に満員の状態にあり、専門醫の苦しき立場を漸くにして切り抜け現今にては他の羨望の的となる、明治三十五年以來箕曲小學校醫名張小學校醫を囑托せられ大正十年には名張町醫を囑托せられて現今に至る。

中島瀧之助君

名張町大字豊後町 明治十五年五月一日生  
家族 妻とよ、長男多藏小學在學、次男武男、三男三男、四男巖石長女八重子

中島家は代々農を業として大字北出に住せしが大正六年六月新町に於て牛乳商を開業し大正八年三月名

張牛乳株式會社の創立さるるや之に合併して自ら支配人となる、十年七月同社を解散せしが其權利を獨力買收して經營し今日に至り家政大いに振ひ乳牛十四頭を飼育するの盛大を見るに至る。

中島奈良松君

名張町大字新町 明治四年十二月二十八日生  
家族 妻みつ子瀧川村柏原森垣猪之助妹、長男良一、嫁かづへ古山村南出杉岡重太郎長女

中島君出生地は錦生村大字黒田家世豊かならず、明治十五年同町本町藤野平右衛門方に丁稚奉公をし十三年間精勵年二十五歳にして獨立し本町にて水車業を營み八年後小資を得て現在の所に移轉酢製造販賣並に醬油販賣、靴製造を開始して今日に至り家政大いに振ふ、蓋し君の如きは眞に立志傳中に加ふべき偉材となすべきなり、釀造の酢は商標を山中張江酢と名じ販路廣し、厚く眞言宗を信ず。

中森千代藏君

名張町大字八丁 明治十七年十月十五日生  
家族 妻と子供二人  
中森君は現比奈知小學校々長なり、明治四十年三重縣師範學校を卒業以來小學校に職を奉じつつある人なり、性文藝を好み創作物を得意とし文人、詩人等

と交友あり、左に其自作傳を記して其人となりを紹介す、曰

二十年間の教員としての暖簾は可なり古くそれだけうすきたなく汚れてあます、人物など、偉そうには言へないが動物としての私の履歴は親爺のあそびで宗教家になるには餘りに浮世に未練がありました、それで思ひ付いたのが教員なんです、爾來二十餘年間二日の如く格勦精勵今日に及び海に乘の龜鑑たりと褒めて頂くに事代へてお上司様には頭が上らずお村の偉い人々には御辭儀のしめ教へて下さるの頭の數で差引勘定してせめてもの心休めさしてあます、明治四十年飯南の山奥を振出して郡内藏持、瀧川、種生の各村を歩き廻り落着いたのが今の比奈知學校餘暇に梁川と號し悪文を綴つて文士がる處雜氣満々吾年ら可愛らしい男と思ひます。

中森良成君

名張町大字平尾 文久三年三月一日生  
家族 妻むめ(五八)宇治山田市湯木家より、長男良文(三三)婦ひさえ大和町郡山町小澤淺次郎女、孫良尙(二)美代子(五)

中森君は縣社宇流富志彌神社々司なり、資性温厚厚無言にして信仰生活をなす人格者なり、當家の祖は源吾莊賀と云ひ良成君は其十六代の孫なり、町社蛭子神社の社掌を兼務す、息良文君は大正三年神宮皇學館を卒業大正七年村社國津神社々掌を拜命大正九年國津小學校教員となり十一年辭任同年十一月縣社積田神社々司となり現在に及ぶ。

中森安太郎君

名張町大字八丁 明治二十年十二月十五日生  
家族 妻ます阿山郡府中村東條松山和平娘、長男幹男在大阪、外に

三男二女あり

中森君自轉車販賣並に修繕時計販賣修繕に従事し技術に長じ信用あり、美濃波多村大字東田原の出身にして幼にして大阪に出で時計修繕職を習ひ明治四十年名張町に移住開業す、大正九年大字八丁區長代理に擧げられ今日に至る、又名張小學校の火兄母姉總代たり。

村井伊八君

名張町大字鍛冶町 明治二十六年十月八日生  
村井君は染色業を經營す、俳句と謠曲、菊栽培を樂しみ殊に俳句は妙域に達すとの評あり屏山樓と號し同好者間に知らる、家業に忠實にして染色中にも

印入染物、小紋附染色については特に多大の犠牲を拂ひ各地を視察し自ら研究室を設け獨特の技術を體得して顧客間に好評を博しつつあり。

梅田奥藏君

名張町大字八丁 明治十年四月一日生  
家族 長男徳男上中卒業東京原田家勤務、次男重雄上中中途退學京都山口家に勤務、長女文子、次女千賀子共に名張實科卒業自宅、三女京子、四女久子女學校在學五女香代子、六女敏子小學、七女千壽子

名張町の舊家梅田家の一族にして當主は同町傳吉氏の實弟なり、性豪放無慾にして商業をなさず常に氣

焰を萬丈に擧げて暮す、大正七年大字八丁區長に擧げられ十年二月には名張町會議員に選ばれる、人世話を好み毎年産地より甘薯を購入し之を原價にて希望者に分ちて得意となしつあり。

梅田 政 男君

名張町大字下横町 明治二十八年八月三十日生 義兄千代松大阪在住株式會社梅田製鋼所專務、養母まさ子、妻やす子

政男君本姓は大西同町本町大西正之助君の弟たり、大正二年三月大阪市立成器商業學校を卒業大正九年十二月梅田家に入り梅田姓を冒す、梅田家の一族にして先代千代松氏は同町八丁梅田傳吉氏の令弟にして分家せしものなり、金物商を業とし家政大いに振ふ家主千代松氏は大阪に出で實業界に活動しつある爲め政男君専ら家政を司る、温好なる青年紳商なり。

梅田 傳 吉君

名張町大字八丁 慶應二年十月十七日生 母、妻ため子宇陀郡藤原町中川奈真一妹、長女やぶ子、婿三郎阿山郡友生村山本鹿太郎三男、次女みよ子藤原町吉岡四郎一に嫁す、孫智恵子、弘義、美智子、孝義

名張町唯數の舊家にして祖先是金澤藩士梅田傳右衛門天正二年名張町に移住すと傳ふ、現主は其十四代

の孫なりと代々鑄物製造を業とし弘安二年早くも藏持村に鑄造工場を設置し後安政三年八丁畷に之を移轉すと傳ふ、當主傳吉君に至り家政益々振ふに至る平素勤儉力行する賜なり傳吉君かつては名張銀行取締役頭に就任同行の八十三銀行と合併さるるや其取締役に擧げらる、名張町金權者の一である事を失はない一人である。

梅田 傳 二君

名張町大字下横町 明治二十一年三月八日生 家族 長男俊吉上中在學、次男守郎小學、長女美佐子京都淑女高女在學、次女富佐子小學外に二男あり



傳二君は名張梅田家の一族にして清酒釀造を業とす、

先代傳二氏が明治二年創業す、銘酒春花の釀造元なり當主傳二君衆望あり大正六年名張町會議員に擧げられ同七年には上野稅務署管内所得稅調查委員に選擧され前途を囑目されし青年紳士なりしが大正九年

所感ありと稱して一切の公職を辭し専ら家業に専心することなれり、性潔僻にして決斷に富む故に、一切の諫止を斥けて勇退の擧に出づ實業方面では名張銀行監査役同行の専務取締役、伊賀鐵道重役等に擧げられ地方實業界にも貢獻せし人なり、園藝を嗜み之を能くし初段の免許を受く、又書畫骨董を好み之を弄ぶ。

山村 一 雄君

名張町大字八丁 明治十六年六月十三日 家族 妻うめ、長男永三大阪在住天王寺町に米酒醬油商經營、嫁たき、長女名張實科高女在學、三男清一小學在學

山村君豆腐商を業とす、大正十年十二月大字八丁區長に選ばれ大正十四年三月には名張町會議員に選ばれ現在に至る、又名張小學校父兄母姉總代に擧げらるゝこと數回に及ぶ、趣味に政治を談ず。

山村 光次郎君

名張町大字柳原 明治五年五月三日生 家族 妻まさ子、長男義忠自宅、次男明夫京都立明館大學在學、三男和郎上中在學、嫁秀子上野福居町寺村金之助長女、長女光枝上野町相生町大窪齋二妻、孫泰朗

光次郎君本姓は森永、神戸村比上に生れ山村家に入る家世乾物商を業とす、山村家の初代は由右衛門と云ひ大和山田村の出身なり、當主は其五代目なり光

次郎君衆望あり明治三十八年柳町區長に推され二期を勤め大正六年には名張町會議員に選ばれる、大正十三年十月三度柳町區長に選ばれ現在に至る。

山村 彦 三君

名張町大字本町 明治十四年七月十四日生 家族 妻きぬ、錦生村黒田中山岩松妹、長男堯之助、嫁清子阿保町大字阿保森川俊三妹、長女しず子奈真高師附屬高女卒業自宅にあり、次男彦九郎小學校在學中

彦三君は吳服商を營み淨土宗を信ず、先代彦三氏明治十二年同町山村家より分れ吳服商を營む、當主幼名篤次郎父の死後其名を襲ふ、家政大いに振ひ丁字屋の名は遂に本家を凌駕するに至る、町民呼んで角の丁字屋と云ふ、本分家共に丁字屋と號するが故なり。

山岸 友 三君

名張町大字松崎町 明治二十年三月十三日生 家族 妻こ枝

山岸君は書籍商を營む、古本の賣買については特に藏薄利多賣を主眼としつゝあり、瀧川村大字長坂に生れ大阪市に出で市電運轉手として勤績十數年近年辭して名張町に住す電車の運轉に堪能にして伊賀鐵道の電化に際し運轉手教師に聘せらる。



### 松田市松君

名張町大字新町 元治元年十二月十日生  
養嗣子秀造同町下横町喜多村勘兵衛弟、嫁天王寺驛長寺島伊太郎女、孫富太郎小學在學

松田君米穀商を營む、明治四十一年以來名張町會議員に擧げらるゝ、こゝ前後四回現に其職にあり明治三十六年新町區長に推されたるも一ヶ年にして辭職其後再三選舉されたるも固辭して受けず、かつて爾系業に米穀商を兼營せしも大正十二年以來爾系業を廢して現在は米穀商專業となる、眞言宗を信ず。

### 松田熊次郎君

名張町大字本町 明治七年一月八日生  
家族 妻とく、長男爲之助、次男徳太郎共に自宅にあり、外に二男二女あり

父は徳兵衛氏、明治初年醸造業を創む、銘酒松之露の醸造元なり眞言宗を信ず、熊次郎君業に従ふ事熱心にして松の露は各地の博覽會共進會品評會等に多くの賞狀賞牌を受く君又衆望ありかつて名張町會議員大字役員等に選ばれたる事數回に及ぶ。

### 松本喜代松君

名張町大字下機町 明治五年七月五日生  
家族 妻と錦生村黒田中川善之妻長女、長男喜一、嫁きみ子同町、神町池田仁七郎妹、二男喜二郎黒田中川家を繼ぐ

松本君は各國産紙御小賣をなす、喜代松君性沈着讀書を好み眞言宗を信ず、明治四十年十一月名張町收入役に就職し四十三年五月家事都合により辭職す、大正二年四月名張町會議員に選ばれ六年四月滿期退職す大正十四年十月名張町商工會幹事に推され現在に及ぶ、第一回第二回の國勢調査委員を命ぜられ其職を完ふす、地方の一功勞者として町民に尊敬せられつゝあり。

### 松本己之助君

名張町大字松崎町 明治二年九月二十五日生  
家族 妻いわ同町瀨古手町中井竹藏姉、長女きり子、婚清信奈真縣吉野郡黒瀧村笠木岩井清五郎二男、孫美喜子、甚一郎、美惠子

松本君は田原屋と商號し吳服商を營み家富む、己之助君幼にして兩親に別れ親類の家で成育し年二十にして祖業の米穀商を廢し吳服商となる、衆望あり大正二年三月名張町會議員に選ばれ大正六年再選す、又大字區長に選ばるゝこと數回に及びしも辭して受けず、又吳服同業組合長に推されて二十數年の久しき今尙其職にあり、園碁を嗜み之を好くし初段の免許を受く、又將棋も達者なりと。

### 前田圓造君

名張町大字松崎町 明治二十年五月二日生  
家族 妻さき、長女きみ子名張高女卒業自宅、長男平一上中在學、

次女京子、三女智恵子共に小學在學

君は古山村の出身にして中村保造君の令弟なり、明治四十年十月前田家に入る、酒造を業とし淨土宗を信ず、家業は先々代平七氏が明治四年創む、銘酒壽冠の醸造元なり壽冠は各地の博覽會以下諸會にて金銀銅牌等授領し畏くも聖上陛下皇太子殿下行啓の際御買上の榮を擔ふこと數回に及ぶ。

### 増岡門次君

名張町大字新町 明治七年二月八日生  
家族 妻久野、藏持村田中龜次郎長女、長男三次、婦きね、箕曲村夏見生悦住由太郎三女、次男忠次同町竹原藤次郎養子、三男榮治自宅、四男繁治、五男健治、長女治子共に小學在學、六男重次、孫彦治

君は藏持村大字藏持の出身なり、下駄商を業とし御小賣をなす、年十三歳にして父に別れ薄縁にあたる上横町辰見榮三郎方に奉公し十九歳のとき病の爲め辭し二十五歳のとき獨力にて上横町に菓物商を開き一方下駄商を營む後四年にして現在の所に移轉し家業大いに振ふ衆望の歸する處下駄同業組合長に選ばれ多年組合の爲め盡力す、大正十三年十一月新町區長名張町商工會評議員に擧げられ現在に及ぶ。

### 布生音次郎君

名張町大字鍛冶町 明治二十一年五月一日生  
家族 妻すへ箕曲村夏見玉川丑太郎二女、長男義三外三男あり

布生君本姓藤野、箕曲村瀨古口に生る、明治三十六年名張町に移住して製糸業に従事す、大正六年布生家再興の爲め其姓を冒す、大正十四年三月名張町會議員に選ばれ現在に至る、政治を好み選舉ある毎に憲政派に投じて奔走す融通念佛宗を信じ、園碁を好む。

### 福井達之助君

名張町大字松崎町 明治十年三月十三日生  
家族 妻さだ子字陀郡三本松村大谷半一姉、長男庄太郎、次男清、長女ふく、婿泰一瀧川村大屋戸俊男弟、次女さく小學校

福井君は父祖の業を繼いで綿布商を營みつゝありしが家業大いに振ひ商賣を擴張して現在は度量衡器、綿糸、酢肥料、油類の御小賣をなす、大正十四年三月選ばれて名張町會議員となり現在に至る

### 福田末男君

名張町大字新町 明治二十三年十一月一日生  
家族 妻キタノ、長男棋男史、二男紀三男、三男史郎

末男君、本姓垣本、箕曲村青蓮寺に生る、大正四年



姓を福田と改む明治四十三年七月津電燈株式會社技手に招聘せられ入社し大正八年九月家事の都合により辭職退社す、大正九年三月名張町收入役に推薦され就職して今日に至る、融通念佛宗を信す。

### 福喜多 重兵衛君

名張町大字本町 文久二年三月十六日生

家族 妻さつ子、嫁長男故休吉妻、上野中山善助長女、長女さき藏、特村松山七三妻、次女まさ津市松田佐左右衛門妻、三女さき子、上津村山本武夫妻、孫喜一京都第二商校在學、のぶ上野松井家養女、重光みち小學生、麗子猪木隆三妻

福喜多君商號を世々魚重と稱し名張町有數の素封家たり、君は上津村山本漢氏の令兄にして福喜多家に養はる、家、魚類肥料商を業とし數代に及びしが明治三十四年旅館を經營したるが後業を息故休吉君に譲り考後の餘生を樂みつゝありしが休吉君に逝かれ今はゆき家庭にありて愛孫の撫育に専念しつゝあり

り、融通念佛宗を信す。

### 福本 政 克君

名張町大字鍛冶町 元治元年十一月十五日生

家族 妻西成郡玉手町渡邊一郎姉、長男克成、嫁住吉區西田邊町西村内藏司妹、長女分家、二女本縣女師範在學

福本君は名張町の老政治家なり、明治十八年京都府相樂郡南稻田村にて小學教員となり二十年辭して大阪府巡查を拜命、二十九年辭して北村泉屋新田副支配人となり三十三年難波製鋼所支配人となり三十六年歸郷名賀郡南部質屋組合取締に推され現在に及ぶ、又名張町會議員に選ばれ明治四十四年九月には名賀郡會議員に擧げられ大正四年再選衆望の歸する處郡參事會員となり、又大日本武徳會三重支部幹事に選任さる實業方面では大阪東洋看板工業株式會社取締役大正運輸倉庫株式會社専務取締役となりたる事あり、淨土宗を信仰し同町西方寺の世話方として本堂の再建に力を致せり。

### 福本 正 績君

名張町大字鍛冶町 明治三十一年九月一日生

家族 妻幾子(二六)長女洋子(四)次女和子(二)

福本君は名張小學校訓導なり、大阪府南河内郡藤井寺村大字北山に生れ長じて福本家に入婿して其姓を

冒す、大正八年三月三重縣師範學校を卒業し薦原村小學校訓導に任せられ大正十三年九月名張小學校に榮轉して今日に至る、資性温厚にして磊落前途ある青年教育者として父兄間の信任厚き人なり。

### 福森 次 郎君

名張町大字本町 明治十八年十二月廿三日生

家族 妻さつ子、養母やぶ、養祖母さく、妹さきの京都平安高女卒業自宅、長女淳子

福森君本姓松尾宇陀郡松山町松尾七郎氏の弟なり、明治四十三年七月京都高等工藝學校を卒業同年十二月一年志願兵として伏見工兵第十六大隊に入營翌年十二月除隊山口縣三田尻高等女學校に奉職大正三年末辭職大正五年十二月福森家に入家し吳服商を營む謠曲、洋畫圖案等の趣味を有し眞宗を信心す、在郷軍人會名張分會長に推されたる事あり、大正十三年六月以來名張實科高等女學校囑托教師として現在に至る。

### 藤井 虎 祐君

名張町大字瀨古手町 明治十一年八月八日生

家族 妻さよ同町鍛冶町稻森信妹、長男正一大阪在住、次男健吉大阪市立工業學校在學中、三男省三、四男光太郎小學生、五男豊一

君は九十魚類株式會社支配人たり、明治三十一年同



### 藤田 鐵 太郎君

名張町大字本町 明治十一年二月二十八日生

家族 妻もこ

社に入りて以來今日に至るまで十年一日の如く業務に恪勤克く今日の地位を得るに至れる人なり大正十年三月衆望の歸する處名張町會議員に選ばれ又名張小學校父兄母姉總代に推さる、常に薄給に甘じ業務に精勵する君の如きは當代得難き人と言ふべきなり

藤田君は現名張郵便局長たり、本姓は中井、阿山郡山田村大字平田に生る、長じて藤田家に入家し其姓を冒す、藤田家は舊鍛冶職にて舊家なり、明治三十一年歩兵第九聯隊に入營陸軍伍長に累進して三十四年十一月除隊、三十五年六月より名賀郡役所に奉職三十六年十二月辭職四十三年五月名張町收入役に就任し同年十二月名張町斯民會副會長に任せられ大正元年在郷軍人會名張分會長に推さる、大正

五年五月一切の公職を辭し同六年伊賀上野銀行名張支店長となり八年一月辭職して同年九月名張郵便局長を拜命して現今に至る。

藤野 作 藏君

名張町大字鍛冶町 明治二十三年四月二日生

母有子奈良縣三輪町醫師奥田周達氏姉、妻ノアへ奈良縣郡山藩七飯野敬夫妹、長男眞一、長女貞子  
藤野君は名張町唯一の舊家として町民間に尊敬せらる祖先は奈良縣より移住し矢ノ根の製造を業とし矢ノ根屋と號す、後當主より十一代前の主五郎右衛門藥種商を營み矢ノ五藥店と改む、由來家業大いに振ひ六代後の五郎右衛門の代には藥種問屋として日本六十餘州を跨にかけて矢ノ五藥店の名を知らしむる迄に至れり、又舊藩主の御用商人として名字帶刀を許され一世に喧かりし家柄なりき、祖父作助氏醫を業とし有名な變人なりし爲め家政を見る事能はず漸く不振となり明治三十六七年頃迄吳服商等も經營して其挽回に努めたるも昔日の盛大を見る能はず、當主の温良なる、性質と勤勉力行により家名漸く起たんとしつゝあり、現在名張町にある數戸の藤野家は此家の別家或は分家なり。

小林 良之助君

名張町鍛冶町 慶應元年五月八日生

妻こ子東京市外移並町間野一姉、養子宗彦九州醫科大學卒業後同校に實地研究中、長男良一上野中學在學、長女より子阿山高女卒業自宅

小林 病院長

自 (筆)

小林 良之助

良之助 君は奈良縣榛原町の出身なり、明治二十九

年始めて名張町に移住伊賀病院を創立す、伊賀に於ける病院の創始となす、明治三十九年小林病院と改稱し副院長藤井清氏を聘し伊賀を始めとして廣く大和伊勢等の患者を收容し信任厚し、大正六年衆望により名張町會議員學務委員に擧げらる、又名張尋常高等小學校、同實科高等女學校の校醫を囑托せられ大正十五年には名賀郡醫師會長に選ばれ今日に至る。

小西 長七君

名張町大字上横町 明治二年十月二日生

妻より比奈知村吉住健姉、長女しず子丹後興郡岩ヶ鼻島崎榮次郎妻、次女加壽子大阪西區新町通信問清妻、三女賴枝子京都醫科大學にて醫術研究中、長男長夫自宅、四女幸子名張高女在學、五女わさ子小學在學、祖母ます

小西君は藥種商として名張町の有力者なり、挿花園基を嗜む、明治三十四年名張町會議員に選ばれ爾來再選さるゝこと四期、此間大字區長にも推さるゝ、大正八年縣社氏子總代に擧げられ以來前後二期半就任し苦辛して造營基金を募集し三千八百五十圓を作り縣社の造營を永久に此基本金によつてなさしむることなせり、名張實科高等女學校の設立と同時に生徒教師の囑托を受けて現今に至る。

寺田 正之助君

名張町大字北出 明治二十五年十月三日生

養祖母なか(八七)養母なか(六二)妻ます(三五)長女愛子(一一)長男傳次(九)三女正子(五)四女敏子(一)  
寺田君本姓は中野、父は菊松其二男にして箕曲村大字中村に生れ寺田家に入婚して其姓を冒す、大正二年三月三重縣立師範學校を卒業後猪田村小學校に勤務大正三年四月箕曲小學校に轉任五年四月名張小學校へ十一月四月箕曲校訓導となり現在に至る、性温厚にして父兄間に信任あり前途を囑目されつゝある人なり。

寺島 新之祐君

名張町大字瀬古手 明治二十一年八月廿七日生

妻ます、長男新一(一〇)長女千代(一七)次女靜子(一一)三女しげ(六)



安倍 多計志君

名張町大字瀬古手町 万延三年六月十日生

重明日本醫學會社大阪出張所長、長女りつ靜岡縣小笠原郡和田岡村へ嫁す  
安倍君は大分縣宇佐郡豊川村の出身にして現名張町長たり、明治二

十七年一月名張稅務署長として來任後靜岡縣下見付稅務署長、同掛川稅務署長、臺灣土地調查局調査主

幹等に歴任せられ明治三十四年辭して名張町に移住し名張町會議員に擧げられ大正五年名張町長に推薦せられ爾來選を重ねて今日に至る、性温良にして漢詩を好み、京都東本願寺派の信從なり。

赤塚英之助君

名張町大字八丁 明治十八年六月六日生  
家族 妻いゝ子大阪南區南桃谷町山崎實石女、長男博上中在學、外に四男一女あり

赤塚君は醫を業として居町に於て療院を經營す、明治三十六年三月奈良縣立郡山中學校を卒業、三十八年大阪府立高等醫學校に入學同四十四年十月卒業後數年間同校附屬病院其他にて實地の研究をなし大正三年四月歸省し現地に開業す、大正十年母校の昇格により再び入學し醫學士の稱號を得て歸り再び開業して現在に至る、温厚の君子肌にして醫師としては眺へ向きの人格者である、名張町醫、三重縣立名賀農學校々醫、藏持村々醫、同村校醫等を囑托せらる園藝を好み四期の草花を栽培して樂む。

新 宇太郎君

名張町大字木屋町 明治三十年九月 日生  
家族 兩親と子供二人あり、妻は一志郡太郎生村中太郎生

新君は名張驛前旅館滿徳の主人公なり、名賀郡箕曲

繭糸商を業とし園藝旅行園藝等を好み、大正六年四月衆望の歸する處名張町會議員に選ばれ同十年再選す、十四年十一月名張町商工會長に推薦せられ現に其職にあり、名門の出なる故肌觸りのよい交際家なり、日蓮宗を信す。

澤 佐八君

名張町大字上横町 明治十九年一月二日生  
家族 妻いゝ子、養母きよ子、妹美壽子名張高女在學、長男潤一、長女禮子、次女千賀子

澤家は箕曲村夏見の舊家澤佐治右衛門家より先代佐八氏が分家して肥料販賣醬油醸造業を經營す、當代佐八君前名富三郎大正二年澤家に入る、明治四十年大阪桃山中學校を卒業し關西大學に入り同校を卒業し明治四十四年大阪稅務署に奉職したるが大正二年辭職して名張に來る、大正十四年十月上横町區長に推され今日に至る、趣味として謠曲、園藝を弄び念佛宗を信す。

坂上鐵之助君

名張町大字平尾 明治十二年四月五日生  
家族 母みこ(七〇)妻こなつ(四九)國津村布生甲谷周淳女、長男辰次郎(二四)二男政克(二二)

坂上君は農を業とす、大字平尾の舊家にして又有力者なり、大正十四年三月衆望の歸する處名張町會議

村大字中村に生る、大正十一年伊賀鐵道の開通以來驛前に簡易なる旅館なく土地に不案内の旅人が常に迷惑せると宿料の低廉なる勞働者の宿泊所なきを見て親切本意の旅館を經營し社會奉仕の一端に資せむと決心し鍛冶町より移轉して今日に至れるなり、性仁俠心厚く常に旅人の利便と満足を得るに努めつゝあり。

明地萬次郎君

名張町大字上横町 明治十九年七月二十七日生  
家族 妻さく(三八)長男敏雄(一九)長女久榮(一五)次男謙次(一三)次女八重子(一〇)三女實枝(四)四女宏子(當才)

明地君は名賀郡自治廳の會計主任をなす、明治三十八年三月名賀郡役所に雇書記として職を奉じ爾來二十ヶ年間一日の如く格勤大正十四年二月名賀郡會計課長に昇進翌年七月郡役所廢止と同時に廢官となり名賀郡自治廳會計主任に轉じ現在に至る、資性温良にして信任あり讀書旅行等を好み。

網野豊四郎君

名張町大字本町 明治十二年十月二十七日生  
家族 養母さみ、妻のぶ、長男直太郎四日市商業學校卒業後名古屋市村瀬銀行に勤務、子女多く一男七女あり

網野君本姓藤森、瀧川村大字丈六に生る、藤森家十代の孫太七氏の四男なり三歳のとき網野家に養はる

員に擧げられ町治の爲め奔走しつゝある人なり。

名張町キ、ミ、シ、ヒ、モ、スノ部

木原庄太郎君

名張町大字松崎町 明治二十二年九月六日生  
家族 父台五郎、母こゆき、妻ゆき子國津村神屋栢森奈其松三女、弟庄藏、妹ますの同町栢森家嫁す、長女きよ子、次女中子名張實科高女在學、三女千代子小學在學

家世薪炭商を業とし浄土宗なり、父臺五郎氏大和龍口より明治二十四年名張町に出で、薪炭商を創め當主に至る、家業大いに振ひ同業者間の信用厚く臺五郎氏は現に木炭同業組合長たり、庄太君資性温良衆望あり、大正十四年三月名張町會議員に選ばれ現に其職にあり又在郷軍人會名張分會副會長として信任あり。

北岡長三郎君

名張町大字柳町 明治十四年十月一日生  
家族 妻きよ藤原町宇山口東精一郎姉、長男重次小學在學

長三郎君幼名は寅之助父祖の業を繼いで製糸業並に茶小賣商を經營す、同家は明治二十三年迄は輸出向製茶業なりしを先代長三郎氏が之を廢し製糸業となせしものなり、同業者間の信任厚く名賀繭糸業組合評議員に推され同業組合發展に力を致しつゝあり。

### 北谷正二郎君

名張町大字本町 明治九年二月二日生

家族 母みね、妻いよ子、長男正一(一八)次男正久(一六)三男薫三郎(一四)四男正四郎(一二)五男敏幸(一〇)長女清子(九)次女美恵子(七)

北谷君、父は久八其次男にして奈良縣磯城郡初瀬町に生る、年十二歳にして名張町本町岡村甚六方に丁稚奉公をなし精勤し主人の愛撫を受く資性明敏にして弱氣あり、明治三十七年五月獨立して同町本町に硝子化粧品店を開く翌年洋酒販賣を兼營し更に三十九年新開取次販賣を開始し自ら配達人となりて活動す、大正六年三月衆望の歸する處名張町會議員に選ばれ爾來引續いて重選今日に至る、立志傳中の一人として町民の信任厚し。

### 北田藤一君

名張町大字本町 明治十九年七月一日生

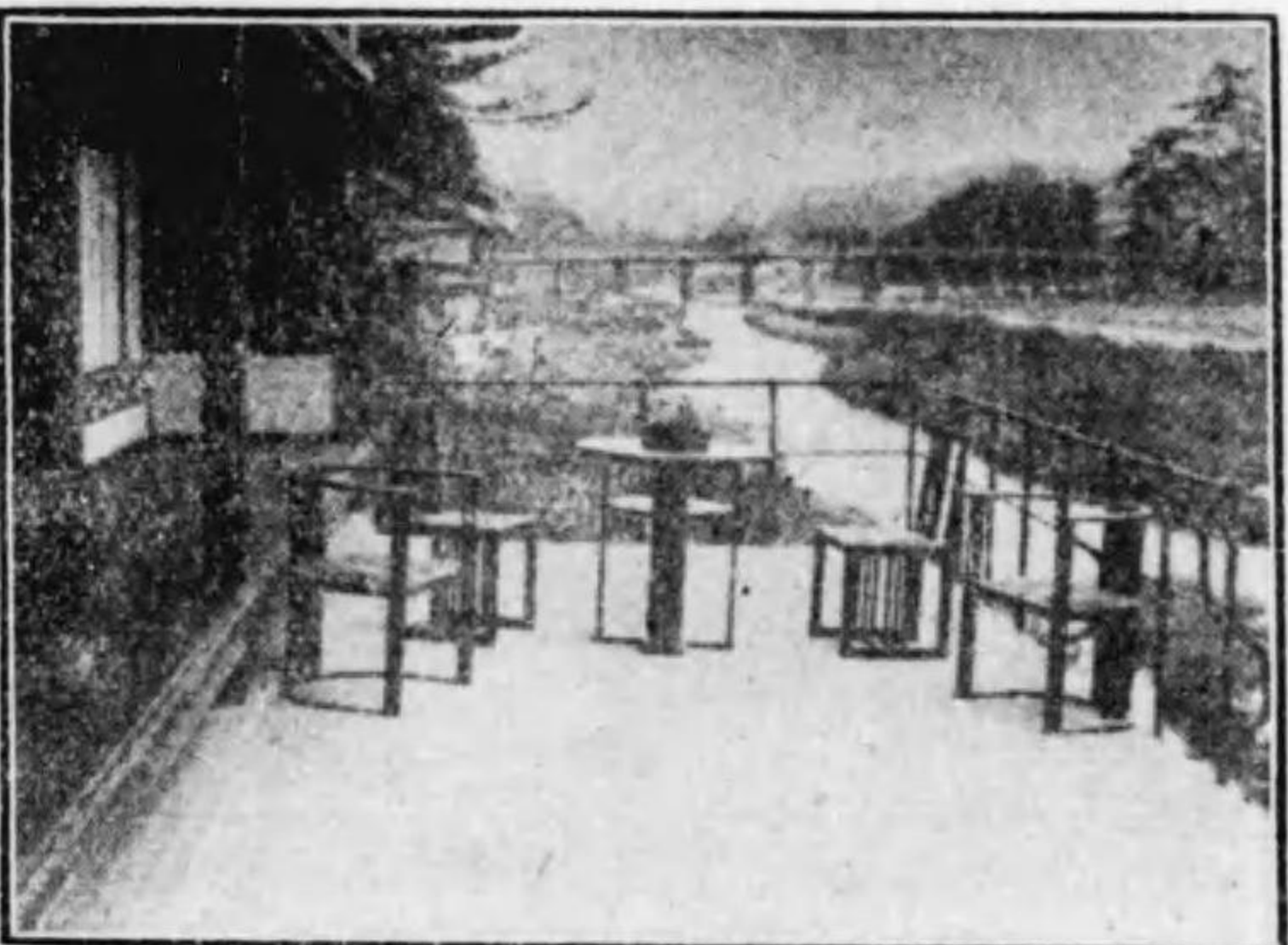
家族 妻いしの



(三八)矢持村露生上田助次郎二女、弟寅太郎(三四)大阪北區樋上町に工業藥品商經營憲太郎(二八)大阪鐵工所在勤工兵隊備少尉、藤太郎(二一)支店經營母はるの(六一)

北田君は名張町唯一の高等旅館喜多藤の主人公なり喜多藤は舊と北出屋と稱し古く明治以前の開業にし

て同町大字北出より出で煮賣屋を營みしが當主藤一君の代に至り旅館を經營し大いに發展して遂に今日に隆昌を見るに至る、當代北田君は資性廉潔にして無慾聊か短氣者の嫌なきに非ざるも社交に長じ知名の士との交友多し、自己の名に因み十一の數を好み其名張驛前支店は、大正十一年十一月十一日に開業し別館は翌年二月十一日に又香落食堂在香落驛は十五年十一月に開業電話も亦本店一番別館一一〇番支店一一七番等



にし何れにも一一の數を加ふ其別館の宏莊と美を競ふ建築は縣下第一の稱あり、北田君は五聯珠の能手にして熱心なる研究者なりしが近年廢して之を顧みずと。(寫眞は別館と北田君)

### 喜多村勘兵衛君

名張町大字下横町 明治二十三年二月廿八日生



家族 父角太郎、母けい子、妻けい子大阪府堺市宿院町東二丁目大澤庄兵衛妹、姉も子現奈良市助役喜多村徳次郎妻、弟政三兵庫縣廳在職、秀造同町新町松田家に養はる、忠男東京八千代生命在勤、妹はる子阿山郡三田

村杉森瀬平妻でる子宇陀郡三本松村日下志八十雄妻、長男一郎

喜多村家は醸造家として伊賀唯一の古き歴史を有する家なり、祖先の傳詳かならざるも傳へ言ふ處によると初代勘兵衛氏が藤堂家に從ひて伊豫より移住し清酒の醸造を始むと、最近まで元録年間に製造せる酒桶がありしと、銘酒雪獅子、福壽、亀の尾を醸造す、當主勘兵衛君は特に園基を好み之を好くす、大正元年初段の免許を受け四年には二段に進み大正十五年更に三段に昇進せらる。

### 北村榮助君

名張町大字新町 明治十五年十二月十六日生

家族 母もと、妻たい子同町細川市太郎叔母、弟榮藏八丁へ分家、妹以恵子同町山岡家に嫁す、長男榮一大阪商校卒自宅、次男死亡三男分家養嗣子、四男芳郎、長女幾子京都淑女校卒後京都高等技藝校在學、嫁君子五條高女出身南葛城郡秋津村堤善夫二女

北村君は酒造販賣を業とす、彼の銘酒旭金時は君の醸造にかゝるものなり、君資性温良にして衆望あり大正十三年名張町學務委員に擧げられ同町教育改善に盡しつゝあり、又公共心に富み諸種の事業に寄附したる事多し、同家は明治六年先々代榮助氏が醸造業を創めたもので當主は三代の孫である、銘酒旭金時、國ノ聲、名瀑は各地の博覽會、共進會等にて金銀銅牌を授領すること數次にして其醸造高は伊賀唯一と稱せらる。

### 木津三二君

名張町大字本町 明治元年十二月十九日生

家族 妻しづ子 木津君本姓は佐伯松阪町の醫家に生れ後木津姓を冒す、明治十三年小學卒業後新潟市協力義塾に入學同十六年同縣柏崎養成義塾に入り和漢洋學を修め明治十七年教育に従事し廿五年本科正教員の免許を下附せられたるも翌年退職商業に従事す、明治三十四年

名張學校改築委員に擧げられたるを公職の皮切りとして三十五年十一月伊賀肥料同業組合副組合長、三十七年名張町會議員四十年一月には名賀郡議員四十年二月に名張學務委員大正三年學務委員再選五年に名張教育會評議員に當選今尙勤績し大正十一年三月には伊南煙草小賣人組合副組合長に任ぜらる、其他衆議院議員選舉立會人以下各選舉立會人を始め諸種の公職に就職し各方面に金品の寄贈をなし感謝狀功勞賞木杯等を受くること枚擧に遑なし名張町教育町政上に貢獻した一偉材たるを失はず。

**水口 數 郎君**

名張警察署官舎  
明治二十七年七月八日生

家族 妻美嘉子(三)上野町赤阪森田八百次郎長女、田鶴子(五)  
水口君父は松吉母はとく其次男にして城南村大字四十九に生る、現名張警察署長なり、大正四年四月明治大學英法科本科を卒業し三重縣警部補に任ぜられ巡查教習所教官に任ぜらる、同年十一月警察部保安課勤務となり九年九月四日市警察署在勤となり次いで大正十二年富田町警部補派出所詰を命ぜられ大正十三年十月警部に任じ阿保警察署長を命ぜらる、大正十四年四月柘植警察署長となり昭和二年一月名張警察署長に榮轉現在に至る、資性温厚民衆化せる警

**靜 永 瑞 誠君**

名張町大字本町  
嘉永七年七月十四日生

家族 弟現住職、奥田嘉誠京都市上京區新町通御池下奥田和平長男、嫁はる子字治山田市中ノ町湯本豊妹  
瑞誠君は淨土宗榮林寺の老僧にして高僧の聞あり、愛知縣海部郡立和村大字立田の出身なり、慶應三年四月上野町大起寺靜永賢瑞師について得度し同寺に修業明治七年十一月同町萬町萬念寺に住し明治十三年六月一躍して津市寺町中本山天然寺住職に榮進し同十五年三月には總本山智恩院出張所長に任ぜられ二十年五月文部大臣より三重縣下宗務取扱ひを命ぜらる同二十一年九月退きて現寺に住職し三十五年三月上野大超寺住職となり三十九年八月再び榮林寺に

退き餘生を樂しむ事となる、總本山は君の此功を嘉みし大正七年三月僧正に昇叙し同九年更に補教に任ず、十四年二月隱居して住職を徒弟奥田氏に譲る、徒弟多く奥田氏の外に十一名養成せしものあり。

**澁谷 寅次郎君**

名張町大字松崎町  
明治七年五月 生

家族 妻いこ子  
上野町大字惠美須町に生れ明治三十三年澁谷家に入る、子なく夫婦暮しの爲め内福なりと云ふ噂あり家賣藥商を營む、大正十四年七月大字松崎區長に擧げられ現に其職にあり。

**廣 田 休 君**

名張町大字新町  
明治二十一年五月十七日生



家族 妻千代子、長男幸男小學在學、二男正夫、長女敏子  
廣田君は農工銀行名張支店長なり、三重郡菰野村大字菰野に生る、明治四十一年

察官として部下並に民衆より神の如く敬せられ前途を囑目されつゝあり、讀書と圍碁を好む。

**志 賀 繁 夫君**

名張町大字本町  
明治二十四年四月十八日

家族 妻じゆ同町上横町東由松長女、長男輝男名張小學校在學外に三女あり  
志賀君家業を手廣くし藥種、度量衡器、計量器、教育用直觀具販賣を業とす、餘暇筑前琵琶を謳ひ碁を圍む、大正十年名張町會議員に選ばれ十四年再選して今日に至る。

縣立四日市商業學校を卒業四十二年松阪町小津銀行に入り大正八年二月迄勤続同月辭して三重縣農工銀行に奉職し四日市支店勤務を命ぜられ同九年一月桑名支店へ轉勤を命ぜられ十三年十月名張支店勤務となり現在に至れる人なり。

**廣 島 半 兵 衛 君**

名張町大字本町  
明治十八年四月十一日生

家族 長女壽子、次女千代子並に名張實科高女在學、三女貞子小學校、四女よし子  
亡妻やゑ子は同町横町山村六之助の二女なり、廣島家は父直次郎氏の代迄新町にありて豆腐業を營みつゝありしを明治三十九年本町に移住して海産物依託問屋を始め後カプトビル名賀郡特約店となり家勢大いに振ふ、世々禪宗を信ず、半兵衛君明治三十八年徴されて歩兵第七聯隊に入營日露役に従軍し第六十一聯隊に編入を命ぜられ明治四十年凱旋除隊せる勇士にして帶勤者なり。

**森 脇 鶴 松 君**

名張町大字瀬古口(驛前)  
明治九年二月十日生

家族 現住地になし  
君は薦原村大字西田原の出身にして大正九年以來名張町に移住して株式公債現物仲買業を經營す、故村

にありて村會議員に選ばるゝこと四期に及び村自治の爲めに貢献する處あり又名賀郡會議員に選ばれたる事あり薦原村の有力者なり、其他學務委員三重縣米穀検査員等も奉職せり、名張町に移住して以來も重用され大正十四年名張商工會副會長に推薦され現に其職にあり。

森永猶藏君

名張町大字柳原 明治十九年七月十二日生  
母きく(七〇)妻千賀(三四)長男一郎(一四)次男猶英(九)三男猶宏(〇)四男猶久(四)長女道子(皆猪田村に住す)

森永君は名張小學校校長兼名張實科高等女學校長なり猪田村大字猪田に生れ縣立三重縣師範學校を卒業後各地の小學校に奉職後名賀郡神戸小學校長、猪田小學校長を経て現職に榮轉今日に至る、資性温厚篤實にして兒童教養に深甚なる興味を有し之が改善發達に晝夜碎心しつゝあり、家族は何れも故里に住し平和なる家庭として村民の羨望を受く、趣味として庭球謠曲等あり。

森村榮吉君

名張町大字峽間 明治元年二月二十八日生  
妻てる子、長男正郎在堺市、孫久恵、哲郎、長女きよ子、和歌山市岡山町長濱義之助妻、二三女死亡、四女種生村高尾藤永憲道妻、五女ふみ子鹿道家相續人

角田半藏君

名張町大字下横町 明治二十七年七月廿六日生  
母さよを、妻しすへ奈真縣吉野郡川上村中平留吉二女、姉やふ、神町小川七兵衛妻、妹てい、同町下横町喜多村政三妻、長女さみの小學校在學

角田家は酒造販賣を業とす、銘酒花菱は君の醸造にかゝるものなり、同家が醸造業を創めしは年代詳かならざるも先々代半兵衛氏が明治以前に創業せりと傳ふ、銘酒花菱は全國各地に於いて開かれた博覽會共進會品評會等にて賞牌褒狀等を多數た授領せり、代々眞宗を信ず。

錦生村

生田秀造君

錦生村大字黒田 明治五年十月四日生  
妻ふで(五〇)長男義郎(三二)長女久子箕曲村實蓮寺福田利藏妻、二女八重(二二)三女きみ(一五)姉みさを(二七)孫滿、慶子

生田君本姓は中川、同字儀七郎氏の二男に生れ幼にして生田家に養はれ其姓を冒す、錦生村の有力者にして明治三十三年大字區會議員に選ばれ大正二年に

森村家の祖先是重右衛門と稱し享保年間名張町に來住藤堂侯に仕へ劍道師範をなしたるに始まり代々藤堂家に仕ふと、榮吉君資性温厚にして其全生を子弟教育に捧じたる人なり、明治十六年小學校正教員となり以來大正五年迄勤績して名張小學校に奉職す、此間名賀郡教育會幹事に擧げられ郡教育會の爲め盡力す、大正五年大字峽間の區長に選ばれ一期にして辭職十四年再び推されて現に其職にあり、又學務委員に選舉せらるゝこと數回現に其職にあり。

森本嘉吉君

名張町大字下横町 明治十年十月二十四日生  
妻たきへ藏持村短野長谷川覺姉、長男嘉一郎小學、長女みや、京都平安高女在學、養女わき黒田米山貞一妻

森本家も名張町の舊家なり、當主は特に鶯飼育の趣味を有し關西に名あり、淨土宗を信ず大正五年上野稅務署管内營業稅調查委員に擧げられ爾來再選して今日に至る、又大正九年には衆望の歸する處名賀郡會議員に選ばれ郡制廢止迄就職し又地方實業界の爲めに出資し名張牛乳株式會社社長、名賀印刷株式會社取締役、伊山自動車株式會社監査役株式會社伊賀時報社取締役等に就職したることあり。

は衆望の歸する處村會議員に當選し次いで同五年學務委員當選す、村會議員は大正二年以來重選して四期に及び現在に至る、大正五年關西水力電氣會社が安部田川の水を遡上せしめ發電所を起さんとするの計畫は地方農民の水利を恐威せしむるものとして反對し大正九年迄極力反對して遂に其目的を達成せる硬骨漢なり。

泉最善君

錦生村大字安部田 安政二年八月六日生  
法嗣孝善(四七)姉き(四四)共に龍村川極樂寺に住す

泉君は眞言宗寶泉寺の住職なり元治元年豊山派四十九世能代通濟僧正について得度し明治四年現在の寶泉寺住職となる、明治七年三重管内宗内教道職並に三重縣神佛合同中教院監督を命せられ十三年南都戒旦院大心和尙より具足戒を受く、二十八年根來寺執事に就任三十五年豊山派大會議副議長に當選三十七年再選、四十一年には總本山事務長に任命せらる、大正四年豊山派大會議長に選ばれ更に本派管長候補者に擬せらる、大正九年豊山派一等司教に任命せられ大正十年三重縣佛教團名賀郡代議員に當選す、君は名賀郡唯數の高僧名徳にして常に子弟の教養に意

を用ひ今日までに養成せる子弟にして既に一山の住職となれる者九名あり、又明治三十四年には本堂を再建して同寺の面目を一新し又社會教化の爲め私財を投ずる事尠からず實に現世稀れに見る高德として近郷に稱せらる、本山は元より官又其美事を賞して數十回に亘つて之を褒賞す、故なきに非ず、現在中僧正たり。

### 吉森惣太郎君

錦生村大字安部田 明治三十四年九月廿五日生  
家族 母くら(五七)妻ヨシエ同字夏秋辰之助長女、長男清(一七)弟泰次郎(一八)

吉森君は現錦生村収入役なり、大正六年六月錦生村役場書記を拜命、大正九年七月國勢調査員を拜命し大正十二年一月錦生村収入役に選ばれて以來現在に至れる人なり、資性温厚にして村民の信任厚く前途を囑望されつゝある人なり。

### 田中源之助君

錦生村大字矢川 明治十九年十一月一日生  
家族 父岩松(六七)母やす(六一)妻よしを同村井手大江貞知三女、長男正克(一八)長女智恵(一四)三女ちづ(五)姉さか(一八)

田中君は錦生村長なり、大正五年錦生村収入役として就職同十一年村長に就任以來今日に至る、資性温



### 竹田豊三君

錦生村大字黒田 明治二十二年六月十八日生  
家族 妻、ゆき(三三)同字増田松太郎二女、長女ヤエ(一四)長男豊吉(九)三女カツ(五)四女テル

竹田君は製繩業を經營す、明治三十九年同業を創め以來常に製造機械の改善に力を致し家業日に隆盛に向ひつゝあり、大正二年以來關西電氣會社が宇治川流域を變更して發電所を起さんとするに反對して成功し衆望を得大正七年より區長代理に當選大正十四年に至る。

### 竹田芳藏君

錦生村大字黒田 明治七年五月二十三日生  
家族 妻さく、長男淺次郎(二九)長女すみ子(三四)同村矢川吉住安次妻、次女きよ子(二四)瀬古口富永久一妻、三女ふみ子(二

### 中川槌之助君

▲生村大字黒田 明治九年十一月八日生  
家族 妻二人

中川君父は儀七郎母はきさ其三男に生る、明治二十九年東京成城中學校を卒業十二月一日東京灣重砲兵聯隊に士官候補生として入營三十年十月士官學校に入學三十一年十一月卒業三十二年五月少尉に任官、佐世保重砲兵聯隊附を命せられ後中尉に進められ三十七年八月日露役に出征遼陽沙加奉天の役に参加し大尉に進めらる、後直ちにバルチック艦隊防備の爲め内地歸還を命せらる、當時君は大尉に昇任を辭して戦地滞在を強願せしも許されず單身歸還の命に隨ひ任につく、五月廿八日日本海戦の轟々たる砲聲を聞き徹宵警戒の任務を完ふし二度戦地に出征を許されたるも門司より引戻され其目的を達し得ず再び佐世保要塞司令部に勤務す、後平和克復後朝鮮海灣要塞司令部臺灣澎湖島重砲兵大隊等に勤務後再び佐世保に歸り大正四年十一月少佐に任官同六年四月に退官す功により従五位勳四等功五級を授けらる、稀れに見る勇敢なる軍人なり。

### 瀧本智明君

錦生村大字黒田 慶應元年十月二十一日生  
家族 徒弟四名あり

瀧本君は錦生村の古刹真言宗無動寺の住職なり、現世稀れに見る熱心なる傳道家にして又陰徳高き僧なり、其徒らに名利に走らず質實の態度を忘れず一意佛祖の報恩に力を致しつゝある僧にして他の範となすに値するものあり、常に子弟の教養に力を用ひ現に養成しつゝある徒弟四名と同棲す、無動寺に住職以來寺勢の發展に力を致して功あり、現に其山門參道の改築改修を企て目下工事中なり、本山君の徳を賞し僧正の位を贈れり。

### 夏秋義雄君

錦生村大字安部田 明治三十一年三月八日生  
家族 父林三郎(五六)母、いさ(五六)弟忠雄(二二)妻くに(二七)上



津村下川原新龜松長女、長男弘(七)長女登代(四)二男吉竹(一)  
夏秋君は蠶種製造販賣を業とす。大正四年十二月三重縣立明野養蠶學校を卒業し爾來家業に従事し品種の改良に全力を注ぎ同業者間に信仕を博す、同家の創業は明治二十七年にして祖父林三郎氏が縣下第二號の蠶種製造元の許を得て今日に至れるものなれば本縣有数の古き蠶種屋と言ふべきなり、義雄君は養蠶組合を組織して其組合長に擧げられつゝあり。

### 梶田 明 義君

錦生村大字安部田 明治二十五年三月一日生

家族 父磯吉、妻良子(三二)同夏秋林三郎長女、長女美代子(一〇)長男敏明(七)二女英子(五)  
梶田君醫を業とす、京都市下京區御幸町松原上ル梶屋町に生る、大正五年京都府立醫學專門學校を卒業し後同校及び各地病院に實地の研究をなし大正九年現住地に開業大正十四年五月名張町字新町に分院を設置して今日に至る、資性温厚にして患者に對し親切丁寧を極むる爲め信用厚く來診を乞ふ者日に多きを加へつゝあり。

### 増田 亮 一君

錦生村大字安部田 明治三十三年八月十日生

家族 老母、妻、長女と二女あり

増田君は矢持村大字霧生の出身なり、父は教育者にして君の八歳のとき此世を去る、幼にして母の手一つに育まれ其苦心を子供心に察し教育者となりて母と共に子弟の教養に任せんと決し先づ中學校に入らんとせしも當時家政上之を許さざる事情起り止むなく小學校に止まる時に名賀郡に優良生徒を上級學校に送る議あり其選抜試験行はる君は之に加はり多數生徒の中より唯一人選抜されて大正四年縣立農林學校に入學大正七年卒業して矢持小學校教員並同村農會技手を拜命十年三月名賀郡農會技手を拜命十一年六月名賀郡技手に任官十二年一月名賀郡農林技手に任官せられ爾來今日に至る、性温厚にして頭腦明晰前途を矚目されつゝある人なり。

### 福持 善之丞君

錦生村大字安部田 明治八年十一月二日生

家族 妻あきの(四九)同村福持四郎右衛門長女、長女春(二六)新勉(三〇)孫壽子(九)通(五)  
福持君は酒造業を營む、錦生村の長老にして名賀の一有力者たり、資性温厚にして衆望厚く同村々會議員に選ばれたるを公職の始めとして名賀郡會議員に選ばれること三期、此間二期郡參事會員に選ばれたる偉材なり、又上野稅務署管内所得稅調查委員に選



ばれたることあり酒造同業組合評議員より其組合長に選任せられ現在に至る、君又政治に理解あり立憲々政會に入會名賀

郡の重鎮として川崎現渡信參與官と交友あり憲政會伊賀部會總務に推さる等其勢力大なるものあり、是等は君が平素謙讓の徳をもつて同志後進者を導く結果に外ならざるなり。

### 宮崎 乙次郎君

錦生村大字結馬 明治七年五月十二日生

家族 長女貞一(三〇)二男貞三(二二)長女なら(三二)同村森本逸太郎妻、二女ゆきの(一六)三男勇(一一)婦シラズ(一九)孫イサチ(八)二三子(三二)

宮崎君は現錦生村役場書記なり、家族は農を業とす資性温厚にして村民の衆望厚く大正六年三月錦生村々會議員に選ばれ村治の爲め貢献せる處多し、愛妻を失ひたる後家業を其長男に委し村役場書記を拜命



家族 養父定之助(七〇)養母こぶ(六五)妻秋枝(三〇)長女ちす(二二)次女その(一八)長男光雄(四)  
宮崎君は醫を業とす、本姓は岡田一志郡伊勢地村大字石原に生れ宮

崎家に入婚して其姓を冒す、明治三十二年縣立第一中學校を卒業後東京日本醫學校に入り大正二年同校を卒業後東京醫科大學、青山内科病院、三井慈惠病院、順天堂外科病院等に實地の研究をなし伊賀に歸り開業七ヶ年大正九年六月三重縣醫を奉職傍ら洞津病院醫員縣檢疫醫を拜命大正十五年七月辭して歸り爾來自宅に開業錦生村醫同校醫を囑托せられ今日に至る、君は特に花柳病、子宮病、胃腸病に造詣深し宮崎家は近郷の舊家にして君に至る間十一代醫を業

して現今に至る。

### 宮崎 九 八君

錦生村大字安部田 明治十五年十二月五日生

とす、養祖父東伯は博學の聞へ高き人なりき。

森 季 一君

錦生村大字結馬 明治十四年五月四日生  
家族 妻(ひで(四四)長女久子(九)二女絹枝(七)三女みき枝(六)長男季義(四)

森君は蠶種製造販賣を業とする錦榮館の主人公なり本姓は元穂同村安平氏の四男に生る、幼にして森家に養はれ其姓を冒す、明治三十三年伊賀に於ける養蠶業の未だ幼稚なるを歎じ自ら之が開發蠶種の改良をなさんと創業し爾來幾多の研究を重ね遂に今日あるに至る、此間奈良縣磯城郡農會を初め諸所より謝状を受く、衆望の歸する處大正十年大字區長に選ばれ大正十四年二月同村會議員に選ばれて今日に至る前途ある青年紳商なり。

森 本 穰君

錦生村大字安部田 慶應三年三月一日生  
家族 妻(五三)同村黒田吉岡孫四郎長女、長女、(三四)同上生田稔夫妻、二女(三〇)同村安部田竹内昇妻、長男英夫(二六)三女貞子(二四)

森本君は現錦生村名譽助役たり、明治十五年四月小学校教員を奉職し同二十八年三月迄就職同年辭して錦生村收入役に擧げられ三十九年二月迄勤続す、明治四十年一月大字安部田區長に選ばれ大正三年十二

月學務委員に大正六年區長代理に同九年區長に再選大正十年四月村會議員に當選十二年二月名譽職助役に當選して現在に至る、資性温厚にして村民の信任厚し。

瀧川村

泉 孝 善君

瀧川村大字一ノ井 明治十三年十一月廿一日生  
家族 妻(四四)奈良縣宇陀郡宇田村大上西本孫一三女、長女(三)み子、長男俊善高野中學在學

泉君本姓戎井父慶次郎幼名慶藏出家して孝善と改む極樂寺の住職なり、明治二十九年錦生村寶泉寺泉最善師につき出家し同三十二年豊山派同盟中學校を卒業三十六年寶積寺住職を拜命三十九年極樂寺住職(兼住)となる、以來同寺の荒廢せるを嘆じ四十四年には本堂の修繕をなし大正二年には庫裡の改築を志し克く百難を排して之を完成したる等佛祖の報恩に力を致す事尠からず、本山其功を嘉みし明治四十三

年三重縣宗務支所副組長、大正三年關西宗務支所組長等に任命す現在四等司教に登用せられ權大僧都に補せられ管長より數度感状を受く。

井 上 覺 三君

瀧川村大字柏原 明治十二年一月一日生  
家族 母(七七)妻(五〇)同村寺田八右衛門長女、弟正三郎(三六)弟婦日吉(二五)甥覺男(五)泰治(一)

井上君、農を業とし村内の一有力者たり、大正六年四月衆望の歸する處村會議員に選ばれ同十年滿期退職大正十四年四月再び選ばれて村會議員となり現在に至る、植林を好み精勤家の稱あり。

濱地佐太郎君

瀧川村大字長屋 明治十七年五月十五日生

家族 妻(津子)同村丈六夏秋周次郎次女、長女(九)阿山高子(一九)阿山高女卒業後京都同志社專門部卒業自宅、次女ナカ(二二)三女千代(八)四女しげ子(五)

濱地君は蠶種製造販賣を業とする活動家



西本佐賀藏君

瀧川村大字長屋 明治元年三月二十四日生  
家族 養母(八〇)妻(五九)長男良之助(三八)二男貞太郎(三二)丈六南半之助養子長女、(二七)名張町瀧古手松井松太郎妻、婦(三三)同村長屋太田乙松二女、孫三人

なり、父は辰造母はさわ其長男に生る、明治四十二年蠶種製造業を創始し以來之が改良に力を致し或は浸酸解法法の研究をなして之に成功し或は交雜種の優良なるを知りて之が普及に努むる等養蠶家の爲め幾多の福音を齎せり、衆皆其熱心を賞す信任大いに加はり現在の年産額は實に一萬枚の多きに達し販路亦二府十數縣に及ぶ、衆望の歸する處大正十年三重縣蠶種同業組合名張支部長、同縣代議員等に選ばれ大正十四年四月には瀧川村々會議員に當選して現在に至る。

西本君は鍼灸術醫師なり、幼にして天文易學及び推量學を好み日夜其研鑽を怠らず、或時は笈を負つて大家名門の説を聞き或は深山高峯に登り或時は海邊た出で、天文の眞理を研究して時の移るを知らざりしと以て其熱心なるを察すべし、又鍼灸術研究に興味を有し之が蘊奥を極め明治四十一年鍼灸術醫師を開業今日に至る。

### 堀内新太郎君

瀧川村大字丈六 明治十一年十月八日生  
家族 長男治郎(二〇)京都高等蠶糸學校在學、二女キミ(二五)北牟婁郡二郷村竹内忠平妻目下同居蠶種業に従事、長女サキエ同村堀内佐逸妻、次男民雄(一一)

堀田君は瀧川村の有力者にして蠶種製造販賣を業とし傍ら匿名組合伊和製糸會社社長として製糸業に従事し主に名張町柳原の同社に勤務す、資性温厚にして衆望あり同村學務委員、三重縣蠶種同業組合名張支部長、同原蠶種選定会委員等に選ばれ克く信任せられ大正八年には瀧川村郵便局長に任命せらる、大正九年三月には瀧川村郵便局長に任命せらる、大正十四年四月村會議員に選ばれ現在に至る、園基と政治運動を好む。

### 富井鹿之助君

瀧川村大字柏原 明治五年八月十五日生  
家族 妻小す(五六)長女しかる(三一)阿山郡小田村竹澤貞治郎妻、二女静子古山村湯屋谷福森妻、長男清(二四)

富井君、父は忠次郎永く瀧川村の村會議員村長として村治の爲めに力を致したる人なり、君は又父祖の志を繼いで怠らず現瀧川村長たり、明治三十年始めて瀧川村役場に入り収入役を勤務す、明治三十二年辭職して名賀郡書記を拜命爾來累進して勸業課長に

川口君は農を業とする青年活動家にして前途を囑目されつゝある人なり、衆望の歸する處大正十四年四月瀧川村々會議員に選ばれる、性温厚公共心の富むの故を以て村民に信任せらる。

### 垣中熊次君

瀧川村大字柏原 明治七年十一月二十五日生  
家族 父喜藏(七五)妻小きく(五二)錦生村黒田中山甚七三女、長男一真(三四)上中卒業者、二男高久(一九)三男強作(二七)姉ます(三二)同字森垣龜次郎二女、孫千鶴(一一)真治(一〇)壽一(六)眞帆子(五)

垣中君は農を業とする瀧川村屈指の有力者なり、明治三十三年裁判所書記登用試験に登第し三十四年瀧川村収入役に就職し衆望を蒐め三十六年には同村長に選ばれる、明治三十八年選ばれ瀧川村會議員となり後再選二期に及び就職す、此間村役場學校の建築赤目觀瀑道の改修等に力を致す事不尠衆皆其功を賞す園藝を好み老を樂しむ。

### 米岡源一君

瀧川村大字丈六 明治十九年十二月廿九日生  
家族 父源助(七〇)妻まつ(三三)同村長屋太田正雄姉、長男弘之(一一)長女つや(一一)二男幸治(八)弟卯之助(三六)弟裕や(三三)國津村奈垣増井九右衛門長女、三男正彦(一一)

米岡君農を業とす、瀧川村の有力者なり、明治四十四年四月同村役場書記を拜命四十三年二月退職せし



信任厚し。

### 富森善八君

瀧川村大字柏原 明治十九年九月十四日生  
家族 妻さく(四一)長女キミ(二二)二女鈴(二〇)三女浪江(一七)四女も(一四)五女芳子(一〇)六女雪子(八)長男善文(五)七女春枝(二)

富森君、父は善六、母はこのゝ其長男なり、農を業として家富む、衆望の歸する處大正十年四月瀧川村會議員に選ばれ十四年四月再選して現在に至る、副業として製紙業をなし養鶏の趣味を有す。

### 川口信太郎君

瀧川村大字星川 明治二十三年一月廿四日生  
家族 妻わか(四二)箕曲村青蓮寺前川多平四女、長女静榮(一六)二女操(一三)

が四十四年四月再び書記を拜命、大正七年十月には同村収入役に推薦され同九年六月家事都合により辭任退職す、大正六年衆望の歸する處同村消防組頭に選ばれる、前途を囑目されつゝある活動家なり、園基を好む。

### 横山彌之助君

瀧川村大字柏原 明治二年十月八日生  
家族 養母ひさ(七九)妻ひで(五三)長男孫作(三四)長女こ(三八)丈六鎌田由松妻、二女己の生(三二)同字北村甚作妻、三女たまの(二二)二男林吉(一九)同村辻村寅藏養子、姉かつ子(三一)

横山君は瀧川村の篤農家なり、大字區長に當選して村治の爲め力を致し衆望加はり大正六年選ばれて村會議員となり、大正十四年四月再選して現在に至る熱心なる農事改良研究者にして郡農會より篤農家として表彰を受けたる人なり。

### 吉住健君

瀧川村大字椋 明治九年六月二十四日生  
家族 繼母むめ(七四)妻たき(四六)長女文子(一七)

吉住君父は甚助其長男なり、資性温厚にして社交に長ず、明治四十年七月瀧川村収入役に任せられ大正二年三月助役に進み大正三年五月には衆望の歸する處瀧川村長に選ばれ信任愈々厚し、大正八年迄其職

にありしが同年辭して名張町助役に就職す、大正十三年國津村長に聘せられたるが程なく辭して歸郷、大正十四年四月選ばれて瀧川村々會議員となり現在に至る。

谷岡留松君

瀧川村大字柏原 明治三年六月五日生  
家族 妻まつ(五〇)養子芳三(三六) 同村辻村彌八三男、婦すよ(二六)同村桐岡菊松三女

谷岡君は農を業とし同地の先覺者として村民の尊敬を受くる人なり、衆望の歸する處大正十年四月瀧川村々會議員に選ばれ村治の爲め貢献する處尠からず大正十四年四月再選されて現在に至る、又別に農家組合を組織し其組合長に推され就職して現在に至る

田中茂三郎君

瀧川村大字長屋 明治十二年二月二十八日生  
家族 妻こ(四九)長男登真之亮(二五)二男俊次(一八) 婦まさ(二二)

田中君は農を業とし、熱心なる昆虫の研究者として又熱心なる農事改良者として其名遠近に高く各地學校、青年團、農會等よりの懇望を受け之が講演に全國を跨に奔走す、性温厚にして村民の信任厚く同村助役、同村會議員等に當選し村治の爲め奔走する處尠からず、君の如く實に三十餘年間一日の如く其趣

味の爲め昆虫研究をなしたる等は稀れに見る處にして其努力の結晶は遂に世界的の昆虫標本を作るに至る、其熱誠と努力眞に賞すべきものあり。

瀧野富太郎君

瀧川村大字柏原 明治十六年四月二日生  
家族 妻くまの(四四)同字吉田政之助長女、長女秋の(二二)同瀧野男要、二女幾美(一九)長男忠郎(一五)二男忠幸(一一)三女靜代(九)四女行子(七)三男忠義(二)

瀧野家は近郷に聞へたる舊家にして其祖は天正年間同地に住したる豪族瀧野吉政に發すと傳ふ、資性温厚にして村民に尊敬せらる、大正八年九月瀧川村書記に就任同十一年本縣立明野農事講習所を修了、瀧川村農會技術員兼役場書記として今日に至る、發動機改良農具の研究に熱心なる趣味を有す。

辻本勝助君

瀧川村大字一ノ井 明治十六年二月二十二日生  
家族 父勝次郎(六五)弟勝男(二五)妻し奈子(三九)錦生村安部田坂本留次郎長女、靜榮(一七)二女二三(一三)長男勝(二二)三女八重(七)四女キヨ子(二)

辻本君父は勝次郎、永く社寺總代を勤務し敬神の念に富める人なりき、君は其長男なり明治三十七八年の役に從軍し功により勳八等を授けらる、大正二年推されて瀧川村消防組頭となる、以來消防組の改善

淵矢貞男君

瀧川村大字櫻 明治廿二年十二月十七日生  
家族 養父鶴松(五八)妻まさの(三六)長妹滋子(一八)

淵矢君は瀧川尋常高等小學校訓導なり、父は貞次郎母はこめ同大字に生れ同姓淵矢家に入婿す、大正二年三月奈良縣師範學校を卒業同縣下において小學校訓導を奉職、大正七年三月三重縣へ出向を命せられ比奈知、錦生、瀧川、比奈知、長瀬の諸校に訓導として勤務し後現在の瀧川校に轉じて現在に至る、蔬菜栽培の趣味を有す。

福本辨之助君

瀧川村大字一ノ井 明治二年九月三日生  
家族 庶子、宣太郎(三九)妻ナツエ(五八)山邊郡波多野村鶴山廣岡清四郎二女、長女さか(三〇)箕曲村夏見深山茂妻、婦トメチ(三五)奈良縣東里村下笠間白井乙松二女、孫操(一七)太郎(一一)定之(八)

福本君は瀧川村の元老として尊敬せらる、人なり、明治二十二年町村制實施と同時に瀧川村會議員に擧げられ村治上貢献する處尠からず衆望大いに加はり遂に瀧川村長に擧げらる、又阿山郡會議員に當選せることあり、其他學務委員大字區長等に就職して村治郡政の爲め貢献する處多く其功績顯著なるものあり瀧川村斯民會より表彰さる。

に力を致し消防手帳の作製、服裝の改善をなし實績見るべきものあり衆望大いに集まる、大正七年在郷軍人分會副分會長に任命せられ十一年退職す、業務に熱心なる人なり。

上品秀覺君

瀧川村大字長屋 明治二十七年二月廿二日生  
家族 妻のい子名張町本町長田治助三女、二男泰(一)

上品君は眞宗光明寺の住職なり、大正四年京都平安中學校を卒業翌五年小學校教員となり爾來十年一日の如く兒童教養に専心する傍ら宗風の擴張に力を致しつゝあり、性温厚にして無慾、時代に目醒めたる先覺宗敎家として尊敬せらる。

松生安松君

瀧川村大字丈六 明治二年二月二日生  
家族 妻ナラギク(五六)奈良縣東里村笠間福山貞五郎長女、長女よしの(二六)奈良縣豊原村毛原宮本男太郎妻、二女ナカエ(三)

松生君、本姓は北森、父は吉藏、奈良縣東里村大字小原に生る、幼にして北森家に養はれ其姓を冒す、現瀧川村丈六八幡神社、同無格神社の社掌を兼務す、性温厚にして和歌、詩文を好む。

### 藤本秀吉君

瀧川村大字長坂 明治十五年四月十三日生  
家族 養母まさ(六五)妻ふじ(四〇)長男茂(一九)二男清平(一一)三男茂(一一)長女夏子(七)四男保(五)

藤本君、本姓は上田、父は甚五郎母はしま錦生村大字瀧口に生る、藤本家に入婿して其姓を冒す、性温厚にして衆望あり大正五年十一月瀧川村學務委員に選ばれ九年滿期退職、大正十四年四月村會議員に選ばれ現在に至る、又伊山自動車俱樂部取締役となり同地方の交通便利の爲め力を致しつゝあり。

### 宮下源之丞君

瀧川村大字星川 明治十一年五月十五日生

家族 妻なら(四五)箕曲村夏見市川藏長女、長男修(二四)美旗校訓導奉職長女い(二〇)錦生村井井上嘉郎妻三女、千代(一八)二男義二(一六)四女百合子(一四)五女麗子(十)三男正典(七)姉ゆ(二〇)藏持村藏村太田熊藏五女、孫國男(一)宮下君は瀧川村の素封家にして信望あり明治三十七年六月大字星川區長に當選、四十年六月退職、明治四十三年四月村會議員に選ばれ爾來重運して大正十四年に至る、熱心なる農業者なり。

### 清水貞吉君

瀧川村大字一ノ井 明治十一年七月二十二日生

家族 母くま(七二)妻りよ(四四)箕曲村青蓮寺森田平次郎二女、長男勝(二五)四男男(一五)五男忠(一四)清水君は瀧川小學校訓導なり、同家は瀧川村屈指の

舊家にして君の祖父吉右衛門氏は一ノ井瀧岡村庄屋として藤堂藩に仕へ父久之助氏は村會議員、學務委員郡會議員等に選舉せられたること數期地方の爲め力を致したる人なり、君は明治三十三年三重縣師範學校を卒業し名張小學校勤務を命せられたるを始めとして三十六年薦原校三十八年美旗校に三十九年父の死亡により一時退職、明治四十一年飯南郡波瀨校に再勤し四十二年京都府に向を命せられ四十二年更に大阪府に四十五年歸郷比奈知校に大正四年箕曲校に大正七年瀧川校に轉じ現在に至る、養鶏養兔を副業とし父兄間に信任あり。

### 下田幾太郎君

瀧川村大字柏原 慶應三年七月十七日生

家族 妻たつ(五九)同字吉田勝助長女、養嗣子信喜(二七)下田君本姓は小松、高知縣奈半里村に生る、下田家の嗣となり其姓を冒す、明治十九年三重縣巡查を拜命して四日市、桑名、相可等の各署に勤務、二十三年一時退職したるが三十六年再び愛知縣巡查を拜命し大正三年家事の都合上辭して妻の故里なる現住地に歸り勝手神社の社掌を拜命して今日に至る、功により恩給年金を給せられつゝあり、性温厚にして國學

研究の趣味深く常に敬神思想の普及に力を致しつゝあり。

### 箕曲村

### 岩田昌充君

箕曲村大字中村 明治三十一年六月十日生  
家族 妻千代子(二二)奈良縣三本松村大野勝山貞長女、長女昌子(一)母もと(六一)

岩田君は眞言宗福成就寺の住職なり、大正元年永福寺に於て得度し後大和室生山に於て修業し大正四年高野中學に入る、同校卒業後大正八年陸軍歩兵として第九聯隊に入營シペリヤ出兵に従軍し勳八等瑞寶章を賜ふ大正十一年福成就寺住職となり現在に至る繪畫を好み之を克くす、福成就寺は近郷に名ある古刹にして奉安せる佛舍利厨子黒漆塗木造のものは國寶に指定されつゝあり。

### 稻垣久米藏君

箕曲村大字夏見 明治十二年十一月八日生



家族 妻かめの(四三)依那古村依那古福森喜平長女、長女長子(二四)阿山高女出身、婿隆俊(三〇)廣島高師卒業後專攻科在學、阿波村福田隆信二男、二女す(子)(一一)三女昌子(六)

稻垣君は現箕曲村長なり、父は忠兵衛母はさか其二男に生る、幼にして同姓の稻垣家の嗣として養はる、明治四十二年箕曲村助役に當選し就任して衆望あり信任を得大正七年十二月同村々長に當選爾來重運して現在に至る、又大正十二年十一月三重縣町村長會幹事に選ばれ十五年四月常任幹事に互選され大正十五年七月郡役所廢止と同時に三重縣産米組合名賀郡部會長に推される、大正十四年村産業組合を卒先して組織し其組合長に就任其教育、衛生、土木、産業等の施設に萬遺漏なきを期し箕曲村の聲價を高む、以て其人となりを知るべし、園藝と園藝を好む。

### 高野 一君

箕曲村大字中村 明治元年三月二十六日生

家族 妻すへ子津市石原清助長女、長男進大阪に勉學中  
高野君は村社箕曲神社の社掌なり、明治十五年土井塾に入り漢學を修め明治二十五年岡吉亂氏に皇典學を學ぶ、明治四十二年皇典研究所に執行せられたる學階司業試験に登第第二等司業司を授與せられ大正四年縣下河藝郡栗真村逆川神社々掌を拜命し傍ら同村町屋千王神社々掌兼務を命ぜらる、大正九年別格官幣社結城神社に出仕同年末現在の箕曲神社に轉ず以來神殿其他社務所の荒廢せるを修繕し今日に至る

### 中野 正太郎君

箕曲村大字中村 明治十八年三月二十五日生

家族 父菊松(六六)母きく(六五)妻さみ(四四)同村中村中村兼松妹長女操(一九)長男正(一六)二女愛子(一二)三女直子(九)二男正衛(三)  
中野君は現藏持小學校校長なり、明治三十九年三月師範學校を卒業後和歌山縣南牟婁郡に奉職し明治四十二年名張小學校に轉じ後七ヶ年間勤續大正四年四月藏持小學校長に榮轉して爾來今日に至る、資性温厚にして體育運動の趣味に造詣深く父兄間の信任厚し近時得難き良校長として村民の尊敬を受けつゝあり

### 栗田 由兵衛君

箕曲村大字夏見 明治三年一月五日生

家族 母きく(七五)妻てる(五三)錦生村安部田夏秋林三郎二女、養女みつ(四二)婿佐三(三八)澁川村長屋濱地辰藏二男、孫きよ子(一八)阿山高女在學、民子(一四)京都高女在學、由三(九)貞子(六)正太郎(四)  
栗田君は製糸業を營む、熱心なる斯業發展の研究者にして常に衆に率先して製糸業の改良をなし各所の博覽會に出品して賞狀賞牌を受く性温厚にして衆望あり、村會議員に當選する事七期に及び克く村政の爲め力を致す、又明治三十八年來積田神社の氏子總代として同社の昇格に奔走して功勞尠からず、村民之を德として尊敬する者多し、大正十四年八度選ばれて箕曲村々會議員となりしが固辭して受けざりき以て其人となりを窺ふに足る。

### 澤 佐次郎君

箕曲村大字夏見 明治九年二月四日生

家族 妻いゑ(五〇)長女志壽(三一)婿正敏(三五)比奈知村上比奈知松本泰祐二男、孫千枝(十)長彦(三)  
澤君は箕曲村の德望家なり、本姓岡村名張町本町の舊家岡村甚六氏の令弟なり、澤家に入婿して分家し肥料、酒販賣業を營む、性温厚にして衆望あり諸種の名譽職候補者に推さるゝも固辭して受けず、陰に地方の爲めに赤心を以て盡しつゝある人なり。

### 比奈 知村

### 大 中 道 俊 郎 君

比奈知村大字下比奈知 明治十年二月十五日生



家族 父莊太郎(七六)母小てる(六八)妻始枝同村澁ノ原彌川美哉妹、長女智恵子(二〇)阿山高女在學、長男法太郎(一七)京都立命中學在學、二女美和(一四)榛原高女在學、二男亮(九)

大中道君は近

郷の素封家にして又德望家なり、上野町今井順造翁名張町竹中謹一郎氏に漢學を學び帝大丹波博士大藏省矢部技師に舍密細菌醸造學を修む、明治三十二年大藏省鑑定課、名古屋稅務管理局鑑定課に奉職、半田、岐阜、太田、四日市各稅務署に技手として駐在部下の教育及實地の指導に任じ傍ら實業家の指導に當り明治三十三年名古屋稅務監督局にて樟腦、食鹽砂糖の專賣及課稅研究調査に従事し三十四年印刷局駐在稅印捺開始準備並に指導に従事し三十五年十

月父の病の爲め官を辭し岐阜名和翁の門に就いて昆虫の研究をなし更に縣試驗場技師及御手洗博士につき畜産及農業方面の研究をなし後歸郷して農業に従事す、資性温厚にして衆望あり明治二十七年より同三十二年迄、三十八年より大正六年迄居村青年團長に擧げられ四十四年居村農會評議員、入會地林野整理委員に四十五年居村農事補習學校代用教員、郡農事改良委員に大正十年居村區會議員學務委員に大正十二年村會議員となり大正十五年末比奈知信用組合を組織して其組合長理事に推され現在に至る、地方に得難き人格者なり。

### 大 中 道 定 之 助 君

比奈知村大字下比奈地 明治三年一月十九日生

家族 妻すて(五七)二男弘(三三)大阪天王寺中學校卒業、長女操(三〇)同村高田經義妻、四男完(二四)南滿醫學堂卒業、一年志願兵トシテ在營、五男勇(二〇)上中卒業、六男修(一七)上中在學、二女絹子阿山高女在學、婦そよ(三二)一志郡八幡村川上篠村孝平妻  
大中道君は比奈知郵便局長なり、名張郡立中學校を卒業後明治二十年大中道本家より分家して吳服雜貨商を營む、明治二十八年同村々會議員區會議員に擧げられ、三十八年所得稅調查委員に四十年郡會議員に四十一年相續稅審查委員に擧げられ四十年比奈

知郵便局設置と同時に其局長に任命せられ現在に至る、性温厚にして園藝を好む、君は同地の舊家大中道家の直系なるも幼にして父に死別したる爲め叔母の手に育まれ分家せるなりと。

### 吉住 賢君

比奈知村大字下比奈知  
明治九年二月六日生



家族 妻ウメ(四)  
五)長女麗子(二)  
二)津高女出身  
前橋市赤十字社  
病院在勤上田清  
妻、長男進(二)  
○)上中卒業、  
二)女麗子(一六)  
三)女美津子(一)  
四)共に阿山高  
女在學、四女榮  
美子(一)六女  
貞子(六)

吉住君、父は貞三、母は和淑子其長男に生る、明治三十年大阪慈善病院醫學校を卒業後歸宅し父祖の業を繼いで居村に開業比奈知美濃波多村村醫、同上學校醫を囑托せられ明治三十五年美濃波多村新田に派出所を出して現在に至る、吉住家は近郷に聞へある舊家にして代々醫を業とす、君は其十一代の孫なりと傳ふ。

### 寺島 歡海君

比奈知村大字下比奈知  
文久元年五月二十五日生



家族 子弟鈴木海  
隆、杉藤海信  
寺島君は眞  
言宗永福寺の  
住職なり、長  
野縣南安曇郡  
西穂高村大字  
牧に生る、幼  
名牧彌明治十

年初瀬長谷寺普門院丸山貫長について得度觀海と改む、後實生山末寺奈良縣赤垣佛隆寺住職となり明治二十二年永福寺住職に轉じ爾來今日に至る、此間名張魂魄碑建設に努力し名張寶藏寺兼務住職となり僧階權少僧正に進めらる。

### 松生 亥之介君

比奈知村大字下比奈知  
明治十二年三月七日生

家族 妻しげ子(四)神戶村大字上神戸今西庄助長女、長女朝子(一六)阿山高女在學、次女春子(一四)京都淑女高女在學

松生君は現比奈知村長なり、古山村大字安場に生る父は金藏母はもと其長男なり、名賀郡小學校教員養成所を卒業後明治三十一年比自岐小學校に奉職翌年



步兵第九聯隊  
に入營上等兵  
に進み除隊す  
後大阪私立同  
文學校に入り  
三十七年卒業  
六月憲兵志願  
をなし大阪憲  
兵隊附を命ぜ

らる、明治三十八年八月出征し三十九年凱旋、四十年十月韓國駐劄憲兵隊附を命ぜられ伍長に進み羅州憲兵分遣所長となり四十二年二月木浦分遣所に轉じ十二月軍曹に進めらる、四十三年七月長城分遣所詰となり翌月統監府警部朝鮮總督府警部に任官さる、大正二年十二月辭して大阪に歸り市吏員となり大正九年一月辭して比奈知村長に當選し大正十三年再選す十五年七月郡役所廢止と同時に名賀郡新民會々長、家庭改善會々長に當選現在に至る、在職中の功により勳七等青色桐葉章を賜ひ韓國皇帝より勳六等大極章を賜はる。

### 藤永 海老吉君

比奈知村大字下比奈知  
安政四年十二月二十八日生

家族 長女伍老(四)東京電燈會社在勤、長女さわ(三八)同字大久保善六妻、二女きく(三五)同村藤永一郎妻、四女つや(三一)

藤永君は名賀郡に於ける有名なる篤農家なり、明治十四年同村學務委員に擧げられたるを公職の振出しとして役場筆生、勸業委員、村會議員等に擧げられ衆望大いに加はり明治二十七年二月比奈知村々長に當選す、其他同村助役一期収入役一期區長七期村會議員七期學區會議員三期學務委員二期農會評議員四期郡農會豫備議員農會總代農事改良委員郡會議員二期郡會副議長一期等に歷任し大正十年再び比奈知村助役に選ばれ現在に至る、此間實に四十六年間一日の如く地方自治の發展の爲めに力を致す、又特に農業方面の改良に力を致したる功尠からず明治三十六年同四十年同四十一年の三回に亘り三重縣農會より彰功状を受領四十一年十二月日本農會總裁宮殿下より名譽賞牌を下賜され大正十年五月には名賀郡新民會より表彰されたる等を始めとして其他數十回表彰されたる有名なる篤農家なり。

### 廣濱熊之君

比奈知村大字瀧ノ原 明治二十二年十月十九日生  
家族 妻みつ(三五)長男巖(一〇)長女和子(六)

廣濱君は現瀧ノ原小學校校長なり、神戸村大字下神戸の人なり、本姓藤室依那古村に生れ廣濱家に入婿す明治四十一年縣立第三中學校を卒業、五月美旗校代用教員となり四十一年十一月一年志願兵として入營除隊後四十二年依那古小學校に奉職四十四年十二月本科正教員に任せられ四十五年五月歩兵豫備少尉に大正十一年三月同中尉に任官同年八月瀧ノ原小學校長に任せられ次いで在郷軍人會名賀郡聯合分會副分會長に擧げられ現在に至る。

### 廣岡恭太郎君

比奈知村大字上比奈知 明治二十三年四月十四日生  
家族 祖父彌藏(七三)母ゆき(五四)妻いろ(三七)瀧川村丈六藤森亥之助長女長男通郎(一一)長女美枝(八)二女喜代(四)

廣岡君は三重縣屬なり、明治三十八年通信技術を修得名古屋郵便局に奉職明治四十一年三月名張局に轉勤四十三年工兵第十六大隊に入營、大正元年伍長に任官せられ同二年除隊し再び名張局に奉職す、大正四年比奈知村收入役に任せられ八年十二月同村書記に任命、九年五月名賀郡書記に任せらる、大正十五年七月郡役所廢止と同時に縣吏員となり現在に至る

### 國津村

#### 大矢勇之助君

國津村大字長瀨 明治十八年九月二十三日生  
家族 妻小はぎ(三四)同村横矢莊逸郎二女、長女貴美世(一九)二女包子(五)長男茂(一一)

大矢君は現國津郵便局長なり、明治三十八年國津郵便局事務員に就職、大正二年國津郵便局長に任命せられて現在に至る、性温厚にして村民の衆望あり、大正十四年三月選ばれて村會議員に當選現在に至る同家は國津村の舊家大矢家の分家なり。

#### 川浪八平君

國津村大字布生 明治七年八月十五日生  
家族 妻志津子(四四)同村神屋井上忠平長女、長女喜多子(一七)二女芳子(一一)養女津や子(九)婿昇(二四)孫京子(三)節子、笑子

川浪君父は清平母はきこ其長男に生る、國津村の有力者なり、性温良にして政治運動を好み憲政派の爲めに奔走す、衆望の歸するところ大正十四年三月國津村々會議員となり現在に至る。

#### 横矢敏夫君

國津村大字長瀨 明治二十九年十二月八日生  
家族 父熊太郎(五四)祖母こよし(七二)母まさへ(四九)妻さきへ(三一)種生村大字高尾堀之内榮太郎四女、長女香(一〇)長男

完(五)

横矢君は現國津村助役なり、農を業とし農村開發に努力しつゝあり、大正六年大津聯隊に入營しシベリア出兵に従軍し功により勳八等に叙せらる、大正九年上等看護卒として除隊大正十年國津村役場書記に就任、大正十一年同村收入役に大正十四年には衆望の歸する處同村助役に推薦され就任今日に至る、前途ある青年活動家として村民の信任を蒐めつゝあり

### 上村藤則君

國津村大字奈垣 明治二十三年六月廿五日生  
家族 妻しづ子(二九)阿山郡河合村松村養軒長女、長女豊子(七)次女佳子(四)

上村君は國津尋常高等小學校校長なり、依那古村大字沖に生る明治四十四年三月三重縣師範學校を卒業依那古小學校に奉職し大正七年名張小學校に轉任を命ぜられ大正十五年四月擢かれて國津小學校長に榮轉現在に至る、性温厚にして社交に長じ良校長の聞あり。

### 上村清太郎君

國津村大字布生 明治二十六年三月廿日生  
家族 妻つるへ(三九)同村神屋岩森恒三郎女、庶子喜美子(一三)長女清子(五)

上村君は現長瀨尋常高等小學校校長なり、大正二年三

月縣立三重師範學校を卒業後國津校藏持校訓導に歴任後再び國津校に轉じ大正十四年六月長瀨校創立と同時に其校長に榮轉して現在に至る、資性温厚良教育家として父兄間に信任厚き良教育家なり。

#### 山口政治郎君

國津村大字奈垣 明治二十六年十月廿六日生  
家族 養父勘松(七二)妻かすの(二九)長女ちよ(九)

山口君本姓土岐、父は徳松、母はしげ其二男にして比奈知村瀧の原に生る、長じて山口家に入婿して其姓を冒す、大正四年比奈知村農會技術員に任せられたるも三ヶ月の後退職、大正十四年十一月國津村役場書記を拜命、大正十五年國津村收入役に擧げられ現在に至る、資性温厚にして村民の信任厚し。

#### 山崎清重君

國津村大字布生 明治二十八年十二月八日生  
家族 養父眞常(七三)妻まさ(二八)名張町狭間堀江貞太郎長女、長女美佐(五)長男清行(一)

山崎君は現國津校主席訓導なり、大正四年三月縣立第三中學(上中)を卒業後縣立師範學校二部に入學同五年卒業し鈴鹿郡内の小學校に奉職大正十四年國津小學校に奉職して現在に至る、資性温厚にして子弟教育に深甚の興味を有す良教育家にして父兄間に信



任ある人なり。

### 森川 多二君

國津村大字布生 明治六年一月二日生  
家族 母まつ(七八)妻かめ(四九)同村奈垣松島長四郎二女、長男誠之(三一)長女きみ(二二)

森川君は現國津村々長なり、資性温厚にして村民の信任あり同村區長に就職したるを公職の始めとして村民の信任を蒐め同村々會議員に選ばれる、こと三期遂に助役に推薦され就職、大正十五年五月には衆望の歸する處村長に當選現在に至る、大酒を好むも亂行をなさず信望厚き人なり。

### 藏持 村

### 伊藤 靜信君

藏持村大字藏持 明治十六年十一月十日生  
家族 父信靜(七三)母みよ(七七)妻君枝(三一)箕曲村中村福成就寺岩田昌充姉、長男靜一(三三)

伊藤君は眞宗大谷派山光寺住職なり、幼にして繪畫

### 萩森 又五郎君

藏持村大字短野 明治二十三年五月廿七日生  
家族 老母なつ、妻かれを、長女八重子、長男義昭、次男慶次郎

萩森君は三重縣米穀検査員にして名張出張所に在勤す、明治三十八年五月藏持役場書記を拜命、四十二年三月三重縣穀物検査員助手となり翌年七月退職、大正七年四月三重縣書記となり同年十一月藏持村農業技術員兼書記を拜命十二月収入役を命ぜらる、翌年三月藏持村小學校代表教員を拜命、大正九年六月再び藏持村役場書記となり十年六月退職、同九月短野區會議員蠶業組合評議員に當選、大正十一年十一月三重縣臨時産米検査員拜命、名張出張所詰を命ぜられ十二年十一月現官任命今日に至る、君は獨學勤勉の人にして國民中學會、普通文官養生學會等に入り勉學せし人なり。

### 長谷川 覺君

藏持村大字短野 明治三十一年三月十五日生  
家族 母まつ(六〇)妻トミエ(二五)薦原村鶴山高峰徳藏二女、長女美津(五)

長谷川君は現藏持村収入役なり、大正七年八月名賀郡役所に勤務し、同十年十二月郡書記に任官せられ大正十五年七月郡役所廢止により退職、同月十一日藏持村収入役に就任現在に至る、性温厚にして前途

を好み鷹田其石に師事して南北合流の畫風を修め又東洋繪畫史、考古學風俗史、遠近寫生法を研究し獨創を以て諸派折衷の新生面を開き一流の畫風を研究しつゝあり、特に山水人物畫に妙を得、其名を知らるゝに至る、奈良眞美會、現代大家千畫展覽會、東京研美會、朝鮮總督府共進會等に出品して特別賞を受領、前途ある畫家として聞へあり、父信靜氏は岐阜縣海津郡石津村大字田鶴の出身にして眞宗大谷派の伊賀組長を勤務すること前後三回、宗務に功あり本山より旌彰を受領せし人なり。

### 岩本 憲二君

藏持村大字藏持 明治廿八年十一月十日生  
家族 母さめ(五五)妻いわを(三一)長女幸子(一〇)長男伊嗣(六)

岩本君は名張實科高等女學校教諭なり、同郡箕曲村大字青蓮寺に生る、大正五年三月三重縣立師範學校を卒業名張小學校訓導を拜命、十一年八月名張實科高等女學校囑托教師となり十四年擢かれて教諭となり現在に至る、性磊落にして無慾良教育家として父兄間の信任厚く前途を矚目されつゝあり運動と讀書に興味を有し特に女子の體育向上につき解剖生理に立脚して研究しつゝあり。

を矚目されつゝある人なり。

### 川島 貞介君

藏持村大字藏持 明治九年七月二十六日生  
家族 妻まつ(一)、長男忠次(三二)姉くに(二八)名張町上横町大西駒吉長女、孫容子(二)



川島君は現三重縣々會議員なり、明治四年四月藏持村々會議員に舉

げられ同年十月助役に推薦され翌年二月村農會並に地主會副會長に當選す、四十二年十一月學務委員に四十二年十一月蠶業組合長に四十四年助役に再選し四十五年藏持村東部信用組合創立委員長に同年二月同組合長理事に選ばれ大正二年二月學務委員に同三年五月村農會副會長に八月信用組合長理事に大正五年十月助役に六年二月學務委員に各再選同年五月藏持村長に當選次いで村農會長郡農會評議員縣農會議員等に當選し十年四月村長に再選十一年二月名張運輸株

式會社を組織し之が社長に擧げられ十二年二月松山酒造株式會社を起し其取締役となり大正十二年十月には衆望の歸する處遂に三重縣會議員に選ばれる、大正十五年十一月縣參事會員に互選されて現在に至る園基を好む。

### 筒井 福吉君

藏持村大字大屋戸  
明治十四年四月生

家族 母し(六六)妻みな(四七)同村短野森山松吉妹、長女のい(二四)大阪市市岡町村留造妻、二女ひさ奈良縣三本松北森安保治妻、長男仁(一八)上中在學

筒井君農を業とす、明治三十七年名賀郡役所に勤務し爾來精勤を擢で歴代郡長の信任を受け累進して會計主任より勸業主任となる、大正十四年七月郡役所廢止に際し特に地方事務官に進められ退官、自宅にあり父祖の業を繼いで農に従事して今日に至る。

### 鶴原 泰氏君

藏持村大字大屋戸  
明治十一年一月十九日生

家族 長男泰嗣(二四)次男二男(二二)軍艦日向乗組員、次女綾子(一八)

鶴原君は現郷社杉谷神社の社掌なり、明治三十八年奈良縣巡查を拜命し爾來同縣警察界に奉職すること十二ケ年、大正六年一月辭して歸郷杉谷神社の社掌を拜命今日に至る、鶴原家は有名な舊家にして同家

の祖は田口姓を名乗り大友家に仕へ高録を食みしが後故ありて鶴原姓に改む慶長年間藤堂家に仕へ伊賀に隨ひて來り爾來明治維新に至る迄西ノ丸にありしが廢藩後本籍を古山村に移し今尙古山村に本籍を置く、建武以來同家の祖先に下せる大友宗隣、同義統等の古文書を藏する珍らしき家柄なり。

### 坪田 留石君

藏持村大字藏持  
明治七年十一月廿四日生

家族 妻ます(四九)同字中森喜代八妹、長男彌兵衛(三〇) 婦ゆう(二五)同字田中半造妹、孫守(三)

坪田君は藏持村の篤農家なり、檀家總代氏子、總代區長代理等に歴任し又旭農會を組織し之が組合長となりて信任を高む、明治三十年藏持村會議員に當選し爾來重選して現在に至る、又信用組合理事となり大正四年には同村助役に擧げらる、常に家業に精進し名賀郡農會より篤農家として表彰さる。

### 中井 榮吉君

藏持村大字大屋戸  
明治十六年八月五日生

家族 母は(六〇)妻家事(三八)名張町八丁川北清一郎姉、長男榮一(一七)上中在學、長女七百子(一四)二男榮二(一二)三男榮三(八)五男榮五(二)

中井君は阿山郡上野町立女子小學校の主席訓導なり、明治三十八年三重縣師範學校を卒業し同年龜山高

小學校訓導に任せられ四十年名賀郡高等小學校に轉任、明治四十二年薦原小學校長に榮轉、大正五年箕曲小學校長に大正十二年瀧川第一小學校長に大正十五年夏現在のの上野女子校に轉じて今日に至る、社交に長じ園基を好む。

### 倉田 市二君

藏持村大字藏持  
明治十二年八月 日生

家族 母よし(六五)同村中野幾之助姉、妻さく(四三)神戸村上神戶中森安太郎姉、長女もさ(二三)婿米藏(二六)比奈知村稻森辰藏三男、長男博義(二六)縣立師範在學、二男憲(一一)

倉田君は名賀郡南部憲政派の重鎮として同志の信任ある人なり、檀家總代、氏子總代等に歴任し三重縣産米検査員を拜命更に信用組合長に推され之に就任又大字區長となり其識見を認められ衆望大いに蒐まり、大正十四年四月には同村々會議員に選ばれ地方自治の爲め貢献しつゝあり。

### 山崎 松之助君

藏持村大字短野  
明治三年四月廿八日生

家族 父伊右衛門(七八)妻よしの(五八)錦生村山崎清八二女、長女みつゑ奈良縣波多野村春日久保滿壽翁妻、三男卓夫(二七)名張町松崎町藤本八重子婿、三女さく(二四)錦生村黒田山崎喜一郎妻、婦ヒロ(三四)奈良縣東里村深野吉岡國太郎三女、孫二人

山崎君は藏持村の元老、名賀郡の老政客として其名

近郷に高き人なり、明治二十三年小學校教員を拜命し八ケ年間勤績衆望厚きものあり、明治三十九年推されて藏持村助役となり四十一年同村長に選ばれる、其村長となるや義務教育年限の延長より從來分立せる一村三校を整理せざるべからざる事となり種々の反對に遭遇したるも克く村民を慰撫して之を二校となし後更に高等小學校併置の機運に際したるより民論を排し二校を一校に合併校舎を新築して其目的を達成する等功績殊に多し、大正六年村長を辭し七年名賀郡會議員に選ばれ郡參事會員に擧げらる、又明治四十四年信用組合を組織し其組合長に擧げられ現在に至る、稀れに見る地方開發の功勞者とすべきなり。

### 山本 亥之助君

藏持村大字短野  
文久三年二月十五日生

家族 妻さく、長男良藏(四二)二男安太郎(三一)錦生村結馬今西初太郎養子、三男乙次郎(二六)箕曲村青蓮寺小野出しかの女婿長女ふじ(三九)同村三谷永岡覺藏妻、婦つれ(四〇)瀧川村柏原坂上清藏女、孫しげの(一九)いくま(一七)正三(一二)重信(九)彦男(四)

山本君農を業とす、本姓は永岡、同村大字下三谷に生る、永岡勇平氏の弟なり、山本家に入婿して其姓を冒す、衆望あり明治四十五年大字區長に選ばれ再

選して大正九年に至る、又大正二年には信用組合評定委員大正十四年三月には藏持村會議員に選ばれ共に現在に至る。

### 松山酒造株式會社

藏持村大字藏持 大正十二年一月創立  
重役 社長松山七三、取締役川島貞介、坂口德藏、森清吉、福喜多重兵衛、監査役朝日舜道、菊野有吉

松山酒造株式會社は、大正五年十月松山七三氏が個人にて經營せるを大正十二年二月資本金二萬圓半額拂込の株式會社に組織を變更して今日に至れるものにして、銘酒東海松の醸造元たり、東海松は各地の品評會共進會等に於いて賞狀賞牌等を多く受領し年額五百石を産する優良銘酒なり。

### 朝日舜道君

藏持村大字藏持 明治十三年十月七日生

朝日君は眞言宗長慶寺の住職なり、本姓上島、父は順造、母はきく幼名を孝太郎と稱す、年七歳にして朝日舜教師に養はれ出家して舜道と改む、明治三十七年京都智積院大學を卒業東寺臨時局に勤務し三十九年三月歸郷十一月先住の示寂により長慶寺の住職

となる、明治四十四年藏持小學校に職を捧じ大正九年三月辭職す、大正九年名賀郡佛教團組織と同時に幹事に擧げられ十六年七月佛教團長に當選す、其他高野山大師教會擴張布教師三重縣斯民會講師等を囑托せられたる宗教家にして信任ある人なり。

### 北橋留藏君

藏持村大字藏持 明治二十八年十月四日生  
家族 父久吉(五四)母さつ(五〇)妻綾子(三四)長女美智子(一一)二女千鶴子(五)

北橋君は錦生小學校の訓導なり、大正四年三月三重縣師範學校を卒業し鈴鹿郡高津瀬小學校訓導を拜命大正五年三月名賀郡薦原小學校訓導に轉じ大正八年三月現在の錦生校に轉じ現在に至る、君は生來蒲柳の質なりしが範校在學當時師の勤めにより冷水摩擦を始めしも嚴寒に至り挫折するを常とす、後之を乾布摩擦に變じ爾來一日も怠ることなく、爲めに健康を保持しつゝありと云ふ稀れに見る節制家なり。

### 北森乙治郎君

藏持村大字藏持 明治五年八月十八日生

家族 妻ます(五〇)奈良縣櫻井町崎枝造女、長男喜三造(二八)二男喜平(二六)横須賀砲術學校教官、三男美津男(一九)伊賀鐵道在勤、長女やす(二三)名張八丁養眞治妻、四男義男(一一)婦はきの同村西中さら(二)女、孫まさ(二)

北森君農を業とす、地方の有識者として信望あり消防小頭をなす事十ヶ年、又信用組合幹事旭農會副會長等に歴任し大正十三年五月には區長代理に擧げられ十四年四月には村會議員に選ばれて今日に至る。

### 北森茂君

藏持村大字短野 明治二十年八月八日生

家族 母しかの(七)妻あい(三三)長男雄(一四)二男倫(一三)三男功(一〇)長女照子(八)四男高秋(六)五男努(三)  
北森君は藏持小學校大屋戸分校場主任訓導なり、明治四十一年三月奈良縣師範學校を卒業し爾來奈良縣にありて滿十八ヶ年間小學兒童教養に力を致し上司の信任父兄間の尊敬厚きものありしが大正十四年八月家事の都合上辭して歸り現職を拜命して今日に至る、誠に得難き教育者なり。

### 道浦周三郎君

藏持村大字短野 明治十四年七月廿日生

家族 父萬之助、妻もと(錦生村安部田前川初松長女、長女静子(二五)國津村神屋和安右衛門妻、長男一夫(二〇)古山小學校訓導、二女久子(一四)名張實科高女在學、三女せつ(九)  
道浦君は三重縣農林技手なり、明治四十三年十二月三重縣米穀検査員を拜命爾來一日の如く精勤し大正五年五月には技手に任官せられ名張出張所勤務を命ぜられ今日に至る、資性温厚にして郡民の信任厚き人なり。

### 木村德藏君

藏持村大字藏持 明治十一年八月廿五日生

家族 母たつの(六九)妻こゝめ(四四)長男一進(二)次男治(一五)長女千壽子(九)次女さみ(三)  
木村君は現藏持村名譽助役たり、農を業とす、明治三十一年歩兵第九聯隊に入營、三十二年歸休除隊三十七年動員令を受け出征し金州、南山、遼陽、沙河奉天等に會戦し三十九年四月凱旋功により勳八等を授けらる、四十二年郷軍人會理事に推され四十三

### 森尾松石君

藏持村大字藏持 明治九年一月一日生

家族 妻いと(四六)比奈知村山口鶴松妹、長女すゞ(二五)長男秀廣(二二)二男義(九)海軍志願をなし目下吳海兵團  
森尾君は古山村大字南に生る、村社春日神社の神職なり、年二十五歳のとき比奈知村にて神職を勤務し後檢定試験に登第して小學校教員となりし事あり、又居村に於て大字區長に當選就任せしことあり大正十一年現在の春日神社に奉仕して今日に至る、園基

骨董等を好む。

### 森永萬次郎君

藏持村大字藏持  
明治元年二月十三日生  
家族 妻はる(五七)算曲村瀬古口富永成章妹、長男正之助(三八)長女さみ(三三)名張町新町廣岡保太郎妻、姉さく(三三)國津村神屋山中友松二女、孫正章(四)スミ(九)正之(三)母まつ(八五)

森永君農を業とす、現藏持村々長なり、資性温厚にして村民の信任厚く明治三十八年大字區長に擧げられたるを始めとして檀徒總代、氏子總代、藏持村收入役等に歴任し衆望愈々厚し、大正三年選ばれて名賀郡會議員となる、又明治四十三年藏持村信用購買販賣組合創立に際し奔走して功あり理事に推薦さる大正十三年八月には藏持村々長に選ばれて共に現在に至る、君は藏持炭鑛の發見者にして今同村より多くの亞炭を出すは君の賜のなりと、實に藏持村の勢力たるを失はず、書畫骨董を愛す。

### 奥地三千男君

薦原村大字西田原  
慶應二年九月廿三日生  
家族 妻なご、長女たき(四一)同字中森忠次郎妻、二女いか(三四)上津村下川原内保孝德妻、三女三枝同字中茂男妻、五女五枝(一六)他は死亡

奥地君本姓は新久保、父林治母はる、奈良縣山邊郡波多野村大字片平に生れ奥地家に入婿して其姓を冒



す、明治四十年四月小學校教員檢定試験に合格し薦原小學校に奉職し明治三十一年同校々長に榮進す、三十六年三月瀧川

小學校長に轉任四十二年三月再び薦原小學校長に轉じ大正三年三月退職す、大正四年西田原産業組合理事に大正十年八月薦原村々長に當選して共に今尙就任中、性磊落にして事務に熱心なり祖先崇拜の念に富む、其村長に就職するや同村政は學校新築地移轉の事より村政麻の如く亂れ全く困難の状態にありしを君は就職以來東奔西走よく之が圓滿解決をなし多年物議を醸したる村政を圓滿になし大正十二年四月之を完成せり。

### 奥田慶之助君

薦原村大字八幡  
明治十六年十月十六日生  
家族 妻ふさ(四二)同字德矢清二郎女、長男齊(二四)二男義仁(一三)長女彩(二一)花垣村大瀧大垣良明妻、二女八千代(八)婦貞

子古山村界外より

奥田君、父は勝次郎、母はまつ其長男に生る、明治三十六年歩兵第九聯隊に入營三十七八年の役に從軍功により勳八等に叙せらる、凱旋歸郷後青年會長に選ばれ青年の指導誘益に力を致す、大正三年選ばれて大字八幡區長に就任大正十年には同村々會議員に當選十四年再選して現在に至る、其他明治四十三年には在郷軍人會村分會長、大正五年には小學校建築委員等に歴任して地方の爲め不斷の努力をなすつゝある人なり。

### 奥家信太郎君

薦原村大字鶴山  
明治二十二年十月六日生  
家族 父友造(六七)母さめ(六四)妻トミ同村鶴山中政七二女、長女雪江(五)

奥家君は現薦原村大字鶴山の區長なり、性活潑意志の鞏固なる人なり、大正六年同村消防小頭に任せられ同十年退職、大正八年養蠶組合副組合長に當選十二年養蠶組合長に當選大正十四年退職す、大正十四年大字區長に選ばれ爾來其職にありて地方自治の爲め力を致しつゝある人なり。

### 川口好郎君

薦原村大字薦生  
明治十四年六月四日生  
家族 養父岩藏(六五)養母さか(六五)妻ふさ(三〇)長男正(二〇)長男好(一五)養母さか(六五)妻ふさ(三〇)長男正(二〇)長男好(一五)

川口君本姓は山崎、藏持村大字下三谷に生る、明治三十四年歩兵第九聯隊に入營、明治四十三年憲兵志願をなし憲兵上等兵として勤務せしが後辭して退職歸郷の上郷社杉谷神社々掌を拜命、大正六年辭して薦原村收入役に任せられ大正八年七月名賀郡書記に任せられ兵事課に勤務せしが十五年六月郡役所廢止と同時に廢官同郡自治廳書記に任命現在に至る、性温厚無言の人なり。

### 吉住幾太郎君

薦原村大字薦生  
明治三十六年十月十八日生  
家族 養父卯之助(六〇)母なつ(五二)妻ス、エ(二九)同字吉住淺松三女、長男憲矩(一)

吉住君本姓中川、父は楢石、母はタツノ同村大字家野に生れ吉住家に入婿して其姓を冒す、性温厚にして衆望あり、大正八年青年支團長に任せられ信任を得大正十年村青年會幹事に擧げられ今尙就職中大正十年薦原村役場書記に任命せられ現在に至る、前途ある青年として矚目さる。

### 中西保男君

薦原村大字薦生  
明治十五年六月八日生  
家族 母か(六八)妻いと(四二)同字市場清逸郎二女、長女好子(二五)婿久郎(二五)美濃波多村下小波田田中德松二男、孫英

(一五)

中西君、父は嘉右衛門其長男なり、明治三十九年稅務屬を拜命して七ヶ年間勤績、大正三年大字薦生第一區長に當選、同七年氏子總代となり造營基金の造成に力を致し遂に之を達成し村民の信任を得、大正十年選ばれて同村々會議員に當選十二年助役に當選して現在に至る、性温良にして園藝を好む。

### 上村 留 藏君

薦原村大字西田原 明治十年二月十九日生



家族 妻よし(四七)神戶村比土吉岡源之丞長女 長男毅(二七)長女段(二七)女千代(二〇)二男猷(一七)名賀農校在學三男大二(一四)次女静(一一)四女美代(七)姉きみ(二六)阿保町相尾松岡馬次郎長女

上村君は名賀郡自治廳主任書記なり、明治三十九年七月名賀郡役所に履書記として奉職以來大正十五年六月郡役所廢止に至る迄勤

續二十有餘年真に一日の如く精勵格勤せし人なり、此間進められて庶務主任より勸業主任に榮進、大正十五年六月には地方事務官(高等官)に昇進同月末郡役所廢止と同時に廢官となり爾來名賀郡自治廳主事として現在に至る、資性温厚無言實行を好むの故を以て町村長間に信任あり。

### 北山 喜 七君

薦原村大字西田原 明治十五年一月二日生

家族 妻い(四二)美濃波多村新田藤森久吉長女、長男喜之助(二三)長女みさ(一八)母しも(六四)

北山君父は寅松其長男に生る、村社春日神社の神官なり、明治三十九年輸出米検査所の設置さるゝにつき其検査員に任命せられ二年の後明治四十一年神宮皇學館に於て國學を研究なし神職となる、四十二年西田原信用組合の組織せらるゝ、や擢かれて其常務となり、以來引續き其職にあり、三重縣神職會の組織せらるゝ、や名賀郡支會幹事に當選爾來重選して今日に至る、性温良にして骨董書畫を愛す。

### 關 實君

薦原村大字鶴山 明治卅一年四月十八日生

家族 父金吾(五四)母よし(四九)妻ノウエ(二五)同村八幡戸橋松太郎三女、長男實夫(四)

關君は薦原村小學校訓導なり、大正八年三月縣立師

範學校を卒業後桑名町立小學校訓導に任せられ大正十三年薦原小學校訓導に轉任を命せられ今日に至る性温厚にして子弟教養に興味を有し村民の信任厚く前途を矚目されつゝある青年教育家なり寫眞研究の趣味を有す。

### 杉下 清 太郎君

薦原村大字西田原 明治十一年十月卅日生

家族 妻ひさ(四四)同字山岡喜右衛門長女、長男芳雄(一九)二男清(一五)三男辰雄(一一)四男四郎(四)

杉下君父は清逸郎母は小しも其長男なり、性公共心に富み村民の信任厚く薦原村役場書記を奉職して以來二十ヶ年間一日の如く精勵衆望大いに加はり遂に同村收入役に任せられ現在に至る、名賀郡長其功を稱し大正五年同郡表彰規定により之を表彰せり。

### 美濃波 多村

#### 家里 嘉 一君

美濃波多村大字中村 明治六年七月十五日生

家族 祖母かれ(七一)長男保藏(二七)姉あぐり(二五)長女よし(二五)二女こゝ(一七)孫うめ(五)幸(二)

家里君は農を業とする美濃波多村の村會議員なり、性温厚にして公共心あり村民の信任厚く衆望の歸する處同村消防組小頭に任せられ大正十四年五月選ばれて同村々會議員となり現在に至る、常に村治公共の

爲め力を致しつゝある人なり。

### 井上 金 治 郎君

美濃波多村大字東田原 明治十五年十一月十二日生

家族 妻みさ(三三)同村森本奈良石三女、長男延次(二〇)二男卯平(一一)三男郁哉(七)

井上君父は金之助母はふさへ其長男なり、農を業とす、家富み美濃波多村の一有力者として信任せらる衆望の歸する處同村消防小頭に擧げられ消防界の爲めに力を致し小頭部長に進めらる、大正十年美濃波多村々會議員に當選、大正十四年五月再選して現在に至る、性公共心に富み村民の信任厚し。

### 豊 濱 龜 藤君

美濃波多村大字新田 明治十九年十二月十二日生

家族 養母さみ(五七)妻しづ上野町萬町福喜多光男二女、長男護(一六)二男紀(一一)妹喜代(二〇)長女靖子(二)

豊濱君、父は常次郎母はごらの長男にして上津村大字北山に生る、長じて豊濱家に入婿して其姓を冒す明治三十五年四月上津村小學校准教員に任せられ爾來比自岐、上津、美旗の各小學校に勤務すること十有餘年大正九年七月養父の歿するに及び其家職なる神職を襲ひ傍ら美旗校の代表教員に就任現在に至る性明敏にして勤勉の力あり、獨學を以て明治四十二年文官普通試験に登第し小學校本科正教員の免許を

受けたる人なり、國語國史の研究に興味を有す。

### 奥 市次郎君

美濃波多村大字小波田  
明治十八年三月十八日生  
家族 母とみ(七五)妻富生(四二)長女ふみ(一一)



奥君は現美濃波多村収入役なり、父は嘉平次其二男に生る、明治三十八年大津歩兵第九聯隊に入營し滿期除隊後家業に従事す、明治四十一年同村消防小頭に任せられ累進して組頭に任せらる、此間消防器具の統一改善等に力を致し功あり大正九年在郷軍人會美旗分會副分會長に任せられ十一年収入役に就任し傍ら同村信用組合評定委員に挙げられ現在に至る、村民の信任ある人なり。

場技手を拜命



三十七年二月三重縣農事試験場技手に任せられ大正十二年に至る、此間各所試験場出張所に勤務し長官の信任厚し、大正十二年名賀郡産業技手に任せられて今日に至る、郡民の信任夙に厚く其指導を受けたるものは悉く其徳に服すと云ふ、實に民衆的人格者と云ふべきなり、園基、淨瑠璃を好む。

### 川 浪 良 三君

美濃波多村大字新田  
明治十五年一月三日生  
家族 妻さめ同字長林基松妹、長男權次(二二)山口縣長府中學校教諭二男辰彦(一七)上中在學、長女美枝(一三)名張高女在學、二女稜子(八)三女りよ子(二)

川浪君、父は六次郎、母はつる其三男に生る、資性温良にして事務に熱心なる人なり、明治三十三年縣立農事講習所を卒業し三十四年六月名賀郡農事試験

### 龜 澤 由 松君

美濃波多村大字上小波田  
明治十四年十一月廿一日生  
家族 母いわ(七〇)妻こはる(四二)神戸比土東城安左衛門二女、養子修(一五)



龜澤君父定助の二男なり、明治三十四年大阪輻重兵第四大隊に入營三十七八年戰役に従軍し功を樹て伍長に任官勳七等青色桐葉章を

賜ふ凱旋歸郷後三重縣巡查を拜命辭任退職後消防小頭部長、同組頭、在郷軍人分會長大字區長等に歴任し信用を加へ明治四十三年には同村信用組合理事に挙げられ大正二年には選ばれて同村々會議員となり爾來重選三期、現に其職にあり其他青年會三重縣選抜指導員、氏子總代等に現任し美濃波多村の一有力者として活動しつゝある人なり、淨瑠璃を好み之に堪能せり。

### 龜 澤 一 増 藏君

美濃波多村大字新田  
慶應二年十二月十三日生  
家族 妻さかへ同村若山九三郎長女、長男孫市郎(三七)婦きし(三三)同字若山米藏長女、二男鹿郎(三〇)二等軍醫として現職二女いさ上野町中町宮崎慶之助妻、三女正子(二二)高女出身孫こま(一〇)外に五名あり



龜澤君、父は孫市郎母はこま其長男なり、大正の徳行者として其名遠近に高し、資性謹直稀れに見るの人格者なり、明治十六年新田外四ヶ村の戸長役場筆

生に任せられ町村制實施と同時に美濃波多村役場書記に任せられ二十七年四月退職、明治三十七年三月同村々長に當選四十四年三月退職す、明治四十四年九月名賀郡會議員に當選、大正四年九月再選して郡參事會員に挙げられ以來重選して郡制廢止に至る、其村長となれる當時美濃波多村は村長助役等懲戒辭職し村政は困難の極に達し明治三十六年度の村税の如き其過半數が滞納となり甚しきは其前年々年度の滞納すらあり全く收拾すべからざる状態にありしを就職以來或は滞納者の戸別訪問をなし或は區民會合を催し區長組長等を説きて其納税の怠るべからざるを知らしめ明治四十三年には滞納者僅かに二十名大正元年度には遂に其跡を斷つに至らしむ、又明治四十二年には兒童保護會を設け寄附金を募集して貧困兒童に學用品を供給し四十二年三月には青年會を起し農業補習學校を經營して補習教育の普及を計り處女會を起して子女の教育に力を致す傍ら農業方面の改良に力を致し稻品種の改良、正條植の奨励、害虫驅除等を率先してなし其他地方會を組織して小作人との意志の疎通を計り蠶繭の共同購買、罹災救助資金、小學校基本財産の造成神社の合祀小學校舎の

増築等村政の全般に亘り大いに改善の實を擧げしむ又村内に起れる村會議員争奪戦の仲介并賑紛争の和解等に晝夜奔走して事なからしむる等其善行美事故擧に違非ず、官其行を嘉みし大正元年には名賀郡斯民會、同六年には三重縣斯民會より表彰せられ遂に宮内省發行の大正德行録にまで其徳を稱せらる、又故なきに非ず。

### 辻 房 平君

美濃波多村大字東田原 明治十年二月一日生  
家族 妻、はぎ(五二)長男茂通(二九)二男宗之助(二五)長女やぶ(二二)錦生村安部田前川善郎妻、二女きぬ(一七)婿みさを(二三)神戸村上神戸森中政次郎三女、孫幸(五)

辻君、父は常平、母はゆきの其長男なり、農を業とす、性温良にして敬神の念厚く美濃波多村消防小頭に任せられ後大字東田原區長に當選する事二期、大正十四年五月には選ばれて美濃波多村々會議員となり現在に至る、又美旗神社氏子總代に當選して現に敬神思想の普及、村治の改善に力を致しつゝある人なり。

### 中尾治良左衛門君

美濃波多村大字東田原 明治十一年二月一日生  
家族 妻むめの同字的場榮三郎長女、長女しづみ(三〇)父治兵衛(八〇)

地に移轉し盛大に製紙業を經營今日に至る、書畫骨董を好み之を愛し新刊書の通讀を趣味とす。

### 中 森 省 三君

美濃波多村大字中村 明治廿六年六月十三日生  
家族 母市、兄謙一郎、慶二、弟浩、祖母こまき、何れも同居せず

中森君、父は和一郎、其三男にして沖繩縣首里區字小川に生る、明治四十二年父に伴はれて現住地に來り住す、大正十四年美濃波多村役場書記に任命せられ現在に至る、性温良無言にして實行を好み事務に熱心なる人なり、村民の信任厚く前途を囑目されつゝある人なり。

### 山 村 正 通君

美濃波多村大字新田 明治二十九年一月二日生  
家族 母さ(六七)妻つや(二八)神戸村柳川前田留之助二女、長男和彦(五)長女俊子(三)

山村君父は宇吉其長男なり、大正五年大津歩兵第九聯隊に入營、在營演習中外傷性兩側坐骨神經麻痺に罹り大津衛成病院に入院を命せられ一等症患者として遇せられ後加賀山中温泉に轉地療養を許さる、大正七年病氣全快するに及び救恤金を下賜せられ三月二十八日附を以て兵役を免せらる、大正十四年一月美濃波多村役場書記を拜命して今日に至る、漢籍涉

漢籍涉 ナ、ヤ、マ之部



中尾君は現美濃波多村助役なり、性温良無言にして實行を好む。衆望あり明治四十三年美濃波多村消防組頭に擧げられ大

### 中 内 源 市君

美濃波多村大字新田 明治二十年二月二十五日生  
家族 妻さらの(三九)阿保町柏尾安場清一郎女、二女まさ(一五)長男節(一〇)

中内君、父は源三郎、母はかね其長男にして種生村大字老川に生る、製紙業を營み信任ある人なり、明治三十九年農業を廢し製紙業を開始し大正五年現住

獵の趣味あり前途洋々の一青年なり。

### 山 下 榮 光君

美濃波多村大字西田原 安政六年正月十八日生  
家族 妻みよ(五四)同字松本武助二女、長女トミエ(二八)新義一(三三)矢持村霧生菰吉三男、孫喜代子、賢、弘

山下君本姓は青木、新潟縣東蒲原郡津川町に生る、父は覺右衛門、幼にして神戸村古郡本多光照について出家得度し後依那古村上郡常福寺山下家に養はれて其姓を冒す、明治二十年現在の長樂寺に移住して現在に至る、信仰心厚き僧侶にして靈感に堪能なり又灸術に妙を得難病者の爲めに無料にて其需めに應じつゝある奇篤なる僧侶なり、常に寺域の荒廢せるを慨し來住以來鐘樓堂の改築本堂の修繕、道路の改修等をなし寺院の面目を一新したる功績顯著なるものあり、本山より表彰状を受く。

### 松 島 萬 吉君

美濃波多村大字上小波多 明治六年九月三日生  
家族 妻たつの阿保町森川石郎姉、長男興夫(二九)次男時夫名張町瀬古手鶴伊藏養子、長女しずへ錦生村安部田雪岡源作妻、婿なを(二八)同字信用組合長岩崎延吉女孫二人



松島君、父は與七母はさ 三一九

せ其長男なり、現美濃波多村長なり、明治三十七年四月美濃波多村収入役に任せられ同四十四年三月同村助役に推され就職す、大正十三年十一月同村々長に當選して現在に至る、資性温厚にして村民の衆望あり、此間小學校の改築を斷行し又村處女會長、村教育會長、村家庭改善會理事長、村農會長として至らざるなき施設をなし治績大いに昇る、蓋し君の温容がよく村民の意を迎へつゝあらに據る處多し。

### 布生周之助君

美濃波多村大字新田 明治十六年四月十五日生

家族 母まつ(六九)妻よし(四六)長男周一(一四)  
布生君父は留石其長男なり、農を業とす、衆望の歸する處同村消防小頭となり後大字新田區長、美旗神社氏子總代等に歴任し村治行政の爲め力を致す傍ら敬神思想の普及に努め信任大いに加はり大正十四年五月には選ばれて同村々會議員となり現在に至る。

### 福島辰之助君

美濃波多村大字下小波田 明治二十二年三月十九日生

家族 妻こふ(阿保町川島辰藏二女、母りき(六五)長男龍(一〇)長女麗子(八)三男純一(四)四男賢一(一)二男幼天  
福島君、父は辰五郎其長男なり、酒造業を營む性快



活にして公共心あり、明治四十二年歩兵第九聯隊に入營四十二年朝鮮守備隊に編入派遣を命せられ上等兵に任官して除隊、衆望の歸する處同村消防小頭、大字下小波田區長二期等に當選して功勞多く遂に大正十年には推され村會議員となり大正十四年五月再選して現在に至る、家は舊農を業とせしが大正十二年酒造業に轉業して現在に至る 銘酒松月の友、美旗正宗等を醸造販賣す。

### 藤森政吉君

美濃波多村大字新田 明治廿一年十月廿八日生

家族 父久吉、妻さく子同字松本駒石二女、長男逸(一八)縣立名賀農校在學、長女喜代子(二三)名張高女在學、三女節子(二二)藤森君は現名賀郡自治應員なり、資性温厚白色紅顔の好男子なり、明治三十七年美濃波多村役場書記に任命せられ大正九年迄勤続同年七月名賀郡書記に任せられ大正十五年六月に至る、同月郡役所廢止と同時に廢官となり以來名賀自治廳書記として主に教育會の事務を擔任現在に至る。

### 住川與吉君

美濃波多村大字新田 明治八年十二月一日生

家族 妻はき(五)同字中島善助長女、長男(二)長女千代美(二)



(一九)阿保町別府島岡正夫妻、四女花子(一八)三男孟(七)婦みれ(二二)同村小波多豊崎嘉平二女、孫美代子

住川君父は與三郎母かかん其長男なり、農を業とする美濃波多村の有力者なり、資性磊落にして社交に長じ村民間に信任あり、明治四十四年選ばれて美濃波多村々會議員となり以來重選して現在に至る、此間伊賀鐵道の美旗驛設置、學校の改築、消防組の改善、役場の改築等に參與して功あり村民の信任愈々厚きものあり、社會奉仕事業には自己を忘れて活動する人なり。

## 古山村

### 吉川宗太郎君

古山村大字南 明治十七年十一月十五日生

家族 母すき、妻こまの(三七)同字松岡淺之助長女、二女美代(一七)三男固(一〇)四女支江(四)  
宗太郎君は現古山村助役なり、明治十七年歩兵第九

古山村 三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

聯隊に入營、三十八年大津屯營出發出征し第二軍に参加同年末凱旋歸郷す、功により勳八等瑞寶章を賜ふ、大正六年三重縣米穀検査員に任命せられ衆望を博す、大正十年選ばれ古山村助役、古山消防組々頭に擧げられ現在に至る、性潑測、社交に長じ村民の氣受よく前途を矚目されつゝある人なり。

### 吉川房吉君

古山村大字安場 明治八年七月十五日生

家族 妻いの子藤原村西田原北山寅松長女、長女千鶴子(一九)二女不二子(一七)三女壽榮子(一〇)  
房吉君は現古山村収入役である、一寸風變りの人で本誌の編纂について請はるゝまゝに次の様な自叙傳を書き原文のまゝで省略するなどの申入れがあつたから畏まつて次に其原文を

明治八乙亥の夏オギヤ此婆婆に飛び出した、生來の臆病者猪のやうに突進する勇氣もなくノラリクワリさやう、青年時代まで漕ぎつけ、さて將來の方針はさ小首を傾けた處で掛すに田なく商ふに金なく全く餘儀なきに五尺の鉢を資本として明治の三十一年に少學校教員に出掛け大正八年迄足掛二十二年の腰辨生活、頭に霜を頂く様になつては腕白子供の手も大儀となり同年の秋我が村の収入役に鞍替して爾來約八ヶ年、年々年中簿冊と算盤玉との首つ引で今日迄つゝばつてゐます私の經歷ざつと如件

### 田端金治君

古山村大字安場 明治三十五年八月九日生

家族 父秀松(五七)祖父與助(八五)母ひろ(五三)妻じやう(三五)長女ぬい(一四)二女さみ(八)二男稔(六)三男正則(四)



田端君は現花垣小學校主席訓導なり、父秀松君は前村長前郡會議員同村會議員として永く地方自治の爲めに貢献したる地方の有力者なり、君は其長男に生る、大正二年三月三重縣師範學校を卒業、古山小學校訓導に任せられ大正十一年三月迄勤務四月花垣小學校に轉任して現在に至る、資性温厚前途を囑目されつゝある人なり。

上島 繁 造君

古山村大字鍛冶屋 明治六年二月十八日生

上島君、父は彌右衛門、母はこみ其長男に生る、現古山村長なり、明治二十六年大津歩兵第九聯隊に入營、二十八年三月日清戦役に従軍二十九年一月臺灣土匪討伐軍に参加し功あり勳八等瑞寶章を賜ふ、明治三十七年三月再び日露の役に召されて従軍各所に轉戦して偉功あり勳七等に叙せられ青色桐葉章並に功七級金鷄勳章を賜ふ、大正二年一月衆望の歸する處古山村助役に擧げられ同五年十二月古山村々長に當選す、爾來重選四期現に其職にあり資性温厚にして常に村治の改善に力を致し大正六年一月古山信用購買販賣組合を組織し其理事に擧げられ大正九年一月には其組合長に推され現在に至る、其他青年團處

女會産業組合の組織に力を致し治績悉く擧らざるなく遂に同村をして全國の模範村たらしめたり實に其治績の大なる後世に傳へて範とすべきものありと云ふべし。

山中 實君

古山村大字安場 慶應三年九月五日生



家族 妻しゆ、長男一(三三)東京高商出身三井銀行本店在勤、次男勇(二二)彦根高商在學  
山中君本姓玉垣、父半三母はみの其三男にして猪田村大字山出に生

れ山中家に養はれて其姓を冒す、資性極めて嚴格超時代的の人格者にして諸事に通じ克く談じ能く語る人なり、名賀郡に於ける一勢力者として郡民の信望を冀め現に選ばれて三重縣會議員、三重縣參事會員たり、幼にして明敏群童を抜く、明治二十四年奈良縣文官普通試験に合格、三十年三月小學校教員免許狀を授領し同四月矢持小學校長に任せらる、三十一

年四月鳥取縣文官普通試験に合格し十一月依願退職して京都府相樂郡書記を拜命三十二年十二月京都府

屬に任せられ諸種の事務を映掌し長官の信任を得大正二年七月には京都府熊野郡長に榮轉し高等官に任せらる、大正六年一月依願退職して郷里に歸る、此間進められて高等官五等となり正七位に叙せらる、歸郷後常に村民の指導誘掖を怠らず爲めに信任あり大正六年六月には所得税調査委員に擧げられ大正八年十月には選ばれて縣會議員となり十四年十月行はれたる補欠選舉に再び縣會議員に當選現在に至る、此間大正十年と大正十五年の兩度三重縣參事會員に當選して現在其職にあり。  
長男一君は東京三井銀行に勤務し青年實業家として前途を囑目されつゝある人なり、蓋し謹嚴其まゝの君の薰陶宜しきを得たる結果なりと云ふべし。

山下 嘉三 太君

古山村大字東谷 明治十五年十二月十五日生

家族 妻ナツエ、長男弘策(二五)大阪帝國製糸會社在勤、次男文部(一五)東京中央商業學校在學、三男正章(一一)長女千鶴子(二〇)大阪西成區西血池町松村美樹生妻  
山下君本姓は新、父は太一郎母はくまへ其次男にして美濃波多村大字東田原に生る、長じて山下家に入



婿して其姓を冒す、明治三十八年七月三重縣師範學校を卒業多氣郡相可小學校訓導に任せられ三十九年四月名賀郡猪田小

學校に轉任四十三年四月同校々長に榮進す、大正七年七月抜かれて員辨郡視學に榮轉、大正八年十月一志郡視學に轉じ大正十一年四月阿山郡視學に榮轉す大正十五年六月郡役所廢止と同時に廢官となり阿山郡教化團体長兼主事に擧げられ現在に至る、資性温厚にして良教育家の聞へあり、園藝、園藝を好む。

前田 光之 介君

古山村大字東谷 明治廿年十月廿八日生

家族 父市五郎(六二)母ふで(五八)妻しづ(三四)神戸村上林福井安之助長女、長女弘子(一一)長男光嘉(一一)二男成嘉(六)  
前田君は現錦生小學校長なり、明治四十一年三重縣立師範學校を卒業後錦生小學校訓導に任せられ四十二年三月花垣小學校に轉任大正八年同校々長に進め

られ大正十一年一月神戸村小學校長に轉じ、大正十四年三月錦生小學校に榮轉現在に至れる人なり、資性温厚、活潑にして文學美術の趣味を有し村民の信任ある教育家なり。

### 廣岡 虎 信君

古山村大字藏繩手 明治十五年一月十四日生

家族 妻たつ(四五)美濃波多村東田原中森周三郎長女、長女一美(二六)矢持村露生増田亮一妻、長男清(二四)本縣師範學校卒業、業其曲校在勤、姉きみよ(二四)露生澤田文太郎二女矢持校在勤

廣岡君、父は宮田嘉藏母はさかへ其長男に生る、幼にして本姓廣岡姓を冒す、現古山村田守神社々掌にして傍ら古山村役場書記を拜命す、明治三十四年四月小學校代用教員を拜命し三十七年三月師範學校教員養成所を修業後大正八年引續き名賀郡教育界に職を奉じ同年二月辭職田守神社々掌に就職大正十四年一月より古山村書記を拜命現在に至る、性温厚にして古典涉獵の趣味ある人なり。

### 花垣 村

#### 井野 長之介君

花垣村大字白樫 明治十三年七月二十九日生

家族 母きく(六六)妻フサ子(四一)月瀬村田北貞長女、長女千鶴子(二二)高女卒業、長男務(二六)

井野君醫を業とす、父は正雄氏永く官途にありて奉公の誠を致したる人なり、君は其長男にして明治三十六年十月大阪府立高等醫學校を卒業し後神戸兵庫病院に入り實地の研究をなし明治三十七年八月歸郷して開業花垣村々醫、同村校醫を囑托せらる、大正十一年村醫校醫を辭し現在に至る、資性温厚にして衆望あり明治四十四年選ばれて名賀郡會議員となり大正四年滿期退職地方改善の爲め不斷の努力をなすつゝある人なり、書畫、骨董、盆栽、讀書等を好む

#### 池田 豊 秀君

花垣村大字藤野 明治九年五月一日生

家族 父芳(八〇)長男清直(二九)大阪天王寺中學校教諭、嫁かや(二九)同字四間利藏長女、妻はる同字杉本勘兵衛長女、長女芳子(一七)名張高女在學、次男隆年(二二)孫榮司(二)

池田家は代々神職にして舊家なり、初代民部元和四年現在の三郷神社に奉仕以來二代内善、三代金太夫四代元信、五代大隅、六代若狹、七代若狹、八代

丹後、九代出羽、君は十代の孫なり、明治二十八年四月神宮皇學館を卒業後一ヶ年同館研究部に在學、明治三十年伊勢神宮に奉職、四十二年六月神宮皇學館書記に兼任、四十五年四月古事類苑出版事務所庶務會計主任に任せられ東京に在住、大正三年三月事業終了して歸郷五年六月老父の隠居により辭して歸り三郷神社々掌に補せらる以來三重縣神職會名賀支部會幹事、名賀郡民力涵養講習會講師、三重神職會總會議員、全國神職會三重縣代議員等に擧げられ以て現在に至る、在職中の功により大正七年一月正七位に叙せらる、得難き名神職なり。

### 大井 繁 藏君

花垣村大字白樫 明治六年六月一日生

家族 母しよ(七六)妻たま(五)同字大江助右衛門長女、長男繁(二九)上中在學、次男格郎(一六)名賀農校在學、三男禮三(二二)長女たまの(三三)同字白樫利光妻、次女ゆう(二七)同字奥田新九郎妻

大井君、父は宗治郎其長男なり、名賀郡小學教育界の長老として尊敬せらる、明治二十九年三月三重縣立師範學校を卒業名張小學校訓導に任せられ三十三年古山花垣組合小學校長に榮轉、四十三年組合立解散と同時に花垣小學校長に任命せられ大正八年三月迄勤績辭して後進の道を開く、在職中功により縣知

事より表彰されたる事あり、大正九年一月白樫信用組合長理事に推されて就職、大正十三年氏子總代に大正十四年三月には村會議員に當選して現在に至る資性温厚にして村民の信任厚く慈父の如く尊敬せられつゝあり。

#### 大江 熊 藏君

花垣村大字白樫 文久二年九月十日生

家族 亡妻この子同字白樫利右衛門三女、長男肇(三七)京都府下山田莊小學校訓導、次男龜太郎死去、長女ふで子(一九)比白岐村中森茂男妻、妻まきの(二六)月瀬村長引福中常次郎長女、孫兵太(七)

大江君、父は兵助、母はとく其三男に生れ家を嗣ぐ花垣村の有力者にして家富む、明治十八年八月白樫村代人に擧げられたるを始めとして明治二十年茶業検査員、二十二年六月白樫區長、二十四年八月白樫衛生組合長、二十六年六月區長に再選、二十九年一月花垣村助役に、二十九年二月消防組頭に、三十一年四月村會議員に、三十七年四月再選、四十年十月名賀郡會議員等に選ばれ地方行政の爲め力を致す處尠からず、明治四十二年には白樫信用購買販賣組合を組織して其組合長理事に就職、月掛、定期、家族等の貯金制度を新設して大いに其成績を擧げ大正三年退職す、官其行を賞し大正七年には産業組合中央

會及び同三重支部より大正十四年には名賀郡部會より表彰さる。

### 大江彌一郎君

花垣村大字白樫 明治二十四年十月十五日生

家族 父梅石(六一)母いの(五七)妹すゞ(一九)妻むつ(三四)同村治田井元金松長女、長女きよ(一三)二女ひで(八)  
大江君は現花垣村長なり、資性温厚にして衆望あり大正二年九月花垣青年會第二分會副分會長に擧げられ同三年三月退職、大正五年二月白樫信用購買販賣組合書記となり七年四月退職、八年一月同上組合幹事に當選同年九月花垣村収入役に就任衆望大いに加はり十五年五月には同村長に當選就任して現在に至る。

### 勝島重信君

花垣村大字豫野 明治十九年十一月廿日生

家族 母ふじの(七〇)妻いさ(三四)古山村前澤昌之助妹、長男信也(七)次男史郎(四)長女みち子(一四)次女きぬ子(一〇)  
勝島君は花垣村の有力者にして農を業とす、明治四十年三重縣農事講習所本科を卒業、三重岐阜兩縣の蠶業取締所に吏員として奉職、二年後辭して歸郷養蠶教師として名賀郡一志郡奈良縣吉野郡等の各養蠶組合に聘せられ明治四十四年花垣村産業技術員に任せらる、大正八年四月辭職大正十年十月同村助役に

員となり、三十六年には名賀郡會議員に當選、議長に互選さる等其一代は全く政治的美談を以て飾られつゝあり、其他所得稅調査委員、徴兵參事員精選米検査員、村會議員等數へ來れば全く屈指に違なき諸種の名譽職に就任、地方行政の爲め力を致したる人なり、君の長男朝雄君又君の志を繼いで怠らず大正十三年豫野信用組合長に擧げられ十四年退職、村會議員に當選現に其職にあり、誠に賞すべき家庭なり

### 上田甚吾君

花垣村大字豫野 明治十四年四月十日生

家族 父甚六(八〇)母かれ(七九)妻しか(四四)上津村妙樂寺竹本善右衛門長女、長女あやの(二五)次女千鶴子(二二)同富澤一雄妻、三女千代(二四)婿光徹(一九)同字岡崎光隆二男、孫仁(四)洋(一)  
上田君は花垣村豫野信用購買販賣組合長なり、明治四十一年氏子總代に擧げられ以來三期間勤務、又消防小頭たること十二年間明治四十三年郡消防協會より模範消防手として表彰さる、大正六年衆望の歸する處村會議員に當選、大正八年一月大字區長に選ばれ各一期間勤務す、大正六年信用組合監事に當選し十四年四月同村會議員に再選、大正十五年一月信用組合理事に當選、同時に常任理事に推され現在に至る、村民の信任厚き人なり。



任せられ十二年二月花垣村長に當選し以來同村の死活問題として重視せられつゝありし大字豫野より名張街道俗に云ふカナッポに達する道路の縣道編入に寢食を忘れて奔走し遂に之を成功し大正十四年三月辭職して農に親しみつゝあり、前途ある人なり。

### 月井忠太君

花垣村大字豫野 安政六年十二月十七日生

家族 長男朝雄(四四)妻きくの(六四)古山村鍛冶屋中善右衛門長女、婦かれ(三五)同字森田由松長女、孫一郎(一六)滿(一〇)清隆(五)  
月井君は名賀郡政界の元老とも言ふべき人なり、町村制實施と同時に花垣村長に當選、二十六年退職して茶業検査員となり累進して縣検査員に擧げらる、又別に藥業輸出検査員となり抜かれ藥業輸出組合中央會議員となり、明治三十年には選ばれて三重縣會議

### 上窪惣太郎君

花垣村大字治田 明治二十四年四月十日生

家族 父惣次郎(六二)母、こ(六二)妻ハルエ(三六)長男大郎(一五)  
上窪君は現花垣村助役なり、家は農を業とす、君性温厚にして篤實、家政亦豊なり、衆望の歸する處大正十三年三月花垣村助役に推薦され就任して現在に至る、村民の信任あり前途を矚目されつゝあり。

### 上島藤平君

花垣村大字治田 明治十五年九月廿日生

家族 母うの(七二)妻まさ(四六)月瀬村石打田中喜八郎長女、長男藤成(一八)上中在學、長女三子(二二)弟長雄君は陸軍歩兵大尉として歩兵三十三聯隊に勤務  
上島君は郷社岡八幡神社の社司なり、大正五年奈良縣に於て行はれたる社掌社司登用試験に合格し大正六年二月村社二郷神社の社掌を拜命す、爾來同社は岡八幡と稱する古社なるを知り之が昇格に奔走して遂に大正十一年十一月郷社に昇格の指定を受け二郷神社を岡八幡神社と改稱して其社司に任せられ現在に至る、園藝、書畫、骨董等を好む。

### 藤生光次郎君

花垣村大字桂 明治二十一年四月十七日生

家族 父檜次郎(六八)母ひさ(六八)妻ふさ(三一)藤原村西田原田口勝之助妹、長女純子(一一)二男哲郎(六)二女紀子(三)長男幼天

藤生君は古山尋常高等小學校に勤務す、明治四十四年三月三重縣立師範學校を卒業、後直ちに花垣小學校訓導に任せられ四ヶ年の後名張小學校に轉任を命ぜられ同校に一ヶ年半勤務し後現在の古山小學校に轉任したる人なり、資性活潑にして良教育家の聞あり。

藤本富之助君

花垣村大字豫野 明治二十八年六月二日生

家族 養父專之助

(七一)妻好子 (二六)長男孝之助 (七)二男篤行 (五)



藤本君本姓は上島同村に生る、父は善松其二男にして藤本家に入婚

して其姓を冒す、大正五年朝鮮龍山歩兵第七十八聯隊に入營、大正七年滿期除隊す、銃劍術に堪能にして大正十四年明治神宮に於て開かれたる全國青年武道大會に選拔されて出場優勝の好成績を得たる人なり君は平素深く日蓮宗を信仰し大正元年より鳥居日統

師につき同宗教義の研究をなし大正十三年より大和小泉の日蓮行者遠山某につき親しく其蘊奥を極め遂に令妙なる神秘的神通力を得て其宗風の擴張に力を致しつゝある篤志家なり、其一喝一啤を乞ふ者は如何なる難病も治すると稱し之を乞ふ者日に多く門前市をなする状態にあるも君は世の所謂祈禱師と其選を異にし信仰者より寄進の報酬祈禱料は絶対に謝絶しつゝあり以て其人格を窺ふに足る。

藤森俊彰君

花垣村大字白樺 明治十三年七月二十一日生

家族 父兵右衛門(七三)妻のふ(五〇)同字井野辰藏長女、養嗣子 達夫(二三)京都醫大豫科在學同字白樺龜藏四男

藤森君醫を業とす、幼にして俊才の開あり、僅か二ヶ年にして中等科程の學を修め京都醫學專門學校に入學三十六年七月卒業して後一ヶ年府立病院に實地の研究をなして歸郷、開業し大正十一年花垣村々醫同村校醫の囑托を受け別に生命保險會社十三社の囑托醫となり今日に至る、性磊落にして無慾社交に長じ書畫、園藝、小禽飼育を樂しむ、君の父兵右衛門氏は村會議員、區長等に歴任して花垣村より表彰されたる地方の功勞者なり。

平田益藏君

花垣村 字豫野 明治二十五年四月十一日生

家族 養父良松(五七)養母さら(五七)弟幸末(二〇)妻いま(三二) 同村廣西竹次郎叔母、二男幸夫(八)長男幼折

平田君農を業とす、現花垣村収入役なり、大正十一年花垣村消防組小頭に任命せられ翌年退職、大正十二年花垣村収入役代理を命ぜられ十四年辭職し農會技術員となり別に名賀郡農會技手を囑托さる、業務に熱誠なる廉を以て大正十三年三重縣斯民會名賀郡分會長、町村吏員獎勵規定により獎勵金を交附さる、大正十五年五月花垣村改入役に就任して現在に至る

住田奈良石君

花垣村大字豫野 明治七年三月十日生

家族 父伊七郎



(八〇)母さあ (七八)妻こら (五四)同字上田 甚六長女、長男 一郎(一八)長女 はま子伊勢龜山 町東邦電氣會社 出張所在勤森永 淺之助妻、二女 きの子(二四)阿 山高女教諭

住田君は農を業とす、明治三十二年三重縣巡查を拜命三十五年退

猪田村

今堀久男君

猪田村大字猪田 明治廿一年九月廿八日生

家族 養母こよ(六四)妻さよ子(三八)長男龜藏(一五)上中在學次男 久(一一)

今堀君本姓は富澤、父は久三郎其三男にして花ノ木村大字大ノ木に生る、年二十三歳にして今堀家に入婚して其姓を冒す、今堀家は舊と紙荒物商を營みし

が大正三年廢して農業専門となる、君資性温厚にして公共心あり、又社交に富む衆望の歸する處大字役員に擧げらるゝこと多年大正五年に至る、大正十年には猪田村々會議員に當選し一期間勤務す、又猪田信用購買販賣組合が組織せらるゝや其監事に擧げられ現に理事として就任中、讀書と政治を趣味として現遞信參與官川崎克氏と交友あり、前途を囑目されつゝある人なり。

### 石田 貞一君

猪田村大字猪田 明治二十七年十月廿八日生  
家族 父熊太郎、母つづの妻八重花垣村大字豫野森島重次長女、長男貞保(一)二男康彦(八)三男三郎(五)

石田君は蠶種製造販賣を業とす、明治四十四年三重縣蠶糸學校を卒業し以來父の業を助けて蠶種製造業に従事す、此間猪田村農會技術員、三重蠶病豫防吏員、村農會蠶種製造技術主任等を勤務す、常に蠶種の改良、養蠶家の福利増進につき研究苦心至らざるなし、京都蠶糸學校荒木技師の發見にかゝる繭形式解化法の完全なるを知り之を習得して更に其短を補ひ今日にては全く理想的の解化法として實用せらるゝに至る、前途ある蠶種業者なり。

### 大西平之助君

猪田村大字猪田 明治十五年五月八日生  
家族 妻ハナ横濱市青木町山崎米藏孫、長男晃(六)上中在學、長女満子(二四)阿山高女在學

大西君は現村社猪田神社の神職なり、父は平助其長男にして神戸村大字古郡に生る、初め教育界に身を捧じ名張小學校、滋賀縣西大路小學校、同中ノ庄小學校等に奉職し後巡查を拜命し神奈川縣、三重縣等に勤務し多年警察界に貢獻する處尠からず大正八年辭して歸國同年二月猪田神社々掌となり現在に至る資性温厚にして無言實行を好む、村民の信任厚き人なり。

### 沖島房之助君

猪田村大字猪田 明治十六年九月十六日生  
家族 母のへ、妻スヘノ妻長縣宇陀郡藤原町藤原小西辨藏二女、養子卯三、長男實共に小學校

沖島君は現猪田村長なり、性温厚にして公共心あり村民の信任厚し、衆望の歸する處大正二年四月選ばれて猪田村々會議員となり同六年四月再選、同七年四月には猪田村助役に推薦されて就職同八年三月村會議員を辭任す、同十一年一月選ばれて猪田村長に擧げられ十五年一月再選して現在に至る、此間同村の死活問題として重大視せられたる伊賀鐵道猪田道



驛より猪田村役場前を経て花垣村豫野に通する舊郡道の縣道移管に殆んど寢食を忘れて奔走し遂に之を成功せしめたる外

### 龜澤猪之助君

猪田村大字上ノ庄 明治廿六年二月十六日生  
家族 母しかの(六一)妻まつ(三三)花ノ木村大野木若山惣右衛門長女、長男貞雄(二三)子操(二)弟三龜雄(三〇)東京牛込福町在住

龜澤君は猪田村農會技手なり、大正十一年二月猪田村書記を拜命同年猪田村農會技手名賀郡農會囑托技手となり、大正十二年三重縣立農事試驗場に勤務す同年十月再び猪田村農會技手を拜命現在に至る、無言實行を好む人にして村民の信任ある人なり。

### 竹内保造君

猪田村大字猪田 明治三十一年四月廿六日生  
家族 養祖母いさ、養父龜次郎、養母みよし、妻なし、府中村外山中野金五郎長女、長男啓、長女淑

竹内君本姓は西堀、父は猶市其二男にして依那古村大字上郡に生る、大正六年竹内家に入り其嗣となる初の依那古村役場書記を拜命して其職にあること三ヶ年、大正七年猪田村役場書記を拜命抜かれて収入役となり現在に至る、性温厚にして園藝盆栽を好む村民の信任厚く前途を囑目されつつある人なり。

### 壺田亥之助君

猪田村大字猪田 明治二年六月二十一日生  
家族 長男倫夫大阪北陽商業教諭在勤額道三段、次男哲夫立命館大學在學、三男修早稻田大學在學、長女りよ子同村廣崎勸業妻長男婦さみ城南村木興川口鶴松女

壺田君は名賀郡の老教育家として知られたる人なり年十七歳にして依那古學校に教鞭を採り以來苦學獨習して檢定試験に合格本科正教員の免許状を受け猪田、依那古、藏持、比自岐の各小學校を経て大正二年美旗校に轉じ後抜かれて比奈知學校々長に任せらる、在任四ヶ年其退職に際し村民君の温情と人格的教育者なるに敬慕し之が留任の決議をなし猛烈に其留任を運動せしも遂に止まらず退職せり、以て其人

となりを窺ふに足る、其在任四年間に附近に聞へたる難治村ありて學校舎の増築を斷行し郡内各村に卒先して村教育會を組織する等其功績見るべきもの多し、退職後大正七年六月産業組合長に就任同八年には郡會議員に擧げらる、現に同村信用組合長、學務委員、氏子總代、小作調停委員等に就職しつゝあり

### 壺田孝之介君

猪田村大字猪田  
明治八年六月一日生



家族 妻いを同  
村松島團治妹、  
長男靖孝、廣島高  
師在學、二男靖  
三三男清上中在  
學、長女きやう  
女生村連池日根  
野尙芳妻、次女  
洋子阿山高女在  
學

壺田君は陸軍  
豫備歩兵中尉  
にして農を業  
とす、大阪府

立農學校を卒業後一年志願兵として歩兵第九聯隊に入營少尉に任官さる(一年志願兵制度による將校は名賀郡に於ける初め)明治三十

七八年の戦役に從軍して功あり歩兵中尉に任せられ從七位勳六等に叙せらる、凱旋後農業技手として神奈川縣、奈良縣、埼玉縣、三重縣、河藝郡、名賀郡等に奉職し農事改良指導に力を致し大正元年退職す、大正六年猪田村々長に任せられ村治教育の爲め力を致す處尠からず、又明治二十九年猪田村に在郷軍人分會の組織せらるゝや推されて其分會長となり明治四十年には名賀郡聯合分會長に任せられ義勇奉公の誠を致す、大正十二年辭して名賀郡將校團長に就任現在に至る、君は猪田村産業組合の創立者にして其組合長たりし事あり地方自治の貢献者たる事を失はず。

### 中田馬藏君

猪田村大字猪田  
明治十三年十二月一日生

家族 養母こま、妻みさを、長男保一上中在學、長女眞子阿山高女在學、二女みよ子

中田君本姓は福森、現阿山郡三田村長福森駒藏君の令弟なり、中田家に入婚して其姓を冒す、年十七歳のとき現役志願をなし大津聯隊に入營、日露戦役に從軍し偉功多く特務曹長に陞進し勳七等に叙し金鵄

勳章を賜ふ、大正元年家事の都合上辭して歸り農業に従事の傍らに郷軍人分會長、同特務理事青年團指導委員、産業組合長、村會議員等に當選して地方自治産業の發達青年の指導等に力を致す處多し、現に同村學務委員として村教育界の爲め力を注ぎつゝあり。

### 松永密太郎君

猪田村大字山出  
明治二十六年六月一日生

家族 妻よし(二九)美濃波多村新田龜澤友次郎長女、長男秀夫(八)二男銳太郎(六)長女こゝろ(一)

松永君、父は久吉、母はこのゝる其二男に生る、現神戸尋高小學校長なり、明治四十五年三月三重縣師範學校を卒業して神戸小學校訓導に任せられ大正十二年箕曲小學校長に榮轉、大正十四年三月現在の神戸小學校長に轉任今日に至れる人なり、資性温厚にして篤實、特に兒童教育改善について趣味を有し研究を續けつゝある人なり、其父久吉氏は村會議員學務委員區長等に當選遂に名賀郡會議員、同郡參事會員に選ばれたる郡内知名の有力者なりき。

### 松下積太郎君

猪田村大字猪田  
明治十年四月十六日生

家族 妻たね上野町丸之内平井利雄姉、長男恒親京都醫科大學在學二男貴直上中在學



松島君醫を業とし特に産婦人科の造詣深し、明治三十一年京都府立醫學專門學校を卒業後一年志願兵として歩兵第三十八

聯隊に入營衛生部に編入せられ滿期除隊後三等軍醫正八位に叙せらる、後母校其他にありて實地の研究をなしつゝありしが明治三十七八年の役に召され從軍し功あり二等軍醫從七位勳六等に叙せらる、明治三十九年凱旋歸郷後父祖の業を繼いで現地に開業猪田村々醫同校醫を囑托せられ今日に至る、松島家は代々醫を業とし初代柳眞より積太郎君に至る、實に十二代にして代々舊藩醫として世足人なり、君慈善心と仁俠心に富み患者に接して極めて懇切丁寧なる爲め來りて診を乞ふ者多く現在病室七室を有するも希望の入院患者を悉く收容すること能はざれば近く増築の止むなきに遭遇しつゝありと。

### 増井 太吉君

猪田村大字上ノ庄  
明治十六年三月二十八日生



家族 妻いよと  
濱市青木町中西  
彦四郎長女、長  
男弘(一〇)上中  
卒業猪田郵便局  
勤務、長女美代  
子(一三)

増井君は猪田  
郵便局長なり  
家は雜貨商を  
經營す、君父

は兼松、母はかね其長男にして同村大字猪田に生る  
同家は舊農を業とせしが明治三十八年之を廢して現  
在の下ノ庄に移住し雜貨商を經營し刻苦精勵家産を  
豊かにす、性公共心あり、猪田村は郵便局なく總て  
の通信事務は依那古局或は上野町に出でざれば其用  
を便せざるを歎之を設置するの請願を出し遂に之  
が許可を受け大正十五年十二月二十一日より開局し  
て其局長となり現在に至る、園芸、園藝を好む。

### 廣岡 平七君

猪田村大字猪田  
明治二十四年二月二日生

家族 養母(六六)妻(三六)長女愛子(一七)阿山高女在學  
長男十城(一三)

廣岡君本姓は市場、父は平左衛門、母はくまゑ其長  
男にして依那古村大字沖に生る、依那古小學校を卒  
業後農に従事す、明治四十二年廣岡家に入婿して其  
姓を冒す、大正八年大阪に出で尾崎染工場の會計と  
なる、大正十年養父の死亡により歸郷大正十一年伊  
賀瓦株式會社を創立して其常務取締役となり傍ら合  
資會社三重鼻緒商會を上野町萬町に創立して其代表  
社員となりしが後瓦會社の常務を辭し又鼻緒商會を  
解散して上京し神田區佐久間町二丁目に假寓し中村  
式鐵筋コンクリート株式會社の創立に奔走しつゝあ  
り、性謹直苟しくも不義に組するを欲せざる強骨男  
兒なり、日蓮宗を信じ深く之に歸依す、政治運動を  
好み現遞信參與官川崎克氏の懐刀として重視さる。

### 森 島 繁 男君

猪田村大字猪田  
明治十七年九月廿三日生

家族 父元次郎、妻慶子上野町緋屋町山學嘉郎二女、長女幸子阿山  
高女卒業、長男藤上中在學、二男弘小學校在學、二女綾子  
森島君は現猪田村助役なり、三重縣師範學校を卒業  
後猪田小學校、河合小學校、城南小學校等に訓導と  
して奉職すること十六ヶ年間功により恩給を支給せ  
らる、大正十一年三月猪田村助役に推薦され就職大  
正十五年三月再選して現在に至る、資性篤實にして

の著あり。

社交に長じ園藝、菊栽培に興味を有す、就中其園藝  
の如きは全くの妙手と云ふべく現に初段の免許を有  
し居れり。

### 菅 生 戒 範君

猪田村大字山出  
明治廿二年十一月廿四日



家族 妻こま奈良  
縣初瀬町田原家  
より、長女貞子  
(一六)阿山高女  
在學、長男邦義  
(一七)次女ふみ  
子(一七)

菅生君は山出  
勝因寺の住職  
なり、豊山派  
中學校を卒業し

後東京に出で豊山派布教講習所に入所同所を卒業し  
て地方布教師に任せらるゝこと四期後本山布教師に  
抜かる、明治四十一年以來現勝因寺に住職して現在  
に至る、他に古山村市場寺、花垣村治田薬師寺、法  
花菊昌院、同長樂寺等の兼務住職に任せられ現在に  
至る、同寺は本尊虚空藏菩薩を國寶に指定されたる  
有名なる寺院なり、戒範君夙に文學の造詣深く梨堂  
と號し「虚空藏菩薩」「國民精神作興詔書を拜して」等

### 依那 古村

### 稻垣 昇 齋君

依那古村大字森寺  
明治廿一年十一月一日生

家族 妻なつ(四〇)  
稻垣君本姓藤井、父は昇山、母はやな其二男にして  
奈良縣山邊郡大字片平淨明寺に生る、幼にして母方  
の姓を襲ひ稻垣姓を名乗る、明治二十五年二月猪田  
村佛勝寺に於て父僧につき得度三十三年縣立第三中  
學校に入りしが中途退學して宗教學校に學び明治四  
十一年輻重兵第十六大隊に入營滿期除隊後長隆寺に  
住職して現在に至る、性活潑にして克く談ず、常に  
宗風興隆に力を致し依那古村佛教團幹事長、伊賀四  
國靈場會幹事長に擧げられ現在に至る、武道園藝書  
道を好む。

### 石田 龍 吉君

依那古村大字下郡  
明治七年二月十五日生

家族 母みつ(七三)妻まさ(五三)美濃波多村新田龜澤貯藏妹、長  
男巖(二四)三重縣高等農林學校出身、長女きよ子上野高女卒  
業、次女二三子(一六)阿山高女在學、三女千鶴子(五)

石田家は近郷に名ある舊家にして其祖は石田馨家より分れて一家を創立せしなり、遠祖は恒武天皇にありと、明治二十七年第四師團騎兵第四大隊に入營日清日露兩役に參加し勳八等を賜はる、明治四十年大字區長に當選して以來三期間能く大字の爲め力を致し衆望大いに加はる、明治四十四年には同村々會議員に當選爾來重選五期、大正五年には同村學務委員に當選し共に現職にあり、又明治四十一年には依那古郵便局の設置に際し局長に任せられ翌年辭して後任局長に令弟光之輔君を推薦して退く、性豪腹にして仁俠心に富み他人の難儀を見て勇む爲め區民の信任と尊敬を受く、現に同村民にて破産せんとする者を救済したるもの數名あり皆之を徳として其行を賞しつゝあり。

### 石田 馨君

依那古村大字下部  
明治十七年十月三日生  
家族 祖母さき(八四)母きみ(六六)妻い(四〇)鈴鹿郡關町中林貞一叔母、長男元良(一一)二男佳一(九)長女百合子(一八)名譽町八丁藤山家を繼ぐ、二女冬子(一五)阿山高女在學、妹たか(二八)高師卒業大阪高女在勤

石田家は近郷に名ある舊家にして代々里正たり、其祖は長門より一族郎黨を從へて來り住すと、現在の大字下部住民の大部分は其裔なりと傳ふ、君は其總

家の主人公にして十七代の孫なりと、上野中學校を中途退學して上京正則中學校に入り同校卒業後明治四十一年早稻田大學專科に入りしも適合に合格由良要塞砲兵隊に入り學業を廢す、滿期除隊後家事に従事し大字區長、在郷軍人分會長等に歴任して衆望を博す、大正十二年辭職して依那古運輸株式會社を起し其社長に擧げられつゝあり。

### 石田光之輔君

依那古村大字才良  
明治十二年五月五日生  
家族 妻テツ子、長男吉己(一五)上中在學



石田君は同村大字下部の舊家石田龍吉君の弟にして現依那古郵便局長なり、明治二十八年京都同志社に入學せしも病を得て歸郷し其後自家にありて酒類釀造販賣業に従事す、後三重縣巡查を拜命し主として衛生事務に従事し功勞尠からず、執務成績

格別良好の廉を以て賞を受くる事數十回又日露戰役り際し特別勤務を命せられ功あり、内務省より表彰さる、後辭して明治四十二年依那古郵便局長を拜命して今日に至る、此間警察官として紀州荒坂村に駐在せしとき縣道の開通せらるゝに際し土地買収について奔走功あり又桑名署上野署等に勤務の當時按摩業並に理髮業の衛生設備の不完全なるを改善する等其施設至らざるなく又郵便局長拜命後は集配事務の開始電信電話の設置等に奔走して地方通信機關の完備に努力する等功勞尠からず、官其行を嘉みし從七位に叙し勳八等を賜ふ故なきに非ざるなり。

### 太中 義郎君

依那古村大字依那具  
明治十六年三月七日生  
家族 妻しか同村市部市川家より、長男了(二六)大津市南小學校訓導、婦みよ子三田村福森善粉女、長女麗子阿山高女在學

太中君は玉瀧銀行依那古出張店主任なり、青年時代小學校代用教員として猪田村、上野丸之内、同忍町の各小學校に勤務後師範學校に入學、同校卒業後忍町小學校に奉職せしが後辭職して自己の趣味とする化學工業研究の目的を以つて未だ同地方に於いて全く類例のなき動力を使用して精米織布業を經營せしが利あらずして三年後休止し農業に従事し大正五年

七月玉瀧銀行依那古出張店設置により其主任に聘せられ現在に至る、村民の信任ありて此間區長六ヶ年依那古産業組合理事等に擧げられ又大字依那具養蠶産業兩組合を創設して現に其組合長として就任中なり。

### 高橋 由次郎君

依那古村大字沖  
明治十年三月十五日生  
家族 妻つつの長田村朝屋前川龜松妹、長男覺夫、次男盛正津高農在學、長女ふみ兵庫縣明石郡魚住村井上永三郎妻、三男義一(二八)名賀農校在學、四男治(八)

高橋君は農を業とし家富む、明治三十年歩兵第九聯隊に入營三十三年除隊農に従事せしが三十七八年の役に召集されて放順遼陽其他の大會戰に参加功により歩兵曹長に進められ勳七等旭日桐葉章を賜ふ、歸郷後消防小頭、在郷軍人分會長として後進者の誘導に力を致し大津司令官種瀬名張警察署長等より表彰さる、大正十年三月大字區長に選ばれ現在に至る、村民の信任ある植林事業に興味を有する人なり。

### 田中 元三郎君

依那古村大字沖  
明治六年五月一日生  
家族 妻よの(四九)長女はつ子(二六)京都三條通山口近義妻、二女やぶ(二五)佐倉縣松山正一妻、二男玄太(二三)京大醫學部在學、三男博太郎(二〇)第三高校在學





田中君は醫を業とす、本姓は松永、父は元助、母はたけ其三男にして猪田村大字猪田に生る、田中家に入婚して其姓を冒す、

明治二十九年十月三重縣師範學校を卒業し同三十一年四月東京醫學專門學校濟生學舎に入り理科學試門、醫科試門、顯微鏡科、屍死解剖演習等に合格三十二年五月醫術開業後期試験に登第六月順天堂病院に研究生として入り七月助手に任せられ傍ら東京醫科講習會を修了三十四年四月歸郷自宅に開業して現在に至る、傍ら依那古村醫同校醫神戶校醫等を囑托せられ今尙勤務中、其他産婆講習會講師、郡通俗教育資料調査委員、免囚保護會評議員、郡醫會代議員、村傳染病豫防委員、村學務委員等に歴任して功あり名賀郡長文部大臣等より表彰さる、性公共心に富み諸種の公共事業に寄附すること枚擧に遑なく明

治三十七年以來數十回表彰さる。

玉置 格 城君

依那古村大字市部 明治十年十一月十日生 家族 妻きくの愛知縣海邊郡市江村齋藤甚右衛門二女、長男仁海愛知中學在學

玉置君は曹洞宗正興寺の住職なり、愛知縣海部郡立田村に生る、明治二十三年阿山郡山田村極樂寺玉置俊方につき得度し明治二十九年山田村長徳寺に住職すること八ヶ年、同三十八年阿波村長泉寺に轉住十七ヶ年住し大正十一年現正興寺に榮轉して現在に至る、同寺には有名なる安産佛子安大師を本堂の一隅に奉安せるが信仰者多きため君は之が堂宇を建立して別に安置せんと目下計畫中なりと。

中岡 熊 貴君

依那古村大字下郡 明治四年十二月廿五日生 家族 妻たれ子上野町馬苦勞町藤井半助三女、長男章(一〇)三男三郎(六)四男史郎(三)五男五郎(一)長女年子(二)山岡岡本町中上末男、次女鈴子(一九)自宅、四女正子(二五)上野實科高女在學、五女幸子(二二)

中岡君、父は孫次郎、母はさき其の次男にして同村大字市部に生る、明治二十五年八月依那古小學校准訓導拜命二十六年三重縣巡查となり二十九年十月辭して上京私立東京法學院に入り三十二年六月同校卒業佐賀縣巡查教習所に勤務三十三年三月裁判所書記



登用試験に合格し同八月東京區裁判所書記に任せらる、翌年二月依願免官歸郷して三十七年依那古村助役に就任三十八年

一月辭任退職して煙草專賣局四日市支所に勤務、大正七年十一月臺灣に向を命せられ總督府專賣局に勤務し十二年三月依願本官を免せられ同五年北牟婁郡尾鷲町助役に就職、十三年五月辭して歸郷式内猪田神社々掌を拜命して今日に至る、在官中の功により從七位勳七等に叙せらる、國學研究に興味を有する良神職なり。

中 政治 郎君

依那古村大字沖 明治二十八年七月十二日生 家族 母しか、弟猪之助(二八)早大在學、妻こかね神戶村古郡松田留藏長女、長女初枝(一〇)二女みよ(六)長男法三(三)

中君は現依那古村助役なり、依那古小學校を卒業後准訓導試験に合格し十九歳まで准教員を奉職す、後

三年間農業に従事し大正六年依那古村役場書記を拜命、大正十年一月依那古村助役に就職して現在に至る、性讀書を好み深く日蓮宗を信仰す、弟妹を勞はるの情密かなるものあり年十九歳のとき父は疾病の爲め床に臥したるを看病の傍ら豊かならざる一家を支へ令弟猪之助氏を高等學校に入學せしめて其成功を唯一の樂しみとなせる等は全く涙なくしては見られぬ美談と言ふべく以つて其人格の一端を窺ふべきなり、因に猪之助君は目下早稲田大學に在學中なるが既に高等文官試験司法科行政科の試験に登第したる俊才にして早大卒業後は東京に於いて辯護士開業の豫定なりと此兄にして此弟あり、又以つて世の範とすべきなり。

内保 武 雄君

依那具村大字才真 明治二十八年二月十三日生 家族 父兼次郎、母たつへ、妻ます猪田村福本家より、長女真(七)二女多喜(三)

内保君は農を業とし家富む、依那古農業補習學校を卒業後専心農業に従事す、資性謹直にして衆望あり第一回第二回國勢調査委員、縣農會研究會委員、名賀郡農事改良委員、村農事改良委員等に擧げられ前途ある篤農家として稱せらる、大正十三年には郡内

各農村に率先して農家組合を組織し三十一戸叫合して聖化農家組合を創設し自ら組合長となり日蓮主義を奉拜して模範的組合となすべく努力しつゝあり。同組合は別に動力部を設け動力農具の普及に努めつゝあり郡内の新機軸と云ふべきなり。

### 山本政生君

依那古村大字依那具 明治三十年十月五日生  
家族 父辰藏、母さよ、妻すみ長田村長田小澤乙次郎長女、長男昇(七)長女かす子(三)二男宏(一)

山本君は現依那古村収入役なり、家は農を業とす、君は郷土の小學校を卒業後依那古村役場に勤務大正六年歩兵第九聯隊に入營續いて西伯利亞出征に従軍し功により勳八等を授けらる、大正九年六月凱旋歸郷後再び依那古村役場に勤務し大正十一年三月収入役に任せられ爾來現在に至る、資性温厚にして前途を囑目されつゝある青年紳士なり。

### 松田義郎君

依那古村大字依那具 明治二十五年八月一日生  
家族 父、母、妻、小供二人

松田君は依那古小學校の訓導なり、大正二年三月縣立三重縣師範學校を卒業、同年種生村高尾小學校訓導を拜命、後博要小學校に轉任大正十五年四月依那

古小學校に轉じて現在に至る、性磊落にして覇氣に富み歴史研究と園藝を好む、君は名賀郡種生村大字川上の出身者なり。

### 松田金松君

依那古村大字下郡 明治二年八月十七日生  
家族 養父若松、養母こつる、妻ゆき



松田君本姓は福井、同村に生れ松田家に入婚して其姓を冒す、現依那古村長なり

君は京都府立師範學校卒業後京都府石川縣等に於いて小學校訓導同校長たること十ヶ年後官吏として京都府に五ヶ年間勤務し大正四年依那古村長に當選就職して爾來重選現在に至る、町村長間の信任厚く大正五年には縣農會議員に擧げられ大正八年には三重縣町村長會幹事、同常任幹事並に全國町村長會陳情委員に大正十二年四月には那農會副會長に大正十五年には所得稅調査委員に擧げられ地方行政の爲め力

を致す事尠からず遂に本縣報德表彰規定により表彰せらる、其他名賀郡名張町外十一ヶ町村基本財産林組合管理者、伊賀鐵道株式會社取締役等に就任しつゝあり、名賀郡の一勢力者として其名近郷に稱せらる。

### 普久山蓮海君

依那古村大字沖 明治二年十月二日生  
家族 徒弟龍雄高野山大學在學中

普久山君は眞言律宗不動等の住職なり、資性温厚にして良宗教家の聞あり書畫骨董を愛す、明治十一年名賀郡上津村大字瀧隆泉寺に於いて得度、明治十七年豊山派中學に入り同校卒業後二十二年勝地勝福寺住職を命せらる、明治四十五年現在の不動寺に轉住を命せられ現在に至る、來住以來其堂宇の荒廢せるを歎じ之が改築の計畫を樹てつゝあり。

### 藤田竹治郎君

依那古村大字沖 明治二十一年六月三日生  
家族 父熊吉、母くまを、妻はつ子阿保町羽根森脇伊三郎長女、長女まさ(一六)大阪安部野高女在學、長男清一(二二)次男泰信(七)

藤田君は依那古信用購買販賣組合長理事なり、明治四十四年依那古村役場書記を拜命大正三年三月同村収入役に進められ十一年三月依那古購買販賣組合の

創立せらるゝや辭して現職に就任今日に至れる人なり、性温厚にして事務に熱心なる人なり、其役場吏員たるべき業務に熱心なるの故を以つて町村優良吏員として表彰を受くること前後三回勳績十二年餘に及び隠退料を受く、組合長に就職以來名賀郡産業組合部分會理事、三重縣信用組合聯合會理事等に推されて郡内組合長中重きをなせる人なり、其父熊吉氏又大字區長たること三期、現に氏子總代として後進者の指導に努めつゝあり。

### 藤室平吉君

依那古村大字才良 明治十二年十二月一日生  
家族 父平右衛門、母よし、妻よし阿保町阿保吉岡右左次郎次女、養女ちか(二二)名張町八丁上島順之助長女、婿重次郎(二五)府中村印代玉岡鶴松二男、養女うた子(三)

藤室家は舊と油肥料麵類の製造販賣を業とし布屋と稱せしが明治四年酒造業に轉じ銘酒寶川、伊賀越の醸造元として現在に至る、平吉君年二十三歳明治三十四年同村消防小頭に任せられ三十九年大字區長に四十二年式内猪田神社氏子總代並に西光寺檀徒總代等に選ばれ衆望を得、大正十一年七月には依那古村産業組合理事に大正十五年伊賀酒造組合評議員並に大正十五年度酒造場審査員に任せられ現在に至る、

又君は祖先崇拜の念厚く其菩提寺西方寺の改築に力を致し大正九年之を完成したる外地方の爲め貢献する處尠からず、因に嚴父平右衛門氏又地方事業の爲め貢献する處不尠、現依那古元老として優遇せられ村民の尊敬を受けつゝあり。

岸岡 晃 圓君

依那古村大字下郡 明治十五年十二月十二日生  
家族 妻とも同村藤田元之助妹、長男敬信神戸市西福寺に研學中  
二男義田上野中學在學

岸岡君は眞宗法專寺の住職なり、明治四十年京都本山に於いて得度し後現寺に住職して今日に至れる人なり、同寺に住職以來寺勢の興隆に力を致し初下陣格なりし寺格を余間格、内陣、本座二等、同一等を経て現在は上座二等格に列せらる、君は亦熱心なる宗風の擴張者にして明治四十年教師試補となり大正五年布教師に任せられ専心布教に努力したる結果檀徒三百餘を得るに至る、現在兒童日曜學校を起し之を經營しつゝあり、明治三十七八年の役に從軍功を樹て勳八等に叙せられ本山より第六種丈袈裟を下賜せらる。

三井 義 諦君

依那古村大字依那具 明治二年七月二十四日生  
家族 長女、婿神戸小學校訓導

三井君は天臺宗眞盛派中福寺の住職なり、河藝郡椋本村に生る、明治十一年長田村西蓮寺三井義光師につき出家し明治十九年江州蒲生郡蒲生村生蓮寺に住職し二十年安洲郡木濱村蓮光院に轉じ翌年金澤市泉寺町西方寺に轉住二十四年現住寺に榮轉して爾來今日に至る、來住以來本堂の大修繕、庫裡及寶藏の建築等をなし更に本堂の再建を計畫して十ヶ年間私産を蓄積し何時にても起工出來得る事となせる等一意専心寺勢の興隆に力を致しつゝある人なり。

宮本 門 治君

依那古村大字市郡 明治七年九月十九日生  
家族 妻いし、長男益藏(三四)長女もり(二四)城南村四十九田中  
安次郎妻、婦ますの(三三)同字中岡辰藏二女、孫重子(一一)  
一二七

宮本君本姓は堀、父は喜七、母はふで其三男にして同字に生れ宮本家に入婿して其姓を冒す、明治四十二年大字區長に選ばれ大正三年退職大正二年四月同村々會議員に選ばれ爾來重選して大正十四年に至る又大正四年五月には推されて依那古村助役となり大正九年迄勤續し村民の興望大いに蒐る、大正十年一

月には名賀郡會議員補欠選舉に當選して郡會議員となる等同村内に重きをなせる人なり。

森川 雲 松君

依那古村大字依那具 安政二年一月五日生  
家族 長男午造(四五)長女しす名取町本町山村又次郎妻、孫光子  
(二三)阿山高女卒業しよ子(二七)阿山高女在學、婦みき大和  
高市郡市岡村藤谷英吉女

森川君は依那古村の元老なり、初め依那具村の五人組頭に擧げられ次で明治十八年同村學務委員に選ばる、明治二十二年町村制實施に際し選ばれて同村々會議員並に區長となる、爾來重選して學務委員は明治三十七年八月辭職、區長は明治四十年三月迄勤續し村會議員は大正六年四月迄就任す、又明治三十八年二月には推され依那古村助役となり大正二年三月退職す、其他名賀郡會議員に當選すること前後四期此間郡參事會員に當選したる外氏子總代、檀徒總代本山理濟部委員等を囑托せられ其全生を殆んど一貫的に社會公的に奉じたる人にして地方の偉勳者と言ふべきなり、明治三十九年日露戰役の功により勳八等を授けられ大正十一年五月には依那古村元老規定により終身同村の元老待遇を受けて今日に至る。

森下 奈 良 藏君

依那古村大字沖 文久三年正月十六日生  
家族 妻ならの(六二)神戸村下神戸藤岡定吉四女、長男守(三一)長  
女美佐起(二五)上野町惠美須町堀川保三妻、婦おしづ(三二)  
神戸村上神戸廣濱捨藏長女、孫宗典(二二)克明(七七)

森下君、父は甚右衛門、母は梅の其長男なり、農を業とし家富む、依那古村の長老として一村民に尊敬を拂はれつゝある人なり、資性温厚にして公共心に富む、衆望の歸する處明治三十四年四月依那古村會議員に擧げられ爾來重選して大正六年四月迄勤續す明治三十六年十月には名賀郡會議員に選ばれ重選して大正三年に至る、此間郡參事會員に互選さる明治四十二年大字區長に選ばれ大正十年二月迄就任明治十七年學務委員に當選爾來重任して大正九年十月に至る、其他氏子總代、檀徒總代等に歴任して功あり大正十四年七月名賀郡神職會より模範氏子總代として表彰さる、又各種公共事業に寄附を惜まず木杯感謝状を受くること幾回なるを知らず、大字沖區民其功績を徳とし大正十三年其彰功碑を同字不動寺に建て之を賞す、大正十一年五月依那古村元老待遇規定により終身元老の待遇をされて現在に至る。

### 村主孝太郎君

依那古村大字市部  
明治三十一年十一月三日生

家族 父熊太郎、  
母さみえ、妻み  
す、長女妙子(一)  
(三) 次長經孝(二)



村主君は現大  
阪朝日新聞社  
の通信員にし  
て傍ら伊賀實  
業新聞社客員

たり、上野町大字池町に住す、大正八年上野町に出  
で忍町に於いてメリヤヌ商を經營せしが物價の變動  
甚だしき爲め失敗して大阪に出で大正日日新聞社に  
勤務す、大正十二年三月退社して上野町伊賀時報社  
に入り勤務して大いに其才幹を認められ主筆に進む  
大正十五年七月傍ら大阪朝日新聞社通信員を囑托せ  
られ同年八月伊賀時報社が他社と合同して伊賀合同  
新聞を發行するや其主筆として勤務せしが同年末伊  
賀實業新聞の發刊せらるゝに及び聘せられて現在に  
至る、性温厚にして日蓮宗を信仰し上野町在住新聞  
記者中の人格者を以つて稱せらるゝ、

### 角野元男君

依那古村大字上郡  
明治卅一年五月廿一日生

家族 父喜助(七五)母豊香(六九)妻絹枝(二〇)神戶村字丸山辻本市  
次郎二女

角野君は依那古信用購買販賣組合書記なり、大正四  
年六月海軍志願兵として横須賀海兵團に入團し同團  
の課程を了へ爾來累進して海軍一等主計兵曹に任せ  
らる、大正四年歐洲大戰亂に従軍し功あり勳八等旭  
日章を賜ふ、大正十四年勳七等に進められ同年十二  
月辭して歸郷、依那古信用組合に勤務して現在に至  
る、資性快活豪義の氣に富み村民の氣受けよき人な  
り。

### 神戶村

#### 大石喜一君

神戶村大字古郡  
明治十三年七月十九日生

家族 妻きわ阿保町羽根より、長女喜代(一五)阿山高女在學、二女  
美代(一三)長男三郎(五)

大石君は木炭問屋を營み神戶村の有力者として重用

さる、明治三十三年徵兵に召されて砲兵隊に入營日  
露戰役に従軍して偉功多く軍曹に進められ勳七等青  
色桐葉章功七級金鷄勳章を賜ふ、凱旋歸郷後神戶村  
在郷軍人分會長、帝國在郷軍人會大津支部評議員等  
に任せられ次いで大字區長一期、村會議員二期に當  
選地方の爲め力を致しつゝある人なり、政治運動を  
好み憲政派に組みし現逓信參與官川崎克氏の爲めに  
奔走して同志に重視されつゝある人なり。

### 奥村捨次郎君

神戶村大字上神戶  
明治元年五月十日生



家族 妻はる(五  
八)美濃波多村  
新田龜澤友次叔  
母、長男康生(二  
七)京都區役  
所在勤婦オキヨ  
(二五)長女千  
代上野町紺屋町  
上村英之助妻、  
三女かよ東京府  
人、吉永光雄妻

奥村君は村社神戶神社の社掌なり、明治十八年より

二十四年迄小學校に奉職せしが辭して神戶神社に奉  
仕し爾來今日に至る、明治二十八年三重縣神職管理  
支所役員に擧げられ明治四十三年三重縣神職會名賀  
支會役員に任せらる、大正十五年六月郡役所の廢止  
と同時に名賀郡神職會長に選ばれ現在に至る、資性  
活潑にして國學の造詣深く又常に神社の興隆に力を  
致し社域の擴張を企て三ヶ年計畫を以つて基金募集  
に着手し其計劃に進めつゝあり、其他神社の合祀參  
籠所の建設等功勞多し、名賀郡神職中の元老とも云  
ふべき人なり。

#### 永濱出君

神戶村大字上神戶  
明治十一年一月十五日生

家族 妻てう古山村中村保造姉、長男秀夫(一八)次男義博(一六)兵  
庫縣立工業學校在學、長女克子(二〇)同村掛川森本讓一妻

永濱君は現神戶村長なり、本姓立入、父は奇一(元  
代議士)母はまさ其三男にして上野町大字赤阪に生  
る、永濱家に養はれ其嗣となる、明治三十一年三重  
縣立第一中學校を卒業、明治三十六年明治大學を卒  
業して歸郷家事に従事す、資性温良公共心に富み衆